DENON®

AVR-X4500H

INTEGRATED NETWORK AV RECEIVER

取扱説明書

付属品 8
乾電池の入れかた 9
リモコンの使いかた 9
特長 10
高音質 10
多彩な機能 13
簡単操作 17
各部の名前 18
フロントパネル 18
ディスプレイ 22
リアパネル 24
リモコン 28

接続のしかた

スピーカーを設置する 32
スピーカーを接続する 40
スピーカーを接続する前に 40
スピーカーの構成と“アンプの割り当て”の設定 44
5.1 チャンネルのスピーカーを接続する 46
7.1 チャンネルのスピーカーを接続する 47
9.1 チャンネルのスピーカーを接続する 51
11.1 チャンネルのスピーカーを接続する 59
7.1 チャンネルのスピーカーを接続する：フロントスピーカーのバイアンプ接続 65
7.1 チャンネルのスピーカーを接続する：2 台目のフロントスピーカーの接続 66
マルチゾーンのスピーカーを接続する 67
テレビを接続する 72
接続 1：HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能対応のテレビ 73
接続 2：HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能非対応のテレビ 75
接続 3：HDMI 端子がないテレビ 76
再生機器を接続する 77
セットトップボックスを接続する（衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー） 78
DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する 79
Denon Link HD 機能対応のブルーレイディスクプレーヤーを接続する 80
ビデオカメラやゲーム機などを接続する 81
レコードプレーヤーを接続する 82
USB 端子に USB メモリーを接続する 83
FM アンテナや AM ループアンテナを接続する 84
ホームネットワーク（LAN）に接続する 86
有線 LAN 86
無線 LAN 87
外部のコントロール機器を接続する 88
リモートコントロール端子 88
トリガー出力端子 89
電源コードを接続する 90

再生のしかた

基本操作 92
- 電源を入れる 92
- 入力ソースを選ぶ 92
- 音量を調節する 93
- 一時的に音を消す（ミューティング） 93
- DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーを再生する 93

USB メモリーを再生する 94
- USB メモリーに保存されているファイルを再生する 95

Bluetooth 機器の音楽を聴く 98
- Bluetooth 機器の音楽を聴く 99
- 2 台目以降の Bluetooth 機器とペアリングする 101
- Bluetooth 機器から本機に再接続する 102

FM 放送または AM 放送を聴く 103
- FM 放送または AM 放送を聴く 104
- 周波数を入力して受信する（ダイレクトチューニング） 105
- 受信モードを変更する（チューニングモード） 106
- 自動で放送局を選局しプリセットする（オートプリセットメモリー） 106
- 聴いている放送局をプリセットする（プリセットメモリー） 107
- プリセットした放送局を聴く 107
- プリセットした放送局に名前をつける（プリセットネーム） 108
- プリセットした放送局をスキップする（プリセットスキップ） 109
- プリセットスキップを解除する 110

インターネットラジオを聴く 111
- インターネットラジオを聴く 112

パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する 113
- パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する 114

HEOS アプリをダウンロードする 117
HEOS アカウント 118
ストリーミング音楽サービスを再生する 119
同じ音楽を複数の部屋で聴く 122
AirPlay 機能 126
iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機で再生する 127
iTunes の曲を本機で再生する 127
本機のリモコンで iTunes の再生操作をおこなう 128
iPhone、iPod touch、iPad の曲を複数の機器で同期して再生する (AirPlay 2) 129
Spotify Connect 機能 130
Spotify の曲を本機で再生する 130
便利な機能 131
HEOS お気に入りに追加する 132
HEOS お気に入りを再生する 132
HEOS お気に入りを削除する 133
入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する（チャンネルレベル調節） 134
トーンを調節する（トーンコントロール） 135
音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す（ビデオセレクト） 136
視聴環境に合わせて画質を調整する（ピクチャーモード） 137
すべてのゾーンで同じ音楽を再生する（All Zone Stereo） 138
サウンドモードを選ぶ 139
サウンドモードを選ぶ 140
ダイレクト再生 141
ピュアダイレクト再生 142
オートサラウンド再生 142
サウンドモードの種類について 143
入力信号ごとに選択できるサウンドモード 148
HDMI コントロール機能 153
設定のしかた 153
スマートメニュー機能 154
スリープタイマー機能 156
スリープタイマーを設定する 157
クイックセレクトプラス機能 158
設定を呼び出す 159
設定を変更する 160
フロントキーロック機能 161
すべてのボタン操作を無効にする 161
VOLUME 以外のすべてのボタン操作を無効にする 161
フロントキーロック機能を解除する 162

リモートロック機能 **163**
リモコンの受信機能を無効にする 163
リモコンの受信機能を有効にする 163
ウェブコントロール機能 **164**
ウェブコントロール機能で本機をコントロールする 164
ゾーン 2/ゾーン 3(別の部屋)での再生 **166**
ゾーンの接続 166
ゾーン 2/ゾーン 3 で再生する 172

設定のしかた

メニュー 一覧 **174**
メニュー操作のしかた 178
オーディオ **179**
センターレベルの調節 179
サブウーハーレベルの調節 179
低音の位相補正 180
サラウンドパラメーター 180
リストアラー 186
オーディオディレイ 187
音量 188
バイリンガルモード 189
Audyssey® 189
グラフィック EQ 192
ビデオ **194**
画質調整 194
HDMI 設定 196
ビデオ出力の設定 201
コンポーネントビデオ出力 205
オンスクリーンディスプレイ 205
4K 信号フォーマット 206
TV フォーマット 208
入力ソース **209**
入力端子の割り当て 209
入力ソース名の変更 211
使用ソースの選択 211
ソースレベル 212
オーディオ入力の選択 212

スピーカー 213
Audyssey®セットアップ 213
スピーカー設定の流れ（Audyssey®セットアップ） 215
エラーメッセージについて 221
Audyssey®セットアップの設定値に戻すとき 223
マニュアルセットアップ 224
アンプの割り当て 224
スピーカー構成 232
距離 237
レベル 238
クロスオーバー周波数 239
低音 240
フロントスピーカー 241
2 チャンネル再生の設定 241
ネットワーク 244
情報 244
接続 244
Wi-Fi 設定 245
詳細な設定 247
ネットワークコントロール 249
フレンドリーネーム 249
診断 250
HEOS アカウント 251
サインインしていない場合 251
サインインしている場合 251
一般 252
言語 252
エコ設定 252
ゾーン 2 の設定 / ゾーン 3 の設定 256
ゾーン名の変更 258
クイックセレクト名の変更 258
トリガーアウト 1 / トリガーアウト 2 259
フロントディスプレイ 259
ファームウェア 260
情報 263
使用状況の送信設定 264
セーブ＆ロード 265
セットアップロック 265
初期化 266
リモコンで外部機器を操作する 267
プリセットコードを登録する 268
機器を操作する 271
登録したプリセットコードを初期化する 274
リモコンで操作するゾーンを指定する 274
リモコンの全設定をお買い上げ時の設定に戻す 274

困ったときは

こんなときの解決方法 276
故障かな？と思ったら 278
電源が入らない / 電源が切れる 279
リモコンで操作ができない 280
本機のディスプレイが表示されない 280
音がまったく出ない 281
希望する音が出ない 282
音が途切れたり、ノイズが入ったりする 285
テレビに映像が映らない 286
テレビにメニュー画面が表示されない 288
テレビに表示されるメニュー画面や操作内容の色が通常と異なる 288
AirPlay 再生ができない 289
USB メモリーが再生できない 290
Bluetooth が再生できない 291
インターネットラジオが再生できない 292
パソコン内や NAS 内の音楽ファイルが再生できない 293
各種オンラインサービスが再生できない 294
HDMI コントロール機能が動作しない 294
無線 LAN ネットワークに接続できない 295
HDMI ZONE2 機能を使用中に機器が正しく動作しない 296
アップデート/アップグレードエラーメッセージ 297
お買い上げ時の設定に戻す 298
ネットワークの設定をお買い上げ時の設定に戻す 299
保証と修理について 300

付録

HDMI について 302
ビデオコンバージョン機能 305
USB メモリーの再生について 307
Bluetooth 機器の再生について 308
パソコンや NAS に保存されているファイルの再生について 309
インターネットラジオの再生について 310
パーソナルメモリープラス機能 310
ラストファンクションメモリー 310
サウンドモードとチャンネル出力の関係 311
サウンドモードとパラメーター一覧表 313
入力信号の種類と対応するサウンドモード 316
用語の解説 319
登録商標について 329
主な仕様 332
使用上のご注意 338
索引 339
ライセンス 342

お買い上げいただきありがとうございます。
本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

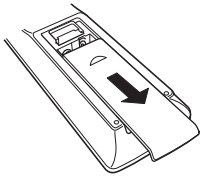
付属品

ご使用になる前にご確認ください。

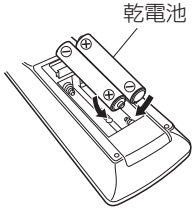
かんたんスタートガイド	安全にお使いいただくために	電波に関するご注意	保証書	ケーブルラベル
電源コード 【本機専用】	FM室内アンテナ	AMループアンテナ	セットアップマイク	マイクスタンド
リモコン （RC-1219）	単3形乾電池 （2本）	Bluetooth/ 無線LAN用外部アンテナ （2本）		

乾電池の入れかた

1 裏ぶたを矢印の方向へ押し下げて取り外す。



2 乾電池(2 本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



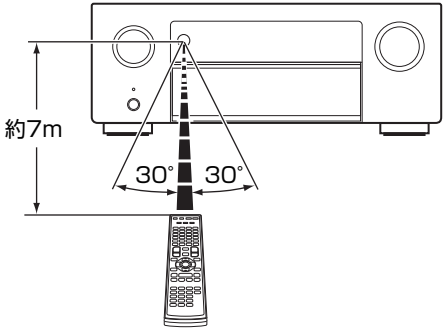
3 裏ぶたを元どおりにする。

ご注意

- 破損･液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けて使用してください。



特長

高音質

- **ディスクリート回路構成による全 9 チャンネル同一クオリティーのパワーアンプ搭載(165W×9 チャンネル)**
  本機には、オリジナル音源を忠実に再生するために、全チャンネルに同一のクオリティーと同一のパワーを持つパワーアンプを搭載しています。
  パワーアンプ回路には、ディスクリート回路構成を採用することによって、高品位な再生を実現しています。

- **Dolby Atmos 搭載(☞320 ページ)**
  本機は、Dolby Atmos に対応したデコーダーを搭載しています。オーバーヘッドスピーカーの追加により、音の定位または移動をより正確に再現し、これまで以上に自然でリアルなサラウンド音場を体験することができます。

- **DTS:X 搭載(☞323 ページ)**
  本機は、DTS:X デコーダー技術を搭載しています。DTS:X は従来のチャンネルベース方式のサウンドフォーマットに対し、音像の移動感を表現するオブジェクト信号を付加したサウンドフォーマットです。オブジェクト信号に記録されている音声情報と三次元の位置情報を再生環境に合わせてリアルタイムに演算して出力するため、どのような再生環境でも最適化された豊かで臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。

- **DTS Virtual:X(☞323 ページ)**
  DTS Virtual:X 技術は、DTS 独自のバーチャルハイトとバーチャルサラウンド処理を採用しており、あらゆる入力ソース(ステレオから 7.1.4 チャンネルまで対応)やスピーカー構成で臨場感あふれるサウンド体験を提供します。
  * ハイトスピーカーを接続している場合、DTS Virtual:X は使用できません。

- **Audyssey LFC™ (Low Frequency Containment)搭載(☞192 ページ)**
  Audyssey LFC™は、隣や下の部屋に低音や振動が漏れることを抑制します。リアルタイムに入力信号を解析して、壁や床、天井を通り抜けるような低音を抑えると同時に、音響心理的アプローチを用いた低域補正処理をおこなうことで、隣や下の部屋に低音が響き渡ることなく、コンテンツ本来の低域を楽しめます。

- **独立した 2 本のサブウーハー出力と Audyssey Sub EQ HT™搭載(☞214 ページ)**
  本機は、独立した 2 本のサブウーハー出力を備え、音量レベルとリスナーまでの距離をそれぞれ個別に設定できます。
  さらに、本機搭載の Audyssey Sub EQ HT™は、2 本のサブウーハー間の音量レベルと距離を補正し、Audyssey MultEQ® XT32 の信号処理をおこなうことで、迫力のある低域サウンドを再現します。

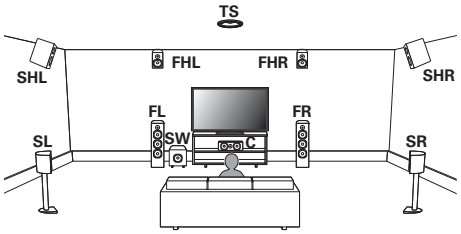
- **Denon 独自の高音質な再生技術“Denon Link HD”搭載**
  (☞328 ページ)

  本機には、Denon 独自の高音質な再生技術“Denon Link HD”を搭載しています。Denon Link HD に対応した Denon のブルーレイディスクプレーヤーを接続することで、音の定位がより明確になり、クリアで立体的な音像を再現します。本機とブルーレイディスクプレーヤーが同一のクロックを共有しながら集積回路を動作させることで、ジッターの少ないデジタル音声の伝送を実現します。ブルーレイディスクプレーヤーからのどのメディアの音源にもその効果を発揮します。

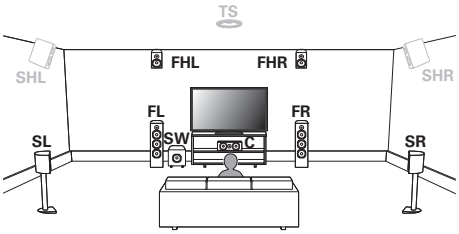
- **Auro-3D**
  本機は、Auro-3D デコーダーを搭載しています。
  Auro-3D は、5.1 チャンネルのスピーカーにフロントハイト(FHL+FHR)、サラウンドハイト(SHL+SHR)およびトップサラウンド(TS/オプション)スピーカーを組み合わせ、自然で臨場感のある三次元の音場空間を提供します。

Auro-3D 再生用のスピーカーを適切に設置することで、Auro-3D 再生を存分にお楽しみいただけます。

■ Auro-3D 再生



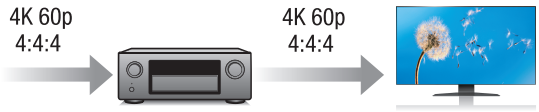
■ Dolby Atmos 再生



- トップフロント、トップミドルまたはトップリアスピーカーは、Auro-3D 再生には対応していません。
  しかし、5.1 チャンネルのスピーカーにフロントハイトおよびリアハイトスピーカー＊を組み合わせることで、Auro-3D および Dolby Atmos 再生の両方をお楽しみいただけます。
  ＊ 最適な Auro-3D 再生をおこなうには、サラウンドハイトスピーカーのご使用をおすすめします。

多彩な機能

- **4K 60Hz 入出力対応**

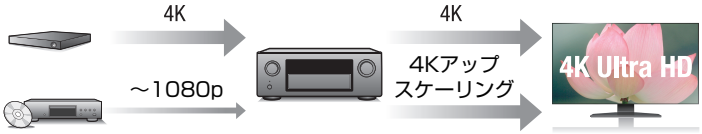


4K Ultra HD（High Definition）で、1 秒間に 60 フレーム分の映像信号（60p）の入出力を実現しました。4K Ultra HD、60p 映像入力信号に対応したテレビと接続することで、動きの速い映像も滑らかに、高精細画質によって得られる臨場感のある映像を楽しめます。
そして、本機は 4K 60p、4:4:4、24bit の映像処理に対応しています。元の解像度のまま映像処理をおこなうことで、画質を損なうことなく、そのまま高精細な画質を楽しめます。
本機は HDR（High Dynamic Range）および色域規格の BT. 2020 にも対応しています。

- **HDCP 2.2**

本機はコンテンツ保護方式規格 HDCP 2.2 に対応しています。

- **アナログ映像信号（SD 解像度）を HD（720p/1080p）および 4K の信号にアップスケーリングするデジタルビデオプロセッサー搭載（☞203 ページ）**

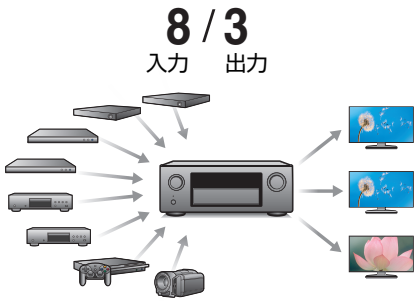


本機には、アナログ映像や SD（Standard Definition）映像を 4K（3840×2160 ピクセル）の解像度にして HDMI への出力を可能にする 4K ビデオアップスケーリング機能を搭載しています。これにより本機とテレビの接続が HDMI ケーブル 1 本で済むだけでなく、どの映像ソースでも高精細な映像を再現することができます。

- **ゾーン 2 用の HDMI 出力を装備（☞166 ページ）**

本機はゾーン 2 の部屋でも映像と音声が楽しめるゾーン 2 用の HDMI 出力を装備し、メインゾーンとは異なる映像ソースをお楽しみいただけます。

- **さまざまなデジタル AV 機器を接続できる HDMI 端子を装備（入力:8 系統、出力:3 系統）**

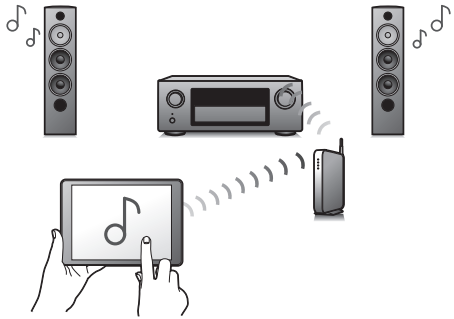


本機には 8 系統の HDMI 入力端子と 3 系統の HDMI 出力端子を装備しており、ブルーレイディスクプレーヤー、ゲーム、HD ビデオカメラなどのさまざまな HDMI 端子付き機器との接続ができます。また、本機は同時出力可能なメインゾーン用の 2 系統出力にマルチゾーン出力を加えた 3 系統の HDMI 出力を装備しており、マルチゾーンではメインゾーンで再生中のソースとは別のソースを楽しむことができます。

- **eARC (Enhanced Audio Return Channel)機能に対応**

eARC 機能は、従来の ARC 機能で対応していたオーディオフォーマットに加え、ARC 機能で対応していなかったマルチチャンネルリニア PCM や Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS-HD Master Audio、DTS:X の音声フォーマットも伝送できます。
また、eARC 機能に対応しているテレビを接続することにより、テレビで再生するコンテンツの音声をより高品位なサラウンド再生でお楽しみいただけます。

- **インターネットラジオなどのネットワーク機能に加え、AirPlay®機能を搭載（☞126 ページ）**

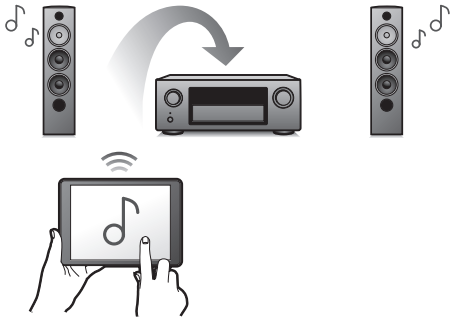


インターネットラジオを聴いたり、パソコンに保存している音楽ファイルを再生したり、さまざまな再生をお楽しみいただけます。
また、本機は AirPlay 機能を搭載していますので、ネットワークを通して iPhone® や iPad®、iPod touch®、iTunes®の音楽を本機で再生できます。

- **ワイヤレスオーディオ技術 ” AirPlay 2®”に対応**

複数の AirPlay 2 に対応したデバイス/スピーカーと同期して音楽を同時に再生することが可能です。
本機は AirPlay 2 対応製品です。iOS 11.4 以降が必要です。

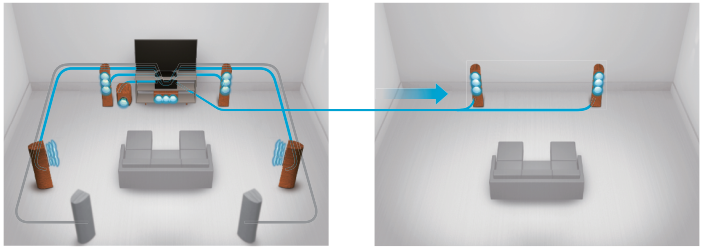
- **USB とネットワーク経由による DSD と FLAC ファイルの再生**
  高解像度のオーディオフォーマットである DSD(5.6MHz)や FLAC 192kHz ファイルの再生に対応しています。高解像度ファイルの高音質再生を実現しています。
- **簡単に Bluetooth 機器とのワイヤレス接続が可能(☞98 ページ)**



お手持ちのスマートフォン、タブレット、パソコンなどとワイヤレス接続することで、簡単に音楽を楽しめます。

- **マルチルームでの音声再生に対応(☞138 ページ)**

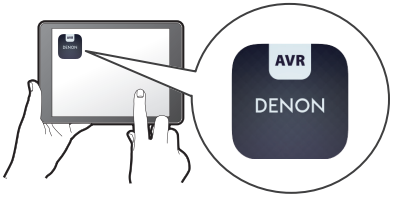
【メインゾーン】 【ゾーン 2】/【ゾーン 3】



メインゾーン、ゾーン 2 およびゾーン 3 でそれぞれの入力を選択して再生できます。
また、All Zone Stereo 機能を使用すると、メインゾーンで再生中の音楽を同時にすべてのゾーンで楽しむことができます。家全体で BGM を流したいときに便利です。

- **省エネ設計**
  本機は使用中の消費電力を低減しながら、映画や音楽を楽しむことができるエコモード機能、および未使用時自動的に電源をオフにするオートスタンバイ機能を搭載しています。不要な電力の節約ができます。

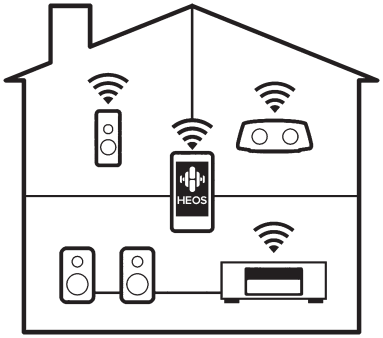
- **iPad、iPhone や Android™機器（Google、Amazon Kindle Fire）で本機の基本的な操作がおこなえる“Denon 2016 AVR Remote”アプリ * に対応**



多くの新機能を追加し、画面デザインやユーザーインターフェースも一新しました。スマートフォンやタブレットから AV レシーバーの詳細な設定が可能なセットアップメニューにアクセスしてコントロールすることができます。“Denon 2016 AVR Remote”アプリは AV レシーバーのステータスやメニューの表示、Denon 製ブルーレイディスクプレーヤーのコントロールや WEB マニュアルへのアクセスなどを提供します。

* “Denon 2016 AVR Remote”アプリを iOS や Android 機器にダウンロードしてください。（無料）　本機を LAN 接続し、iPhone や iPod touch を同じネットワーク上にある Wi-Fi（無線 LAN）に接続する必要があります。

- **お気に入りのオンラインミュージックソースからストリーミング音楽を提供**



本機は、お気に入りの音楽をご家庭内のどこにいても楽しむことができる、HEOS 無線マルチルームサウンドシステムの一部です。ホームネットワークと HEOS アプリ（iOS、Android および Amazon 機器で利用可能）を利用して、ご自身の音楽ライブラリや多数のオンラインミュージックサービス内の音楽を再生できます。

また、複数の HEOS 機器が同じネットワークに接続している場合、HEOS 機器をグループ化して同じ音楽を同時に再生したり、それぞれの HEOS 機器で別々の音楽を再生したりすることができます。

簡単操作

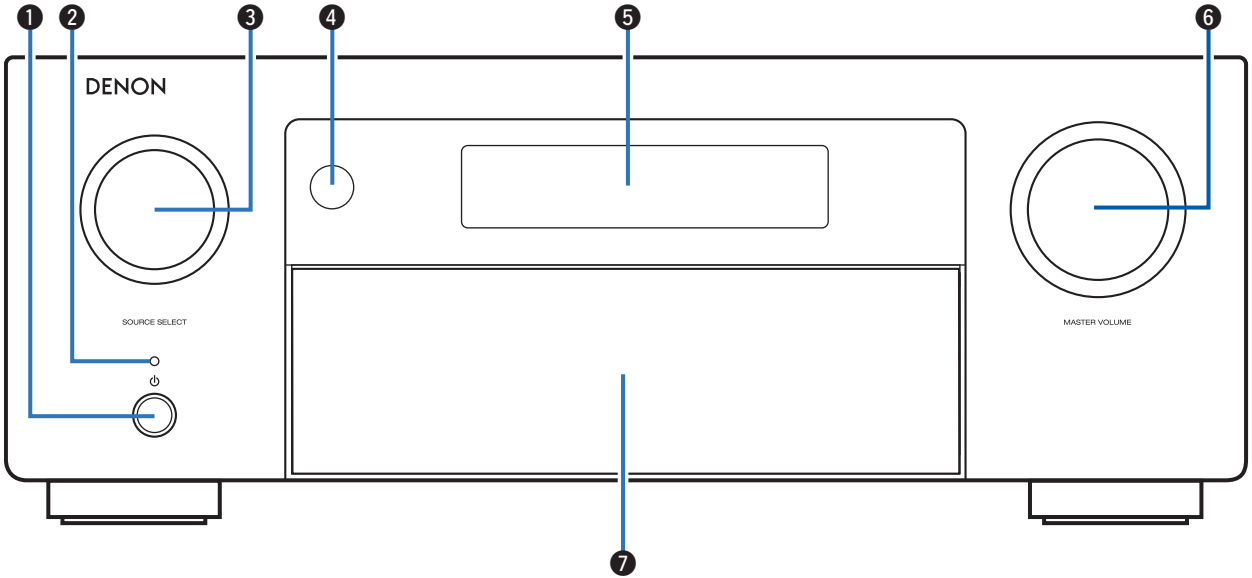
- **基本的な設定が簡単にできる“セットアップアシスタント”メニュー**
  最初に言語選択画面で言語を選択します。テレビ画面に表示する操作ガイドに沿って、誰でも簡単にスピーカーの接続やネットワークの設定など基本的な設定がおこなえます。
- **操作性に優れたグラフィカル・ユーザー・インターフェース**
  本機には、“グラフィカル・ユーザー・インターフェース”を搭載し、操作性を向上させています。

ステレオ音のエチケット

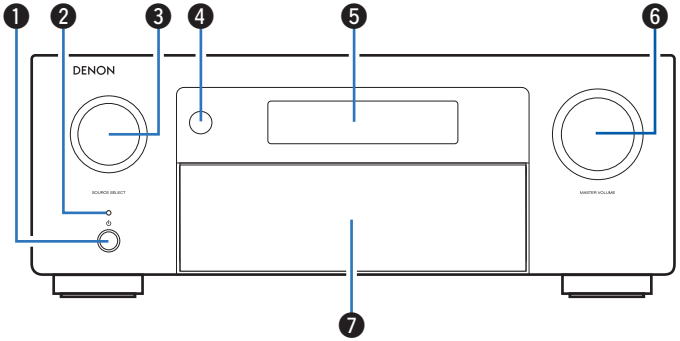
- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

各部の名前

フロントパネル



詳しくは、次のページをご覧ください。



❶ **電源ボタン(⏻)**

メインゾーン(本機のある部屋)の電源をオン/オフ(スタンバイ)します。(☞92 ページ)

❷ **電源表示**

電源の状態によって、次のように点灯します。

- 緑色:電源オン時
- 消灯:通常のスタンバイ時
- 赤色:
  - "HDMI パススルー"の設定が"オン"のとき (☞196 ページ)
  - "HDMI コントロール"の設定が"オン"のとき (☞198 ページ)
  - "ネットワークコントロール"の設定が"常時オン"のとき (☞249 ページ)

❸ **入力ソース選択つまみ(SOURCE SELECT)**

入力ソースを選択します。(☞92 ページ)

❹ **リモコン受光部**

リモコンからの信号を受信します。(☞9 ページ)

❺ **ディスプレイ**

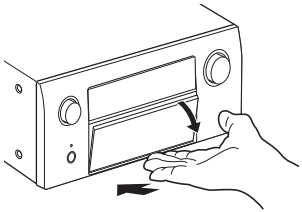
各種情報を表示します。(☞22 ページ)

❻ **音量調節つまみ(MASTER VOLUME)**

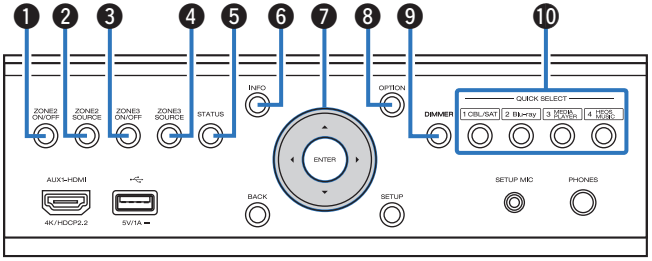
音量を調節します。(☞93 ページ)

❼ **ドア**

ドアの中にあるボタンや端子をご使用になるときにドアの下の部分を押すと、ドアが開きます。ドアの開閉の際に、指などを挟まないようご注意ください。



ドアを開いた状態



❶ **ゾーン 2 用電源ボタン(ZONE2 ON/OFF)**
ゾーン 2(別の部屋)の電源をオン/オフします。(☞172 ページ)

❷ **ゾーン 2 用入力ソース選択ボタン(ZONE2 SOURCE)**
ゾーン 2(別の部屋)の入力ソースを選択します。(☞172 ページ)

❸ **ゾーン 3 用電源ボタン(ZONE3 ON/OFF)**
ゾーン 3(別の部屋)の電源をオン／オフします。(☞172 ページ)

❹ **ゾーン 3 用入力ソース選択ボタン(ZONE3 SOURCE)**
ゾーン 3(別の部屋)の入力ソースを選択します。(☞172 ページ)

❺ **ステータスボタン(STATUS)**
ボタンを押すたびにステータス情報を切り替えて、ディスプレイに表示します。

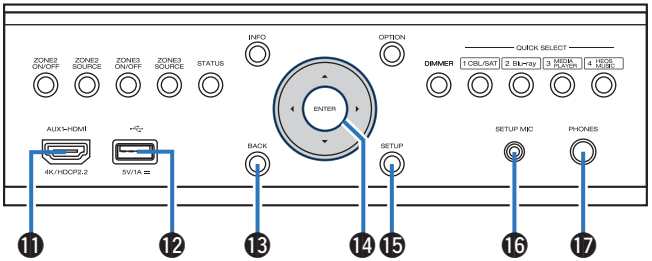
❻ **インフォメーションボタン(INFO)**
ステータス情報をテレビ画面に表示します。(☞264 ページ)

❼ **カーソルボタン(△▽◁▷)**
項目を選択します。

❽ **オプションボタン(OPTION)**
テレビ画面にオプションメニューを表示します。

❾ **ディマーボタン(DIMMER)**
ディスプレイの明るさを切り替えます。(☞259 ページ)

❿ **クイックセレクトボタン(QUICK SELECT)**
それぞれのボタンに登録している入力ソース、音量およびサウンドモードなどの複数の設定をワンタッチで呼び出します。(☞158 ページ)



⓫ **AUX1-HDMI 端子**
HDMI 出力対応のビデオカメラやゲーム機を接続します。
(☞81 ページ)

⓬ **USB 端子(⭠)**
USB ストレージ(USB メモリーなど)を接続します。(☞83 ページ)

⓭ **バックボタン(BACK)**
ひとつ前の画面に戻します。

⓮ **エンターボタン(ENTER)**
選択した内容を確定します。

⓯ **セットアップボタン(SETUP)**
テレビ画面に設定メニューを表示します。(☞178 ページ)

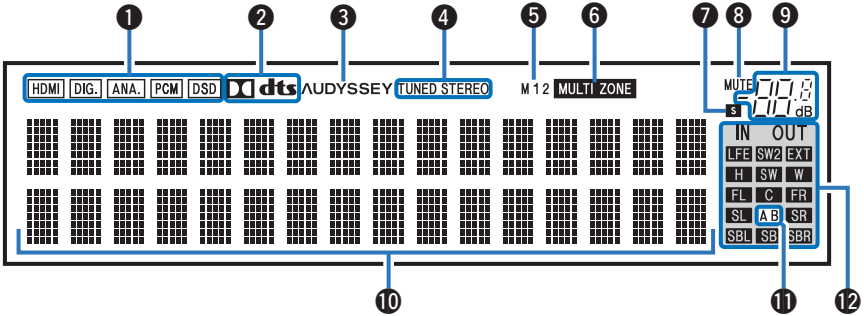
⓰ **セットアップマイク端子(SETUP MIC)**
付属のセットアップマイクを接続します。(☞216 ページ)

⓱ **ヘッドホン端子(PHONES)**
ヘッドホンを接続します。
ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーおよびプリアウト端子から音が出なくなります。

ご注意

- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

ディスプレイ



❶ **入力信号表示**
入力信号によって点灯します。(☞212 ページ)

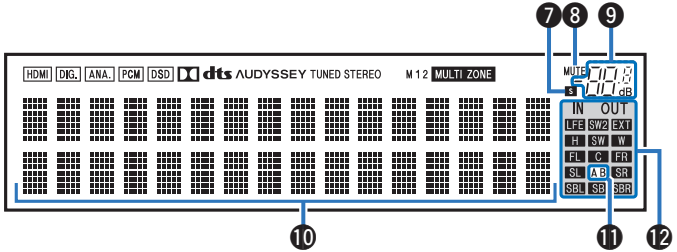
❷ **デコーダー表示**
Dolby または DTS 信号が入力されているとき、または Dolby または DTS デコーダーが動作しているときに点灯します。

❸ **Audyssey®表示**
"MultEQ® XT32"、"Dynamic EQ"、"Dynamic Volume"または"Audyssey LFC™"が設定されているときに点灯します。(☞189 ページ)

❹ **チューナー受信モード表示**
入力ソースが"Tuner"のとき、放送局の受信状態により点灯します。
TUNED:放送局を受信したときに点灯します。
STEREO:FM ステレオ放送を受信したときに点灯します。

❺ **モニター出力表示**
HDMI モニター出力の設定に合わせて点灯します。"オート(デュアル)"に設定されているときは、接続状態に合わせて点灯します。

❻ **マルチゾーン表示**
ゾーン 2 またはゾーン 3(別の部屋)の電源が入っているときに点灯します。(☞172 ページ)



❼ **スリープタイマー表示**
スリープタイマーを設定しているときに点灯します。(☞156 ページ)

❽ **ミュート表示**
消音中に点滅します。(☞93 ページ)

❾ **音量表示**

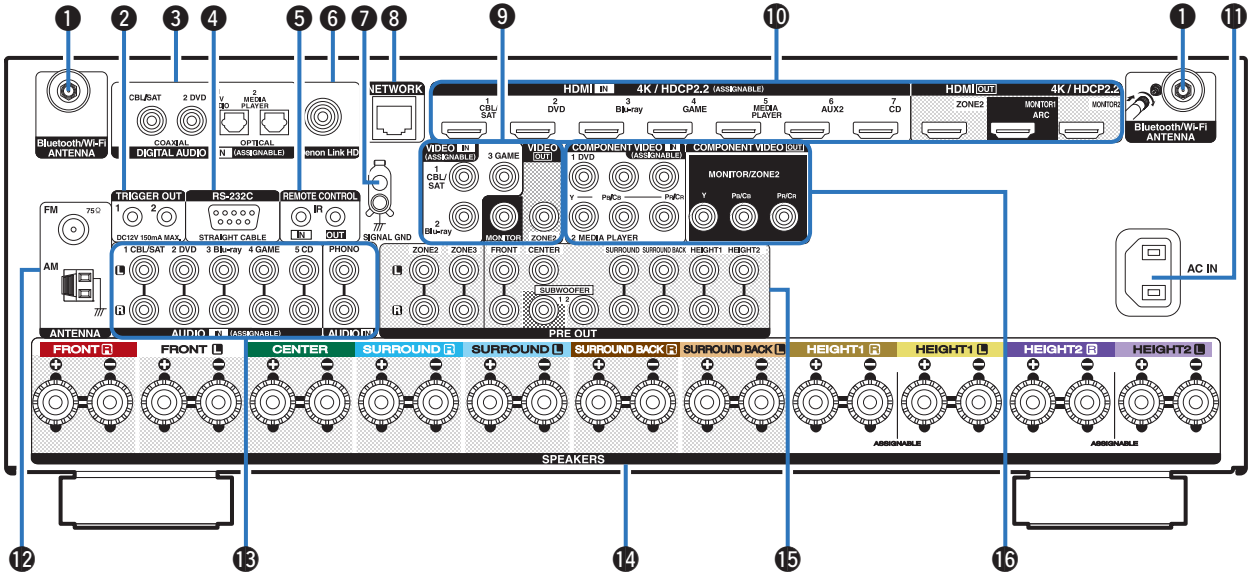
❿ **インフォメーションディスプレイ**
入力ソース名、サウンドモード、設定値などを表示します。

⓫ **フロントスピーカー表示**
フロントスピーカー A、B の設定に合わせて点灯します。

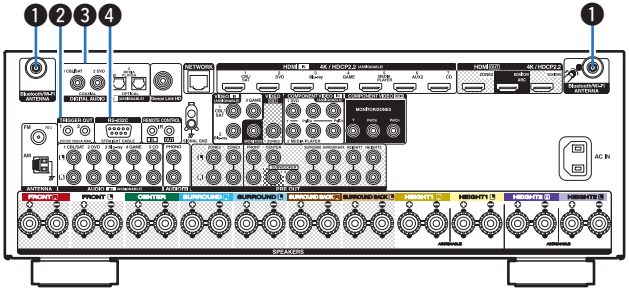
⓬ **入力/出力信号チャンネル表示**
"チャンネルインジケーター"の設定に合わせて入力または出力信号のチャンネルを表示します。(☞260 ページ)

- "チャンネルインジケーター"を"出力"に設定しているとき(お買い上げ時の設定)
  スピーカーから音声が出力されているときに点灯します。
- "チャンネルインジケーター"を"入力"に設定しているとき
  入力信号に含まれるチャンネルに合わせて点灯します。
  再生している HD オーディオソースに拡張チャンネル(フロント/センター/サラウンド/サラウンドバック/フロントハイト/フロントワイド/LFE 以外のチャンネル)が含まれている場合は、EXT 表示が点灯します。

リアパネル



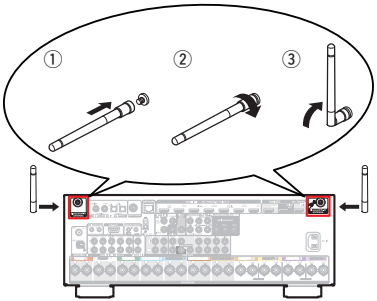
詳しくは、次のページをご覧ください。



❶ **Bluetooth/無線 LAN 用アンテナ端子**

Bluetooth でお手持ちの機器と接続する場合、または無線 LAN でネットワークに接続する場合は、この端子に付属の Bluetooth/無線 LAN 用外部アンテナを接続してご使用ください。(☞87 ページ)

① Bluetooth/無線 LAN 用外部アンテナをリアパネルのアンテナ端子と水平に合わせる。
② アンテナを右に回してしっかり締める。
③ 最も受信状態が良い向きにアンテナを回転させる。



❷ **トリガー出力端子(TRIGGER OUT)**

トリガー機能対応の機器を接続します。(☞89 ページ)

❸ **デジタルオーディオ端子(DIGITAL AUDIO)**

デジタルオーディオ端子付きの機器を接続します。

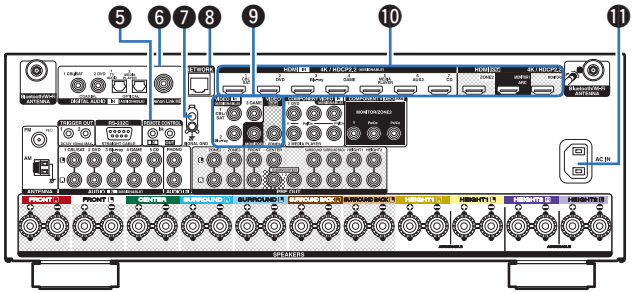
- 「接続 2:HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能非対応のテレビ」(☞75 ページ)
- 「接続 3:HDMI 端子がないテレビ」(☞76 ページ)
- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞78 ページ)
- 「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞79 ページ)

❹ **RS-232C 端子**

RS-232C シリアル端子付きのホームオートメーションコントローラー機器を接続します。本機のシリアルコントロールについての詳細は、ホームオートメーションコントローラー機器の取扱説明書をご覧ください。

あらかじめ次の確認をしてください。

① 本機の電源を入れる。
② 外部のコントロール機器で、本機の電源を切る。
③ 本機がスタンバイ状態になる。



❺ **リモートコントロール端子(REMOTE CONTROL)**
メインゾーン以外の部屋から本機や外部機器を操作するために、赤外線受信機や送信機を接続します。(☞88 ページ)

❻ **Denon Link HD 端子**
Denon Link HD 対応のブルーレイディスクプレーヤーを接続します。(☞80 ページ)

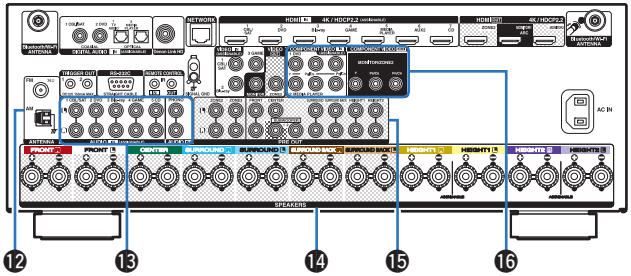
❼ **アース端子(SIGNAL GND)**
レコードプレーヤーのアース線を接続します。(☞82 ページ)

❽ **ネットワーク端子(NETWORK)**
有線 LAN でネットワークに接続する際に LAN ケーブルを接続します。(☞86 ページ)

❾ **ビデオ端子(VIDEO)**
ビデオ端子付きの機器を接続します。
- 「接続 3:HDMI 端子がないテレビ」(☞76 ページ)
- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞78 ページ)
- 「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞79 ページ)

❿ **HDMI 端子**
HDMI 端子付きの機器を接続します。
- 「接続 1:HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能対応のテレビ」(☞73 ページ)
- 「接続 2:HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能非対応のテレビ」(☞75 ページ)
- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞78 ページ)
- 「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞79 ページ)
- 「Denon Link HD 機能対応のブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞80 ページ)

⓫ **AC インレット(AC IN)**
電源コードを接続します。(☞90 ページ)



⓬ **FM/AM アンテナ端子(ANTENNA)**

FM アンテナや AM ループアンテナを接続します。(☞84 ページ)

⓭ **アナログオーディオ端子(AUDIO)**

アナログオーディオ端子付きの機器を接続します。

- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞78 ページ)
- 「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞79 ページ)
- 「レコードプレーヤーを接続する」(☞82 ページ)

⓮ **スピーカー端子(SPEAKERS)**

スピーカーを接続します。(☞40 ページ)

⓯ **プリアウト端子(PRE OUT)**

アンプ内蔵のサブウーハーや外部パワーアンプを接続します。

- 「サブウーハーを接続する」(☞41 ページ)
- 「11.1 チャンネルのスピーカーを接続する」(☞59 ページ)
- 「ゾーンの接続」(☞166 ページ)

⓰ **コンポーネントビデオ端子(COMPONENT VIDEO)**

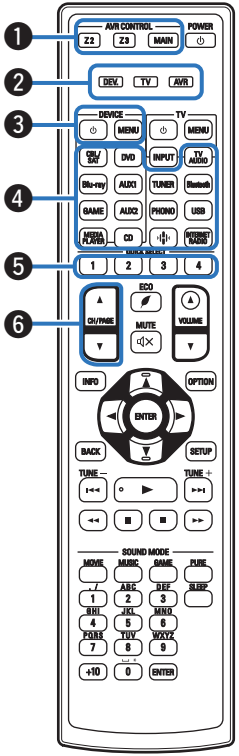
コンポーネントビデオ端子付きの機器を接続します。

- 「接続 3:HDMI 端子がないテレビ」(☞76 ページ)
- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞78 ページ)
- 「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞79 ページ)

ご注意

- 端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気により、故障の原因になることがあります。

リモコン



❶ **AVR 操作ボタン(AVR CONTROL MAIN, Z2, Z3)**
リモコンで操作するゾーン(メインゾーン、ゾーン 2、ゾーン 3)を選択します。
- 「ゾーン 2/ゾーン 3 で再生する」(☞172 ページ)
- 「メニュー操作のしかた」(☞178 ページ)
- 「リモコンで操作するゾーンを指定する」(☞274 ページ)

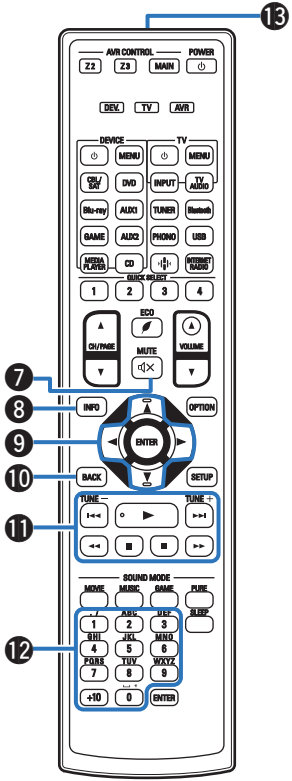
❷ **操作モード表示**
本機を操作中は“AVR”表示が点灯します。
外部機器を操作中は、“DEV.”表示が点灯します。
テレビを操作中は、“TV”表示が点灯します。

❸ **外部機器操作ボタン(DEVICE ⏻ / DEVICE MENU)**
外部機器の電源オン/オフやメニューの呼び出しをします。これらのボタンをご使用になるときは、プリセットコードの登録が必要です。(☞267 ページ)

❹ **入力ソース選択ボタン**
入力ソースを選択します。
- 「入力ソースを選ぶ」(☞92 ページ)
- 「ゾーン 2/ゾーン 3 で再生する」(☞172 ページ)

❺ **クイックセレクトボタン(QUICK SELECT 1～4)**
それぞれのボタンに登録している入力ソース、音量およびサウンドモードなどの複数の設定をワンタッチで呼び出します。
(☞158 ページ)

❻ **チャンネル選択/ページ検索ボタン(CH/PAGE ▲▼)**
プリセット登録した放送局の選択やページの切り替えをします。
(☞107 ページ)



❼ **ミュートボタン(MUTE 🔇)**

消音します。

- 「一時的に音を消す(ミューティング)」(☞93 ページ)
- 「一時的に音を消す(ミューティング)(ゾーン 2/ゾーン 3)」(☞173 ページ)

❽ **インフォメーションボタン(INFO)**

ステータス情報をテレビ画面に表示します。(☞264 ページ)

❾ **カーソルボタン(△▽◁▷)**

項目を選択します。

❿ **バックボタン(BACK)**

ひとつ前の画面に戻します。

⓫ **システムボタン**

再生に関する操作をします。

選局ボタン(TUNE +, –)

FM 放送局または AM 放送局を選択します。(☞104 ページ)

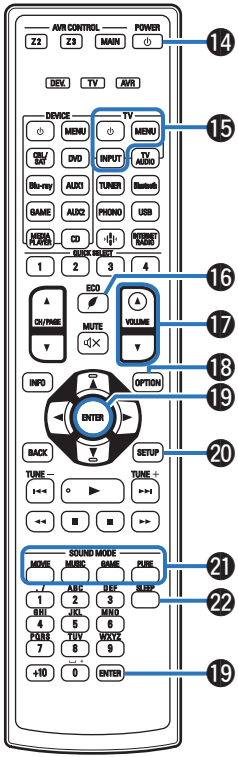
⓬ **数字/文字入力ボタン**

本機の文字入力や数字入力をします。

- 「FM 放送または AM 放送を聴く」(☞104 ページ)
- 「リモコンで外部機器を操作する」(☞267 ページ)

⓭ **リモコン信号送信窓**

リモコンの信号を送信します。(☞9 ページ)



⓮ 電源操作ボタン(⏻)

電源をオン/オフします。

- 「電源を入れる」(☞92 ページ)
- 「ゾーン 2/ゾーン 3 で再生する」(☞172 ページ)

⓯ テレビ操作ボタン(TV ⏻ / TV MENU / TV INPUT)

テレビの電源オン/オフや入力の切り替え、メニューの呼び出しをします。これらのボタンをご使用になるときは、プリセットコードの登録が必要です。(☞272 ページ)

⓰ エコモードボタン(ECO 🍃)

エコモードを切り替えます。(☞252 ページ)

⓱ 音量調節ボタン(VOLUME ▲▼)

音量を調節します。

- 「音量を調節する」(☞93 ページ)
- 「音量を調節する(ゾーン 2/ゾーン 3)」(☞173 ページ)

⓲ オプションボタン(OPTION)

テレビ画面にオプションメニューを表示します。

⓳ エンターボタン(ENTER)

選択した内容を確定します。

⓴ セットアップボタン(SETUP)

テレビ画面に設定メニューを表示します。(☞178 ページ)

㉑ サウンドモードボタン(SOUND MODE)

サウンドモードを選択します。(☞139 ページ)

㉒ スリープタイマーボタン(SLEEP)

スリープタイマーを設定します。(☞156 ページ)

■ 目次

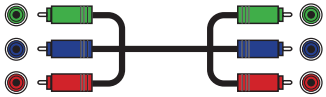
スピーカーを設置する	32
スピーカーを接続する	40
テレビを接続する	72
再生機器を接続する	77
USB 端子に USB メモリーを接続する	83
FM アンテナや AM ループアンテナを接続する	84
ホームネットワーク(LAN)に接続する	86
外部のコントロール機器を接続する	88
電源コードを接続する	90

ご注意

- すべての接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。ただし、“セットアップアシスタント”(別冊の“かんたんスタートガイド”の 9 ページ)メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。(“セットアップアシスタント”メニューを操作中、入出力端子は通電しません。)
- 接続ケーブルは、電源コードと一緒に束ねないでください。雑音の原因となることがあります。

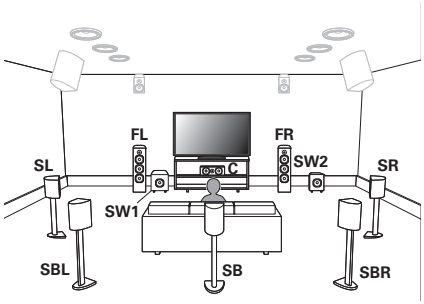
■ 接続に使用するケーブル

接続する機器に合わせて、必要なケーブルを準備してください。

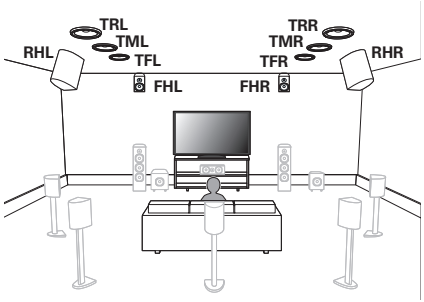
スピーカーケーブル	
サブウーハーケーブル	
HDMI ケーブル	
コンポーネントビデオケーブル	
ビデオケーブル	
同軸デジタルケーブル	
光伝送ケーブル	
オーディオケーブル	
LAN ケーブル	

スピーカーを設置する

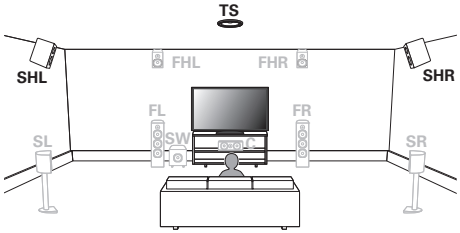
ご使用になるスピーカーの本数に応じてスピーカーシステムを決定し、各スピーカーおよびサブウーハーを部屋に設置します。
例として、代表的な設置方法を説明します。



FL/FR （フロントスピーカー左/右）:	フロント左右スピーカーは視聴位置から前方の等距離に設置します。各スピーカーとテレビの間の距離は同じにしてください。
C （センタースピーカー）:	センタースピーカーはフロント左右スピーカーの中間に設置します。テレビの上または下側に設置してください。
SL/SR （サラウンドスピーカー左/右）:	サラウンド左右スピーカーは視聴位置から左右の等距離に設置します。サラウンドバックスピーカーをお持ちでない場合は、斜め後方に設置してください。
SBL/SBR （サラウンドバックスピーカー左/右）:	サラウンドバック左右スピーカーは視聴位置から後方の等距離に設置します。サラウンドバックスピーカーを 1 台使用する場合（SB）は、リスニングポイントの真後ろに設置してください。
SW 1/2 （サブウーハー）:	サブウーハーは、フロントスピーカーの近くの設置可能な場所に設置します。サブウーハーを 2 台使用する場合は、部屋の前方に左右非対称となるように設置してください。

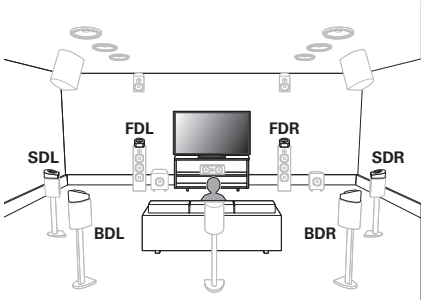


FHL/FHR （フロントハイトスピーカー左/右）:	フロントハイト左右スピーカーはフロントスピーカーの真上に設置します。できるだけ天井に近い高さで、リスニングポイントを向くように設置してください。
TFL/TFR （トップフロントスピーカー左/右）:	トップフロント左右スピーカーは視聴位置から前方の天井に取り付けます。左右の間隔は、フロント左右スピーカーと合わせてください。
TML/TMR （トップミドルスピーカー左/右）:	トップミドル左右スピーカーは視聴位置の真上の天井に取り付けます。左右の間隔は、フロント左右スピーカーと合わせてください。
TRL/TRR （トップリアスピーカー左/右）:	トップリア左右スピーカーは視聴位置から後方の天井に取り付けます。左右の間隔は、フロント左右スピーカーと合わせてください。
RHL/RHR （リアハイトスピーカー左/右）:	リアハイト左右スピーカーはできるだけ天井に近い高さで、視聴位置から後方に設置します。左右の間隔は、フロント左右スピーカーと合わせてください。



SHL/SHR（サラウンドハイトスピーカー左/右）:	サラウンドハイト左右スピーカーをサラウンドスピーカーの真上に設置してください。
TS（トップサラウンドスピーカー）:	トップサラウンドスピーカーはメインリスニングポイントの真上に、センタースピーカーと一直線になるように設置してください。

- 最適な Auro-3D 再生をおこなうには、サラウンドハイトスピーカーのご使用をおすすめします。サラウンドハイトスピーカーの代わりにリアハイトスピーカーを設置すると、Auro-3D および Dolby Atmos の両方をお楽しみいただけます。

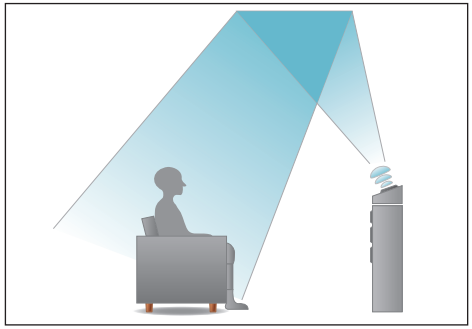


FDL/FDR （フロント Dolby スピーカー左/右）:	フロント Dolby Atmos Enabled スピーカーをフロントスピーカーの上に置いてください。フロントスピーカーと一体型の Dolby Atmos Enabled スピーカーの場合は、フロントスピーカーの代わりに Dolby Atmos Enabled スピーカーを置いてください。
SDL/SDR （サラウンド Dolby スピーカー左/右）:	サラウンド Dolby Atmos Enabled スピーカーをサラウンドスピーカーの上に置いてください。サラウンドスピーカーと一体型の Dolby Atmos Enabled スピーカーの場合は、サラウンドスピーカーの代わりに Dolby Atmos Enabled スピーカーを置いてください。
BDL/BDR （バック Dolby スピーカー左/右）:	バック Dolby Atmos Enabled スピーカーをサラウンドバックスピーカーの上に置いてください。サラウンドバックスピーカーと一体型の Dolby Atmos Enabled スピーカーの場合は、サラウンドバックスピーカーの代わりに Dolby Atmos Enabled スピーカーを置いてください。

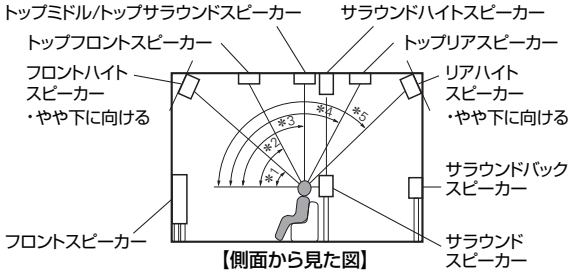
Dolby Atmos Enabled スピーカーについて

Dolby Atmos Enabled スピーカーは上向きの特殊なスピーカーを床面に設置することで、出力された音声を天井で反射させて上方から音声が聴こえるようにするスピーカーです。

天井にスピーカーが設置できない環境でも、Dolby Atmos の 3D サウンドを楽しむことができます。



- 本機はサラウンド空間により一層の広がりや奥行きを表現する Dolby Atmos および DTS:X に対応しています。
- Dolby Atmos は、スピーカーの構成が 5.1 チャンネル以下のときは使用できません。
- DTS:X は、スピーカーの構成に関わらず使用できます。
- Auro-3D は基本の 5.1 チャンネルのスピーカーシステムにフロントハイトおよびサラウンドハイトスピーカーを追加したスピーカー構成を推奨としています。フロントハイトおよびサラウンドハイトスピーカーの代わりに、リアハイトおよび Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用すると、Auro-3D だけでなく、Dolby Atmos や DTS:X の再生もお楽しみいただけます。
- 各スピーカーを設置する高さは、次のイラストを目安にしてください。ただし、正確に合わせる必要はありません。

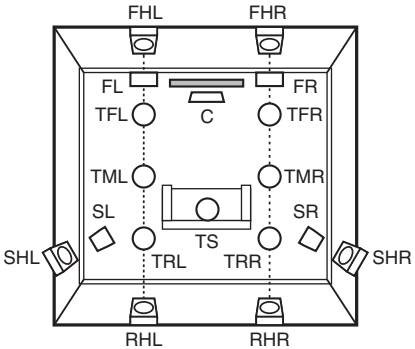


【側面から見た図】

*1 30°～45°　*2 30°～55°　*3 65°～100°
*4 125°～150°　*5 135°～150°

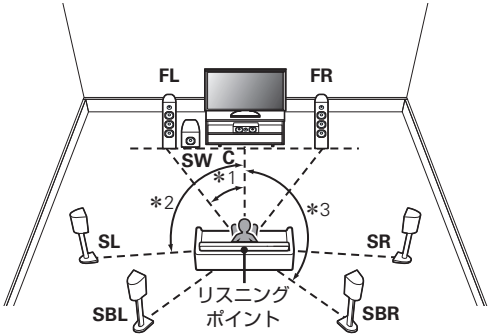
- 最適な Auro-3D 再生をおこなうには、サラウンドハイトスピーカーのご使用をおすすめします。サラウンドハイトスピーカーの代わりにリアハイトスピーカーを設置すると、Auro-3D および Dolby Atmos の両方をお楽しみいただけます。

ハイトスピーカーのレイアウト図



【上面から見た図】

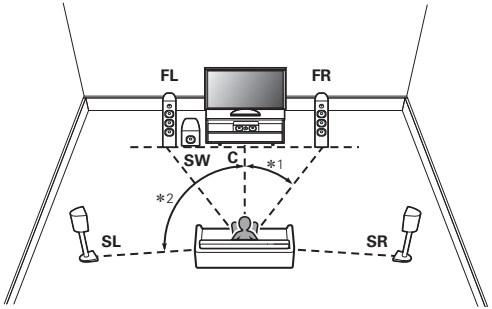
■ サラウンドバックスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき



*1　22°～30°　*2　90°～110°　*3　135°～150°

- サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用する場合は、サラウンドバックスピーカーをリスニングポイントの真後ろに設置してください。

■ 5.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき

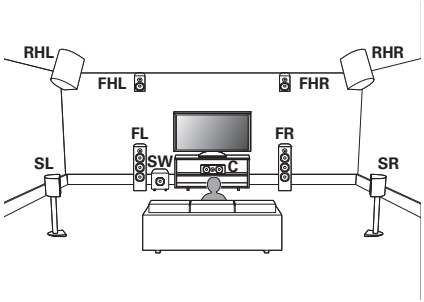


*1　22°～30°　*2　120°

■ ハイトスピーカーおよび天井スピーカーを含めたレイアウト

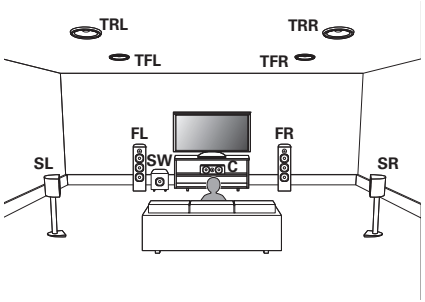
❑ ハイトスピーカーの設置例

5.1 チャンネルのスピーカーにフロントハイト/リアハイトスピーカーを組み合わせたレイアウト図です。



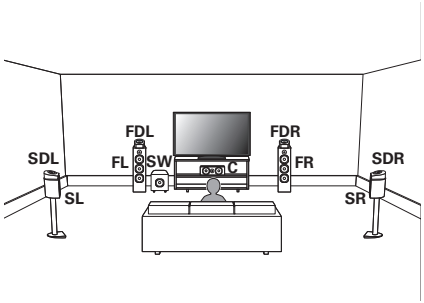
❑ 天井スピーカーの設置例

5.1 チャンネルのスピーカーにトップフロント/トップリアスピーカーを組み合わせたレイアウト図です。



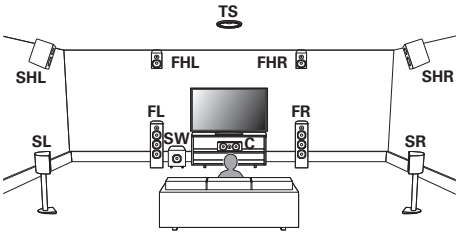
❑ Dolby Atmos Enabled スピーカーの設置例

5.1 チャンネルのスピーカーにフロント Dolby/サラウンド Dolby スピーカーを組み合わせたレイアウト図です。



❑ Auro-3D 用スピーカーの設置例

5.1 チャンネルのスピーカーにフロントハイト/サラウンドハイト/トップサラウンドスピーカーを組み合わせたレイアウト図です。



- 最適な Auro-3D 再生をおこなうには、サラウンドハイトスピーカーのご使用をおすすめします。サラウンドハイトスピーカーの代わりにリアハイトスピーカーを設置すると、Auro-3D および Dolby Atmos の両方をお楽しみいただけます。

スピーカーを接続する

部屋に設置したスピーカーを本機に接続します。

スピーカーを接続する前に

ご注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。また、サブウーハーの電源を切ってください。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作します。（「保護回路」（☞328 ページ））
- 通電中は、絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。ただし、“セットアップアシスタント”（別冊の“かんたんスタートガイド”の 9 ページ）メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。（“セットアップアシスタント”メニューを操作中、スピーカー端子は通電しません。）
- スピーカーはインピーダンスが 4～16Ω のものを使用してください。

ご注意

- インピーダンスが 4～6Ω のスピーカーをご使用になる場合は、次の設定をおこなってください。

1. 本機の電源が入っているときに、本体の STATUS と ZONE3 SOURCE を同時に 3 秒以上長押しする。
   ディスプレイに“∗Video Format <NTSC>”を表示します。
2. 本体の △ または ▽ を 3 回押す。
   ディスプレイに“∗Sp. Impedance <8ohms>”を表示します。
3. 本体の ◁ または ▷ を押して、インピーダンスを選ぶ。

8ohms（お買い上げ時の設定）:	接続されたすべてのスピーカーのインピーダンスが 8Ω 以上のときに選択します。
6ohms:	接続されたスピーカーのインピーダンスが 6Ω のときに選択します。
4ohms:	接続されたスピーカーのインピーダンスが 4Ω のときに選択します。

4. 本体の ENTER を押して、設定を終了する。

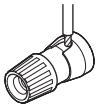
■ スピーカーケーブルを接続する

本機と接続するスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、＋(赤)、－(黒)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

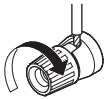
1 スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。

2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。

3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。



4 スピーカー端子を右に回して締める。

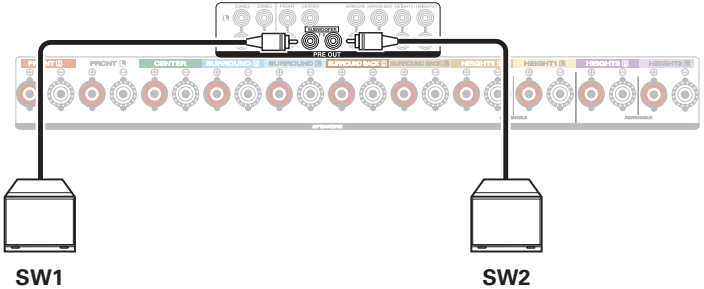


■ サブウーハーを接続する

サブウーハーケーブルを使用して、サブウーハーと接続します。本機にはサブウーハーを 2 台接続できます。

サブウーハーを 2 台接続する場合は、“スピーカー構成”の設定で“サブウーハー”を“2 台”に設定してください。(☞232 ページ)

サブウーハー 1 とサブウーハー 2 の音量レベルおよび距離は個別に設定できます。



■ チャンネル識別のためのケーブルラベル(付属)について

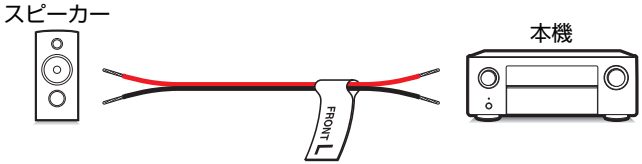
本機のスピーカー端子は、識別できるように色分けしています。
各スピーカーに合ったケーブルラベルをスピーカーケーブルに貼ってください。リアパネルのスピーカー端子に接続する際、簡単に接続できます。

スピーカー	カラー
FRONT L	白色
FRONT R	赤色
CENTER	緑色
SURROUND L	水色
SURROUND R	青色
SURROUND BACK L	ベージュ
SURROUND BACK R	茶色
FRONT HEIGHT L	薄黄色
FRONT HEIGHT R	黄色
TOP FRONT L	薄黄色
TOP FRONT R	黄色
TOP MIDDLE L	薄紫色
TOP MIDDLE R	紫色
TOP REAR L	薄紫色
TOP REAR R	紫色

スピーカー	カラー
SURROUND HEIGHT L	薄紫色
SURROUND HEIGHT R	紫色
REAR HEIGHT L	薄紫色
REAR HEIGHT R	紫色
FRONT DOLBY L	薄黄色
FRONT DOLBY R	黄色
SURROUND DOLBY L	薄紫色
SURROUND DOLBY R	紫色
BACK DOLBY L	薄紫色
BACK DOLBY R	紫色
TOP SURROUND	黒色
SUBWOOFER 1	黒色
SUBWOOFER 2	黒色

付属のケーブルラベルもパネルに合わせて色分けしています。
表を参照して、各スピーカーケーブルに貼り付けてください。
ラベルと同じ色のスピーカー端子にケーブルを接続することでスピーカーの接続が容易になります。

【 ケーブルラベルの貼りかた 】



スピーカーの構成と“アンプの割り当て”の設定

本機は 9 チャンネルのパワーアンプを内蔵しています。基本となる 5.1 チャンネルシステムのほかに、“アンプの割り当て”の設定を変更することで、7.1 チャンネルシステム、バイアンプ接続、マルチゾーン再生用の 2 チャンネルシステムなど、さまざまなスピーカーシステムを構築できます。(☞224 ページ)

設置するスピーカー構成や部屋の数に合わせて、“アンプの割り当て”の設定をおこなってください。(☞224 ページ)

各ゾーンで再生するスピーカー			“アンプの割り当て”の設定	接続のページ
メインゾーン	ゾーン 2	ゾーン 3		
5.1 チャンネル再生	2 チャンネル（プリアウト）	2 チャンネル（プリアウト）	すべての“アンプの割り当て”モードで設定できます。	46
7.1 チャンネル再生			7.1ch + ZONE2	47
9.1 チャンネル再生			9.1ch(お買い上げ時の設定)	51
11.1 チャンネル再生			11.1ch	59
7.1 チャンネル再生(フロントスピーカーのバイアンプ接続)			7.1ch(Bi-Amp)	65
2 台目のフロントスピーカー			7.1ch + Front B	66
7.1 チャンネル再生	2 チャンネル（スピーカー出力）	2 チャンネル（プリアウト）	7.1ch + ZONE2	67
7.1 チャンネル再生	2 チャンネル（プリアウト）	2 チャンネル（スピーカー出力）	7.1ch + ZONE3	67
5.1 チャンネル再生(フロントスピーカーのバイアンプ接続)	2 チャンネル（スピーカー出力）	2 チャンネル（プリアウト）	5.1ch(Bi-Amp) + ZONE2	68
5.1 チャンネル再生	2 チャンネル（スピーカー出力）	2 チャンネル（スピーカー出力）	5.1ch + ZONE2/3	69
7.1 チャンネル再生	1 チャンネル（スピーカー出力）	1 チャンネル（スピーカー出力）	7.1ch + ZONE2/3-MONO	70

スピーカー構成によって、選択できるサウンドモードが異なります。対応しているサウンドモードについては、「サウンドモードとチャンネル出力の関係」(☞311 ページ)をご覧ください。

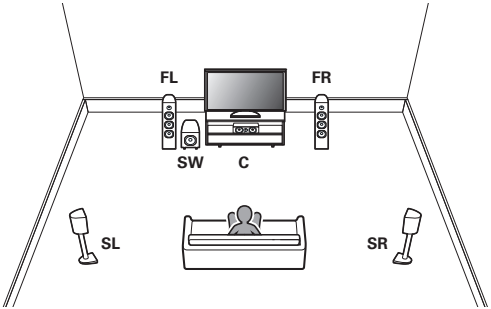
以降のページに基本となる接続例を記載しています。

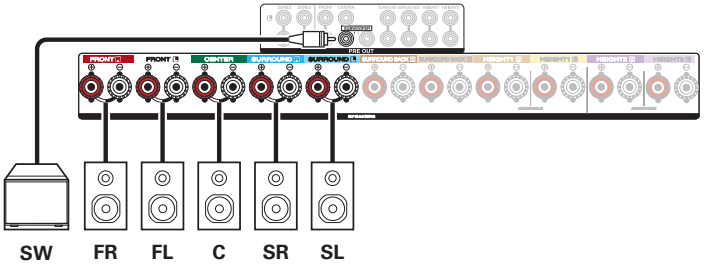
基本の 5.1 チャンネルのスピーカーシステムに、フロントハイトおよびサラウンドハイトスピーカーを追加した 9.1 チャンネルシステムで Auro-3D 再生をおこなう場合は、「Auro-3D 9.1 チャンネルシステムの接続例」(☞57 ページ)をご覧ください。
さらにトップサラウンドスピーカーを追加した 10.1 チャンネルシステムで Auro-3D 再生をおこなう場合は、「Auro-3D 10.1 チャンネルシステムの接続例」(☞62 ページ)をご覧ください。

- 本機では、46～70 ページに記載している接続方法のほかに、“アンプの割り当て”の設定によりさまざまなスピーカーの接続方法があります。
  ご使用の環境に合わせた接続方法を、“アンプの割り当て”の設定画面の中の“端子の接続確認”でメニュー画面上にガイドしていますので、そちらもご覧ください。

5.1 チャンネルのスピーカーを接続する

サラウンドの基本となる 5.1 チャンネルのシステムです。

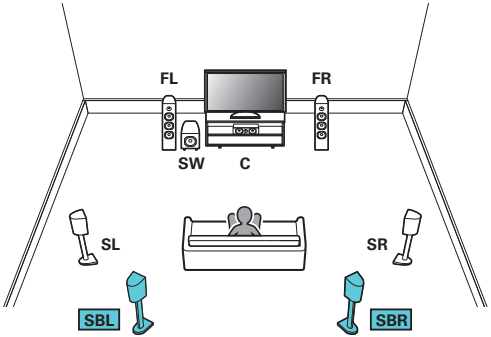


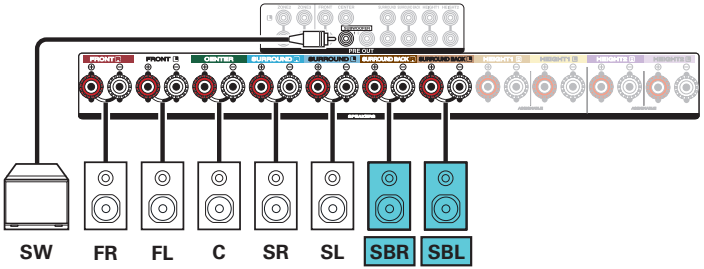


7.1 チャンネルのスピーカーを接続する

■ サラウンドバックスピーカーを使用するときの接続例

基本となる 5.1 チャンネルのシステムに、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルのサラウンドシステムです。



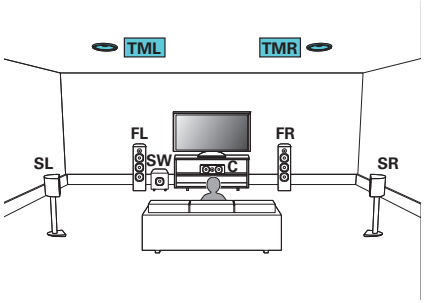


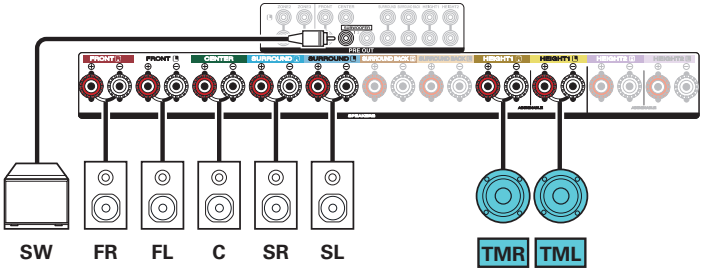
- サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ使用する場合は、SURROUND BACK L 端子に接続してください。

- メニューの“フロア” - “レイアウト”を“5ch & SB”に設定してください。(☞227 ページ)

■ 天井スピーカーを使用するときの接続例

基本となる 5.1 チャンネルのシステムに、天井スピーカーを使用した 7.1 チャンネルのサラウンドシステムです。

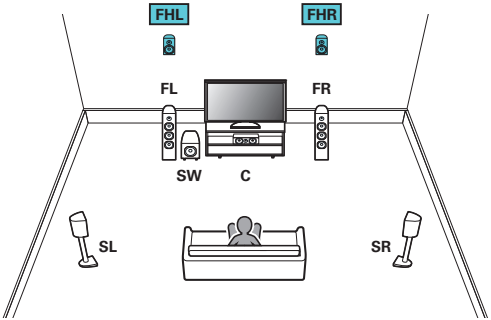


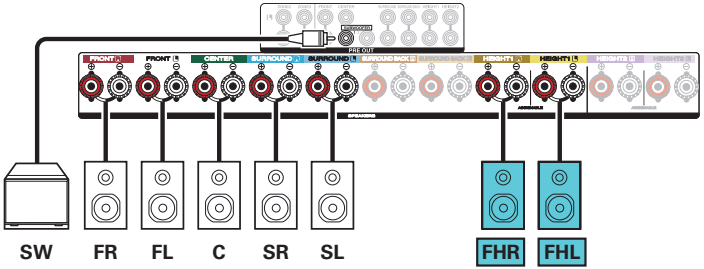


- メニューの“フロア” - “レイアウト”を“5ch”および“ハイトスピーカー”を“2ch”に設定してください。(☞227 ページ)
- トップミドルスピーカーの代わりに、トップフロントまたはトップリアスピーカーも接続できます。この場合、メニューの“ハイト” - “レイアウト”で接続する天井スピーカーを設定してください。(☞228 ページ)

■ ハイトスピーカーを使用するときの接続例

基本となる 5.1 チャンネルのシステムに、フロントハイトスピーカーを使用した 7.1 チャンネルのサラウンドシステムです。

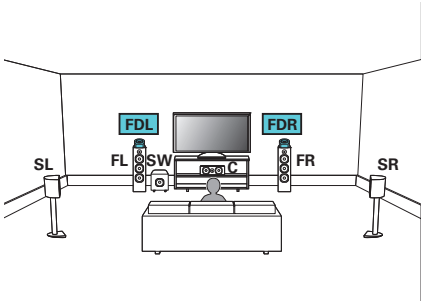


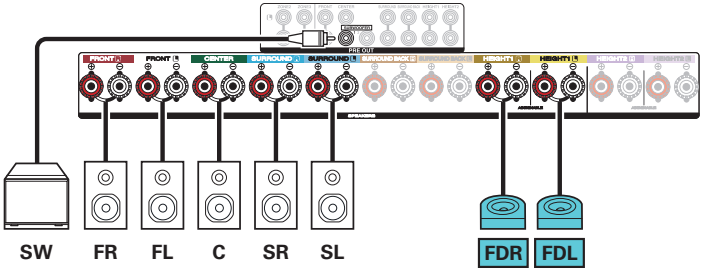


- メニューの“フロア” - “レイアウト”を“5ch”および“ハイトスピーカー”を“2ch”に設定してください。(☞227 ページ)
- フロントハイトスピーカーの代わりに、リアハイトスピーカーも接続できます。この場合、メニューの“ハイト” - “レイアウト”で接続するハイトスピーカーを設定してください。(☞228 ページ)

■ Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用するときの接続例

基本となる 5.1 チャンネルのシステムに、フロント Dolby スピーカーを使用した 7.1 チャンネルのサラウンドシステムです。



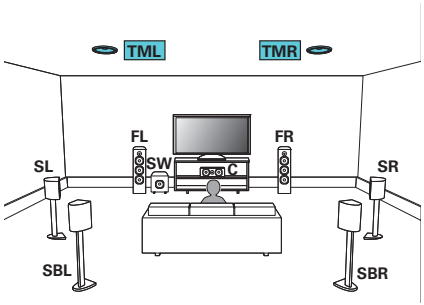


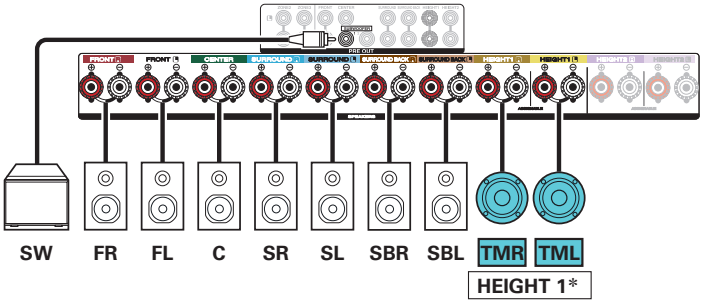
- メニューの“フロア” - “レイアウト”を“5ch”および“Dolby スピーカー”を“2ch”に設定してください。(☞227 ページ)
- フロント Dolby スピーカーの代わりに、サラウンド Dolby スピーカーも接続できます。この場合、メニューの“ハイト” - “レイアウト”で接続する Dolby Atmos Enabled スピーカーを設定してください。(☞228 ページ)

9.1 チャンネルのスピーカーを接続する

5.1 チャンネルのシステムを基本とし、最大 9.1 チャンネルを同時に再生するシステムです。
メインゾーン用に最大 11 チャンネルのスピーカーを接続することができます。10 チャンネル以上のスピーカーを接続した場合は、入力信号やサウンドモードに応じて出力するスピーカーが自動的に切り替わります。

■ 天井スピーカーを 1 組使用するときの接続例

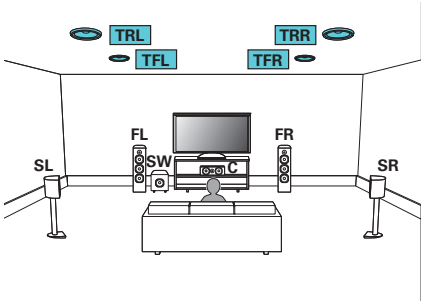


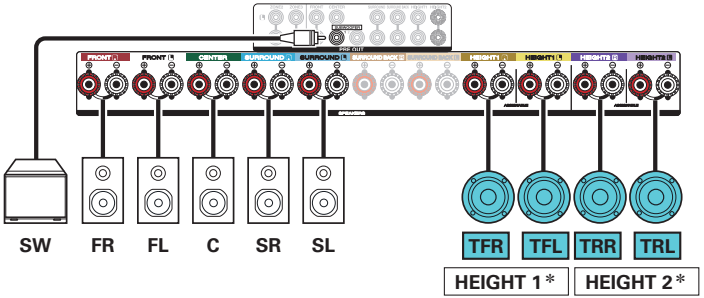


- メニューの“ハイト” - “ハイトスピーカー”を“2ch”に設定してください。(☞227 ページ)

＊ トップミドルスピーカーの代わりに、トップフロントまたはトップリアスピーカーも接続できます。この場合、メニューの“ハイト” - “レイアウト”で接続する天井スピーカーを設定してください。(☞228 ページ)

■ 天井スピーカーを 2 組使用するときの接続例

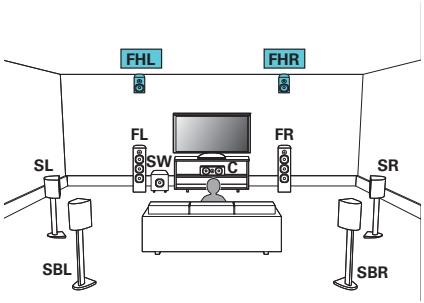


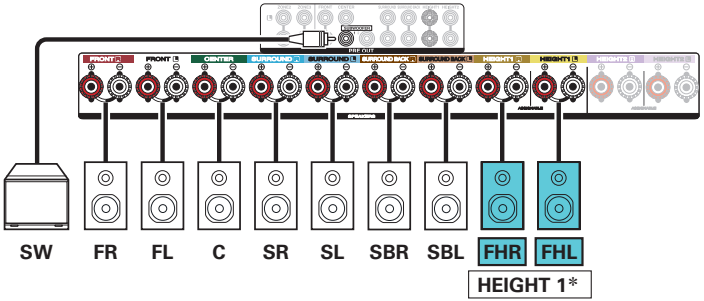


* HEIGHT1 および HEIGHT2 チャンネルの組み合わせは、設定で変えることができます。(☞58 ページ)

- メニューの“ハイト” – “ハイトスピーカー”を“4ch”に設定してください。(☞227 ページ)

■ ハイトスピーカーを 1 組使用するときの接続例

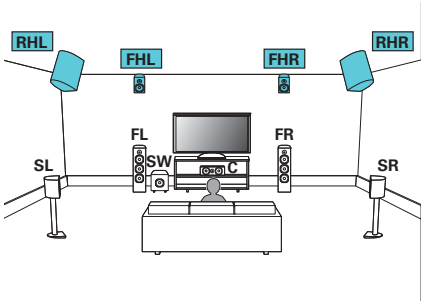


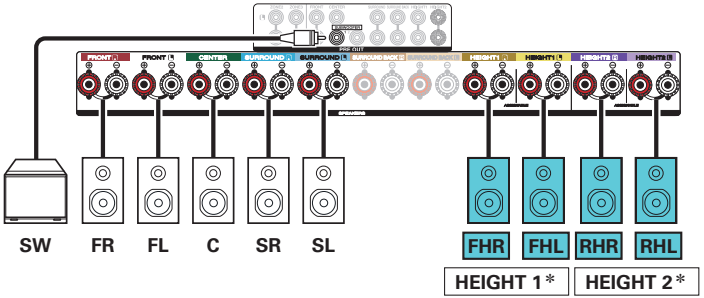


- メニューの“ハイト” - “ハイトスピーカー”を“2ch”に設定してください。(☞227 ページ)

* フロントハイトスピーカーの代わりに、リアハイトスピーカーも接続できます。この場合、メニューの“ハイト” - “レイアウト”で接続するハイトスピーカーを設定してください。(☞228 ページ)

■ ハイトスピーカーを 2 組使用するときの接続例

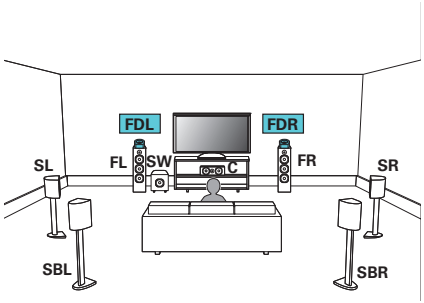


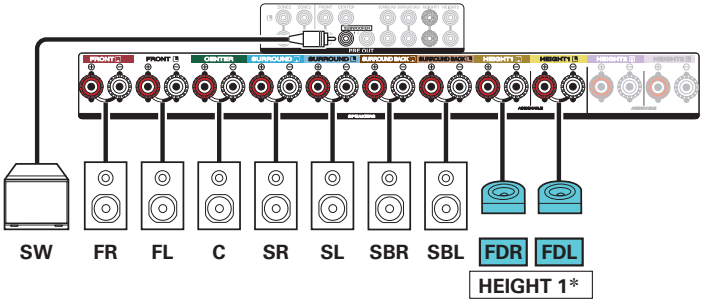


＊ HEIGHT1 および HEIGHT2 チャンネルの組み合わせは、設定で変えることができます。(☞58 ページ)

- メニューの“ハイト” – “ハイトスピーカー”を“4ch”に設定してください。(☞227 ページ)

■ Dolby Atmos Enabled スピーカーを 1 組使用するときの接続例

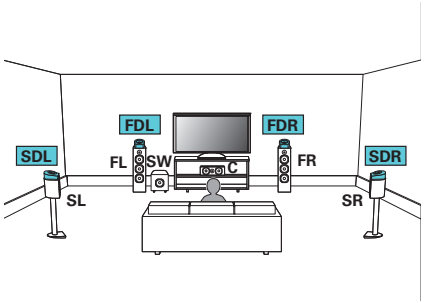


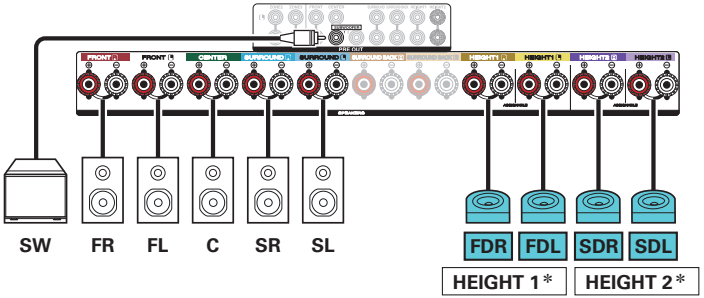


- メニューの“ハイト” - “Dolby スピーカー”を“2ch”に設定してください。(☞227 ページ)

＊ フロント Dolby スピーカーの代わりに、サラウンド Dolby スピーカーも接続できます。この場合、メニューの“ハイト” - “レイアウト”で接続する Dolby Atmos Enabled スピーカーを設定してください。(☞228 ページ)

■ Dolby Atmos Enabled スピーカーを 2 組使用するときの接続例



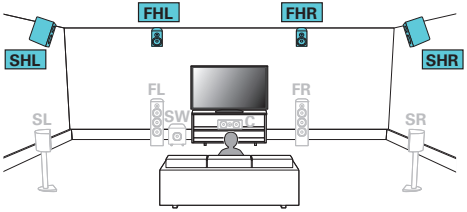


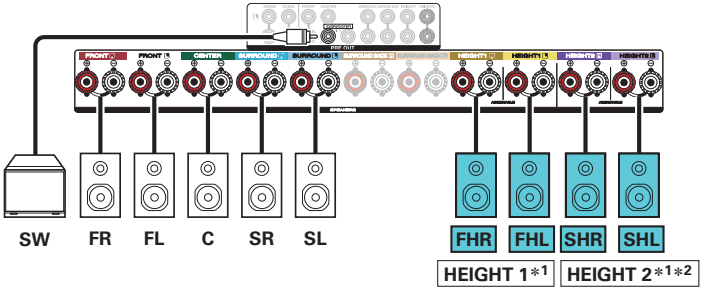
* HEIGHT1 および HEIGHT2 チャンネルの組み合わせは、設定で変えることができます。(☞58 ページ)

- メニューの“ハイト” – “Dolby スピーカー”を“4ch”に設定してください。(☞227 ページ)

■ Auro-3D 9.1 チャンネルシステムの接続例

このスピーカー構成は、Auro-3D の再生に最適化されています。





- メニューの“ハイト” - “ハイトスピーカー”を“4ch”に設定してください。(☞227 ページ)
  次に、“ハイト” - “レイアウト”を“フロントハイト＆サラウンドハイト”に設定してください。(☞228 ページ)

*1 HEIGHT1 および HEIGHT2 チャンネルの組み合わせは、設定で変えることができます。(☞58 ページ)

*2 最適な Auro-3D 再生をおこなうには、サラウンドハイトスピーカーのご使用をおすすめします。サラウンドハイトスピーカーの代わりにリアハイトスピーカーを設置すると、Auro-3D および Dolby Atmos の両方をお楽しみいただけます。

HEIGHT1 および HEIGHT2 スピーカー端子から出力されるチャンネルは、ご使用のスピーカーシステムに合わせて次のパターンに変えることができます。
メニューの“アンプの割り当て”で設定してください。(☞224 ページ)

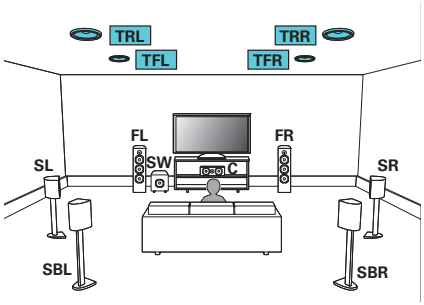
使用するハイトスピーカーの組み合わせ			接続する端子	
ハイト/天井スピーカーの台数	Dolby スピーカーの台数	組み合わせパターン	HEIGHT1 SPEAKER	HEIGHT2 SPEAKER
2 スピーカー	無し	フロントハイト	フロントハイト	–
		トップフロント	トップフロント	–
		トップミドル	トップミドル	–
		トップリア	トップリア	–
		リアハイト	リアハイト	–
無し	2 スピーカー	フロント Dolby	フロント Dolby	–
		サラウンド Dolby	サラウンド Dolby	–
		バック Dolby	バック Dolby	–
4 スピーカー	無し	フロントハイト＆トップミドル	フロントハイト	トップミドル
		フロントハイト＆トップリア	フロントハイト	トップリア
		フロントハイト＆リアハイト *	フロントハイト	リアハイト
		フロントハイト＆サラウンドハイト	フロントハイト	サラウンドハイト
		トップフロント＆トップリア	トップフロント	トップリア
		トップフロント＆リアハイト	トップフロント	リアハイト
		トップミドル＆リアハイト	トップミドル	リアハイト
2 スピーカー	2 スピーカー	フロント Dolby＆トップリア	フロント Dolby	トップリア
		フロント Dolby＆リアハイト	フロント Dolby	リアハイト
		フロントハイト＆サラウンド Dolby	フロントハイト	サラウンド Dolby
		トップフロント＆サラウンド Dolby	トップフロント	サラウンド Dolby
無し	4 スピーカー	フロント Dolby＆サラウンド Dolby	フロント Dolby	サラウンド Dolby

* 最適な Auro-3D 再生をおこなうには、サラウンドハイトスピーカーのご使用をおすすめします。サラウンドハイトスピーカーの代わりにリアハイトスピーカーを設置すると、Auro-3D および Dolby Atmos の両方をお楽しみいただけます。

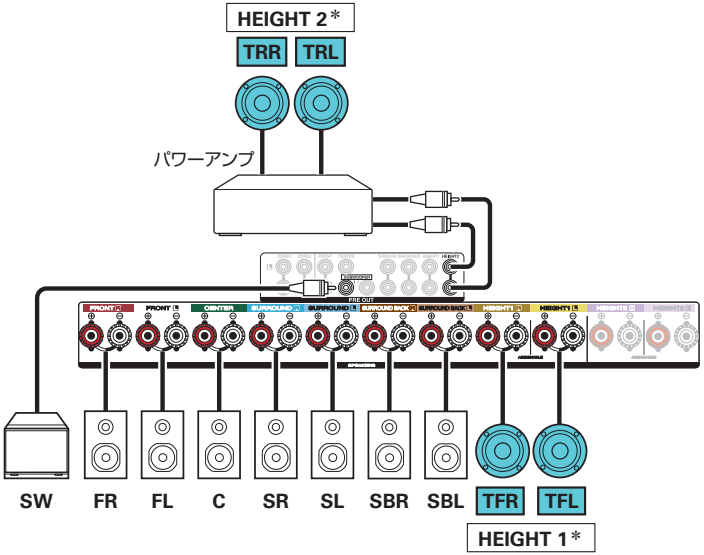
11.1 チャンネルのスピーカーを接続する

5.1 チャンネルのシステムを基本とし、最大 11.1 チャンネルを同時に再生するシステムです。
外部のパワーアンプを使用することで、最大 11 チャンネル分のスピーカーをメインゾーン用に接続できます。

■ 天井スピーカーを 2 組使用するときの接続例

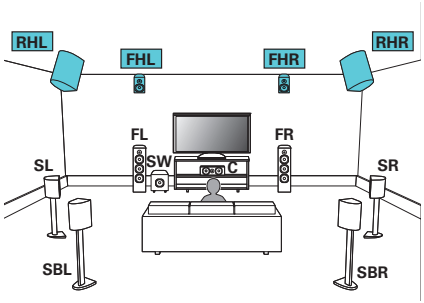


- メニューの“ハイト” – “ハイトスピーカー”を“4ch”に設定してください。(☞227 ページ)

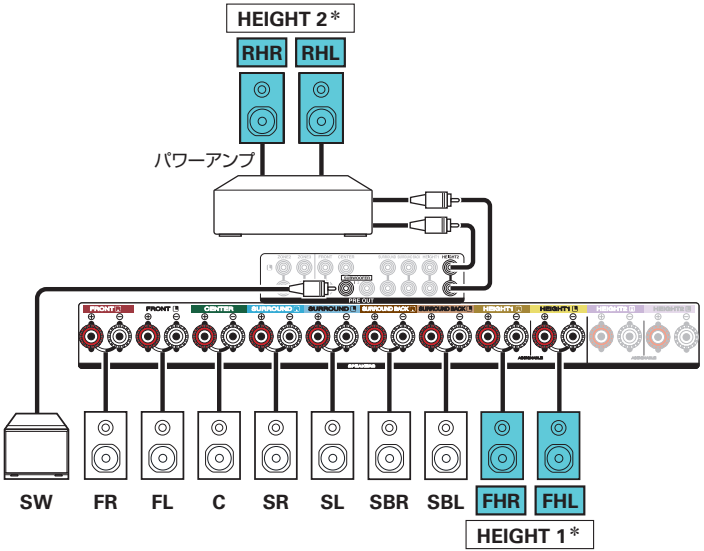


* HEIGHT1 および HEIGHT2 チャンネルの組み合わせは、設定で変えることができます。(☞63 ページ)

■ ハイトスピーカーを 2 組使用するときの接続例

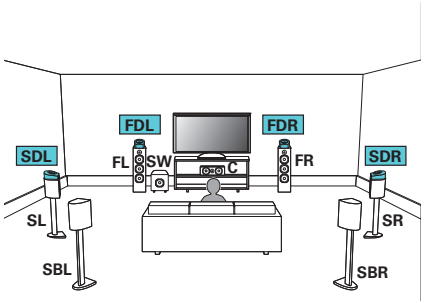


- メニューの“ハイト” – “ハイトスピーカー”を“4ch”に設定してください。(☞227 ページ)

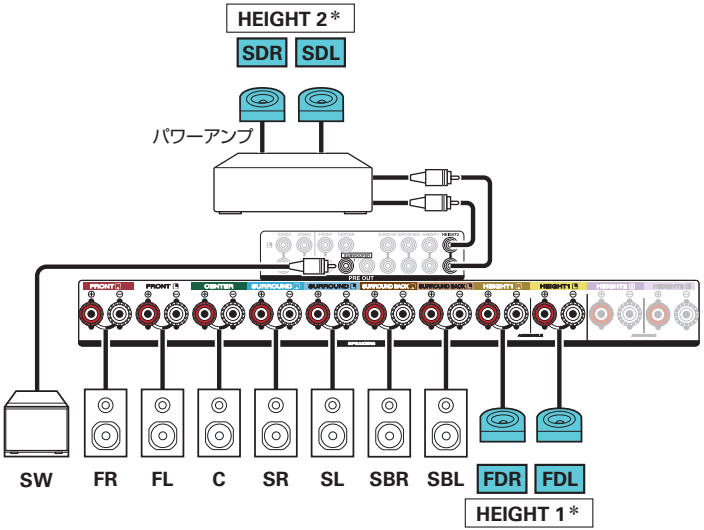


* HEIGHT1 および HEIGHT2 チャンネルの組み合わせは、設定で変えることができます。(☞63 ページ)

■ Dolby Atmos Enabled スピーカーを 2 組使用するときの接続例



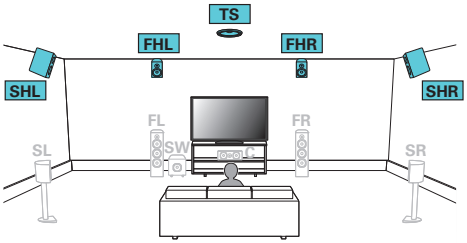
- メニューの“ハイト” – “Dolby スピーカー”を“4ch”に設定してください。(☞227 ページ)

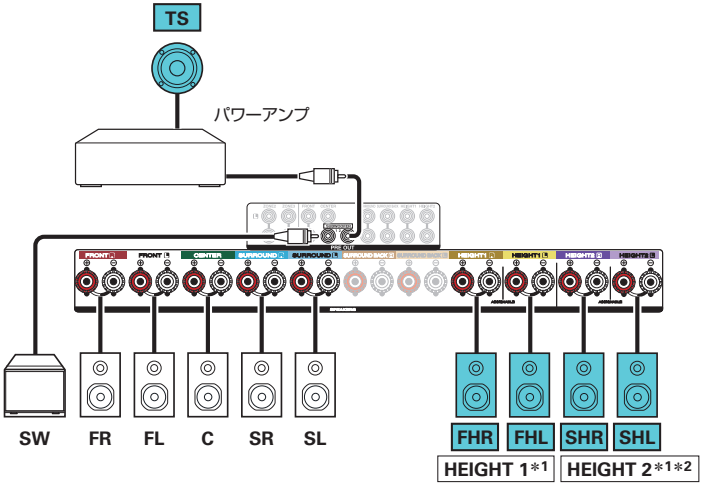


＊ HEIGHT1 および HEIGHT2 チャンネルの組み合わせは、設定で変えることができます。(☞63 ページ)

■ Auro-3D 10.1 チャンネルシステムの接続例

このスピーカー構成は、Auro-3D の再生に最適化されています。





- メニューの“ハイト” - “ハイトスピーカー”を“5ch”に設定してください。(☞227 ページ)
  次に、“ハイト” - “レイアウト”を“フロントハイト＆サラウンドハイト”に設定してください。(☞228 ページ)

＊1 HEIGHT1 および HEIGHT2 チャンネルの組み合わせは、設定で変えることができます。(☞64 ページ)

＊2 最適な Auro-3D 再生をおこなうには、サラウンドハイトスピーカーのご使用をおすすめします。サラウンドハイトスピーカーの代わりにリアハイトスピーカーを設置すると、Auro-3D および Dolby Atmos の両方をお楽しみいただけます。

HEIGHT1 および HEIGHT2 チャンネルの組み合わせは、ご使用のスピーカーシステムに合わせて次のパターンに変えることができます。
メニューの“アンプの割り当て”で設定してください。(☞224 ページ)

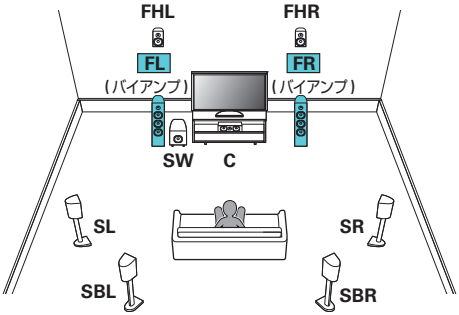
使用するハイトスピーカーの組み合わせ			接続する端子	
ハイト/天井スピーカーの台数	Dolby スピーカーの台数	組み合わせパターン	HEIGHT1 SPEAKER	HEIGHT2 PRE OUT
2 スピーカー	無し	フロントハイト	フロントハイト	–
		トップフロント	トップフロント	–
		トップミドル	トップミドル	–
		トップリア	トップリア	–
		リアハイト	リアハイト	–
4 スピーカー	無し	フロントハイト＆トップミドル	フロントハイト	トップミドル
		フロントハイト＆トップリア	フロントハイト	トップリア
		フロントハイト＆リアハイト ＊	フロントハイト	リアハイト
		フロントハイト＆サラウンドハイト	フロントハイト	サラウンドハイト
		トップフロント＆トップリア	トップフロント	トップリア
		トップフロント＆リアハイト	トップフロント	リアハイト
		トップミドル＆リアハイト	トップミドル	リアハイト
無し	2 スピーカー	フロント Dolby	フロント Dolby	–
		サラウンド Dolby	サラウンド Dolby	–
		バック Dolby	バック Dolby	–
2 スピーカー	2 スピーカー	フロント Dolby＆トップリア	フロント Dolby	トップリア
		フロント Dolby＆リアハイト	フロント Dolby	リアハイト
		フロントハイト＆サラウンド Dolby	フロントハイト	サラウンド Dolby
		フロントハイト＆バック Dolby	フロントハイト	バック Dolby
		トップフロント＆サラウンド Dolby	トップフロント	サラウンド Dolby
		トップフロント＆バック Dolby	トップフロント	バック Dolby
無し	4 スピーカー	フロント Dolby＆サラウンド Dolby	フロント Dolby	サラウンド Dolby
		フロント Dolby＆バック Dolby	フロント Dolby	バック Dolby

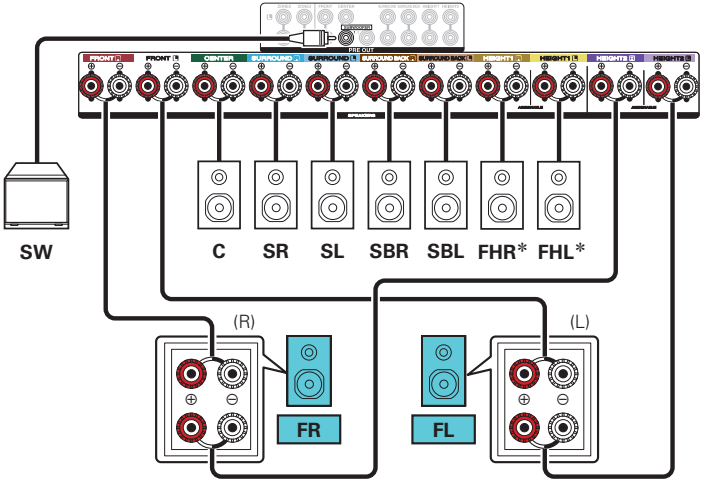
使用するハイトスピーカーの組み合わせ			接続する端子		
ハイト/天井スピーカーの台数	Dolby スピーカーの台数	組み合わせパターン	HEIGHT1 SPEAKER	HEIGHT2 PRE OUT	SUBWOOFER2 PRE OUT
5 スピーカー	無し	フロントハイト&サラウンドハイト & トップサラウンド	フロントハイト	サラウンドハイト	トップサラウンド
		フロントハイト&リアハイト & トップサラウンド *	フロントハイト	リアハイト	トップサラウンド

* 最適な Auro-3D 再生をおこなうには、サラウンドハイトスピーカーのご使用をおすすめします。サラウンドハイトスピーカーの代わりにリアハイトスピーカーを設置すると、Auro-3D および Dolby Atmos の両方をお楽しみいただけます。

7.1 チャンネルのスピーカーを接続する：フロントスピーカーのバイアンプ接続

7.1 チャンネル再生をおこなうシステムです。フロントスピーカーはバイアンプ接続ができます。バイアンプ接続は、バイアンプ対応スピーカーのツィーター用端子とウーハー用端子に、別々のアンプを接続する方法です。これによりウーハーの逆起電力（出力されずに戻ってくる電力）がツィーターに流れ込んでツィーターの音質に影響を及ぼすことがないため、より高音質な再生をお楽しみいただけます。
メインゾーン用に最大 9 チャンネルのスピーカーを接続することができます。8 チャンネル以上のスピーカーを接続した場合は、入力信号やサウンドモードに応じて出力するスピーカーが自動的に切り替わります。





ご注意

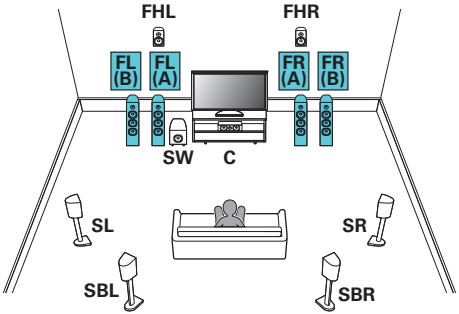
- バイアンプ接続をおこなう場合は、スピーカーのウーハー端子とツィーター端子を接続している短絡板または短絡用ワイヤーを必ず外してください。

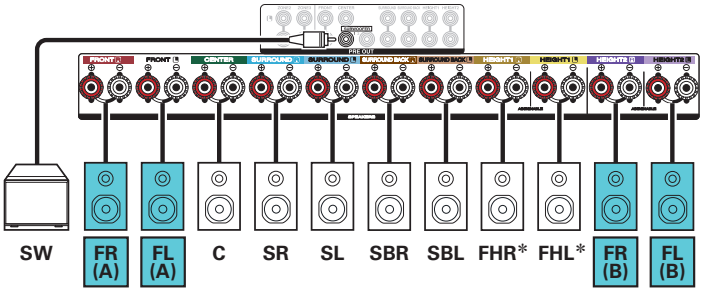
＊ HEIGHT1 スピーカー端子には、ハイトスピーカー、天井スピーカーまたは Dolby Atmos Enabled スピーカーを接続できます。メニューの“ハイト”-“レイアウト”で接続する天井スピーカーを設定してください。（☞228 ページ）

7.1 チャンネルのスピーカーを接続する：2 台目のフロントスピーカーの接続

フロントスピーカー A またはフロントスピーカー B をお好みに合わせて切り替えて再生できるシステムです。

メインゾーン用に最大 9 チャンネルのスピーカーを接続することができます。8 チャンネル以上のスピーカーを接続した場合は、入力信号やサウンドモードに応じて出力するスピーカーが自動的に切り替わります。



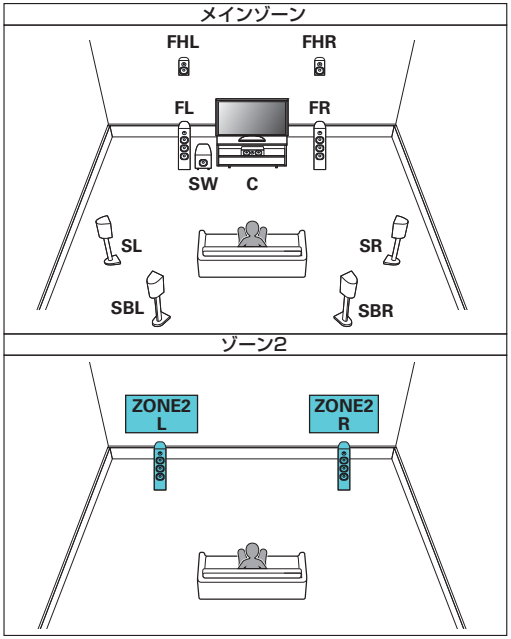


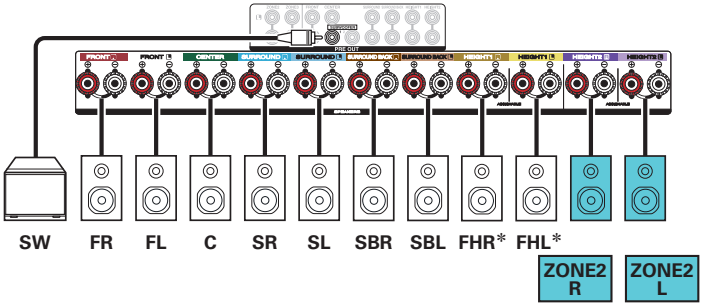
＊ HEIGHT1 スピーカー端子には、ハイトスピーカー、天井スピーカーまたは Dolby Atmos Enabled スピーカーを接続できます。メニューの“ハイト” - “レイアウト”で接続する天井スピーカーを設定してください。(☞228 ページ)

マルチゾーンのスピーカーを接続する

■ 7.1 チャンネル再生(メインゾーン)+ 2 チャンネル再生(ゾーン 2 またはゾーン 3)

メインゾーンでは 7.1 チャンネル再生をおこない、ゾーン 2 では 2 チャンネル再生をおこなうシステムです。
(ゾーン 2 の代わりにゾーン 3 の音声をスピーカーから出力することができます。(アサインモード:7.1ch + ZONE3))
メインゾーン用に最大 9 チャンネルのスピーカーを接続することができます。8 チャンネル以上のスピーカーを接続した場合は、入力信号やサウンドモードに応じて出力するスピーカーが自動的に切り替わります。

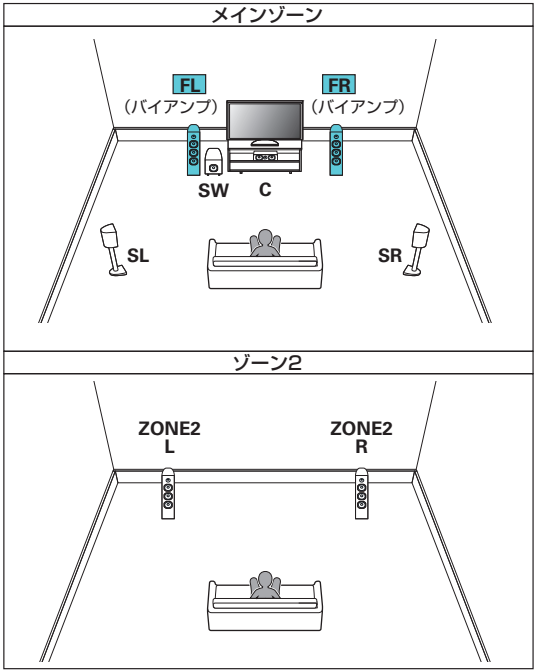


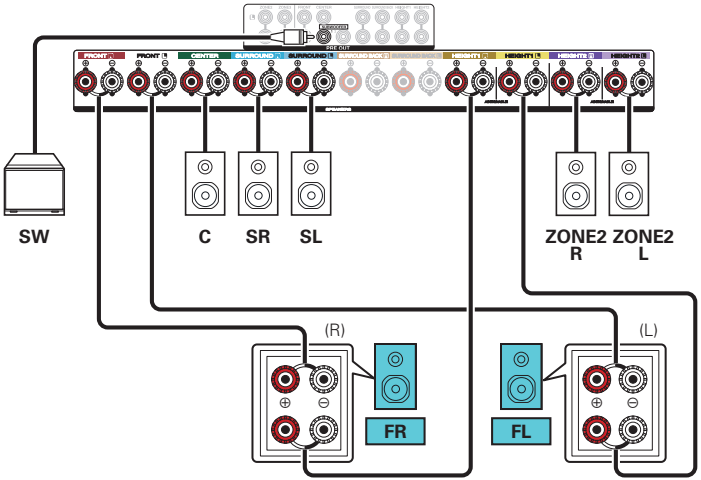


＊ HEIGHT1 スピーカー端子には、ハイトスピーカー、天井スピーカーまたは Dolby Atmos Enabled スピーカーを接続できます。メニューの“ハイト” - “レイアウト”で接続する天井スピーカーを設定してください。(☞228 ページ)

■ 5.1 チャンネル再生（フロントスピーカーのバイアンプ接続：メインゾーン）＋ 2 チャンネル再生（ゾーン 2）

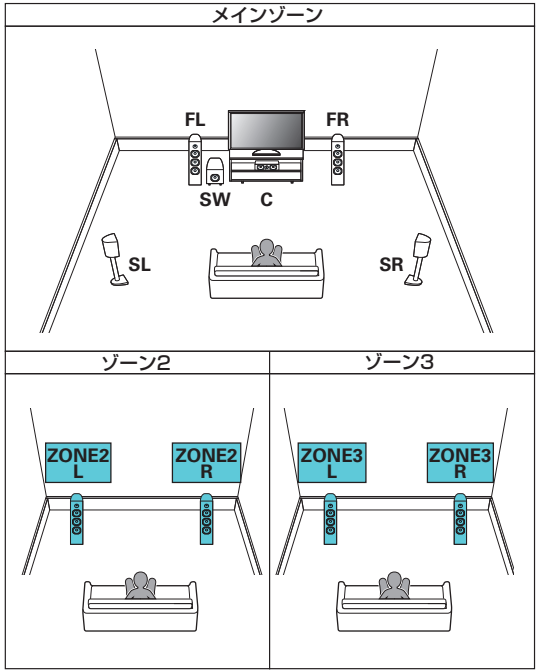
メインゾーンでは 5.1 チャンネル再生をおこない、ゾーン 2 では 2 チャンネル再生をおこなうシステムです。メインゾーンのフロントスピーカーはバイアンプ接続ができます。

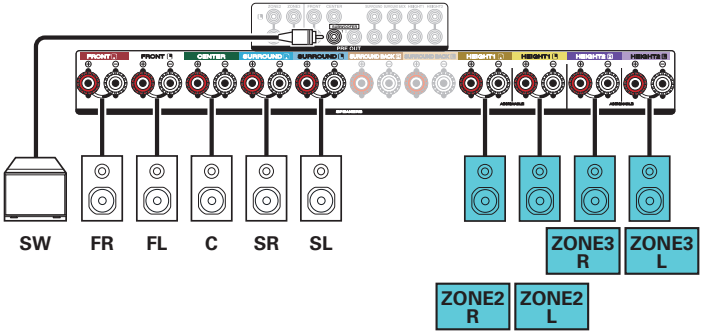




■ 5.1 チャンネル再生(メインゾーン)＋2 チャンネル再生(ゾーン 2)＋2 チャンネル再生(ゾーン 3)

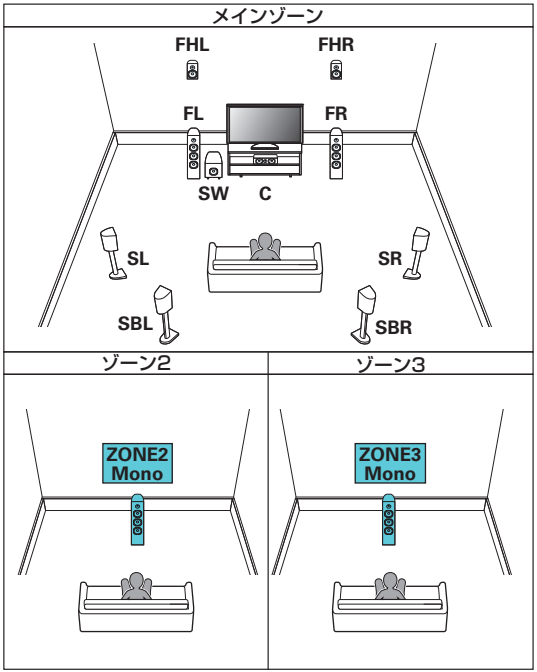
メインゾーンでは 5.1 チャンネルの再生をおこない、ゾーン 2 とゾーン 3 でそれぞれ 2 チャンネルの再生をおこなうシステムです。

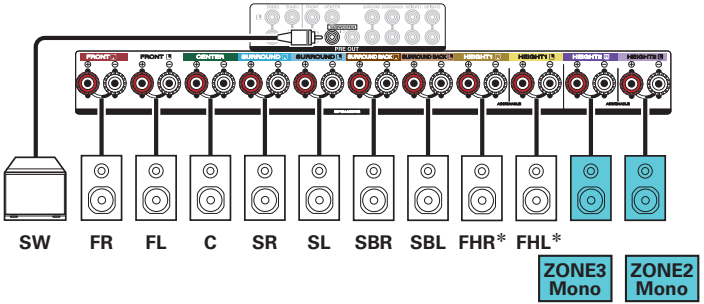




■ 7.1 チャンネル再生(メインゾーン)+ 1 チャンネル再生(ゾーン 2)+ 1 チャンネル再生(ゾーン 3)

メインゾーンでは 7.1 チャンネル再生をおこない、ゾーン 2 とゾーン 3 ではそれぞれモノラル再生をおこなうシステムです。
メインゾーン用に最大 9 チャンネルのスピーカーを接続することができます。8 チャンネル以上のスピーカーを接続した場合は、入力信号やサウンドモードに応じて出力するスピーカーが自動的に切り替わります。

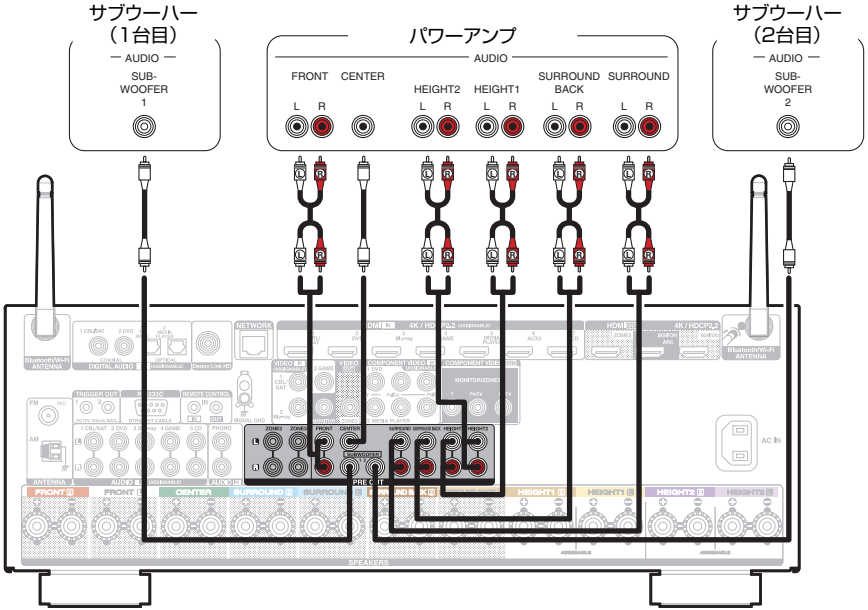




* HEIGHT1 スピーカー端子には、ハイトスピーカー、天井スピーカーまたは Dolby Atmos Enabled スピーカーを接続できます。メニューの“ハイト”-“レイアウト”で接続する天井スピーカーを設定してください。(☞228 ページ)

■ 外部のパワーアンプを接続する

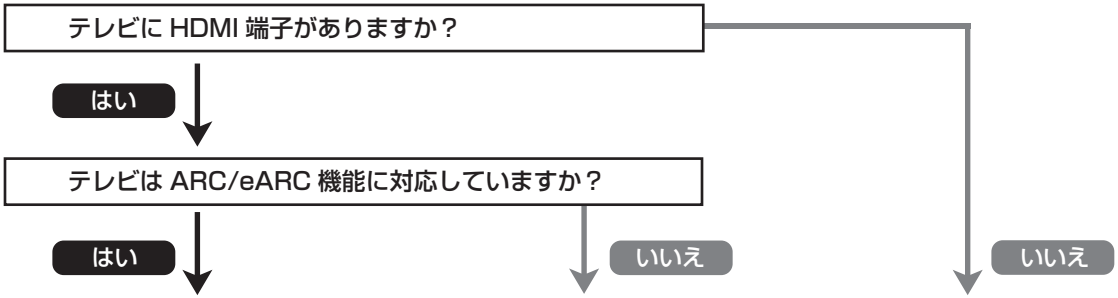
外部のパワーアンプを本機のプリアウト端子に接続すると、本機をプリアンプとして使用できます。各チャンネルにパワーアンプを追加することで、さらにサウンドの臨場感を高めることができます。
ご使用になる端子を選んで接続してください。



- サラウンドバックスピーカーを 1 本のみご使用になる場合は、左チャンネル(L)に接続してください。

テレビを接続する

本機にテレビを接続し、本機に入力された映像をテレビに出力します。また、テレビの音声を本機で楽しむこともできます。
接続方法は、テレビに装備されている端子や機能により異なります。
ARC (Audio Return Channel)および eARC (Enhanced Audio Return Channel)機能は、HDMI ケーブルを経由してテレビの音声信号を伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。



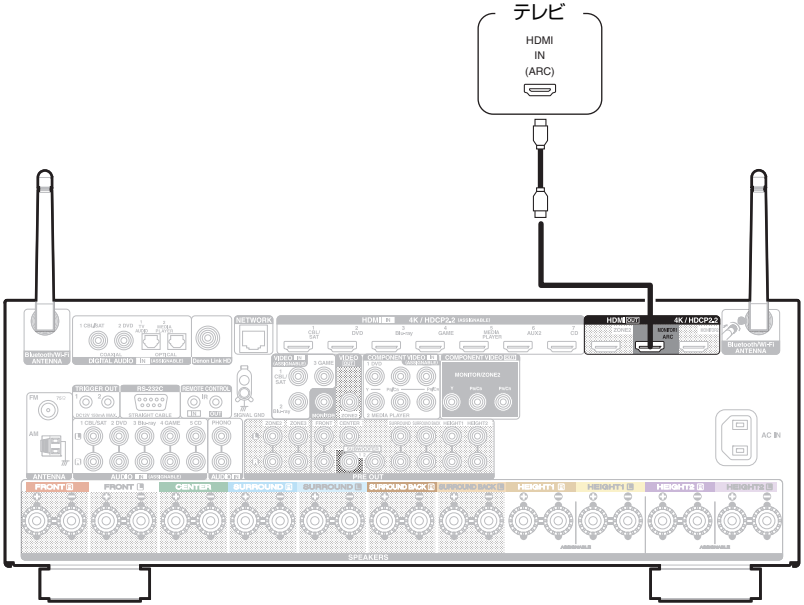
「接続 1:HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能対応のテレビ」(☞73 ページ)

「接続 2:HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能非対応のテレビ」(☞75 ページ)

「接続 3:HDMI 端子がないテレビ」(☞76 ページ)

接続 1：HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能対応のテレビ

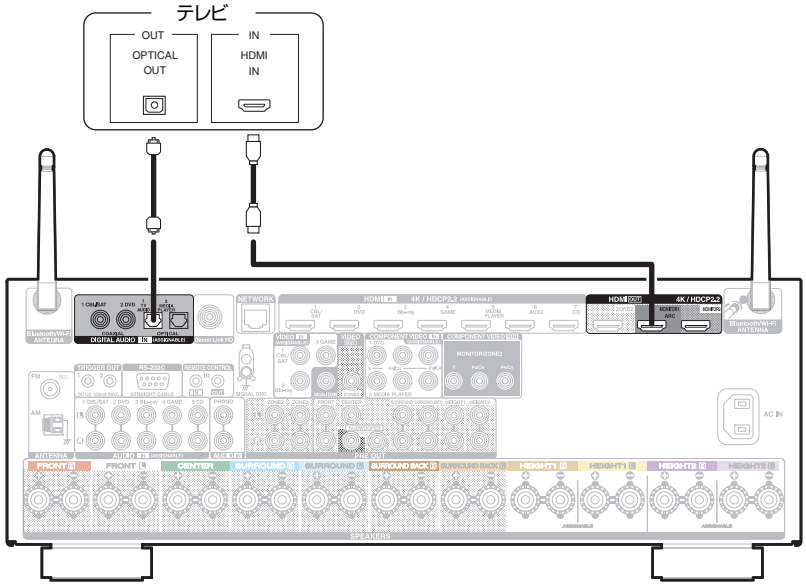
HDMI ケーブルを使用して、本機に ARC または eARC 機能対応のテレビを接続します。
ARC 機能対応のテレビを使用する場合は、メニューの“HDMI コントロール”を“オン”または“ARC”を“オン”に設定してください。
(☞198 ページ)
eARC 機能対応のテレビを使用する場合は、メニューの“HDMI コントロール”または“ARC”の設定に関わらず、テレビからの音声を本機に接続されたスピーカーで聞くことができます。



- ARC または eARC 機能を使用する場合は、HDMI MONITOR 1 端子に接続してください。
- ご使用の eARC 機能対応のテレビによっては、eARC 機能の設定が必要な場合があります。この場合は設定をオンにしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- ARC および eARC 機能対応のテレビを接続した場合は、eARC 機能対応のテレビを優先します。
- ARC または eARC 機能対応のテレビを使用する場合は、“High Speed HDMI Cable with Ethernet”をご使用ください。

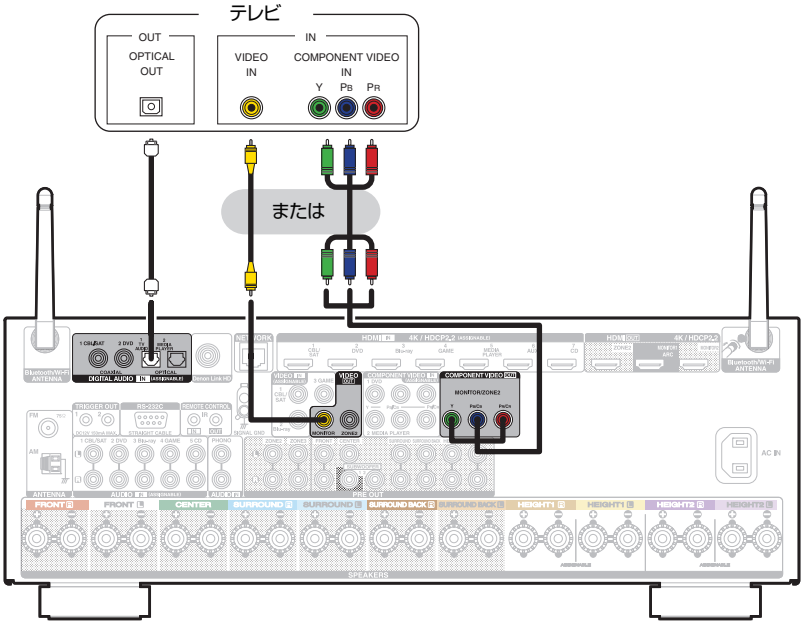
接続 2:HDMI 端子付きおよび ARC/eARC 機能非対応のテレビ

HDMI ケーブルを使用して、本機にテレビを接続します。
本機を経由してテレビの音声を聴く場合は、光伝送ケーブルを使用して本機にテレビを接続します。



接続 3:HDMI 端子がないテレビ

コンポーネントビデオケーブルまたはビデオケーブルを使用して、本機にテレビを接続します。
本機を経由してテレビの音声を聴く場合は、光伝送ケーブルを使用して本機にテレビを接続します。



再生機器を接続する

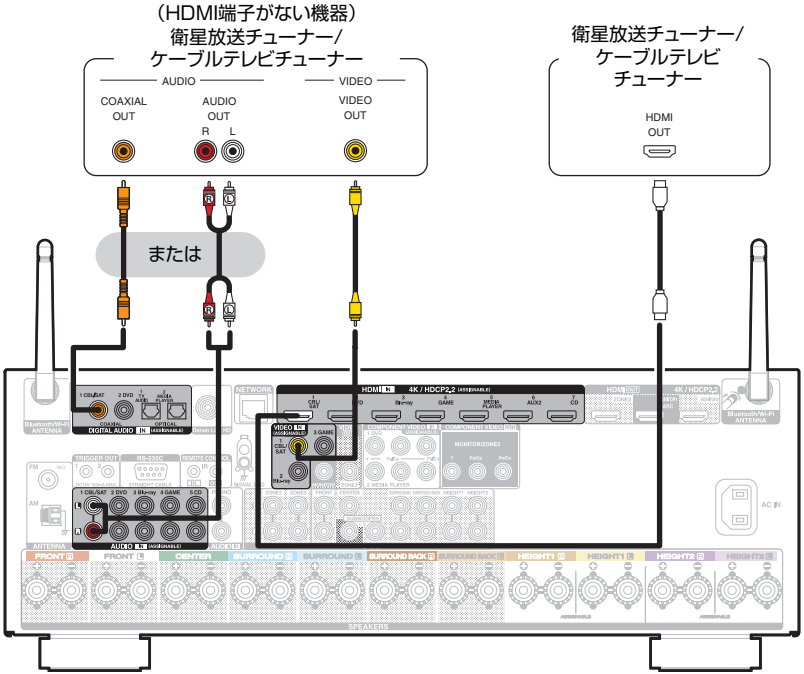
本機には 3 種類(HDMI、コンポーネントビデオ、ビデオ)の映像入力端子と 3 種類(HDMI、デジタルオーディオ、オーディオ)の音声入力端子があります。
本機の入力端子は、接続する機器に装備されている端子に合わせて選択してください。
本機と接続する機器に HDMI 端子がある場合には、HDMI ケーブルでの接続をおすすめします。
HDMI 接続では、HDMI ケーブル 1 本で音声信号と映像信号を伝送できます。

- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞78 ページ)
- 「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞79 ページ)
- 「Denon Link HD 機能対応のブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞80 ページ)
- 「ビデオカメラやゲーム機などを接続する」(☞81 ページ)
- 「レコードプレーヤーを接続する」(☞82 ページ)

- 本機の音声/映像入力端子に印字された入力ソースのとおりに機器を接続してください。
- 本機では、HDMI IN 端子、DIGITAL AUDIO IN 端子、COMPONENT VIDEO IN 端子、VIDEO IN 端子、AUDIO IN 端子に割り当てる入力ソースを変更できます。入力端子に割り当てる入力ソースの変更のしかたは、“入力端子の割り当て”をご覧ください。(☞209 ページ)
- 本機に入力した音声信号を HDMI 接続しているテレビで再生する場合は、メニューの“HDMI オーディオ出力”を“テレビ”に設定してください。(☞196 ページ)
- HDCP 2.2 で著作権保護されているコンテンツを楽しむ場合は、HDCP 2.2 に対応した再生機器とテレビをご使用ください。

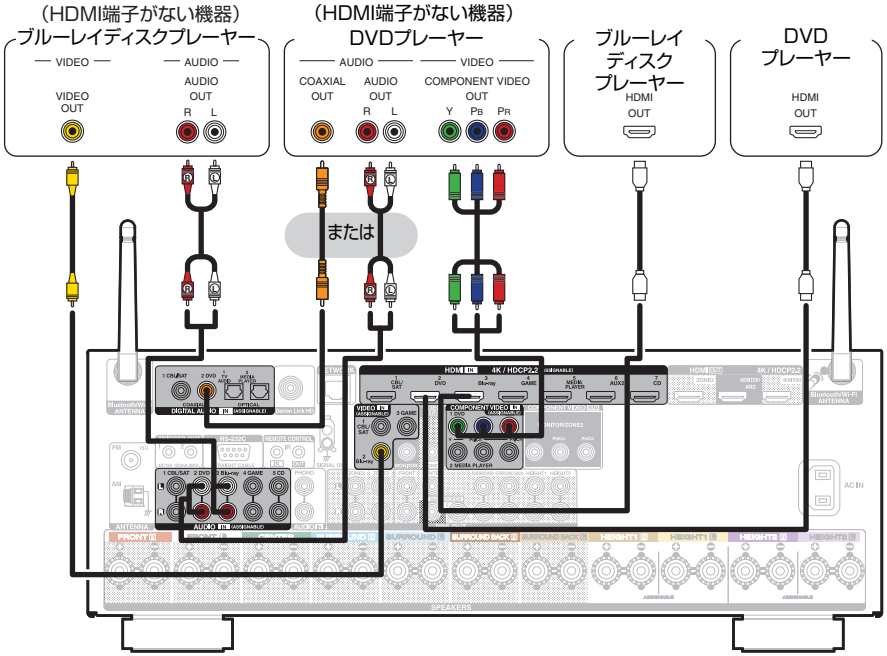
セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)

衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーの接続例です。
本機の入力端子は、接続する機器に装備されている端子に合わせて選択してください。



DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する

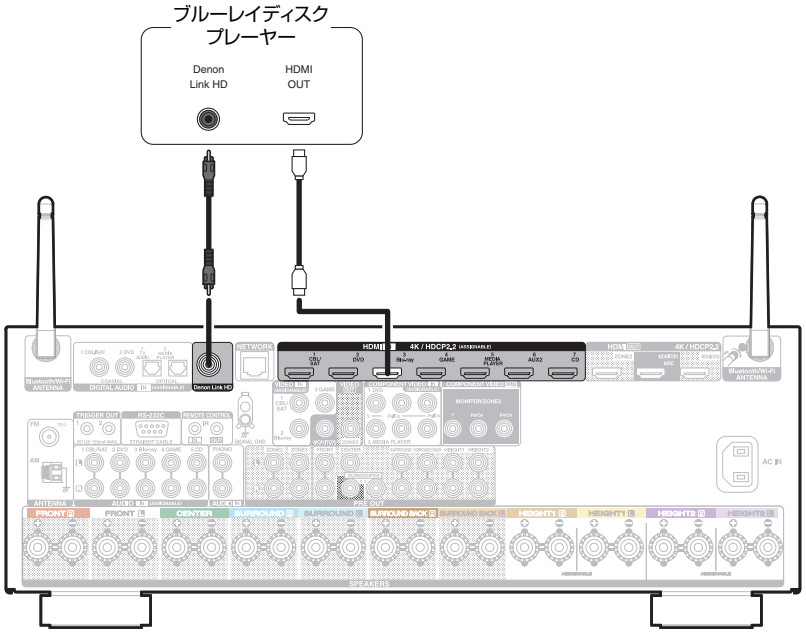
DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーの接続例です。
本機の入力端子は、接続する機器に装備されている端子に合わせて選択してください。



- Denon Link HD 対応のブルーレイディスクプレーヤーを接続する場合は、「Denon Link HD 機能対応のブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞80 ページ)をご覧ください。

Denon Link HD 機能対応のブルーレイディスクプレーヤーを接続する

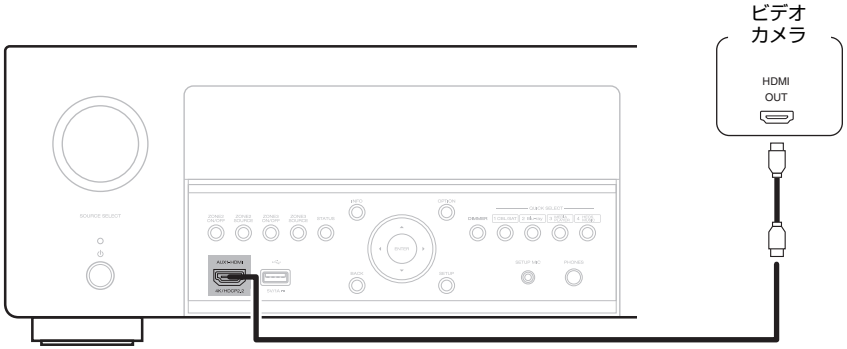
Denon Link HD 機能に対応しているプレーヤーを Denon Link HD で接続すると、HDMI 端子のみで接続するよりも高品質な再生ができます。



- この接続をおこなう場合は、HDMI と Denon Link HD 両方の接続が必要です。
- メニューの“入力モード”を“オート”または“HDMI”に設定してください。(☞212 ページ)

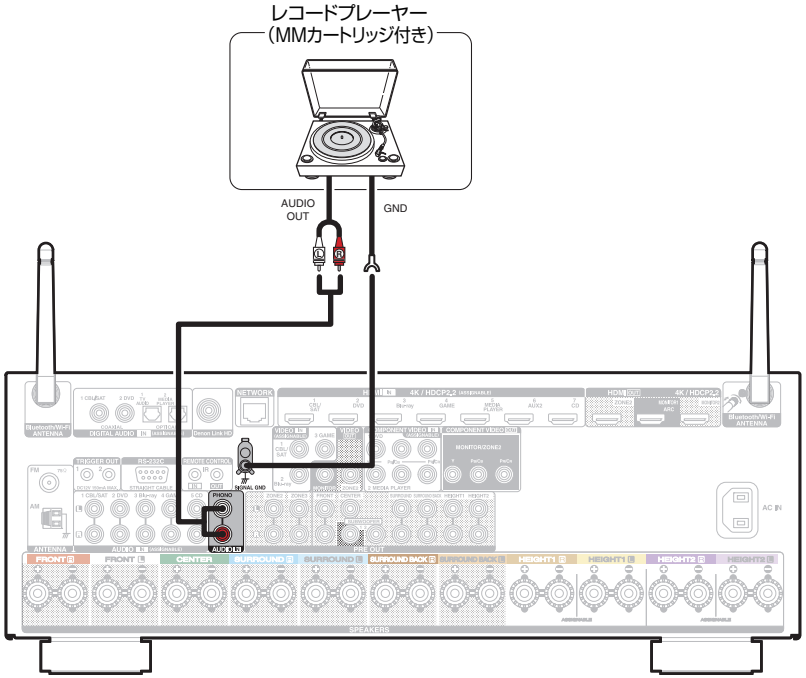
ビデオカメラやゲーム機などを接続する

ビデオカメラの接続例です。
この端子には、ビデオカメラやゲーム機などの再生機器を接続します。



レコードプレーヤーを接続する

本機は、MM カートリッジ付きのレコードプレーヤーに対応しています。MC カートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続する場合は、別売りの MC ヘッドアンプまたは昇圧トランスを使用してください。
本機の入力ソースを“Phono”にし、レコードプレーヤーを接続せずに音量を上げると、“ブーン”という雑音がスピーカーから出力される場合があります。

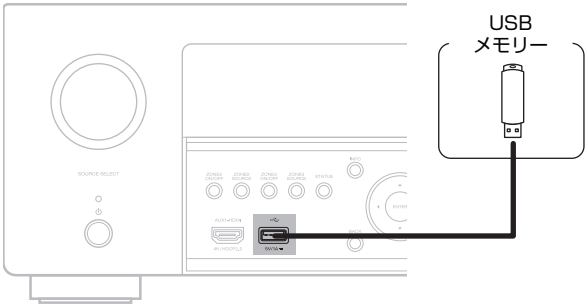


ご注意

- 本機のアース端子（SIGNAL GND）は、安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆に雑音が大きくなることがあります。この場合は、アース線を接続する必要はありません。

USB 端子に USB メモリーを接続する

操作のしかたは、「USB メモリーを再生する」(☞94 ページ)をご覧ください。



- すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものを使用する場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。

ご注意

- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。
- USB メモリーを接続するときに、延長ケーブルを使用しないでください。他の機器に電波障害を引き起こす場合があります。

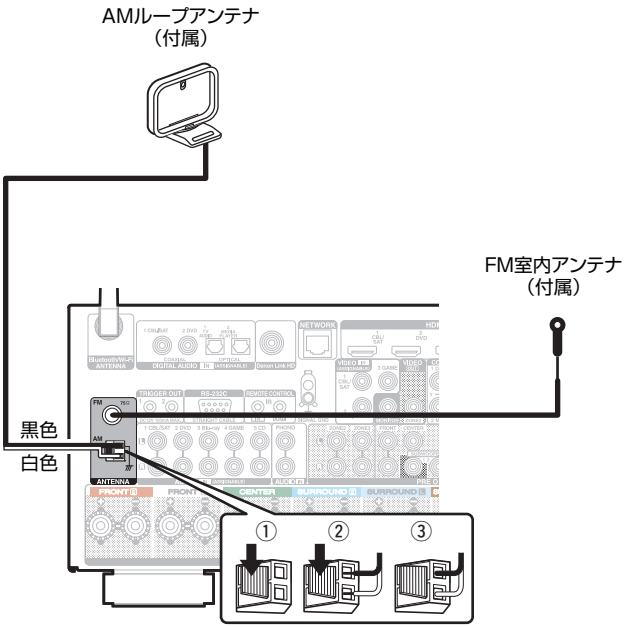
FMアンテナやAMループアンテナを接続する

本機にアンテナを接続してから放送を受信して、ノイズが最も少なく受信できるアンテナの位置をさがします。アンテナをその場所に接着テープなどで固定してください。(「FM 放送または AM 放送を聴く」(☞103 ページ))

- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

ご注意

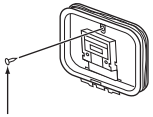
- AM ループアンテナ線がリアパネルやねじに接触していないか確認してください。



■ AM ループアンテナの使いかた

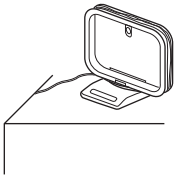
壁に掛けて使う

組み立てずにそのままお使いください。



置いて使う

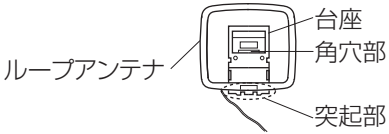
図のように組み立ててお使いください。
組み立てかたは、「AM ループアンテナの組み立てかた」をご覧ください。

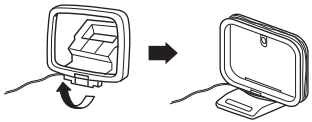


■ AM ループアンテナの組み立てかた

1 台座部をループアンテナの後ろから、ループアンテナの下を通して、手前に曲げる。

2 突起部を台座の角穴部に、差し込む。





ホームネットワーク(LAN)に接続する

本機は有線 LAN または無線 LAN を使用して、ネットワークに接続できます。

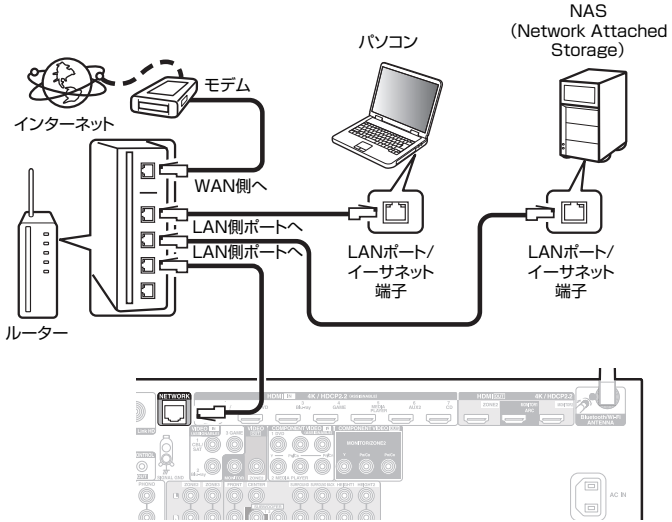
本機はホームネットワーク(LAN)に接続して、次のさまざまな再生や操作をおこなうことができます。

- インターネットラジオやメディアサーバーなどのネットワークオーディオの再生
- ストリーミング音楽サービスの再生
- AirPlay 再生
- ネットワークを経由した本機の操作
- HEOS 無線マルチルームサウンドシステムでの動作
- ファームウェアのアップデート

インターネットの接続については、ISP (Internet Service Provider)またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

有線 LAN

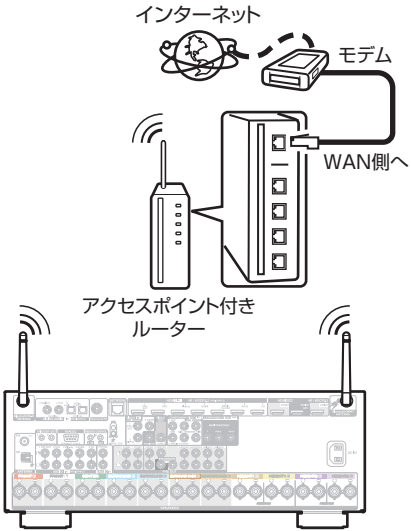
有線 LAN で接続する場合は、図のようにルーターと本機を LAN ケーブルで接続してください。



無線 LAN

無線 LAN でネットワークに接続する場合は、Bluetooth/無線 LAN 用外部アンテナをリアパネルに接続し、アンテナを立ててご使用ください。

無線 LAN ルーターとの接続方法は、“Wi-Fi 設定”をご覧ください。(☞245 ページ)



- 本機を使用するにあたって、次の機能が装備されているルーターをおすすめします。
  - DHCP サーバー内蔵
    LAN 上の IP アドレスを自動的に割り振る機能です。
  - 100BASE-TX スイッチ内蔵
    複数の機器を接続するために、100Mbps 以上の速度で、スイッチングハブを内蔵していることをおすすめします。
- STP タイプまたは ScTP タイプのシールド LAN ケーブルを使用してください。(CAT-5 以上を推奨)
- LAN ケーブルは、シールド付きのノーマルタイプをおすすめします。フラットタイプのケーブルやシールドされていないケーブルを使用すると、ノイズが他の機器に影響を及ぼす可能性があります。
- DHCP 機能のないネットワークに本機を接続して使用する場合は、メニューの“ネットワーク”で IP アドレスなどの設定をおこなってください。(☞244 ページ)

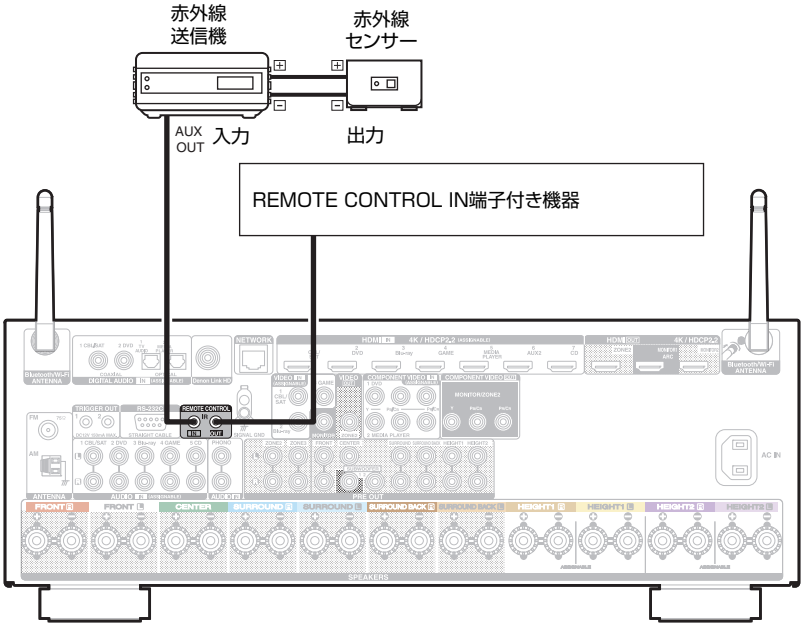
ご注意

- ISP 業者によって使用できるルーターの種類が異なります。詳しくは、ISP 業者またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。
- 本機は PPPoE に対応していません。PPPoE で設定するタイプの回線契約を結んでいる場合は、PPPoE 対応のルーターが必要です。
- 電気通信端末機器認定品の市販ルーターなどに LAN 接続してください。
- NETWORK 端子は、直接パソコンの LAN ポート/イーサネット端子と接続しないでください。
- 各種オンラインサービスは、予告なく終了する場合があります。

外部のコントロール機器を接続する

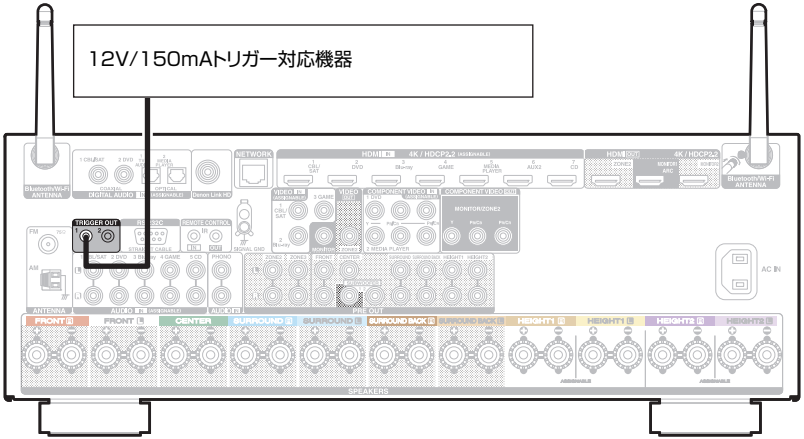
リモートコントロール端子

本機をリモコン信号が届かない場所(キャビネットへの設置など)に設置しても、別売りのリモコンレシーバーユニットを本機に接続すれば本機をリモコンで操作することができます。
また、ゾーン 2 およびゾーン 3(別の部屋)からリモコンで操作することもできます。



トリガー出力端子

TRIGGER IN 端子を持っている機器を本機に接続すると、その機器の電源を本機の操作に連動させてオン/スタンバイすることができます。
本機の TRIGGER OUT 端子からは、最大 12V/150mA の電気信号を出力します。

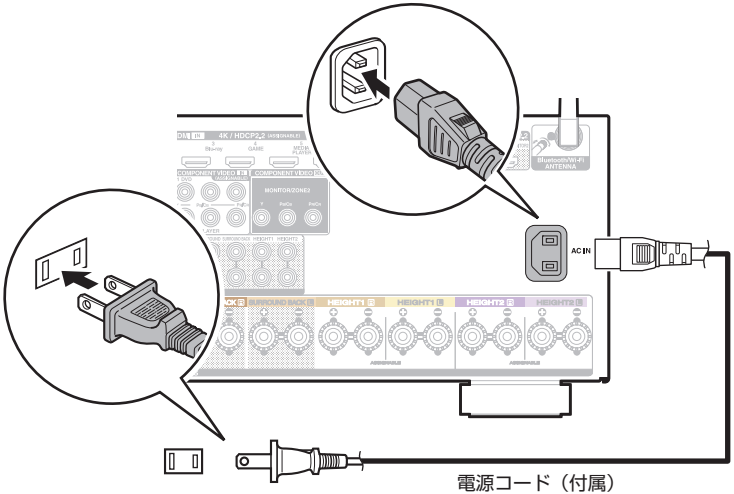


ご注意

- TRIGGER OUT 端子の接続には、モノラルのミニプラグケーブルを使用してください。ステレオミニプラグケーブルは使用しないでください。
- 接続する機器のトリガー許容入力レベルが 12V/150mA よりも大きいときや短絡状態のときは、TRIGGER OUT 端子を使用できません。このような場合は、本機の電源を切ってから TRIGGER OUT 端子の接続を外してください。

電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源プラグをコンセントに差し込みます。



■ 目次

基本操作

電源を入れる 92
入力ソースを選ぶ 92
音量を調節する 93
一時的に音を消す（ミューティング） 93
サウンドモードを選ぶ 139

機器を再生する

DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーを再生する 93
USB メモリーを再生する 94
Bluetooth 機器の音楽を聴く 98
FM 放送または AM 放送を聴く 103

ネットワークオーディオ/サービスを再生する

インターネットラジオを聴く 111
パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する 113
HEOS アプリをダウンロードする 117
AirPlay 機能 126
Spotify Connect 機能 130

便利な機能

便利な機能 131
HDMI コントロール機能 153
スマートメニュー機能 154
スリープタイマー機能 156
クイックセレクトプラス機能 158
フロントキーロック機能 161
リモートロック機能 163

その他の機能

ウェブコントロール機能 164
ゾーン 2/ゾーン 3（別の部屋）での再生 166

基本操作

電源を入れる

1 **POWER ⏻ を押して、電源を入れる。**

- 電源がスタンバイ状態のときに入力ソース選択ボタンを押しても、電源がオンになります。
- 本体の ⏻ を押しても電源を入れることができます。

入力ソースを選ぶ

1 **再生する入力ソース選択ボタンを押す。**

入力ソースをダイレクトに選択できます。

- 本体の SOURCE SELECT を回しても、入力ソースを選択できます。

音量を調節する

1 VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。

- 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。
- 本体の MASTER VOLUME を回しても、音量を調節できます。

一時的に音を消す（ミューティング）

1 MUTE 🔇を押す。

- ディスプレイの MUTE 表示が点滅します。
- テレビ画面に🔇を表示します。

- メニューの“ミューティングレベル”で音量の減衰量を設定できます。（☞188 ページ）
- ミューティングを解除するときは、音量を調節するか、もう一度 MUTE 🔇を押してください。

DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーを再生する

ここでは、DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーの再生のしかたを例に説明します。

1 再生の準備をする。

① テレビ、サブウーハーおよびプレーヤーの電源を入れる。
② テレビの入力を本機の入力に設定する。

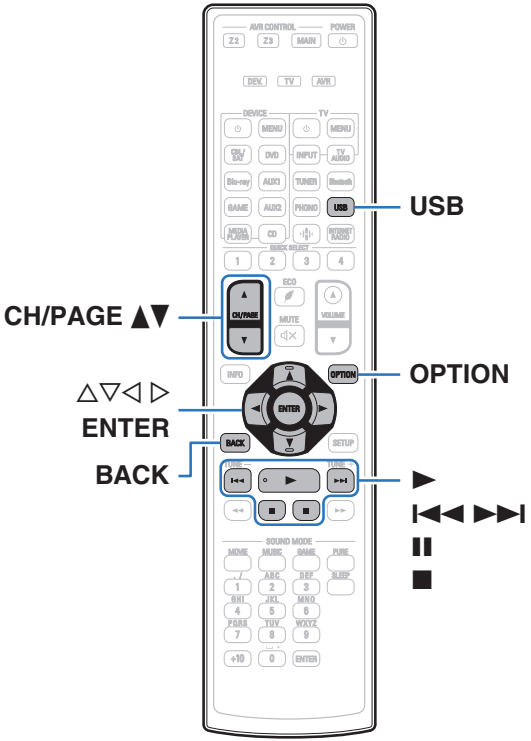
2 POWER ⏻ を押して、本機の電源を入れる。

3 DVD または Blu-ray を押して、再生するプレーヤーの入力ソースに切り替える。

4 DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを再生する。

■ **サラウンド再生をする**（☞139 ページ）

USB メモリーを再生する



- USB メモリーに保存されている音楽ファイルを再生できます。
- 本機は、マスストレージクラスに対応している USB メモリーのみ再生できます。
- USB メモリーは、FAT16 または FAT32 フォーマットに対応しています。
- 本機で再生できる音声フォーマットの種類は、次のとおりです。詳しくは、「USB メモリーの再生について」(☞307 ページ)をご覧ください。
  - WMA
  - MP3
  - WAV
  - MPEG-4 AAC
  - FLAC
  - Apple Lossless
  - DSD

USB メモリーに保存されているファイルを再生する

1 FAT32 でフォーマットされた USB メモリーを USB 端子に挿入する。

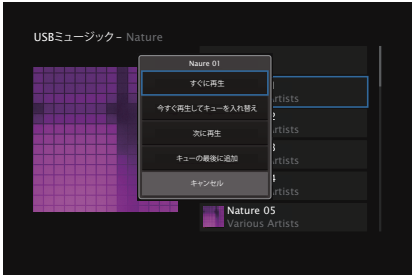
2 USB を押して、入力ソースを“USB”に切り替える。

3 本機の名称が表示されたら、本機を選ぶ。

4 USB メモリー内の音楽データから、再生したい音楽を選ぶ。

- 音楽をどのようにリストに追加するかを選択します。

すぐに再生:	現在再生している曲の直後に選択した音楽を追加し、その曲をすぐに再生します。
今すぐ再生してキューを入れ替え:	キューを削除し、選択した曲をすぐ再生します。
次に再生:	現在再生しているトラックの直後に選択した曲を追加し、再生中の曲が終わったら選択した曲を再生します。
キューの最後に追加:	選択した曲をキューの最後に追加します。



5 **△▽ を押して“すぐに再生”または“今すぐ再生してキューを入れ替え”を選び、ENTER を押す。**

再生をはじめます。

操作ボタン	機能
▶	再生
❚❚	一時停止
■	停止
⏮ ⏭	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
CH/PAGE ▲▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動

- MP3 形式の音楽ファイルでアルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中にアルバムアートを表示させることができます。

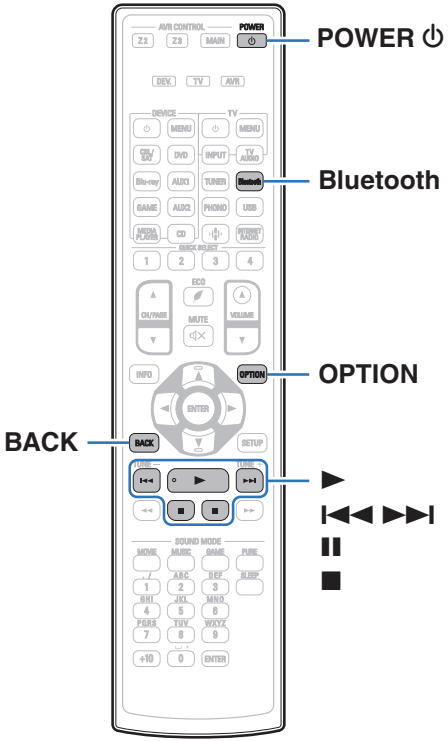
ご注意

- USB メモリーを本機と接続して使用しているときに、万一 USB メモリーのデータが消失または損傷した場合、当社は一切責任を負いません。

■ オプションメニューでできる操作

- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する（チャンネルレベル調節）」（☞134 ページ）
- 「トーンを調節する（トーンコントロール）」（☞135 ページ）
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す（ビデオセレクト）」（☞136 ページ）
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する（All Zone Stereo）」（☞138 ページ）

Bluetooth 機器の音楽を聴く



スマートフォンやデジタル音楽プレーヤーなどの Bluetooth 機器と本機をペアリングして接続すると、Bluetooth 機器の音楽ファイルをワイヤレスで楽しむことができます。
約 30m の範囲内で通信できます。

ご注意

- Bluetooth 機器の音楽を再生するには、Bluetooth 機器が A2DP プロファイルをサポートしている必要があります。

Bluetooth 機器の音楽を聴く

Bluetooth 機器の音楽を本機で楽しむときは、あらかじめご使用になる Bluetooth 機器と本機をペアリングしてください。
一度ペアリングすれば、再度ペアリングする必要はありません。

1 再生の準備をする。

① 付属の Bluetooth/無線 LAN 用外部アンテナを、リアパネルの Bluetooth/Wi-Fi ANTENNA 端子に接続する。(☞25 ページ)
② POWER ⏻ を押して、本機の電源を入れる。

2 Bluetooth を押す。

はじめてご使用になる場合は、自動的にペアリングモードになり、本機のディスプレイに“Pairing...”を表示します。

3 Bluetooth 機器の Bluetooth 機能を有効にする。

4 Bluetooth 機器の画面に表示された機器の一覧に本機の名称が表示されたら、本機を選ぶ。

本機のディスプレイに“Pairing”が表示されている間に、Bluetooth 機器の接続操作をおこなってください。
また、Bluetooth 機器の接続操作は、本機に近い距離(1m 程度)でおこなってください。

5 Bluetooth 機器のアプリを使用して音楽を再生する。

- 本機のリモコンでも Bluetooth 機器を操作できます。
- 次回以降、リモコンの Bluetooth を押した場合、本機は自動的に最後に接続していた Bluetooth 機器に接続します。

操作ボタン	機能
▶	再生
❚❚	一時停止
■	停止
⏮ ⏭	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ

- 再生中に本体の STATUS を押すと、タイトル名、アーティスト名、アルバム名などを切り替えて表示します。

2台目以降のBluetooth機器とペアリングする

Bluetooth 機器と本機をペアリングします。

1 Bluetooth 機器の Bluetooth 機能を有効にする。

2 リモコンの Bluetooth を 3 秒以上押す。

本機はペアリングモードになります。

3 Bluetooth 機器の画面に表示された機器の一覧に本機の名称が表示されたら、本機を選ぶ。

- 本機は最大 8 台の Bluetooth 機器とペアリングできます。9 台目の Bluetooth 機器をペアリングすると、一番古い機器に置き換えて登録します。
- Bluetooth の再生画面が表示されているときに OPTION を押し、表示されたオプションメニューから“ペアリングモード”を選択しても、ペアリングモードに入ることができます。

ご注意

- 本機のリモコンで操作するには、Bluetooth 機器が AVRCP プロファイルに対応している必要があります。
- すべての Bluetooth 機器に対するリモコン操作を保証するものではありません。
- Bluetooth 機器によっては、本機は Bluetooth 機器で設定している音量と連動して音声を出力します。

■ オプションメニューでできる操作

- 「2 台目以降の Bluetooth 機器とペアリングする」(☞101 ページ)
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(☞134 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(☞135 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(☞136 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)」(☞138 ページ)

Bluetooth 機器から本機に再接続する

ペアリングが済んでいれば、本体の操作をせずに接続することができます。
再生する Bluetooth 機器を切り替える場合にもこの操作をおこなってください。

1 **現在接続している Bluetooth 機器がある場合、その機器の Bluetooth 設定をオフにして接続を切断する。**

2 **接続したい Bluetooth 機器の Bluetooth 設定をオンにする。**

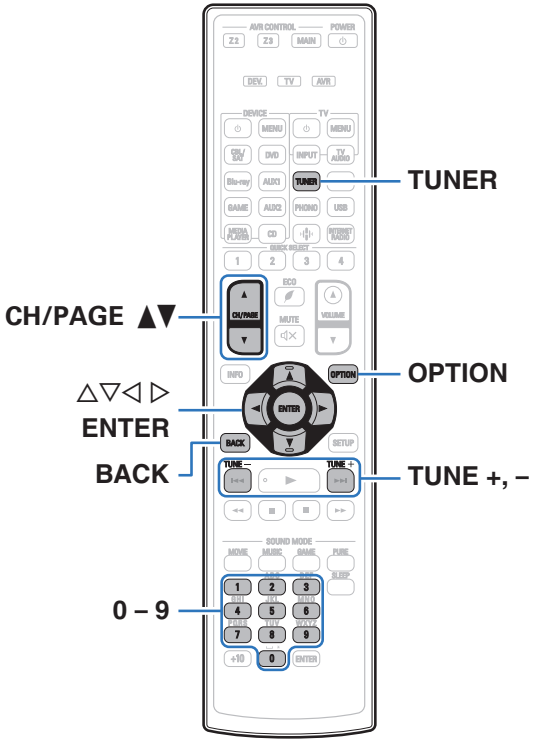
3 **お使いの Bluetooth 機器の Bluetooth 機器リストから本機を選択する。**

4 **Bluetooth 機器のアプリを使用して音楽を再生する。**

- 本機の電源がオンのときに Bluetooth 機器の接続操作をおこなうと、自動的に“Bluetooth”の再生画面に切り替わります。
- 本機の“ネットワークコントロール”設定を“常時オン”にし、本機がスタンバイ状態のときに Bluetooth 機器から接続操作をおこなうと、自動的に本機の電源はオンになります。(☞249 ページ)

FM 放送または AM 放送を聴く

本機に内蔵のチューナーを使用して、FM 放送および AM 放送を聴くことができます。
事前に必ず FM アンテナおよび AM ループアンテナを本機に接続してください。



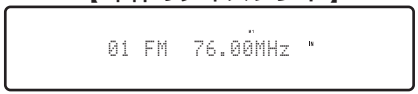
FM 放送または AM 放送を聴く

1 アンテナを接続する。(「FM アンテナや AM ループアンテナを接続する」(☞84 ページ))

2 TUNER を押して、入力ソースを“Tuner”に切り替える。

【 テレビ画面 】

【 本体のディスプレイ 】



3 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

4 △▽ を押して“FM/AM”を選び、ENTER を押す。

受信バンド入力画面を表示します。

5 ◁▷ を押して“FM”または“AM”を選び、ENTER を押す。

FM:	FM 放送を聴くときに選択します。
AM:	AM 放送を聴くときに選択します。

6 TUNE +または TUNE –を押して、聴きたい放送局を選ぶ。

受信可能な放送局が見つかるまでスキャンします。放送局が見つかると自動的にスキャンを停止して受信します。

- FM 放送局を受信するモードには、本機が自動的に受信できる放送局を探して受信する“オート”モードと、ボタン操作で周波数を切り替えて受信する“マニュアル”モードがあります。お買い上げ時の設定は“オート”です。そのほかにも受信周波数の数字を入力して受信する“ダイレクトチューニング”モードがあります。
  “オート”モードでは、受信状態が良くない放送局は受信できません。その場合は“マニュアル”モードまたは“ダイレクトチューニング”モードで受信してください。

操作ボタン	機能
TUNE +, –	放送局の選択(アップ/ダウン)
CH/PAGE ▲▼	プリセット登録した放送局の選択
△ ▽	放送局の選択(アップ/ダウン)
◁ ▷	プリセット登録した放送局の選択
0~9	プリセットチャンネルの選択/ダイレクト選局

■ オプションメニューでできる操作

- 「周波数を入力して受信する（ダイレクトチューニング）」（☞105 ページ）
- 「受信モードを変更する（チューニングモード）」（☞106 ページ）
- 「自動で放送局を選局しプリセットする（オートプリセットメモリー）」（☞106 ページ）
- 「聴いている放送局をプリセットする（プリセットメモリー）」（☞107 ページ）
- 「プリセットした放送局に名前をつける（プリセットネーム）」（☞108 ページ）
- 「プリセットした放送局をスキップする（プリセットスキップ）」（☞109 ページ）
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する（チャンネルレベル調節）」（☞134 ページ）
- 「トーンを調節する（トーンコントロール）」（☞135 ページ）
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す（ビデオセレクト）」（☞136 ページ）
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する（All Zone Stereo）」（☞138 ページ）

周波数を入力して受信する（ダイレクトチューニング）

ダイレクトに周波数を入力して、放送局を受信します。

1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽ を押して“ダイレクトチューニング”を選び、ENTER を押す。

周波数入力画面を表示します。

3 0～9 を押して、数字を選ぶ。または、△▽ を押して数字を選び、▷ を押す。

- ◁ を押すと、1 つ前に入力した周波数を取り消すことができます。

4 手順 3 をくり返し、聴きたい放送局の周波数を入力する。

5 入力が完了したら、ENTER を押す。

放送局を受信します。

受信モードを変更する（チューニングモード）

受信モードを変更します。“オート”モードで自動的に放送局を受信できないときは、“マニュアル”モードに変更し、手動で放送局を受信してください。

1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽ を押して“チューニングモード”を選び、ENTER を押す。

3 ◁▷ を押してチューニングモードを選び、ENTER を押す。

オート:	自動的に受信できる放送局を探して受信するモードです。
マニュアル:	ボタン操作で 1 ステップずつ周波数を切り替えて受信するモードです。

自動で放送局を選局しプリセットする（オートプリセットメモリー）

自動で最大 56 局までプリセットできます。

1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽ を押して“オートプリセットメモリー”を選び、ENTER を押す。

3 ENTER を押す。

自動で放送局を受信し、プリセットをはじめます。

- プリセットが完了すると“完了しました”を約 5 秒間表示し、オプションメニュー画面が消灯します。

- プリセットメモリーは上書きされます。

聴いている放送局をプリセットする(プリセットメモリー)

手動でお好みの放送局を選局し、プリセットします。
最大 56 局までプリセットできます。

1 **プリセットしたい放送局を受信する。(「FM 放送または AM 放送を聴く」(☞104 ページ))**

2 **OPTION を押す。**

オプションメニュー画面を表示します。

3 **△▽ を押して"プリセットメモリー"を選び、ENTER を押す。**

すでにプリセットされているチャンネルリストを表示します。

4 **△▽ または 0〜9 を押してプリセットしたいチャンネルを選び、ENTER を押す。**

現在受信している放送局をプリセットします。

- 続けて他の放送局をプリセットする場合は、手順 1〜4 をおこなってください。

チャンネル	お買い上げ時の設定
1〜8	76.00 / 83.00 / 89.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
9〜16	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
17〜24	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
25〜32	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
33〜40	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
41〜48	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
49〜56	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz

プリセットした放送局を聴く

1 **CH/PAGE ▲▼ または 0〜9 を押して、プリセットした放送局を選ぶ。**

プリセットした放送局に名前をつける（プリセットネーム）

プリセットした放送局に名前をつけたり、変更したりすることができます。
8 文字まで入力できます。

1 **入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

2 **△▽ を押して“プリセットネーム”を選び、ENTER を押す。**
“プリセットネーム”画面を表示します。

3 **◁▷ を押して、名前をつけたい放送局のグループを選ぶ。**

4 **△▽ を押して名前をつけたい放送局を選び、ENTER を押す。**

5 **△▽ を押してネームラベルを選び、ENTER を押す。**
プリセットネームの編集画面を表示します。
- “初期化”を選択すると、周波数表示に戻ります。

6 **文字を入力して“OK”を押す。**

7 **OPTION を押して、元の画面に戻る。**

プリセットした放送局をスキップする（プリセットスキップ）

オートプリセットメモリーをおこなうと、受信できる放送局をすべてメモリーします。不要なメモリーをスキップさせることで選局しやすくなります。

1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽ を押して“プリセットスキップ”を選び、ENTER を押す。

“プリセットスキップ”画面を表示します。

3 ❑ スキップしたい放送局をグループごとに設定するとき

① ◁▷ を押して、スキップしたい放送局のグループを選ぶ。
② △ を押して “No.＊－＊ をスキップ設定にします” を選び、ENTER を押す。
選択したグループ“＊－＊”に含まれるすべての放送局をスキップします。
（＊ は選択しているグループ番号です。）

❑ スキップしたい放送局ごとに設定するとき

① ◁▷ を押して、スキップしたい放送局のグループを選ぶ。
② △▽ を押して、スキップしたい放送局を選ぶ。
③ ◁▷ を押して、“スキップ”を選ぶ。
選択した放送局をスキップします。

4 OPTION を押して、元の画面に戻る。

プリセットスキップを解除する

1 “プリセットスキップ”画面を表示中に ◁▷ を押して、スキップを解除したい放送局を含むグループを選ぶ。

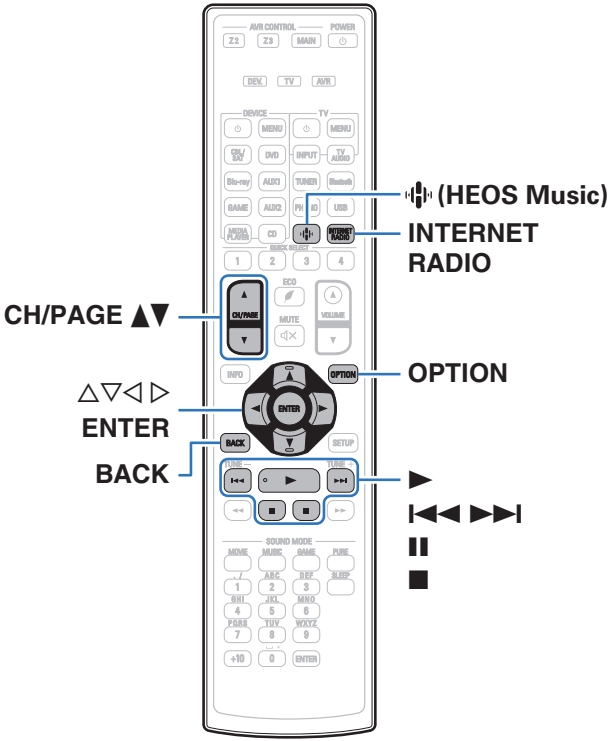
2 △▽ を押して、スキップを解除したい放送局を選ぶ。

3 ◁▷ を押して、“オン”を選ぶ。
スキップを解除します。

ご注意

- “プリセットスキップ”の解除をグループごとにおこなうことはできません。

インターネットラジオを聴く



- インターネットラジオとは、インターネット上に配信されているラジオ放送です。世界中のインターネットラジオ放送を聴くことができます。
- 本機のインターネットラジオ局リストは、TuneIn ラジオサービスのデータベースサービスを利用しています。
- 本機で再生できる音声フォーマットの種類は、次のとおりです。詳しくは、「インターネットラジオの再生について」(☞310 ページ)をご覧ください。
  - WMA
  - MP3
  - MPEG-4 AAC

インターネットラジオを聴く

1 INTERNET RADIO を押す。

- (HEOS Music)を押しても操作ができます。△▽ を押して "TuneIn インターネットラジオ" を選び、ENTER を押してください。

2 再生したい放送局を選ぶ。

操作ボタン	機能
▶	再生
❚❚ *	一時停止
■	停止
⏮ ⏭ *	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
CH/PAGE ▲▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動

* ポッドキャストを再生中に有効です。

- 本体の STATUS を押すたびにタイトル名、放送局名などを切り替えて表示します。

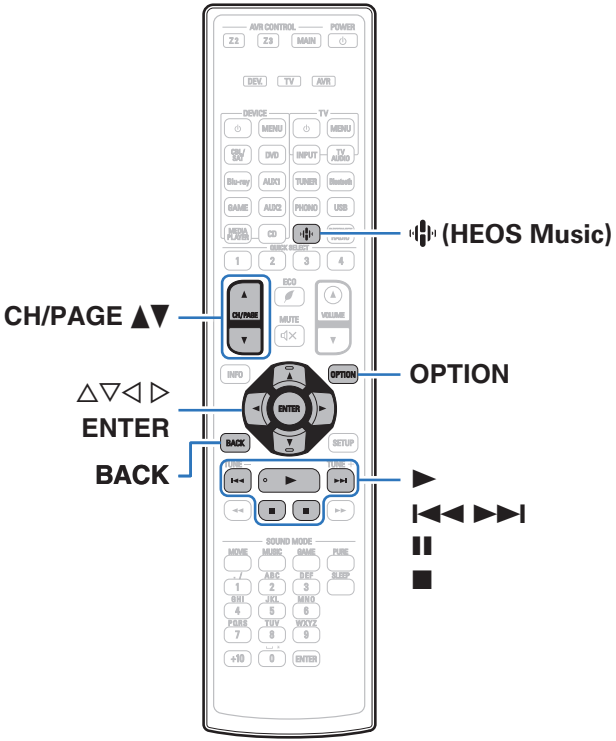
ご注意

- ラジオ局データベースサービスは、予告なく停止する場合があります。

■ オプションメニューでできる操作

- 「HEOS お気に入りに追加する」(☞132 ページ)
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(☞134 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(☞135 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(☞136 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(All Zone Stereo)」(☞138 ページ)

パソコンやNASに保存されているファイルを再生する



- 本機では、パソコンや DLNA 対応の NAS（Network Attached Storage）に保存されている音楽ファイルやプレイリスト（m3u、wpl）を再生できます。
- 本機で再生できる音声フォーマットの種類は、次のとおりです。詳しくは、「パソコンや NAS に保存されているファイルの再生について」（☞309 ページ）をご覧ください。
  - WMA
  - MP3
  - WAV
  - MPEG-4 AAC
  - FLAC
  - Apple Lossless
  - DSD

パソコンやNASに保存されているファイルを再生する

DLNA ファイルサーバーに保存されている音楽ファイルやプレイリストを再生する場合におこないます。

1 (HEOS Music)を押す。

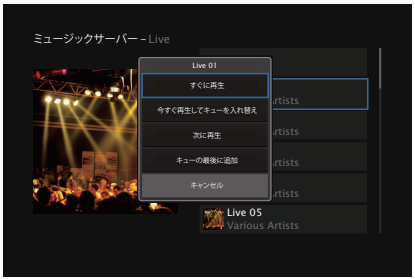
2 △▽ を押して“ミュージックサーバー”を選び、ENTER を押す。

3 ネットワーク上のパソコンまたは NAS(Network Attached Storage)名を選ぶ。

4 パソコンまたは NAS 内の音楽データから、再生する音楽を選ぶ。

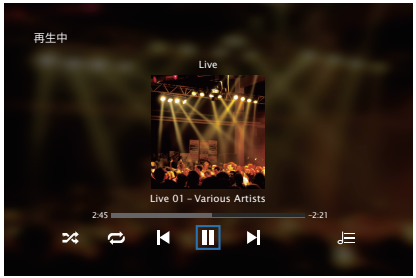
- 音楽をどのようにリストに追加するかを選択します。

すぐに再生:	現在再生している曲の直後に選択した音楽を追加し、その曲をすぐに再生します。
今すぐ再生してキューを入れ替え:	キューを削除し、選択した曲をすぐ再生します。
次に再生:	現在再生しているトラックの直後に選択した曲を追加し、再生中の曲が終わったら選択した曲を再生します。
キューの最後に追加:	選択した曲をキューの最後に追加します。



5 △▽ を押して“すぐに再生”または“今すぐ再生してキューを入れ替え”を選び、ENTER を押す。

再生をはじめます。



操作ボタン	機能
▶	再生
❚❚	一時停止
■	停止
⏮ ⏭	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
CH/PAGE ▲▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動

- 本体の STATUS を押すたびにタイトル名、アーティスト名およびアルバム名を切り替えて表示します。
- WMA（Windows Media Audio）、MP3、MPEG-4 AAC のファイルで、アルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中にアルバムアートを表示できます。
- WMA ファイルのアルバムアートは、Windows Media Player（バージョン 11 以上）を使用することで表示できます。

ご注意

- 無線 LAN を経由して接続されたパソコンまたは NAS で音楽ファイルを再生すると、無線 LAN 環境によっては音声が途切れることがあります。このような場合は、有線 LAN で接続してください。
- 曲の表示順は、サーバーの仕様によって異なります。サーバーの仕様によって、頭文字での検索が正しく動作せず、曲の表示順がアルファベット順にならない場合があります。

■ オプションメニューでできる操作

- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する（チャンネルレベル調節）」（☞134 ページ）
- 「トーンを調節する（トーンコントロール）」（☞135 ページ）
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す（ビデオセレクト）」（☞136 ページ）
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する（All Zone Stereo）」（☞138 ページ）

HEOS アプリをダウンロードする

HEOS アプリから多くのオンライン音楽ストリーミングサービスを使用することができます。無料または有料配信で、より多くの音楽を提供するオンラインミュージックサービスをご使用いただけます。お住まいの地域に対応しているサービスについては、http://www.denon.com/pages/HEOS_JP_Streaming.html をご覧ください。

App ストア、Google Play ストアまたは Amazon アプリストアで“HEOS”を検索して、iOS 用または Android 用の HEOS アプリをダウンロードしてください。

Download on the App Store

GET IT ON Google Play

amazon appstore

HEOS アカウント

HEOS アカウントは、本機のメニューの“HEOS アカウント”(☞251 ページ)で登録するか、HEOS アプリの“ミュージック”タブ – “設定”アイコン ⚙ をタップして登録してください。

■ HEOS アカウントとは

HEOS アカウントは、1 つのユーザー名とパスワードですべての HEOS 音楽サービスを管理するマスターアカウントです。

■ HEOS アカウントが必要な理由

HEOS アカウントでログインすれば、例えば友人宅の HEOS システムで音楽を聴くときでも、アカウント登録しているストリーミング音楽サービスや再生履歴、カスタムプレイリストにアクセスできます。

■ HEOS アカウントに登録する

HEOS アプリの“ミュージック”メニューからはじめて音楽サービスにアクセスするときに、HEOS アカウントへの登録をおすすめするメッセージと登録画面を表示します。

■ HEOS アカウントを変更する

1 “ミュージック”タブをタップする。

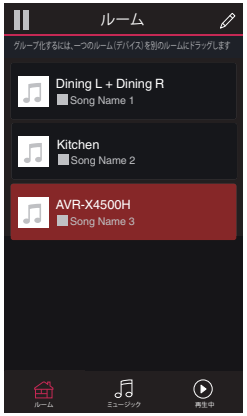
2 画面左上の設定アイコン ⚙ をタップする。

3 “HEOS アカウント”をタップする。

4 位置情報の変更やパスワードの変更、アカウントの削除、サインアウトをおこなう。

ストリーミング音楽サービスを再生する

無料または有料配信で、より多くの音楽を提供するオンラインミュージックサービスをご使用いただけます。お住まいの地域に対応しているサービスについては、http://www.denon.com/pages/HEOS_JP_Streaming.html をご覧ください。



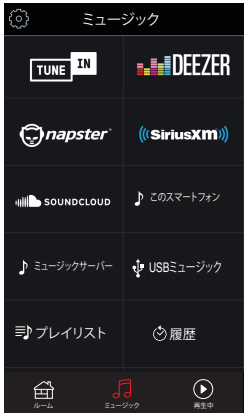
■ 再生する部屋/HEOS 機器を選ぶ

1 “ルーム”タブをタップする。もし複数の HEOS 機器がある場合は、“AVR-X4500H”を選ぶ。

- 右上のえんぴつアイコン をタップすると編集モードになり、表示名を変更することができます。

■ 音楽ソースから音楽や放送局を選ぶ

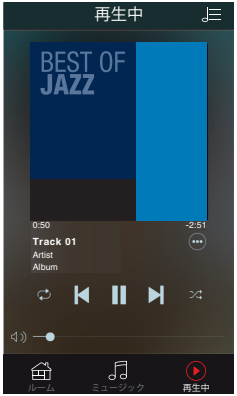
1 “ミュージック”タブをタップし、音楽ソースを選ぶ。



- 画面に表示されている音楽サービスは、お住まいの地域により利用できない場合があります。

2 再生したい音楽を選ぶ。

音楽または放送局を選ぶと、自動的に“再生中”画面に切り替わります。



- 音楽を選択時、音楽をどのようにリストに追加するかを指定します。

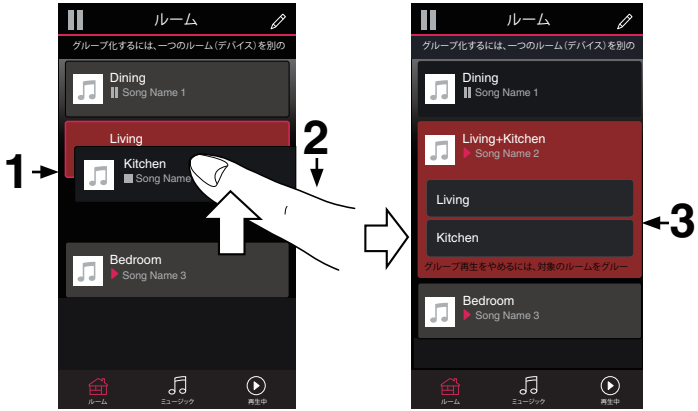
すぐに再生:	現在再生している曲の直後に選択した音楽を追加し、その曲をすぐに再生します。
今すぐ再生してキューを入れ替え:	キューを削除し、選択した曲をすぐ再生します。
次に再生:	現在再生しているトラックの直後に選択した曲を追加し、再生中の曲が終わったら選択した曲を再生します。
キューの最後に追加:	選択した曲をキューの最後に追加します。

- 放送局を選択時、放送局をどのようにリストに追加するかを指定します。

すぐに再生:	選択した放送局をすぐに再生します。
HEOS お気に入りに追加:	HEOS お気に入りに追加します。

同じ音楽を複数の部屋で聴く

HEOS システムは、複数の HEOS 機器間の音楽再生を自動的に同期し、最大 32 台の HEOS 機器を HEOS システムに追加できます。また、16 台の HEOS 機器を 1 つのグループにすることで、一つの HEOS 機器のように機能させることができます。



■ 部屋をグループ化する

1 音楽を再生していない部屋をホールド(指で押さえたままに)する。

2 そのまま音楽を再生している部屋(赤枠で囲まれている部屋)までドラッグする。

3 2 つの部屋が 1 つのグループにグループ化され、両方の部屋で同じ音楽を再生する。

- 本機に接続している機器の音声をグループで再生する場合は、アナログオーディオ端子から入力される音声信号、および HDMI またはデジタルオーディオ端子から入力される PCM 2 チャンネル信号のみ再生できます。

■ 部屋のグループ化を解除する

1 グループから外したい部屋をホールド(指で押さえたままに)する。

2 グループ(赤枠)の外にドラッグして、指を離す。

ご注意

- グループ化は音楽を再生している部屋が基準となるため、その部屋をグループから解除することはできません。

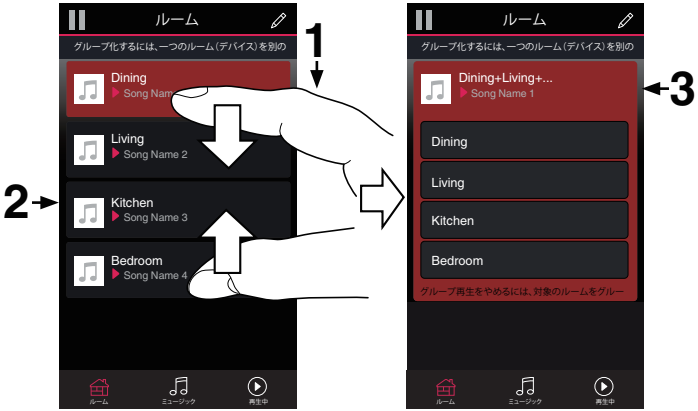
■ すべての部屋をグループ化する（パーティーモード）

ピンチジェスチャーを使用して、最大 16 の部屋をグループ化できます。

1 部屋のリスト上の画面に２本の指を置く。

2 ２本の指ですばやくつまむ動作をして、画面から離す。

3 すべての部屋をグループ化し、同じ音楽がすべての部屋で再生する。



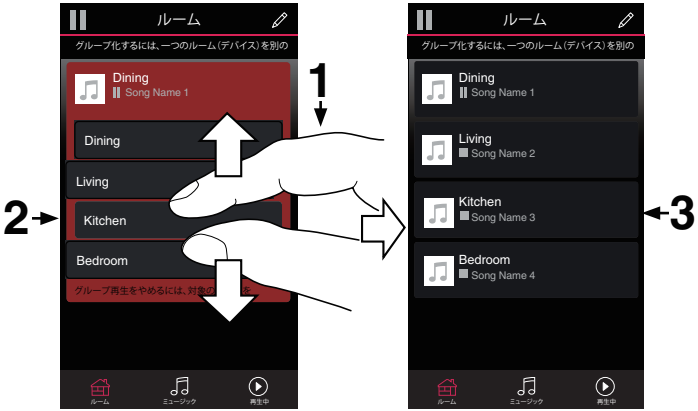
■ すべての部屋のグループ化を解除する

スプレッドジェスチャーを使用して、すべての部屋のグループ化を解除できます。

1 部屋のリスト上の画面に２本の指を近づけて置く。

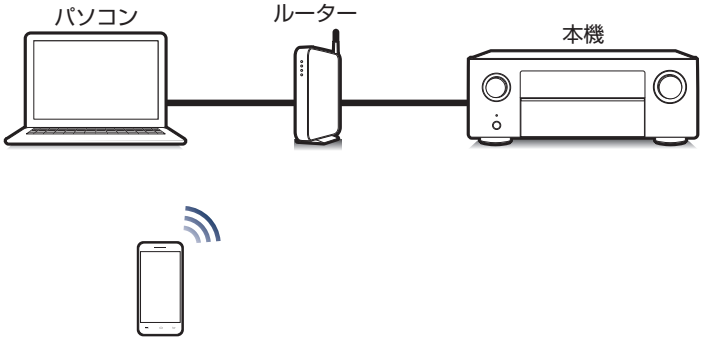
2 ２本の指をすばやく互いに遠ざけ、画面から離す。

3 すべての部屋のグループ化を解除する。



AirPlay 機能

iPhone、iPod touch、iPad や iTunes に保存されている音楽ファイルを、ネットワークを経由して本機で再生できます。



- AirPlay の再生を開始すると、本機の入力ソースは自動的に“HEOS Music”に切り替わります。
- 他の入力ソースに切り替えると、AirPlay の再生が停止します。
- 本体の STATUS を押すと、曲名とアーティスト名を確認できます。
- iTunes の使用方法は、iTunes の“ヘルプ”をご覧ください。
- 画面は、OS やソフトのバージョンによって異なる場合があります。

本機は AirPlay 2 対応製品です。

複数の AirPlay 2 に対応したデバイス/スピーカーと同期して音楽を同時に再生することが可能です。

- 本機は AirPlay 2 対応製品です。iOS 11.4 以降が必要です。

iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機で再生する

iPhone、iPod touch、iPad を iOS 4.2.1 以上にアップデートすると、iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機へダイレクトにストリーミングできます。

1 iPhone、iPod touch または iPad の Wi-Fi 設定を本機と同じネットワークに接続する。

- 詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

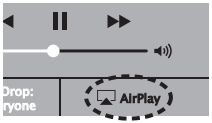
2 iPhone、iPod touch、iPad の曲を再生する。

iPhone、iPod touch または iPad の画面に AirPlay アイコンを表示します。

3 AirPlay アイコンをタップする。

【例】iOS 10

【例】iOS 9



4 再生したいスピーカー(機器)をクリックする。

iTunes の曲を本機で再生する

1 本機と同じネットワークに接続しているパソコンに、iTunes10 以降をインストールする。

2 本機の電源を入れる。

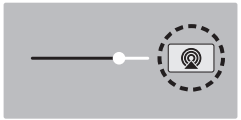
本機の“ネットワークコントロール”設定を“常時オン”にしてください。(☞249 ページ)

ご注意

- “ネットワークコントロール”を“常時オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。

3 iTunes を起動し、AirPlay アイコンをクリックして、本機を選ぶ。

【例】iTunes



4 iTunes で曲を選び、再生する。

本機で再生をはじめます。

ご注意

- AirPlay 機能を使用して再生する場合は、iPhone、iPod touch、iPad または iTunes で設定している音量で出力します。
  再生する前に、iPhone、iPod touch、iPad または iTunes の音量を最小にしてから適切な音量に調節してください。

本機のリモコンで iTunes の再生操作をおこなう

本機のリモコンで、iTunes の曲の再生や一時停止、頭出し操作ができます。

1 iTunes のメニューの“編集” – “設定”を選ぶ。

2 iTunes の設定のウィンドウで“デバイス”を選ぶ。

3 “リモートスピーカーから iTunes のコントロールを許可する”にチェックを入れ、“OK”をクリックする。

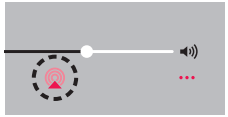
- iTunes 12 以降をご使用になる場合は、この設定をおこなう必要はありません。

iPhone、iPod touch、iPad の曲を複数の機器で同期して再生する (AirPlay 2)

iPhone、iPod touch、iPad が iOS 11.4 以上の場合、iPhone、iPod touch、iPad の曲を AirPlay 2 対応の複数の機器で同期して再生することができます。

1 iPhone、iPod touch、iPad の曲を再生する。

iPhone、iPod touch または iPad の画面に AirPlay アイコンを表示します。



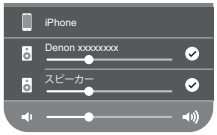
2 AirPlay アイコンをタップする。

同一ネットワーク上で再生可能な機器/スピーカーの一覧を表示します。

- AirPlay 2 対応の機器名には右側に丸い印が表示されます。

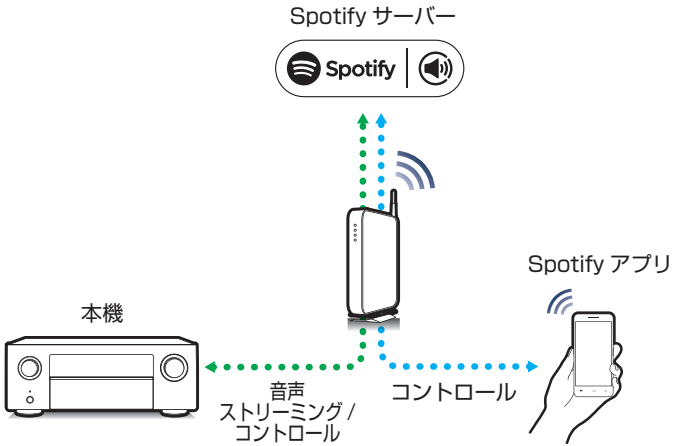
3 再生したい機器/スピーカーをタップする。

- AirPlay 2 対応機器は複数台選ぶことができます。
- 音量調整は機器毎の調整と、全体の音量調整がそれぞれでできます。



Spotify Connect機能

Spotify は、世界で人気のあるストリーミングサービスです。
Spotify のプレミアム会員に登録していると、Spotify アプリを使用してスマートフォンまたはタブレットで本機をコントロールできます。Spotify は他のアプリを使用したり、かかってきた電話を受けたりしても音楽が停止することはありません。
Spotify Connect の設定方法と使用方法については、次の URL をご覧ください。
www.spotify.com/jp/connect



Spotify の曲を本機で再生する

あらかじめお手持ちの iOS または Android 機器に “Spotify アプリ” をダウンロードしてください。
本機で Spotify の曲を再生するには、Spotify のプレミアムアカウントに登録する必要があります。

1 **iOS または Android 機器の Wi-Fi 設定を本機と同じネットワークに接続する。**

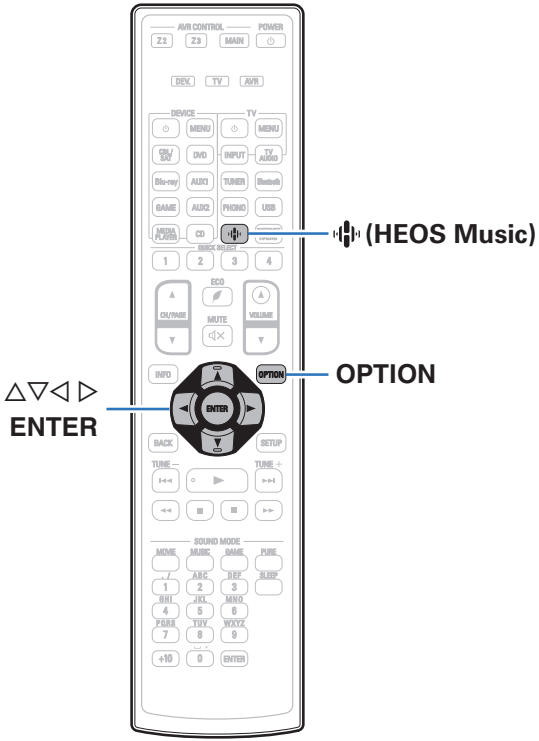
2 **Spotify アプリを起動する。**

3 **Spotify の曲を再生する。**

4 **Spotify アイコン をタップして、本機を選ぶ。**
本機で再生をはじめます。

便利な機能

ここでは、各入力ソースで使用できる便利な機能の操作方法を説明します。
これらの機能は、メインゾーンでのみ設定できます。



HEOS お気に入りに追加する

1 コンテンツの再生中に OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽ を押して“HEOS お気に入りに追加”を選び、ENTER を押す。

HEOS お気に入りを再生する

1 (HEOS Music)を押す。

2 △▽ を押して“HEOS お気に入り”を選び、ENTER を押す。

3 再生したい音楽を選ぶ。

HEOS お気に入りを削除する

1 HEOS お気に入りリスト表示中に △▽ を押して、HEOS お気に入りリストから削除したい項目を選び、OPTION を押す。

2 △▽ を押して“HEOS お気に入りから削除”を選び、ENTER を押す。

入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する（チャンネルレベル調節）

音楽を聴きながら、各チャンネルの音量を変更します。入力ソースごとに設定できます。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 △▽ を押して“チャンネルレベル調節”を選び、ENTER を押す。

“チャンネルレベル調節”画面を表示します。

3 △▽ を押して、調整したいチャンネルを選ぶ。

4 ◁▷ を押して、音量を調節する。

–12.0 dB～+12.0 dB（お買い上げ時の設定：0.0 dB）

5 △▽◁▷ を押して“終了”を選び、ENTER を押す。

- 各チャンネルの調整値を“0.0dB”（お買い上げ時の設定）に戻したい場合は、“リセット”を選び ENTER を押してください。
- ヘッドホン接続時には、ヘッドホン用の音量を調節できます。
- “チャンネルレベル調節”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- 音声を出力しているスピーカーのみ設定できます。また、メニューの“HDMI オーディオ出力”の設定が“テレビ”の場合は設定できません。（☞196 ページ）

トーンを調節する（トーンコントロール）

トーンを調節します。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 △▽ を押して“トーンコントロール”を選び、ENTER を押す。

“トーンコントロール”画面を表示します。

3 ◁▷ を押して、トーンコントロール機能のオン/オフを設定する。

オン:	低音や高音のトーンを調節できます。
オフ（お買い上げ時の設定）:	トーンを調節せずに再生します。

4 手順 3 で“オン”を選び、▽ を押して調節する音域を選ぶ。

低音:	低音を調節します。
高音:	高音を調節します。

5 ◁▷ を押してトーンを調節し、ENTER を押す。

-6 dB～+6 dB（お買い上げ時の設定：0 dB）

- “トーンコントロール”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- サウンドモードが“Direct”または“Pure Direct”のときは設定できません。
- メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときは設定できません。（☞190 ページ）
- 音声信号が入力されていない場合、またはメニューの“HDMI オーディオ出力”の設定が“テレビ”の場合は設定できません。（☞196 ページ）

音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す（ビデオセレクト）

音声の再生中に別のソースの映像をテレビに映し出します。入力ソースごとに設定できます。

❑ **対応する入力ソース：**
CD* / Tuner / HEOS Music / Phono

* HDMI、コンポーネントビデオまたはビデオ端子のいずれも割り当てていない場合に設定できます。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 △▽ を押して“ビデオセレクト”を選び、ENTER を押す。

“ビデオセレクト”画面を表示します。

3 ◁▷ を押して、ビデオセレクトモードを選ぶ。

オフ（お買い上げ時の設定）:	ビデオセレクトモードが無効です。
オン:	ビデオセレクトモードが有効です。

4 手順 3 で“オン”を選び、▽ を押して“ソース選択”を選ぶ。

5 ◁▷ を押して再生したい映像の入力ソースを選び、ENTER を押す。

- “ビデオセレクト”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

視聴環境に合わせて画質を調整する(ピクチャーモード)

❑ 対応する入力ソース:
CBL/SAT / DVD / Blu-ray / Game / AUX1 / AUX2 / Media Player / CD* / TV Audio*

* HDMI、コンポーネントビデオまたはビデオ端子のいずれかを割り当てている場合に設定できます。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽ を押して"ピクチャーモード"を選び、ENTER を押す。

"ピクチャーモード"画面を表示します。

3 ◁▷ を押して、ピクチャーモードを選ぶ。

オフ (お買い上げ時の設定):	本機による画質調整をおこないません。
スタンダード:	リビングルームの視聴環境に適した標準のモードです。
ムービー:	シアタールームなどの暗い部屋で映画を鑑賞するのに適したモードです。
ビビッド:	ゲームなどのグラフィック画面に対して、より明るく、鮮やかにするモードです。
ストリーミング:	低ビットレートのビデオソースに適したモードです。
ISF Day:	昼間の明るい部屋などで視聴するのに適したモードです。
ISF Night:	夜間の暗い部屋などで視聴するのに適したモードです。
カスタム:	画質調整を手動でおこないます。

4 ENTER を押す。

- "ピクチャーモード"の設定は、入力ソースごとに記憶します。

すべてのゾーンで同じ音楽を再生する（All Zone Stereo）

メインゾーンで再生している音楽をゾーン 2 およびゾーン 3（別の部屋）でも同時に再生できます。

ホームパーティーのときに各部屋で同時に同じ音楽を楽しみたい場合や、家全体で BGM を流したい場合に便利です。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 △▽ を押して“All Zone Stereo”を選び、ENTER を押す。

“All Zone Stereo”画面を表示します。

3 “スタート”を選び、ENTER を押す。

- ゾーン 2 およびゾーン 3 の入力ソースがメインゾーンと同じ入力ソースに切り替わり、All Zone Stereo モードで再生をはじめます。
- ゾーン 2 またはゾーン 3 を All Zone Stereo に参加させない場合は、ENTER を押してチェックマークを外してから“スタート”を押してください。

■ All Zone Stereo モードを解除する

1 All Zone Stereo モードで再生中に、OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

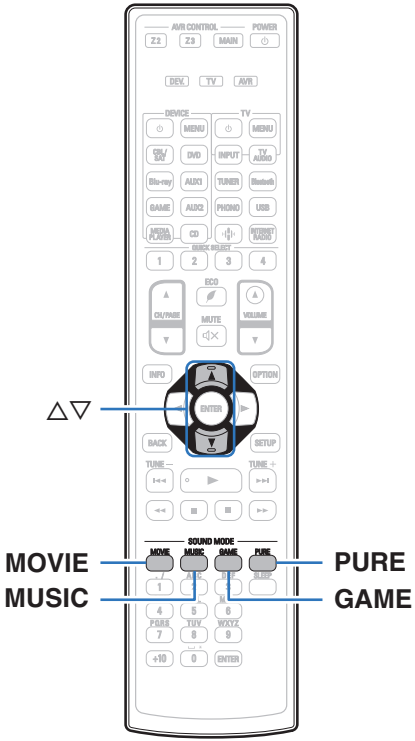
- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 △▽ を押して“All Zone Stereo”を選び、ENTER を押す。

3 “ストップ”を選び、ENTER を押す。

- メインゾーンの電源をオフにしたときも All Zone Stereo モードを解除します。
- All Zone Stereo モード中は、サウンドモードの“Multi Ch Stereo”および“Stereo”のみ選択できます。
- メニューの“HDMI オーディオ出力”の設定が“テレビ”の場合は、All Zone Stereo モードを使用できません。（☞196 ページ）

サウンドモードを選ぶ



本機ではさまざまなサラウンド再生やステレオ再生をお楽しみいただけます。
ブルーレイディスクや DVD はもちろん、デジタル放送やネット配信の映画や音楽の多くのコンテンツには、マルチチャンネルの音声フォーマットが採用されています。
本機では、それらのマルチチャンネル音声フォーマットの再生に対応しています。また、2 チャンネルステレオ音声などのマルチチャンネル音声以外の音声フォーマットもサラウンド再生ができます。

- ディスクに収録されている音声フォーマットは、ディスクのジャケットをご覧ください。

サウンドモードを選ぶ

1 MOVIE、MUSIC または GAME を押して、サウンドモードを選ぶ。

MOVIE:	サウンドモードを映画やテレビ番組の再生に適したモードに切り替えます。
MUSIC:	サウンドモードを音楽の再生に適したモードに切り替えます。
GAME:	サウンドモードをゲームの再生に適したモードに切り替えます。

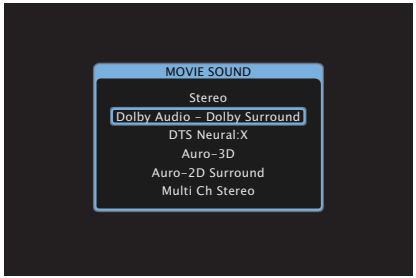
- MOVIE、MUSIC または GAME のボタンには、それぞれのボタンで最後に選択したサウンドモードを記憶します。MOVIE、MUSIC または GAME を押すと、前回再生したときと同じサウンドモードを呼び出します。
- 前回選択したサウンドモードに対応していないコンテンツを再生した場合は、そのコンテンツにとって最もスタンダードなサウンドモードを自動的に選択します。

■ サウンドモードを切り替える

- MOVIE、MUSIC または GAME を押すと、それぞれのモードで選択できるサウンドモードを表示します。MOVIE、MUSIC または GAME を押すたびに、サウンドモードが切り替わります。
- この一覧を表示中に △▽ を押しても、サウンドモードを選択できます。
- さまざまなサウンドモードをお試しいただいた中から、最もお好みのサウンドモードでお楽しみください。

- Dolby Atmos で収録されたコンテンツを再生するときは、サラウンドモードを “Dolby Atmos/Surround” に切り替えてください。Dolby Atmos/Surround は、Dolby Atmos で収録されたディスクやストリーミングを最適化された臨場感あふれるサウンドで提供します。お買い上げ時は、“Dolby Atmos/Surround” に設定しています。

【例】MOVIE を押したとき



本機では、ディスクに収録されている Dolby や DTS などのフォーマットどおりのサラウンド再生だけでなく、ご使用のスピーカー環境に合わせた拡張タイプのサウンドモードや、Rock Arena、Jazz Club などの雰囲気を表現したサラウンド再生をおこなう“オリジナルサウンドモード”を選択できます。

ダイレクト再生

ソースに収録されている音声のまま再生します。

1 **PURE を押して、“Direct”を選ぶ。**

ダイレクト再生をはじめます。

- DSD 信号を再生しているときは“DSD Direct”を表示します。

ピュアダイレクト再生

ダイレクト再生モードよりもさらに高音質の再生をおこなうモードです。
本体のディスプレイをオフにして、アナログビデオ回路を停止します。これにより音質に影響を与えるノイズ源を抑えます。

1 PURE を押して、"Pure Direct" を選ぶ。

ディスプレイが消灯し、ピュアダイレクト再生をはじめます。

- ダイレクト再生モードおよびピュアダイレクト再生モードのとき、次の設定はできません。
  - トーンコントロール (☞135 ページ)
  - リストアラー (☞186 ページ)
  - MultEQ® XT32(☞190 ページ)
  - Dynamic EQ(☞190 ページ)
  - Dynamic Volume(☞191 ページ)
  - グラフィック EQ (☞192 ページ)

ご注意

- HDMI 信号を再生しているときは、ピュアダイレクト再生モードでも映像を出力します。
- ピュアダイレクト再生モードを選択すると、ディスプレイは約 5 秒後に消灯します。

オートサラウンド再生

入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれの信号に対応した再生モードに切り替えます。
入力信号が PCM の場合は、ステレオ再生をおこないます。入力信号が Dolby Digital や DTS の場合は、それぞれのチャンネル数に応じた再生をおこないます。

1 PURE を押して、"Auto" を選ぶ。

オートサラウンド再生をはじめます。

サウンドモードの種類について

ドルビーサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Dolby Atmos*	Dolby Atmos で収録されたコンテンツの再生に適したモードです。Dolby Atmos コンテンツに収録されている音声データとその音声の位置データをリアルタイムで演算して適切なスピーカーから出力するため、どのようなスピーカー設置でも自然な音像を作り出すことができます。天井スピーカーや Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用すると、立体的な音場をお楽しみいただけます。
Dolby TrueHD	Dolby TrueHD（サンプリング周波数=192kHz/96kHz）で収録されたコンテンツの再生に適したモードです。
Dolby Digital Plus	Dolby Digital Plus で収録されたコンテンツの再生に適したモードです。
Dolby Digital	Dolby Digital で収録されたコンテンツの再生に適したモードです。

* スピーカーの構成が 5.1 チャンネル以下のときは選択できません。

DTS サウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
DTS Surround	DTS で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS ES Dscrt6.1*1	DTS-ES で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ディスクリート方式で追加されたサラウンドバックチャンネルを独立したチャンネルとして再生します。 すべてのチャンネルが独立しているため、360 度の空間表現力や定位感が拡大します。
DTS ES Mtrx6.1*1	DTS-ES で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ソフトを収録時、マトリクスエンコードによりサラウンド左/サラウンド右チャンネルに追加されたサラウンドバックチャンネルを、本機のマトリクスデコーダーによってサラウンド左/サラウンド右/サラウンドバックの各チャンネルにデコードして再生します。
DTS 96/24	DTS 96/24 で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS-HD	DTS-HD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS Express	DTS Express で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS:X	DTS:X で収録されたディスクの再生に適したモードです。 DTS:X コンテンツに収録されている音声データとその音声の位置データをリアルタイムで演算して適切なスピーカーから出力するため、どのようなスピーカー設置でも自然な音像を作り出すことができます。ハイトスピーカーを使用すると、立体的な音場をお楽しみいただけます。
DTS Neural:X	DTS Neural:X Upmixer を使用して、さまざまなソースを自然で臨場感のあるマルチチャンネルに拡張して再生するモードです。 フロントハイトスピーカーなどのハイトスピーカーを使用すると、立体的な音場をお楽しみいただけます。
DTS Virtual:X*2*3	ハイトチャンネルを使用していないときに、DTS Virtual:X 技術を使用して立体的な音場をお楽しみいただけます。

*1 メニューの“スピーカー構成” – “サラウンドバック”の設定が“無し”以外のときに選択できます。(☞233 ページ)

*2 ハイト、天井および Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用していないときに選択できます。

*3 入力信号が Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD または Dolby Atmos のときは選択できません。

Auro-3D サウンドモード

サウンドモードの種類	内 容
Auro-3D	Auro-3D で収録されたディスクの再生に適したモードです。ハイトチャンネルを含むすべてのチャンネルが独立して収録されているため、Auro-3D ならではの定位感のある三次元音声がお楽しみいただけます。また、Auro-3D 以外のディスク再生時にも、Auro-Matic Upmixer を使用して臨場感あふれる三次元再生をお楽しみいただけます。
Auro-2D Surround	Auro-3D で収録されたディスクをフロアスピーカーのみで再生するのに適したモードです。Auro-3D 以外のディスク再生時にも、Auro-Matic Upmixer を使用してサラウンドサウンドがお楽しみいただけます。

PCM マルチチャンネルサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Multi Ch In	マルチチャンネルの PCM または DSD で収録されたディスクの再生に適したモードです。

AAC サウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
MPEG2 AAC	このモードでは、地上デジタル放送や BS デジタル放送などで MPEG-2 AAC が配信されているときに選択できます。MPEG-2 AAC により高音質の音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

オリジナルサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Multi Ch Stereo	ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。
Rock Arena	アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
Jazz Club	ライブハウスでのコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
Mono Movie	モノラルの映画ソースをサラウンドサウンド再生するモードです。モノラル録音ソースを“Mono Movie”モードで再生する場合、片チャンネル(左または右)では音声が片寄るため、両チャンネルに入力してください。
Video Game	ビデオゲームのサラウンドサウンド再生に適したモードです。
Matrix	ステレオの音楽ソースに広がり感を加えて楽しむモードです。
Virtual	フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。

オートサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Auto	Dolby Digital、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、Dolby Digital EX、Dolby Atmos、DTS、DTS-HD、DTS:X、DTS-ES、PCM(マルチチャンネル)など、入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。 入力信号がアナログや PCM(2 チャンネル)の場合は、ステレオ再生をおこないます。Dolby Digital や DTS の場合は、それぞれのチャンネル数に応じた再生をおこないます。

ステレオサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Stereo	サラウンド処理をおこなわずに 2 チャンネルステレオ音声を再生するモードです。 • フロントスピーカー(左/右)とサブウーハーから音声を出力します。 • マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。

ダイレクトサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Direct	ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。
Pure Direct	“Direct”モードよりもさらに高音質の再生をおこなうモードです。 より音質を高めるために次の回路を停止します。 • 本体のディスプレイ表示回路(ディスプレイが消灯します。) • アナログビデオ入出力回路

入力信号ごとに選択できるサウンドモード

- MOVIE、MUSIC または GAME ボタンで、次のサウンドモードを選択できます。
- メニューの“サラウンドパラメーター”で音場効果を調節すると、よりお好みのサウンドでお楽しみいただけます。(☞180 ページ)

入力信号	サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
2チャンネル ＊1	Stereo	○	○	○
	Dolby Surround ＊2	○	○	○
	DTS Neural:X ＊2	○	○	○
	DTS Virtual:X ＊3＊4	○	○	○
	Auro-3D ＊5	○	○	○
	Auro-2D Surround ＊6	○	○	○
	Multi Ch Stereo	○	○	○
	Mono Movie	○		
	Rock Arena		○	
	Jazz Club		○	
	Matrix		○	
	Video Game			○
	Virtual	○	○	○

＊1　2 チャンネルには、アナログ入力も含みます。

＊2　2 チャンネルソースを 5.1、7.1、9.1 または 11.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時やフロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。

＊3　ヘッドホン使用時やハイト、天井および Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しているスピーカー構成のときは選択できません。

＊4　入力信号が Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD または Dolby Atmos のときは選択できません。

＊5　ヘッドホン使用時やフロントハイトまたはフロント Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しないスピーカー構成のときは選択できません。

＊6　ヘッドホン使用時やフロントスピーカーのみを使用するときは選択できません。

入力信号		サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
マルチチャンネル ＊7		Stereo	○	○	○
	Dolby Digital	Dolby Digital	○	○	○
		Dolby Digital + Dolby Surround ＊8	○	○	○
		Dolby Digital + Neural:X ＊8	○	○	○
	Dolby Digital Plus	Dolby Digital Plus	○	○	○
		Dolby Digital Plus + Dolby Surround ＊8＊9	○	○	○
		Dolby Digital Plus + Neural:X ＊8	○	○	○
		Dolby Atmos ＊8＊10	○	○	○
	Dolby TrueHD	Dolby TrueHD	○	○	○
		Dolby TrueHD + Dolby Surround ＊8＊9	○	○	○
		Dolby TrueHD + Neural:X ＊8	○	○	○
		Dolby Atmos ＊8＊10	○	○	○
	Dolby Atmos	Dolby Atmos	○	○	○
	DTS	DTS Surround	○	○	○
		DTS ES Dscrt 6.1 ＊8	○	○	○
		DTS ES Mtrx 6.1 ＊8	○	○	○
		DTS 96/24	○	○	○
		DTS + Dolby Surround ＊8	○	○	○
		DTS + Neural:X ＊8	○	○	○
		DTS + Virtual:X ＊3	○	○	○

＊3　ヘッドホン使用時やハイト、天井および Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しているスピーカー構成のときは選択できません。

＊7　入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できるサウンドモードが異なります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(☞316 ページ)をご覧ください。

＊8　ヘッドホンを使用しているときは選択できません。

＊9　入力信号に、Dolby Atmos が含まれていない場合に選択できます。

＊10 入力信号に、Dolby Atmos が含まれている場合に選択できます。

入力信号		サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
マルチチャンネル *7	DTS-HD / DTS Express	DTS-HD HI RES	○	○	○
		DTS-HD MSTR	○	○	○
		DTS Express	○	○	○
		DTS-HD + Dolby Surround *8	○	○	○
		DTS-HD + Neural:X *8	○	○	○
		DTS-HD + Virtual:X *3	○	○	○
	DTS:X	DTS:X	○	○	○
		DTS:X MSTR	○	○	○
		DTS:X + Virtual:X *3	○	○	○
	PCMマルチチャンネル	Multi Ch In	○	○	○
		Multi Ch In 7.1 *8	○	○	○
		Multi In + Dolby Surround *8	○	○	○
		Multi Ch In + Neural:X *8	○	○	○
		Multi In + Virtual:X *3	○	○	○
	MPEG-2 AAC	MPEG2 AAC	○	○	○
		AAC + Dolby Surround *8	○	○	○
		AAC + Neural:X *8	○	○	○
		AAC + Virtual:X *3	○	○	○

*3　ヘッドホン使用時やハイト、天井および Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しているスピーカー構成のときは選択できません。

*7　入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できるサウンドモードが異なります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(☞316 ページ)をご覧ください。

*8　ヘッドホンを使用しているときは選択できません。

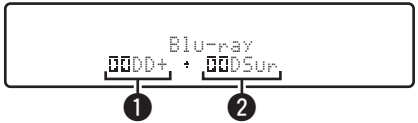
入力信号	サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
マルチチャンネル *7	Auro-3D *5	○	○	○
	Auro-2D Surround *6	○	○	○
	Multi Ch Stereo	○	○	○
	Mono Movie	○		
	Rock Arena		○	
	Jazz Club		○	
	Matrix		○	
	Video Game			○
	Virtual	○	○	○

*5　ヘッドホン使用時やフロントハイトスピーカーを使用しないスピーカー構成のときは選択できません。

*6　ヘッドホン使用時やフロントスピーカーのみを使用するときは選択できません。

*7　入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できるサウンドモードが異なります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(☞316 ページ)をご覧ください。

■ ディスプレイの表示について



❶ **使用するデコーダーを表示します。**

- Dolby Digital Plus デコーダーの場合は、“DDD+”と表示します。

❷ **音声を生成するデコーダーを表示します。**

- “DDDSur”は、Dolby Surround デコーダーを使用していることをあらわします。

HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、各機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御できます。

設定のしかた

1 本機の HDMI コントロール機能を有効にする。

メニューの“HDMI コントロール”を“オン”に設定してください。(☞198 ページ)

2 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。

3 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。

- 接続している機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- いずれかの機器の電源プラグを抜いた場合は、手順 2、3 をおこなってください。

4 テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。

5 本機の入力ソースを切り替えて、HDMI 接続しているプレーヤーの映像が正しく映ることを確認する。

6 テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。

ご注意

- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI ZONE2 機能は、HDMI コントロール機能に対応していません。
- メニューの“HDMI コントロール”設定が“オン”のときに、HDMI ZONE2 機能を使用すると、HDMI ZONE2 機能が十分に機能しない場合があります。

スマートメニュー機能

本機能を使用すると、テレビのリモコンを使用して、本機の設定や入力ソースの選択、チューナーやインターネットラジオの選局ができます。

1 本機とテレビの HDMI コントロール機能を有効にする。(☞198 ページ)

2 本機の“スマートメニュー”設定を“オン”にしてください。(☞200 ページ)

3 テレビの“入力”＊ または“HDMI 接続した機器の操作”＊ などのメニューに表示された“AV Receiver”を選ぶ。

本機のスマートメニューをテレビに表示します。

- スマートメニュー表示中は、テレビのリモコンで本機の操作ができます。

＊ ご使用のテレビによって、選択方法が異なります。

■ 現在の入力ソース

本機が現在選択している入力ソースのコンテンツを視聴します。

■ ソース選択

本機の入力を切り替えます。
“HEOS Music”や“Tuner”を選択した場合、引き続きテレビのリモコンで操作できます。

■ サウンドモード

本機のサウンドモードを変更します。
選択できるサウンドモードは、次の 3 つです。

サラウンド:	入力信号に応じたサラウンド再生をします。
ステレオ:	ステレオ再生をします。
マルチチャンネルステレオ:	マルチチャンネルステレオ再生をします。

■ セットアップメニュー

本機の設定をおこなうセットアップメニューを表示します。

■ Quick Select

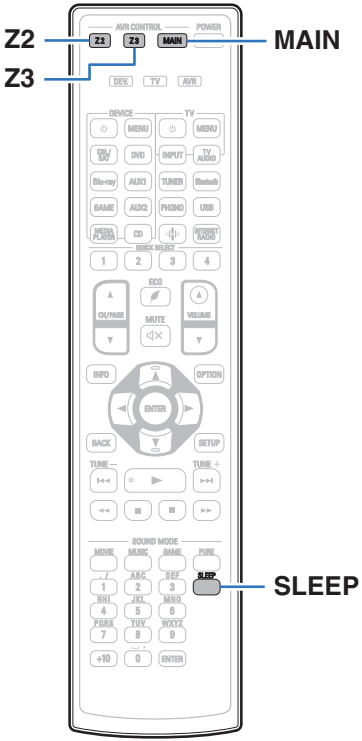
本機に登録されている“Quick Select”を呼び出します。

ご注意

- “HDMI コントロール”または“スマートメニュー”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。
- ご使用のテレビの仕様によっては、スマートメニュー機能が正しく動作しない場合があります。このような場合は、“スマートメニュー”の設定を“オフ”にしてご使用ください。(☞200 ページ)

スリープタイマー機能

設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。視聴しながら、おやすみになるときに便利です。
スリープタイマー機能は、ゾーンごとに設定できます。



スリープタイマーを設定する

1 MAIN、Z2 または Z3 を押して、リモコンで操作するゾーンを選ぶ。

選択したゾーンのボタンが点灯します。

2 SLEEP を押して、スリープ時間を設定する。

- ディスプレイの S 表示が点灯して、スリープタイマーが動作します。
- スリープタイマーは、10～120 分の範囲で 10 分ごとに設定できます。

■ 残り時間を確認する

スリープタイマー中に SLEEP を押す。
ディスプレイに残り時間を表示します。

■ スリープタイマーを解除する

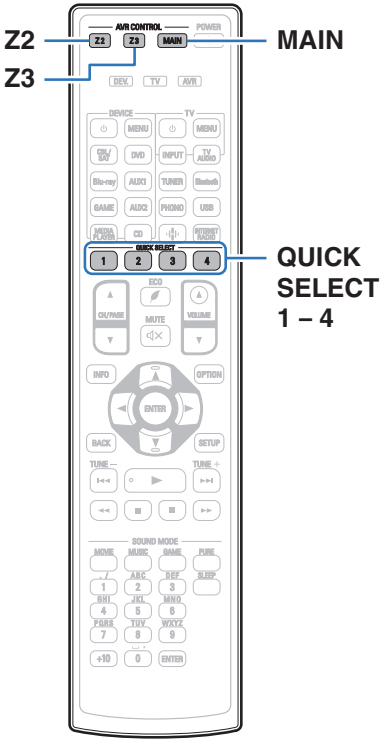
SLEEP を押して、"Off" を選ぶ。
ディスプレイの S 表示が消灯します。

- 本機の電源がスタンバイになると、スリープタイマーの設定を解除します。

ご注意

- スリープタイマー機能では、本機に接続した機器の電源は切れません。接続した機器の電源を切る場合は、接続した機器側でスリープタイマーの設定をおこなってください。

クイックセレクトプラス機能



QUICK SELECT 1～4 ボタンに入力ソース、音量レベル、サウンドモードの設定などを登録できます。

次に再生するときは、登録してある QUICK SELECT ボタンを押すだけで、記憶しているさまざまな設定を一度に切り替えることができます。

よく使う設定を QUICK SELECT 1～4 ボタンに記憶させておくと、常に同じ再生環境を簡単に呼び出してお楽しみいただくことができます。

クイックセレクトプラス機能は、ゾーンごとに記憶できます。

- 本体の QUICK SELECT ボタンでは、メインゾーンのみ操作できます。

設定を呼び出す

1 MAIN、Z2 または Z3 を押して、リモコンで操作するゾーンを選ぶ。

選択したゾーンのボタンが点灯します。

2 QUICK SELECT を押す。

押したボタンに記憶している設定内容を呼び出します。

- お買い上げ時の入力ソースの設定は、次のとおりです。

【メインゾーン】/【ゾーン 2】/【ゾーン 3】

ボタン	入力ソース
QUICK SELECT 1	CBL/SAT
QUICK SELECT 2	Blu-ray
QUICK SELECT 3	Media Player
QUICK SELECT 4	HEOS Music

- お買い上げ時の音量は、クイックセレクトプラス機能に記憶されていません。
  クイックセレクトプラス機能に音量を記憶したい場合は、「設定を変更する」を参照しておこなってください。(☞160 ページ)

設定を変更する

1 次の内容を記憶させたい状態にする。

メインゾーンでは次の ①～⑨ の設定を記憶させ、ゾーン 2 とゾーン 3 では次の ①、② の設定を記憶させることができます。

① 入力ソース(☞92 ページ)
② 音量(☞93 ページ)
③ サウンドモード(☞139 ページ)
④ Audyssey(Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume®、Audyssey LFC™)(☞189 ページ)
⑤「 リストアラー 」(☞186 ページ)
⑥「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(☞134 ページ)
⑦「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(☞136 ページ)
⑧「視聴環境に合わせて画質を調整する(ピクチャーモード)」(☞137 ページ)
⑨「 HDMI ビデオ出力 」(☞201 ページ)

- 次の入力ソースで、ラジオの受信中に QUICK SELECT を長押しすると、受信中のラジオ局を記憶します。
  - Tuner / インターネットラジオ局

2 MAIN、Z2 または Z3 を押して、リモコンで操作するゾーンを選ぶ。

選択したゾーンのボタンが点灯します。

3 ディスプレイに“Quick＊ Memory”、“Z2 Quick＊ Memory”または“Z3 Quick＊ Memory”が表示されるまで、変更したい QUICK SELECT を長押しする。

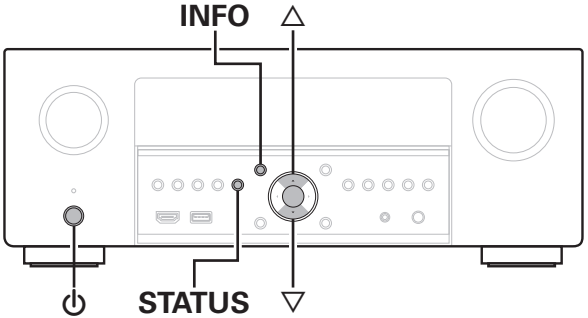
現在の設定を記憶します。
＊ は押された QUICK SELECT の数字を表示します。

■ クイックセレクト名を変更する

本機では、テレビ画面や本体のディスプレイに表示するメインゾーンのクイックセレクト名をお好みの名前に変更できます。変更のしかたは、メニューの“クイックセレクト名の変更”をご覧ください。(☞258 ページ)

フロントキーロック機能

本機を誤って操作してしまうことを防ぐために、フロントパネルのボタン操作を無効にできます。



すべてのボタン操作を無効にする

1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、STATUS と INFO を押しながら、⏻ を押す。

2 △▽ を押して、"FP/VOL LOCK On" を選ぶ。

3 ENTER を押して、設定を確定する。

⏻ 以外のボタン操作が無効になります。

VOLUME 以外のすべてのボタン操作を無効にする

1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、STATUS と INFO を押しながら、⏻ を押す。

2 △▽ を押して、"FP LOCK On" を選ぶ。

3 ENTER を押して、設定を確定する。

⏻ および VOLUME 以外のボタン操作が無効になります。

フロントキーロック機能を解除する

1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、STATUS と INFO を押しながら、⏻ を押す。

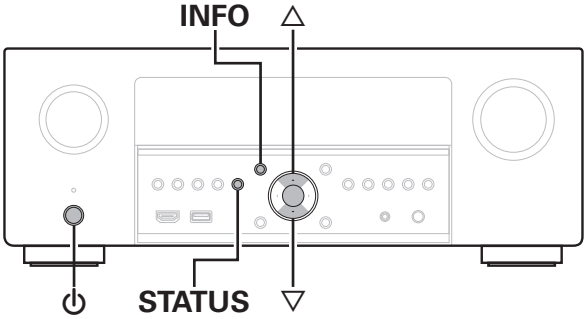
2 △▽ を押して、“FP LOCK ∗Off” を選ぶ。
（∗ は現在の設定モードです。）

3 ENTER を押して、設定を確定する。
フロントキーロック機能を解除します。

- フロントキーロック機能の設定が有効でも、リモコンによる操作は可能です。

リモートロック機能

本機に赤外線受信機を接続しない場合は、リモートロック機能を無効に設定してください。有効に設定すると、リモコンの操作ができなくなります。
お買い上げ時は無効に設定されています。



リモコンの受信機能を無効にする

1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、STATUS と INFO を押しながら、⏻ を押す。

2 △▽ を押して、"RC LOCK On" を選ぶ。

3 ENTER を押して、設定を確定する。
リモコン信号の受信機能が無効になります。

リモコンの受信機能を有効にする

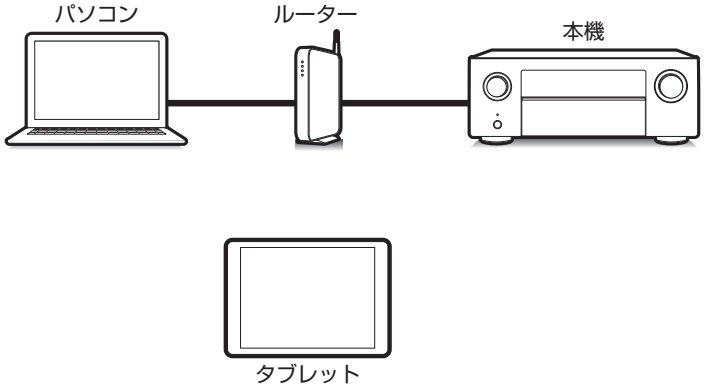
1 本機の電源がスタンバイ状態のときに、STATUS と INFO を押しながら、⏻ を押す。

2 △▽ を押して、"RC LOCK ∗Off" を選ぶ。
（∗ は現在の設定モードです。）

3 ENTER を押して、設定を確定する。
リモコン信号の受信機能が有効になります。

ウェブコントロール機能

ブラウザに表示されるウェブコントロール画面を使用して、本機を操作できます。

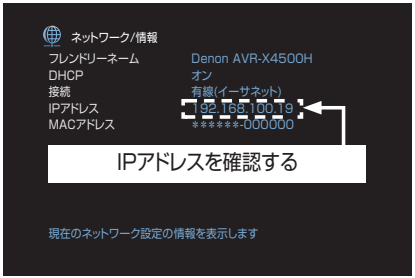


- ウェブコントロール機能をご使用になるには、本機とパソコンまたはタブレットが同じネットワークに正しく接続されている必要があります。(☞86 ページ)
- セキュリティソフトなどの設定により、パソコンから本機にアクセスできないことがあります。このような場合には、セキュリティソフトの設定を変更してください。

ウェブコントロール機能で本機をコントロールする

1 メニューの“ネットワークコントロール”設定を“常時オン”にする。(☞249 ページ)

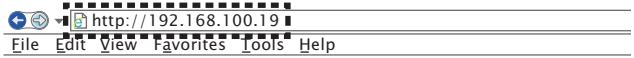
2 メニューの“情報”で、本機の IP アドレスを確認する。(☞244 ページ)



3 ブラウザを起動する。

4 **ブラウザのアドレスに、本機の IP アドレスを入力する。**

例えば、本機の IP アドレスが“192.168.100.19”の場合は、“http://192.168.100.19”と入力してください。



5 **ウェブブラウザにトップメニューが表示されたら、操作したいメニュー項目をクリックする。**

ゾーン 2/ゾーン 3(別の部屋)での再生

本機を操作して、メインゾーン(本機のある部屋)以外の部屋(ゾーン 2 およびゾーン 3)で映像や音声を楽しむことができます。
メインゾーン、ゾーン 2 およびゾーン 3 で同時に同じソースを再生することができます。また、メインゾーン、ゾーン 2 およびゾーン 3 で別々のソースを再生することもできます。

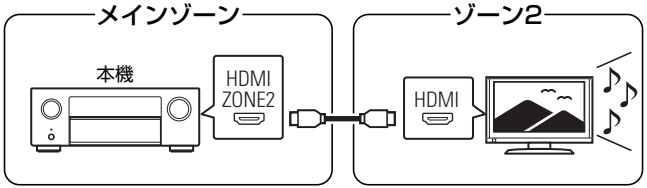
ゾーンの接続

ゾーン 2 およびゾーン 3 で映像や音声を再生するには、次の 3 とおりの方法があります。

- 「HDMI ZONE2 端子を使用した接続」(☞166 ページ)
- 「映像出力端子とスピーカー出力端子を使用した接続」(☞167 ページ)
- 「映像出力端子と外部のパワーアンプを使用した接続」(☞170 ページ)

■ 接続 1:HDMI ZONE2 端子を使用した接続

HDMI ZONE2 OUT 端子にテレビを接続すると、HDMI 1 – 7 IN 端子に接続された機器の映像や音声をゾーン 2 で再生できます。(HDMI ZONE2 機能)

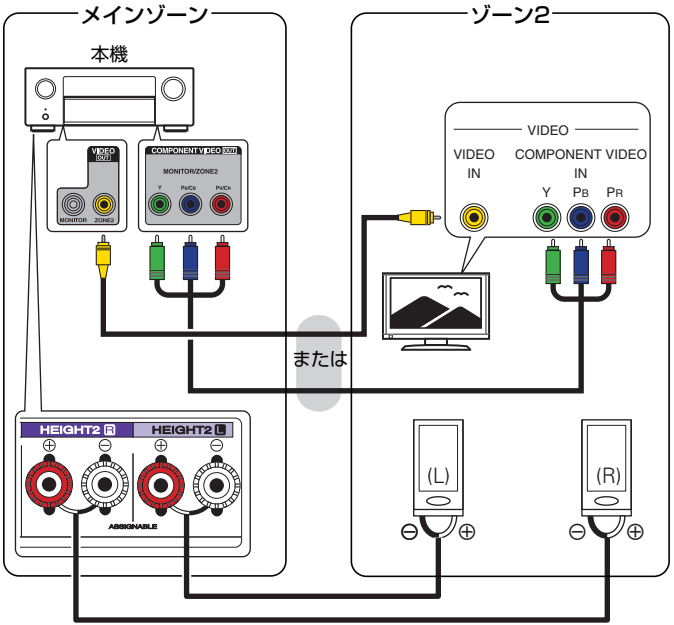


- HDMI ZONE2 OUT 端子にテレビを接続し、メインゾーンとゾーン 2 を同じ入力ソースにすると、メインゾーンの音声が 2 チャンネルになる場合があります。

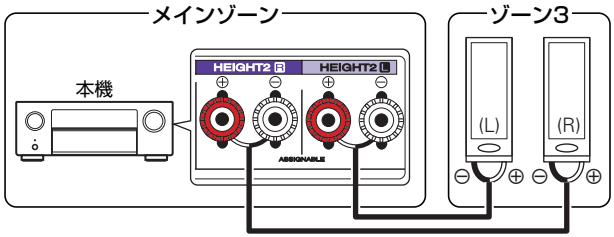
■ 接続 2:映像出力端子とスピーカー出力端子を使用した接続

メニューの“アサインモード”が次の設定のときに、ゾーン 2 またはゾーン 3 のスピーカーから音声を出力します。(☞224 ページ)

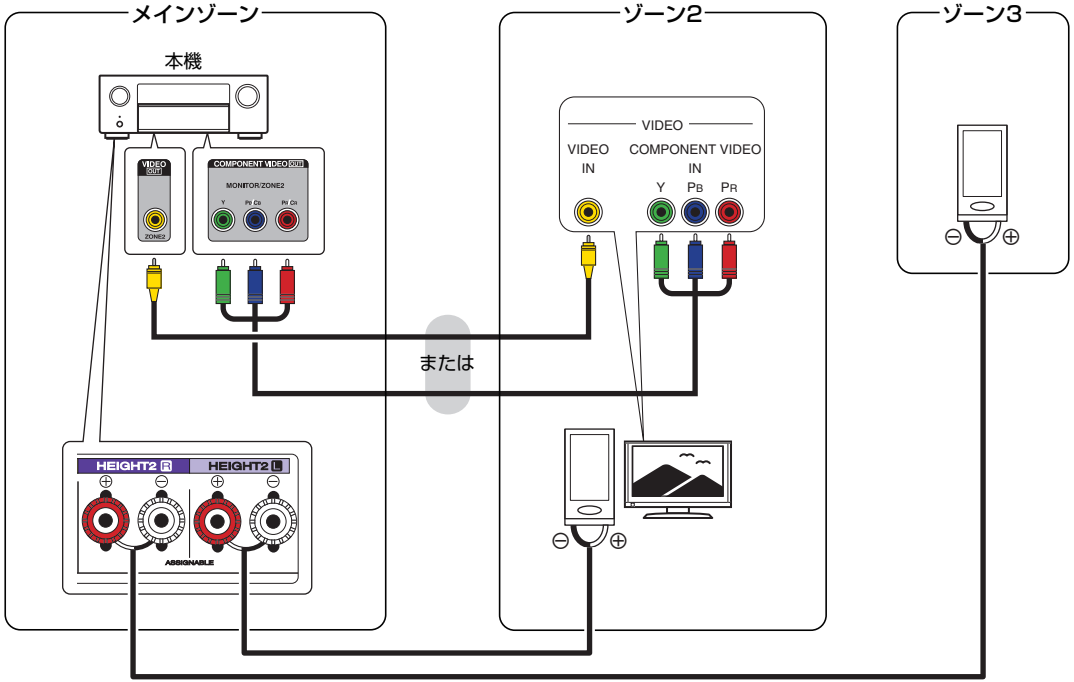
❑ アサインモード:7.1ch + ZONE2



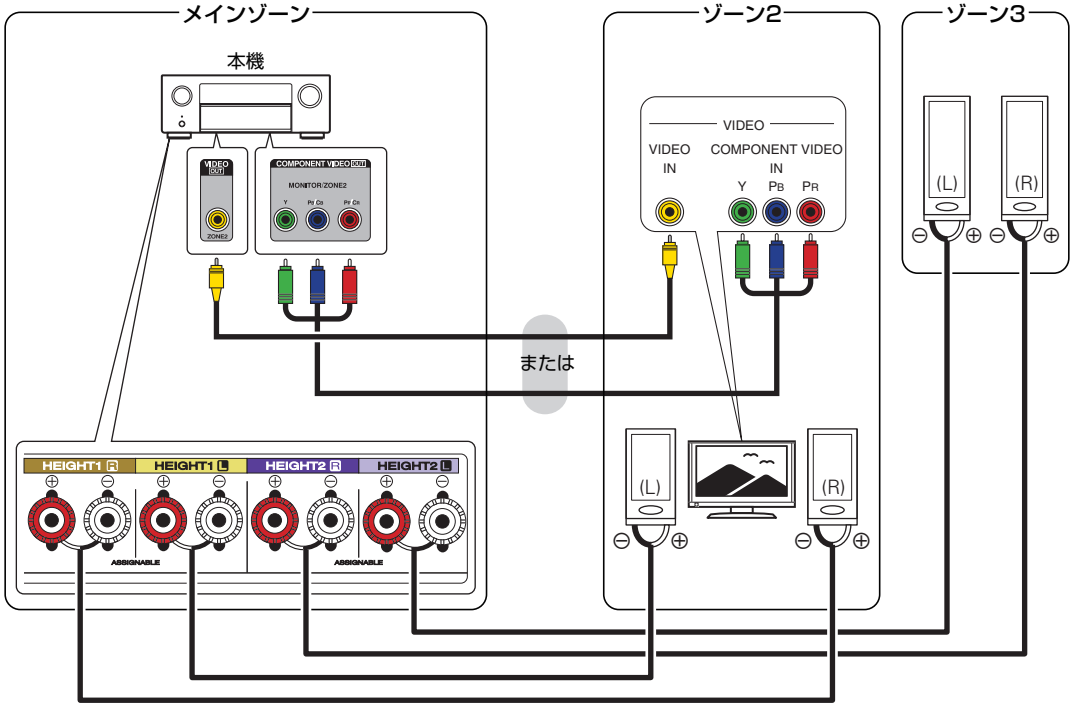
❑ アサインモード:7.1ch + ZONE3



❑ アサインモード:7.1ch + ZONE2/3-MONO

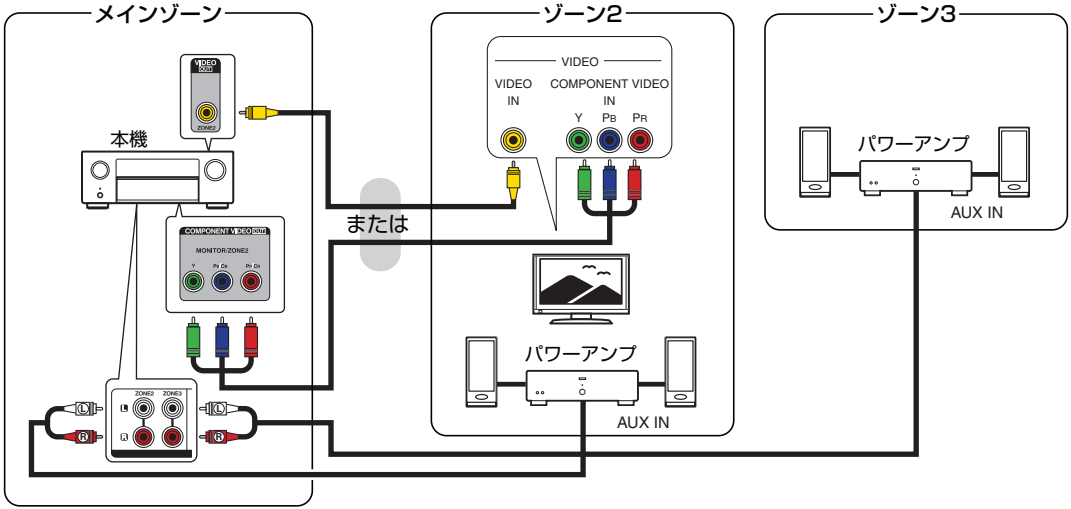


❑ アサインモード:5.1ch + ZONE2/3



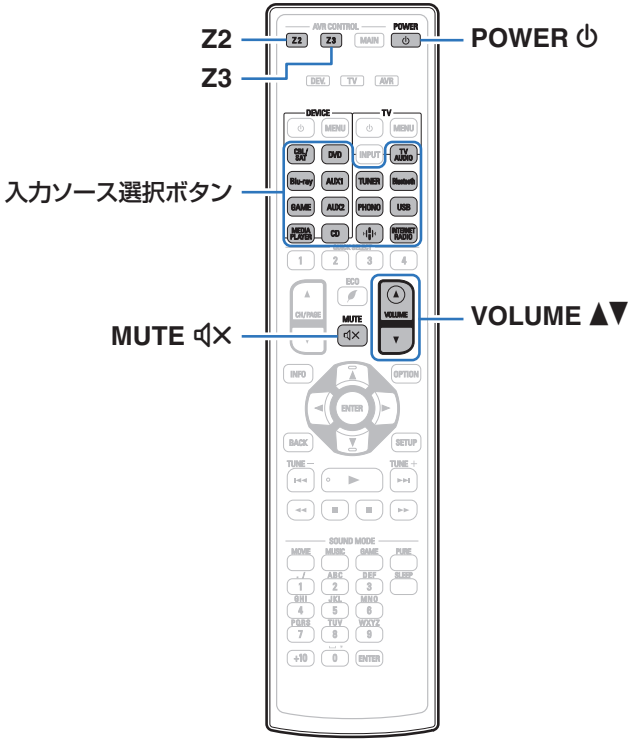
■ 接続 3:映像出力端子と外部のパワーアンプを使用した接続

本機のゾーン 2 およびゾーン 3 の音声出力端子の音声をゾーン 2 およびゾーン 3 のパワーアンプで再生します。



- ゾーン 2 では、アナログオーディオ端子から入力される音声信号と、HDMI 端子またはデジタル端子（OPTICAL/COAXIAL）から入力される PCM 2 チャンネル信号を再生できます。
- PCM 2 チャンネル以外の HDMI 信号をゾーン 2 で再生したい場合は、“HDMI オーディオ”を “PCM” に設定してください。(☞257 ページ)
  ゾーン 2 で選択している入力ソースに接続された機器から PCM 2 チャンネル信号が出力され、ゾーン 2 で再生することができます。
  この場合、メインゾーンとゾーン 2 を同じ入力ソースにすると、メインゾーンの音声も PCM 2 チャンネル信号になります。ただし、再生機器によっては、この設定をおこなっても PCM 信号に変換されない場合があります。
- ゾーン 3 では、アナログオーディオ端子から入力される音声信号と、デジタル端子（OPTICAL/COAXIAL）から入力される PCM 2 チャンネル信号を再生できます。
- メニューの“コンポーネントビデオ出力”を“ゾーン 2”に設定すると、コンポーネントビデオ出力端子をゾーン 2 用として使用できます。(☞205 ページ)
- メニュー画面は、ゾーン 2 には出力しません。

ゾーン 2/ゾーン 3 で再生する



1 **Z2 または Z3 を押して、ゾーンモードを切り替える。**

Z2 または Z3 のボタンが点灯します。

2 **POWER ⏻ を押して、ゾーン 2 またはゾーン 3 の電源を入れる。**

ディスプレイの MULTI ZONE 表示が点灯します。

- 本体の ZONE2 ON/OFF または ZONE3 ON/OFF を押しても、ゾーン 2 またはゾーン 3 の電源をオン/オフできます。

3 **入力ソース選択ボタンを押して、再生する入力ソースを選ぶ。**

選択した入力ソースの音声を、ゾーン 2 またはゾーン 3 のスピーカーに出力します。

- 本体の ZONE2 SOURCE または ZONE3 SOURCE を押してもゾーン 2 またはゾーン 3 の入力ソースを選択できます。ZONE2 SOURCE または ZONE3 SOURCE を押すたびに、入力ソースが切り替わります。

■ 音量を調節する（ゾーン 2/ゾーン 3）

VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。

- お買い上げ時は、“音量の上限”を“70 (–10 dB)”に設定しています。(☞257 ページ)

- 本体の ZONE2 SOURCE または ZONE3 SOURCE を押したあとに MASTER VOLUME を回しても、ゾーン 2 やゾーン 3 の音量を調節できます。

■ 一時的に音を消す（ミューティング）（ゾーン 2/ゾーン 3）

MUTE 🔇を押す。

メニューの“ミューティングレベル”で設定したレベルまで音量が減衰します。(☞258 ページ)

- ミューティングを解除するときは、音量を調節するか、もう一度 MUTE 🔇を押してください。

メニュー 一覧

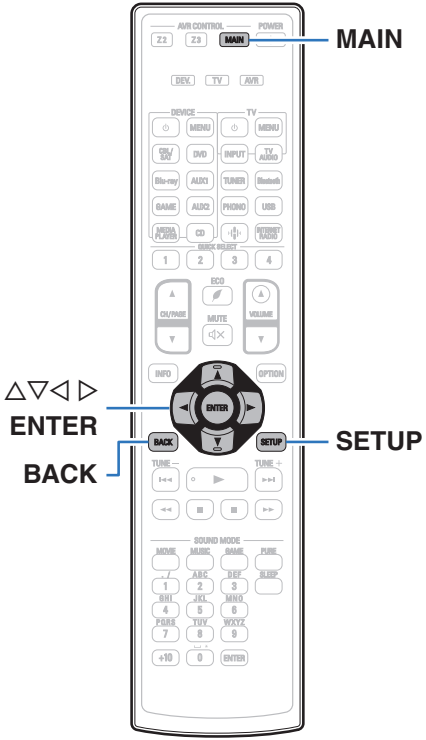
メニューの操作をおこなうときは、本機にテレビを接続し、テレビ画面を見ながら操作してください。
本機のお買い上げ時の設定は、おすすめの設定にしてあります。ご使用のシステムやお好みに合わせて本機をカスタマイズすることができます。

設定項目	詳細項目	内 容	関連ページ
オーディオ	センターレベルの調節	すべての入力ソースに対して、センターチャンネルの音量を調節します。	179
	サブウーハーレベルの調節	すべての入力ソースに対して、サブウーハーチャンネルの音量を調節します。	179
	低音の位相補正	ディスクに収録された低音(LFE)が遅れているときに、位相のずれを補正します。	180
	サラウンドパラメーター	音場効果を調節します。	180
	リストアラー	MP3 などの圧縮オーディオを再生するときに、低域や高域を拡張して、より豊かな再生をします。	186
	オーディオディレイ	映像と音声のタイミングがずれているときに、音声の出力タイミングを調節します。	187
	音量	メインゾーン(本機のある部屋)の音量に関する設定をします。	188
	バイリンガルモード	AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。	189
	Audyssey	Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume®および Audyssey LFC™ の設定をします。	189
	グラフィック EQ	グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。	192
ビデオ	画質調整	映像の画質を調節します。	194
	HDMI 設定	HDMI オーディオ出力、HDMI パススルーおよび HDMI コントロールの設定をします。	196
	ビデオ出力の設定	映像出力に関する設定をします。	201
	コンポーネントビデオ出力	コンポーネントビデオ出力端子をメインゾーンで使用するか、ゾーン 2 で使用するかを設定します。	205
	オンスクリーンディスプレイ	オンスクリーンディスプレイに関する設定をします。	205
	4K 信号フォーマット	ご使用になるテレビや再生機器が 4K に対応している場合に、本機で再生する 4K 信号のフォーマットを設定します。	206
	TV フォーマット	ご使用になるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。	208

設定項目	詳細項目	内 容	関連ページ
入力ソース	入力端子の割り当て	入力端子の割り当てを変更します。	209
	入力ソース名の変更	入力ソースの表示名を変更します。	211
	使用ソースの選択	使用しない入力ソースを表示しないように設定します。	211
	ソースレベル	音声入力の再生レベルを補正します。	212
	オーディオ入力の選択	入力モードを設定します。	212
スピーカー	Audyssey®セットアップ	接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。	213
	マニュアルセットアップ	スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey®セットアップで測定した内容を変更するときにおこなってください。	224
ネットワーク	情報	ネットワークの情報を表示します。	244
	接続	ホームネットワーク(LAN)に有線 LAN で接続するか、無線 LAN で接続するかを設定します。	244
	詳細な設定	IP アドレスを手動で設定するときに設定します。	247
	ネットワークコントロール	電源がスタンバイ状態でのネットワーク機能の設定をします。	249
	フレンドリーネーム	“フレンドリーネーム”とは、ネットワーク上に表示される本機の名称です。お好みの名前に変更できます。	249
	診断	ネットワークの接続を確認します。	250

設定項目	詳細項目	内 容	参照ページ
HEOS アカウント	【HEOS アカウントでサインインしていない場合】		
	既にアカウントをもっている	HEOS アカウントにサインインします。	251
	アカウントを作成する	新規に HEOS アカウントを作成します。	251
	パスワードを再設定する	パスワードを忘れた場合、新しいパスワードの設定方法を E メールでお知らせします。	251
	【HEOS アカウントでサインインしている場合】		
	サインイン中	サインインしているアカウントを表示します。	251
	地域を変更	お住まいの地域を選択します。	251
	パスワードを変更	HEOS アカウントのパスワードを変更します。	251
	アカウントを削除	HEOS アカウントを削除します。	251
	サインアウト	HEOS アカウントからサインアウトします。	251

設定項目	詳細項目	内 容	関連ページ
一般	言語	テレビ画面に表示する言語を設定します。	252
	エコ設定	エコモードとオートスタンバイの省電力機能の設定をします。	252
	ゾーン 2 の設定/ ゾーン 3 の設定	ゾーン 2 およびゾーン 3 で再生する音声の設定をします。	256
	ゾーン名の変更	ゾーンの表示名をお好みの名前に変更します。	258
	クイックセレクト名の変更	クイックセレクト名をお好みの名前に変更します。	258
	トリガーアウト 1 / トリガーアウト 2	トリガーアウト機能を動作させる条件を選択します。	259
	フロントディスプレイ	本機のディスプレイの明るさを調節します。	259
	ファームウェア	アップデートやアップグレードについて、ファームウェアの最新情報の確認や更新の実施、および通知メッセージの表示の設定をします。	260
	情報	本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。	263
	使用状況の送信設定	お客様の使用状況の情報を当社へ送信するかしないかの設定をします。	264
	セーブ＆ロード	USB メモリーを使用して、本機の設定を保存または復元します。	265
	セットアップロック	設定した内容を変更できないようにロックします。	265
	初期化	各種設定がお買い上げ時の設定に戻ります。	266
セットアップアシスタント	初めから設定を行う	テレビ画面に表示されるガイダンスに沿って、基本的な設置/接続/設定を最初からおこないます。	別冊の「かんたんスタートガイド」の 9 ページ
	言語の設定	テレビ画面に表示されるガイダンスに沿って、項目ごとに設定をおこないます。	
	スピーカーの設定		
	スピーカーの測定		
	ネットワークの設定		
	テレビ音声の接続		
	入力の設定		
	モバイルアプリ		



メニュー操作のしかた

1 **MAIN を押して、リモコンで操作するゾーンをメインゾーンに設定する。**
MAIN ボタンが点灯します。

2 **SETUP を押す。**
テレビ画面にメニューを表示します。

3 **△▽ ▷ を押して設定または操作したいメニューを選び、ENTER を押す。**

4 **◁ ▷ を押して、お好みの設定に変更する。**

5 **ENTER を押して、設定を確定する。**
- 前の項目に戻るときは、BACK を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に SETUP を押してください。メニュー表示が消灯します。

オーディオ

音声に関する設定をします。

センターレベルの調節

すべての入力ソースに対して、センターチャンネルの音量を調節します。

■ センター

センターチャンネルから出力される音量を調節します。

-12.0 dB～+12.0 dB（お買い上げ時の設定：0.0 dB）

- この設定は、メニューの“スピーカー” - “レベル”設定のセンターチャンネルレベルにも反映します。（☞238 ページ）

サブウーハーレベルの調節

すべての入力ソースに対して、サブウーハーチャンネルの音量を調節します。

■ サブウーハー 1 / サブウーハー 2

サブウーハー 1 およびサブウーハー 2 の音量を調節します。

-12.0 dB～+12.0 dB（お買い上げ時の設定：0.0 dB）

- この設定は、メニューの“スピーカー” - “レベル”設定のサブウーハーチャンネルレベルにも反映します。（☞238 ページ）

低音の位相補正

ブルーレイディスクなどマルチチャンネルで収録されているコンテンツでは、低音(LFE)が遅れて収録されている場合があります。本機能を使用すると、この低音(LFE)の遅れを補正します。

0 ms～16 ms (お買い上げ時の設定:0 ms)

- ディスクによって低音(LFE)の遅れが異なります。お好みで設定してください。
- "低音の位相補正"の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- 入力信号に LFE 信号が含まれる場合に設定できます。
- サウンドモードが"Direct"または"Pure Direct"のときは設定できません。

サラウンドパラメーター

サラウンド音声の音場効果をお好みにあわせて調節できます。調節できる項目(パラメーター)は、再生している信号や選択しているサウンドモードによって異なります。調節できる各項目については、「サウンドモードとパラメーター一覧表」(☞313 ページ)をご覧ください。

- 設定項目の中には再生停止中に設定できないものがあります。設定は再生中におこなってください。
- "サラウンドパラメーター"の設定は、サウンドモードごとに記憶します。

■ シネマ EQ

映画のせりふの高域成分をやわらげ、聞きやすくします。

オン:	"シネマ EQ"を使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	"シネマ EQ"を使用しません。

■ ラウドネスマネージメント

“ダイナミックレンジ圧縮”で設定した内容で出力するか、ディスクに記録されている音声のダイナミックレンジを圧縮せずにそのまま出力するかを設定します。

オン （お買い上げ時の設定）:	“ダイナミックレンジ圧縮”の設定およびダイアログノーマライゼーションを有効にした内容で出力します。
オフ:	“ダイナミックレンジ圧縮”の設定およびダイアログノーマライゼーションが無効になり、ディスクに記録されている信号をそのまま出力します。

- “ラウドネスマネージメント”は、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD または Dolby Atmos 信号を入力しているときに設定できます。

■ ダイナミックレンジ圧縮

ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を圧縮します。

オート:	再生するソースによってダイナミックレンジの圧縮を自動でオン/オフします。
弱 / 中 / 強:	ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。
オフ:	ダイナミックレンジを圧縮しません。

- “ダイナミックレンジ圧縮”は、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Dolby Atmos または DTS 信号を入力しているときに設定できます。
- お買い上げ時の設定は“オフ”です。入力信号が Dolby TrueHD および Dolby Atmos ソースの場合、お買い上げ時の設定は“オート”になります。
- DTS 信号を入力しているときは、“オート”に設定できません。

■ ダイアログコントロール

映画のせりふや音楽のボーカルの音量を調節し、聴きやすくします。

0～6（お買い上げ時の設定：0）

- ダイアログコントロール機能に対応した DTS:X 信号を入力しているときに設定できます。

■ LFE

低域信号（LFE）レベルを調節します。

-10 dB～0 dB（お買い上げ時の設定：0 dB）

- 各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。
  - Dolby Digital ソース：0 dB
  - DTS の映画ソース：0 dB
  - DTS の音楽ソース：－10 dB

■ センターの広がり

センターチャンネルの音声をフロント左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。主にステレオ音楽コンテンツの再生に最適なサラウンド効果を与えます。

オン：	“センターの広がり”を使用します。
オフ（お買い上げ時の設定）：	“センターの広がり”を使用しません。

- サウンドモードが“Dolby Surround”のときに設定できます。

■ DTS Neural:X

DTS Neural:X は、DTS:X 信号に含まれるチャンネルベース信号を抽出し、ご使用のスピーカーの設置環境に合わせて最適なサラウンド効果を与えます。

オン（お買い上げ時の設定）：	“DTS Neural:X”を使用します。
オフ：	“DTS Neural:X”を使用しません。

- サウンドモードが“DTS:X”または“DTS:X MSTR”のときに設定できます。

■ Auro-Matic 3D プリセット

特定の音声素材に合わせて Auro-3D を効果的に再生するために調整されたプリセットです。

小:	コメディなどのせりふを多く含む映画や、ポップミュージックや室内楽に最適なプリセットです。
標準 (お買い上げ時の設定):	ジャズ音楽や一般的な映画、テレビ番組に最適なプリセットです。
大:	オーケストラや大きな爆発音のシーンがあるアクション映画など、大きなスペースで収録されたコンテンツに最適なプリセットです。
スピーチ:	ニュース放送などほとんどが対話で空間情報を持たないようなコンテンツに最適なプリセットです。

- サウンドモードが“Auro-3D”のときに設定できます。
- 入力信号にハイトチャンネルを含む Auro-3D 信号が含まれている場合は設定できません。

■ Auro-Matic 3D レベル

もとの入力信号に対してアップミックスチャンネルのレベルを変更します。
値は 1(アップミックスなし)から 16(最大効果)の範囲で設定できます。

1～16(お買い上げ時の設定:10)

- サウンドモードが“Auro-3D”のときに設定できます。
- 入力信号にハイトチャンネルを含む Auro-3D 信号が含まれている場合は設定できません。

■ ディレイタイム

映像に対する音声の遅延時間を調節し、音場イメージを広げます。

0 ms～300 ms（お買い上げ時の設定：30 ms）

- サウンドモードが“Matrix”のときに設定できます。

■ エフェクトレベル

音響効果のレベルを調節します。

1～15（お買い上げ時の設定：10）

- サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。

■ ルームサイズ

音場空間の大きさのイメージを設定します。

小：	小さな音場空間のイメージ
やや小：	やや小さな音場空間のイメージ
標準（お買い上げ時の設定）：	標準的な音場空間のイメージ
やや大：	やや大きな音場空間のイメージ
大：	大きな音場空間のイメージ

- “ルームサイズ”は、再生する部屋の大きさをあらわすものではありません。

■ スピーカー選択

音声を出力するスピーカーを設定します。

フロア:	ハイトスピーカーを使用せずに再生します。
フロア＆ハイト (お買い上げ時の設定):	ハイトスピーカーを使用して再生します。

- サウンドモードがオリジナルサウンドモードときは設定できません。

■ サブウーハー

サブウーハー出力のオン/オフを設定します。

オン (お買い上げ時の設定):	サブウーハーを使用します。
オフ:	サブウーハーを使用しません。

- サウンドモードが“Direct”または“Stereo”で、メニューの“サブウーハーモード”の設定が“LFE+メイン”のときに設定できます。(☞240 ページ)

■ 初期化

“サラウンドパラメーター”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

リストアラー

MP3、WMA（Windows Media Audio）や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。“リストアラー”は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生できます。

■ モード

強:	高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。（64kbps 以下）
中:	圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します。（96kbps 以下）
弱:	高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。（96kbps 以上）
オフ:	“リストアラー”を使用しません。

- アナログ入力や PCM 信号（サンプリング周波数=44.1/48kHz）が入力されたときに設定できます。
- 入力ソースが、“HEOS Music”のときのお買い上げ時の設定は、“弱”です。それ以外の入力ソースのお買い上げ時の設定は、すべて“オフ”です。
- サウンドモードが“Direct”または“Pure Direct”のときは設定できません。
- “リストアラー”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

オーディオディレイ

映像と音声のタイミングがずれているときに、音声の出力タイミングを調節します。

- メニューの“ビデオモード”が“オート”または“ゲーム”のときは、ゲームモード用のオーディオディレイ値を設定できます。(☞202 ページ)
- “オーディオディレイ”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

■ オートリップシンク

オートリップシンク機能対応のテレビからの情報に基づいて、映像と音声のタイミングのずれを自動的に補正します。

オン (お買い上げ時の設定):	自動的に補正します。
オフ:	自動的に補正しません。

- ご使用のテレビによっては、“オートリップシンク”を“オン”に設定しても、自動補正されない場合があります。

■ 調整

手動で映像と音声の出力タイミングのずれを補正します。

0 ms～500 ms(お買い上げ時の設定:0 ms)

- “オートリップシンク”で補正されたディレイ値を微調整することもできます。
- メニューの“ビデオモード”設定が“オート”または“ゲーム”のときに、ゲームモード用ディレイ値の調整ができます。(☞202 ページ)

音量

メインゾーン(本機のある部屋)の音量に関する設定をします。

■ 表示方法

音量の表示方法を設定します。

0 – 98 (お買い上げ時の設定):	0(最小)〜98 の範囲で表示します。
-79.5 dB - 18.0 dB:	---dB(最小)、-79.5dB〜18.0dB の範囲で表示します。

- "表示方法"の設定は、すべてのゾーンに反映します。

■ 音量の上限

音量の上限を設定します。

60(-20 dB)/ 70(-10 dB)/ 80(0 dB)
オフ (お買い上げ時の設定)

- "表示方法"の設定が"-79.5 dB - 18.0 dB"のときに dB 値を表示します。(☞188 ページ)

■ 電源オン時の音量

電源をオンにしたときの音量を設定します。

前回の音量 (お買い上げ時の設定):	前回使用したときの音量になります。
消音:	常に消音状態になります。
1 – 98 (-79 dB – 18 dB):	設定した音量になります。

- "表示方法"の設定が"-79.5 dB - 18.0 dB"のときに dB 値を表示します。(☞188 ページ)

■ ミューティングレベル

ミューティング時の音量の減衰量を設定します。

消音 (お買い上げ時の設定):	消音状態になります。
-40 dB:	現在の音量から 40dB 下げて再生します。
-20 dB:	現在の音量から 20dB 下げて再生します。

バイリンガルモード

AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声を再生するときの出力内容を設定します。

■ モード

主音声 (お買い上げ時の設定):	主音声のみ出力します。
副音声:	副音声のみ出力します。
主/副:	主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。
主+副:	主音声と副音声をミックスして出力します。

Audyssey®

Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume®および Audyssey LFC™の設定をします。これらの設定は、Audyssey®セットアップをおこなったあとに設定できます。
Audyssey 技術に関する詳細な情報については、「用語の解説」(☞319 ページ)をご覧ください。

- "MultEQ® XT32"、"Dynamic EQ"、"リファレンスオフセット"、"Dynamic Volume"、"Audyssey LFC™"および"抑制量"の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- サウンドモードが"Direct"または"Pure Direct"の場合、"MultEQ® XT32"、"Dynamic EQ"、"Dynamic Volume"および"Audyssey LFC™"の設定はできません。
- サウンドモードが"DTS Virtual:X"またはサウンドモード名に"+Virtual:X"を含む場合、"Dynamic EQ"、"Dynamic Volume"および""Audyssey LFC™"の設定はできません。

■ MultEQ® XT32

MultEQ® XT32 は、Audyssey®セットアップの測定結果に基づき、リスニング環境における時間特性と周波数特性の両方を補正します。3 種類の補正カーブから選択できます。
“Reference”に設定することをおすすめします。

Reference （お買い上げ時の設定）:	映画コンテンツに最適になるように補正します。
L/R Bypass:	フロントスピーカー以外のスピーカーを最適に補正します。
Flat:	スピーカーとリスニングポイントとの距離が近い、小さめの部屋に最適となるように補正します。
オフ:	“MultEQ® XT32” を使用しません。

- ヘッドホン使用時、“MultEQ® XT32” の設定は自動的に“オフ”になります。

■ Dynamic EQ

人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。
MultEQ® XT32 と連動して動作します。

オン （お買い上げ時の設定）:	“Dynamic EQ”を使用します。
オフ:	“Dynamic EQ”を使用しません。

- メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときは、“トーンコントロール”の調節はできません。（☞135 ページ）

■ リファレンスオフセット

作成されたコンテンツに対して、オフセットレベルの設定が可能です。

Audyssey Dynamic EQ®は、一般的なフィルム(映画など)のミキシングレベルをリファレンスとしています。音量レベルが0dB から下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に補正します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。Dynamic EQ は、フィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定(5dB/10dB/15dB)が可能です。コンテンツに対する推奨の設定レベルは、次のようになります。

0 dB (フィルムリファレンス) (お買い上げ時の設定):	映画などのコンテンツに最適です。
5 dB:	クラッシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。
10 dB:	ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。
15 dB:	ポップやロックなどの非常に高い音量レベルのコンテンツや、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。

- メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときに設定できます。(☞190 ページ)

■ Dynamic Volume

テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの差など)をお好みの音量設定値に自動的に調節します。

MultEQ® XT32 と連動して動作します。

Heavy:	音量レベルを最大に設定します。すべての音を一定の大きさにします。
Medium:	音量レベルを中間に設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。
Light:	音量レベルを最小に設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。
オフ (お買い上げ時の設定):	“Dynamic Volume”を使用しません。

- “Audyssey®セットアップ”で“Dynamic Volume”を“はい”に設定した場合は、自動的に“Medium”になります。(☞213 ページ)

■ Audyssey LFC™

低音周波数帯域を調節し、隣の部屋に低音や振動が漏れることを防ぎます。

MultEQ® XT32 と連動して動作します。

オン:	"Audyssey LFC™" を使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	"Audyssey LFC™" を使用しません。

■ 抑制量

抑制する低域の量を調節します。隣の部屋に低音が漏れるのを防ぎたい場合は、より高い値を設定してください

1～7(お買い上げ時の設定:4)

- メニューの "Audyssey LFC™" の設定が "オン" のときに設定できます。

グラフィックEQ

グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。

- 設定可能なスピーカーは、サウンドモードによって異なります。
- "MultEQ® XT32" の設定が "オフ" のときに設定できます。(☞190 ページ)
- サウンドモードが "Direct" または "Pure Direct" のときは設定できません。
- ヘッドホンをご使用の場合は、ヘッドホン用のイコライザーを設定できます。(☞192 ページ)

■ グラフィックEQ / ヘッドホンEQ

グラフィックイコライザーを使用するかしないかを設定します。

オン:	グラフィックイコライザーを使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	グラフィックイコライザーを使用しません。

- ヘッドホンを使用しているとき、メニュー項目は "ヘッドホン EQ" になります。

■ スピーカーの選択方法

スピーカーの音色の調節を個々におこなうか、まとめておこなうかを選択します。

すべて:	すべてのスピーカーの音色をまとめて調節します。
左/右 (お買い上げ時の設定):	左右のスピーカーの音色をまとめて調節します。
各スピーカー:	スピーカーごとに音色を調節します。

■ EQ 調節

周波数帯域ごとの音色を調節します。

1. スピーカーを選ぶ。
2. 調節する周波数帯を選ぶ。
   63 Hz / 125 Hz / 250 Hz / 500 Hz / 1 kHz / 2 kHz / 4 kHz / 8 kHz / 16 kHz
3. レベルを調節する。
   –20.0 dB～+6.0 dB(お買い上げ時の設定:0.0 dB)

- フロント Dolby、サラウンド Dolby およびバック Dolby スピーカーは、63 Hz/125 Hz/250 Hz/500 Hz/1 kHz のみ設定できます。

■ カーブコピー

Audyssey®セットアップで作られた Flat の補正カーブをコピーします。

- “カーブコピー”は、Audyssey®セットアップをおこなったあとに表示します。
- ヘッドホンをご使用の場合は、“カーブコピー”はできません。

■ 初期化

“グラフィック EQ”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

ビデオ

映像に関する設定をします。

画質調整

映像の画質を調節します。

- メニューの“ビデオコンバージョン”の設定が“オン”のときに設定できます。(☞202 ページ)
- 各入力ソースに“HDMI”、“COMP”または“VIDEO”を割り当てているときに設定できます。(☞210 ページ)
- “コントラスト”、“ブライトネス”、“色の濃さ”、“ノイズ除去”および“エンハンサー”は、“ピクチャーモード”の設定が“カスタム”のときに設定できます。(☞194 ページ)
- “画質調整”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- “画質調整”は、4K のビデオ信号入力時は設定できません。

■ ピクチャーモード

ビデオコンテンツや視聴環境に合わせて、お好みのピクチャーモードを選択します。

スタンダード:	リビングルームの視聴環境に適した標準のモードです。
ムービー:	シアタールームなどの暗い部屋で映画を鑑賞するのに適したモードです。
ビビッド:	ゲームなどのグラフィック画面に対して、より明るく、鮮やかにするモードです
ストリーミング:	低ビットレートのビデオソースに適したモードです。
ISF Day:	昼間の明るい部屋などで視聴するのに適したモードです。
ISF Night:	夜間の暗い部屋などで視聴するのに適したモードです。
カスタム:	画質調整を手動でおこないます。
オフ (お買い上げ時の設定):	本機による画質調整をおこないません。

- “ISF Day”および“ISF Night”の 2 つのモードは、ISF 認定を受けた映像技術者が専用の調整モードを用いることで、設置条件に合わせたカラーキャリブレーション調整をおこなうことができます。ISF 認定の技術者による設定と調整をおこなうことをおすすめします。
- オプションメニューの“ピクチャーモード”でも設定できます。(☞194 ページ)

■ コントラスト

映像の明暗の差を調節します。

-50～+50(お買い上げ時の設定:0)

■ ブライトネス

映像の明るさを調節します。

-50～+50(お買い上げ時の設定:0)

■ 色の濃さ

色の濃さを調節します。

-50～+50(お買い上げ時の設定:0)

■ ノイズ除去

映像全体のノイズを軽減します。

弱 / 中 / 強 / オフ(お買い上げ時の設定:オフ)

■ エンハンサー

映像の輪郭を強調します。

0～+12(お買い上げ時の設定:0)

HDMI 設定

HDMI オーディオ出力、HDMI パススルーおよび HDMI コントロールの設定をします。

ご注意

- "HDMI パススルー"および"HDMI コントロール"を"オン"に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。(「HDMI パススルー」(☞196 ページ)、「HDMI コントロール」(☞198 ページ))長期間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜くことをおすすめします。

■ HDMI オーディオ出力

HDMI の音声の出力先を設定します。

AV アンプ (お買い上げ時の設定):	本機に接続したスピーカーで再生します。
テレビ:	本機に接続したテレビで再生します。

- HDMI コントロール機能が動作しているときは、本機に接続したテレビの音声設定を優先します。(☞153 ページ)
- "HDMI オーディオ出力"の設定が"テレビ"で本機の電源が入っている場合、HDMI 出力端子から 2 チャンネルの音声を出力します。

■ HDMI パススルー

本機がスタンバイのときに、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力する設定をします。

オン (お買い上げ時の設定):	本機がスタンバイのときでも、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力します。
オフ:	本機がスタンバイのときに、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力しません 。

■ パススルーソース

本機がスタンバイのときに、HDMI 信号を入力する HDMI 端子を設定します。

最後のソース（お買い上げ時の設定）:	前回使用していた入力ソースのままスタンバイします。
CBL/SAT / DVD / Blu-ray / Game / AUX1 / AUX2 / Media Player / CD*:	選択した入力ソースをパススルーします。

＊ “入力端子の割り当て”の設定で、CD に HDMI 端子が割り当てられているときのみ、“パススルーソース”を“CD”に設定できます。（☞209 ページ）

- “パススルーソース”は、“HDMI コントロール”が“オン”のとき、または“HDMI パススルー”の設定が“オン”のときに設定できます。（「HDMI パススルー」（☞196 ページ）、「HDMI コントロール」（☞198 ページ））

■ スタンバイ時のソース選択

本機がスタンバイ状態のときに、リモコンの入力ソース選択ボタンで本機の電源をオンにするかどうかを設定します。

電源オン+入力ソース選択（お買い上げ時の設定）:	本機の電源をオンして、入力ソースを切り替えます。
入力ソース選択のみ:	本機はスタンバイ状態のまま HDMI の入力ソースを切り替えます。リモコンの入力ソース選択ボタンを受け付けたときに、本機の電源表示が点滅します。

- “スタンバイ時のソース選択”は、“HDMI コントロール”が“オン”のとき、または“HDMI パススルー”の設定が“オン”のときに設定できます。（「HDMI パススルー」（☞196 ページ）、「HDMI コントロール」（☞198 ページ））

■ HDMI コントロール

HDMI 接続した HDMI コントロール対応機器と連動して操作できます。

オン:	HDMI コントロール機能を使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	HDMI コントロール機能を使用しません。

- HDMI コントロール機能を使用する場合は、HDMI MONITOR 1 端子と HDMI コントロール対応のテレビを接続してください。
- 接続した機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI コントロール機能については、「HDMI コントロール機能」をご覧ください。(☞153 ページ)

ご注意

- "HDMI コントロール"の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。

■ ARC

ARC 機能を使用し、HDMI MONITOR 1 端子に接続されているテレビから、HDMI 経由でテレビの音声を受信するかどうかを設定します。

オン:	ARC 機能を使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	ARC 機能を使用しません。

- テレビのリモコンで本機の音量を調節できます。
- この機能を使用する場合は、ARC (Audio Return Channel)に対応したテレビを使用し、テレビの HDMI コントロール機能を有効にしてください。
- "HDMI コントロール"の設定を"オン"にすると、"ARC"の設定は自動的に"オン"になります。(☞198 ページ)

ご注意

- "ARC"の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。
- eARC 機能対応のテレビをご使用になる場合は、メニューの"ARC"の設定に関わらず、テレビからの音声を本機に接続されたスピーカーで聞くことができます。

■ TV Audio 切り替え

HDMI ケーブルで接続したテレビから、CEC コマンドを受信したとき、自動的に入力ソースを“TV Audio”に切り替えるかどうかを設定します。

オン （お買い上げ時の設定）:	テレビからのコマンドを受信すると自動的に入力ソースを“TV Audio”にします。
オフ:	テレビからのコマンドを受信すると自動的に入力ソースを“TV Audio”にしません。

- “TV Audio 切り替え”は“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。(☞198 ページ)

■ パワーオフコントロール

テレビの電源オフに連動して、本機の電源をスタンバイにします。

すべて （お買い上げ時の設定）:	本機の入力ソースに関わらず、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。
ビデオ:	“HDMI”、“COMP”または“VIDEO”のいずれかが割り当てられている入力ソースのときに、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。(☞210 ページ)
オフ:	本機はテレビの電源に連動しません。

- “パワーオフコントロール”は“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。(☞198 ページ)

■ 省電力

テレビの音声出力先の設定を“テレビスピーカー”にした場合、自動的に本機をスタンバイモードにし、消費電力を抑えます。

この機能は次のときに動作します。

- 本機の入力ソースが“TV Audio”のとき
- HDMI 接続されている機器のコンテンツを視聴しているとき

オン:	省電力機能を使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	省電力機能を使用しません。

- “省電力”は“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。(☞198 ページ)

■ スマートメニュー

本機能を使用すると、テレビのリモコンを使用して、本機の設定や入力ソースの選択、チューナーやインターネットラジオの選局ができます。

オン:	スマートメニュー機能を使用します。
オフ:	スマートメニュー機能を使用しません。

- “スマートメニュー”は“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。(☞198 ページ)

ご注意

- “スマートメニュー”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。
- ご使用のテレビの仕様によっては、スマートメニュー機能が正しく動作しない場合があります。このような場合は、“スマートメニュー”の設定を“オフ”にしてご使用ください。

ビデオ出力の設定

映像出力に関する設定をします。

- 各入力ソースに“HDMI”、“COMP”または“VIDEO”を割り当てているときに設定できます。(☞210 ページ)
- “解像度”、“シャープネス”、“プログレッシブモード”および“アスペクト比”は、“i/p スケーラー”の設定が“オフ”以外のときに設定できます。(「解像度」(☞203 ページ)、「シャープネス」(☞203 ページ)、「プログレッシブモード」(☞204 ページ)、「アスペクト比」(☞204 ページ))
- “ビデオ出力の設定”は、4K のビデオ信号入力時は設定できません。
- “ビデオコンバージョン”、“i/p スケーラー”、“解像度”、“シャープネス”、“プログレッシブモード”および“アスペクト比”の設定は、入力ソースごとに記憶します。(「ビデオコンバージョン」(☞202 ページ)、「i/p スケーラー」(☞202 ページ)、「解像度」(☞203 ページ)、「シャープネス」(☞203 ページ)、「プログレッシブモード」(☞204 ページ)、「アスペクト比」(☞204 ページ))

■ HDMI ビデオ出力

使用する HDMI モニター端子を選択します。

オート(デュアル) (お買い上げ時の設定):	HDMI MONITOR 1 または HDMI MONITOR 2 端子に接続されたテレビを自動的に認識して使用します。
モニター 1:	HDMI MONITOR 1 端子に接続されたテレビを常に使用します。
モニター 2:	HDMI MONITOR 2 端子に接続されたテレビを常に使用します。

- HDMI MONITOR 1 および HDMI MONITOR 2 端子にテレビを接続した場合、“解像度”の設定が“オート”のときは、両方のテレビが対応している解像度で出力します。(☞203 ページ)
  メニューの“解像度”の設定が“オート”以外のときは、“ビデオ” - “HDMI モニター 1”および“HDMI モニター 2”で、両方のテレビが対応している解像度に設定してください。(☞263 ページ)
- テレビが対応している解像度は、“HDMI モニター 1”および“HDMI モニター 2”で確認できます。(☞263 ページ)
- 2 台の Dolby Vision 対応テレビを接続する場合、映像信号は片方のテレビにのみ最適化されます。HDMI MONITOR 1 端子に接続されたテレビを優先します。

■ ビデオモード

映像コンテンツの種類に合わせて映像処理のしかたを設定します。

オート （お買い上げ時の設定）:	HDMI のコンテンツ情報に基づく映像処理を自動でおこないます。
ゲーム:	ゲームコンテンツに適した映像処理をおこないます。ゲーム機のコントローラーのボタン操作に対して映像が遅れている場合に、映像の遅れを最小にします。
ムービー:	ゲーム以外のコンテンツに適した映像処理をおこないます。

- “ビデオモード”の設定が“オート”の場合は、入力されたコンテンツに応じてモードが切り替わります。

■ ビデオコンバージョン

入力された映像信号を接続されたテレビに合わせて自動的に変換します。(☞305 ページ)

オン （お買い上げ時の設定）:	入力された映像信号を変換します。
オフ:	入力された映像信号を変換しません。

■ i/p スケーラー

i/p スケーラー処理をおこなう映像入力信号を設定します。
i/p スケーラーは、入力された映像信号の解像度を“解像度”で設定した値に変換します。(☞203 ページ)

アナログ （お買い上げ時の設定）:	アナログ映像入力信号に対して、i/p スケーラー機能を使用します。
アナログ＆HDMI:	アナログ映像入力信号と HDMI 入力信号に対して i/p スケーラー機能を使用します。
HDMI:	HDMI 映像入力信号に対して i/p スケーラー機能を使用します。
オフ:	i/p スケーラー機能を使用しません。

■ 解像度

出力する解像度を設定します。“解像度”は、アナログビデオ入力と HDMI 入力の HDMI 出力に対してそれぞれ設定できます。

オート （お買い上げ時の設定）:	HDMI MONITOR OUT 端子に接続しているテレビが対応している解像度を自動的に検出し、適切な解像度で出力します。
480p/576p / 1080i / 720p / 1080p / 1080p:24Hz / 4K / 4K(60/50):	出力したい解像度を選択します。

- “i/p スケーラー”の設定が“アナログ＆HDMI”のときは、アナログ映像入力信号と HDMI 映像入力信号の解像度をそれぞれ設定できます。(☞202 ページ)
- “1080p:24Hz” に設定すると、フィルムソース(24Hz)のときに、フィルムライクな映像を楽しむことができます。ビデオソースやミックスソースの場合は、“1080p” に設定することをおすすめします。
- 50Hz の信号を 1080p/24Hz へ変換することはできません。1080p/50Hz の解像度で出力します。

■ シャープネス

ビデオ信号を 4K にアップスケーリングするときに、画像の輪郭を強調するシャープネス機能を使用するかどうかを設定します。

オン:	シャープネス機能を使用します。低解像度のビデオ信号を 4K にアップスケーリングするときに、画像の輪郭をはっきりさせるのに適しています。
オフ （お買い上げ時の設定）:	シャープネス機能を使用しません。

- “i/p スケーラー”の設定が“オフ”以外のときに設定できます。(☞202 ページ)
- テレビのシャープネス機能を 0 に設定している場合にのみ使用することをおすすめします。

■ プログレッシブモード

映像素材に最適なプログレッシブモードを選択します。

オート （お買い上げ時の設定）:	映像の素材を自動的に検出し、適切なモードを設定します。
ビデオ:	ビデオ素材の再生に適しています。
ビデオ&フィルム:	ビデオ素材や 30 フレームのフィルム素材の再生に適しています。

- “i/p スケーラー”の設定が“オフ”以外のときに設定できます。
（☞202 ページ）

■ アスペクト比

HDMI 端子へ出力する映像信号のアスペクト比（縦横比）を設定します。

16:9 （お買い上げ時の設定）:	16:9 のアスペクト比で出力します。
4:3:	16:9 のテレビの画面左右に黒帯をつけて 4:3 のアスペクト比で出力します。（ただし、480p/576p 出力時は除きます。）

- “i/p スケーラー”の設定が“オフ”以外のときに設定できます。
（☞202 ページ）

コンポーネントビデオ出力

COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子を使用するゾーンを割り当てます。

メインゾーン (お買い上げ時の設定):	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子をメインゾーンで使用します。
ゾーン 2:	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子をゾーン 2 で使用します。

オンスクリーンディスプレイ

オンスクリーンディスプレイに関する設定をします。

■ 音量

音量の表示に関する設定をします。

下 (お買い上げ時の設定):	画面の下部に表示します。
上:	画面の上部に表示します。
オフ:	表示しません。

- 音量表示が映画の字幕に重なって見づらい場合は、"上"に設定してください。

■ 情報

入力ソースの切り替えなど情報表示の設定をします。

オン (お買い上げ時の設定):	情報を表示します。
オフ:	情報を表示しません。

■ 再生画面

入力ソースが“HEOS Music”または“Tuner”のときの再生画面の表示時間を設定します。

常時オン （お買い上げ時の設定）:	常に表示します。
オートオフ:	操作したときに約 30 秒間表示します。

4K 信号フォーマット

本機に接続しているテレビや再生機器が HDMI 4K（60Hz/50Hz）信号に対応しているときに、本機で再生する 4K 信号のフォーマットを設定します。

■ 4K 信号フォーマット

本機で再生する 4K 信号のフォーマットを設定します。

標準 （お買い上げ時の設定）:	ご使用のテレビと再生機器が標準的な 4K フォーマット（4K 60p 4:2:0 8bit）の映像信号に対応しているときに選択します。
拡張:	ご使用のテレビと再生機器、HDMI ケーブルが高精細な 4K フォーマット（4K 60p 4:4:4、4:2:2 および 4K 60p 4:2:0 10bit）の映像信号に対応しているときに選択します。

【“4K 信号フォーマット”の設定と対応する解像度の関係】

対応解像度	カラースペース	ビット数	4K 信号フォーマット	
			拡張	標準（お買い上げ時の設定）
4K 24p、4K 30p、4K 25p	RGB / YCbCr 4:4:4	8bit	✓	✓
		10、12bit	✓	–
	YCbCr 4:2:2	12bit	✓	✓
4K 60p、4K 50p	YCbCr 4:2:0	8bit	✓	✓
		10、12bit	✓	–
	RGB / YCbCr 4:4:4	8bit	✓	–
	YCbCr 4:2:2	12bit	✓	–

- この設定を“拡張”に設定したときは、“HDMI Premium Certified Cable”ラベルが製品のパッケージに貼られている“Premium High Speed HDMI Cable”または“Premium High Speed HDMI Cable with Ethernet”のご使用をおすすめします。
- この設定を“拡張”に設定したときは、テレビや再生機器の設定も合わせて設定してください。
- この設定を“拡張”に設定したとき、接続した再生機器や HDMI ケーブルによっては正しく映像が出力されない場合があります。このような場合は、“標準”に設定してください。
- 当社のサービスエンジニアやカスタムインストーラーが本機の HDMI 信号フォーマットの設定をおこなっている場合は、設定項目に“カスタム”を表示します。
- “4K 信号フォーマット”は、次の操作でも設定できます。この設定中は、メニュー画面を表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。

1. 本機の電源が入っているときに、本体の STATUS と ZONE3 SOURCE を同時に 3 秒以上長押しする。
   ディスプレイに“∗Video Format <NTSC>”を表示します。
2. 本体の △ または ▽ を押す。
   ディスプレイに“4K Format:<Standard>”を表示します。
3. 本体の ◁ または ▷ を押して、“4K 信号フォーマット”を選ぶ。
4. 本体の ENTER を押して、設定を終了する。

TV フォーマット

ご使用になるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。

■ フォーマット

NTSC （お買い上げ時の設定）:	NTSC 方式で出力します。
PAL:	PAL 方式で出力します。

- “フォーマット”は、次の操作でも設定できます。このとき、メニュー画面を表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。
  1. 本機の電源が入っているときに、本体の STATUS と ZONE3 SOURCE を同時に 3 秒以上長押しする。
     ディスプレイに“∗Video Format <NTSC>” を表示します。
  2. 本体の ◁ または ▷ を押して、映像信号方式を選ぶ。
  3. 本体の ENTER を押して、設定を終了する。

ご注意

- 接続されたテレビの映像方式と異なる方式に設定すると、映像は正しく表示されません。

入力ソース

現在選択している入力ソースに関する設定をします。
設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

入力端子の割り当て

本機の音声/映像入力端子に印字された入力ソースのとおりに接続をおこなうと、入力ソース切り替えボタンを押すだけで、接続した機器の音声や映像を簡単に再生できます。

本機の音声/映像入力端子に印字された入力ソースと異なる接続をおこなう場合は、この項目で、HDMI 入力端子、デジタルオーディオ入力端子、アナログオーディオ入力端子、コンポーネントビデオ入力端子およびビデオ入力端子の割り当てを変更してください。

- 各項目のお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入力ソース	入力端子			
	HDMI	DIGITAL	ANALOG	VIDEO
CBL/SAT	1	COAX1	1	VIDEO1
DVD	2	COAX2	2	COMP1
Blu-ray	3	–	3	VIDEO2
Game	4	–	4	VIDEO3
Media Player	5	OPT2	–	COMP2
TV Audio	–	OPT1	–	–
AUX1	FRONT	–	–	–
AUX2	6	–	–	–
CD	–	–	5	–

❑ 衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーを設定する際のご注意

テレビや衛星放送チューナーをデジタルオーディオ出力端子に接続する場合：
“入力端子の割り当て” - “DIGITAL”で割り当てた音声信号と、“HDMI”で割り当てた映像信号を組み合わせて再生する場合は、“入力モード”を“デジタル”に設定してください。(☞212 ページ)

■ HDMI

入力ソースに割り当てられている HDMI 入力端子を変更するときに設定します。

1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 / FRONT:	選択した入力ソースに、いずれかの HDMI 入力端子を割り当てます。
–:	選択した入力ソースに HDMI 入力端子を割り当てません。

- メニューの“HDMI コントロール”または“ARC”を“オン”に設定している場合は、“TV Audio”に“HDMI”を割り当てることはできません。(「 HDMI コントロール 」(☞198 ページ)、「 ARC 」(☞198 ページ))
- 入力ソースの“TV Audio”に“HDMI”を割り当てた場合、eARC 機能は動作しません。

■ DIGITAL

入力ソースに割り当てられているデジタルオーディオ入力端子を変更するときに設定します。

COAX1（Coaxial）/ COAX2 / OPT1（Optical）/ OPT2:	選択した入力ソースにデジタルオーディオ入力端子を割り当てます。
–:	選択した入力ソースにデジタルオーディオ入力端子を割り当てません。

■ ANALOG

入力ソースに割り当てられているアナログオーディオ入力端子を変更するときに設定します。

1 / 2 / 3 / 4 / 5:	選択した入力ソースにアナログオーディオ入力端子を割り当てます。
–:	選択した入力ソースにアナログオーディオ入力端子を割り当てません。

■ VIDEO

入力ソースに割り当てられているコンポーネントビデオ入力端子およびビデオ入力端子を変更するときに設定します。

COMP1（コンポーネントビデオ）/ COMP2 / VIDEO1 / VIDEO2 / VIDEO3:	選択した入力ソースにビデオ入力端子を割り当てます。
–:	選択した入力ソースにビデオ入力端子を割り当てません。

■ 初期化

“入力端子の割り当て”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

入力ソース名の変更

選択した入力ソースの表示名を変更します。
ご使用の機器名と本機の入力ソース名が異なっている場合に便利です。お好みに合わせて変更できます。変更後は、本体のディスプレイとメニュー画面にその名前を表示します。

CBL/SAT / DVD / Blu-ray / Game / AUX1 / AUX2 / Media Player / CD / TV Audio / Phono:	選択した入力ソースの表示名を変更します。
初期化:	“入力ソース名の変更”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

- 12 文字まで入力できます。

使用ソースの選択

使用しない入力ソースを表示しないように設定します。

使用する（お買い上げ時の設定）:	選択した入力ソースを使用します。
使用しない:	選択した入力ソースを使用しません。

ソースレベル

選択した入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。
ソースによって再生レベルに差があるときなどに設定してください。

■ ソースレベル

❑ 入力ソースの設定が“HEOS Music”および“Tuner”のとき

–12 dB～+12 dB（お買い上げ時の設定：0 dB）

■ アナログ入力 / デジタル入力

❑ 入力ソースの設定が“HEOS Music”および“Tuner”以外のとき

–12 dB～+12 dB（お買い上げ時の設定：0 dB）

- メニューの“入力端子の割り当て”の設定で、“ANALOG”を割り当てた入力ソースに対してアナログ入力レベルを調節できます。（☞209 ページ）
- メニューの“入力端子の割り当て”の設定で、“DIGITAL”を割り当てた入力ソースに対してデジタル入力を調節できます。（☞209 ページ）
- “ソースレベル”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

オーディオ入力の選択

各入力ソースの音声入力モードを設定します。
選択できる入力モードは、入力ソースによって異なります。

- “オーディオ入力の選択”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

■ 入力モード

各入力ソースの音声入力モードを設定します。
通常は、“オート”に設定することをおすすめします。

オート（お買い上げ時の設定）：	本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。
HDMI：	HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。
デジタル：	デジタルオーディオ入力端子からの入力信号のみを再生します。
アナログ：	アナログオーディオ入力端子からの入力信号のみを再生します。

- デジタル信号を正しく入力すると、ディスプレイのDIG.表示が点灯します。DIG.表示が点灯しない場合は、“入力端子の割り当て”や接続を確認してください。（☞209 ページ）
- メニューの“HDMI コントロール”の設定が“オン”で、HDMI MONITOR 1 端子に ARC 対応テレビを接続している場合、入力ソースが“TV Audio”のときの入力モードは ARC 固定になります。
- HDMI MONITOR 1 端子に eARC 機能対応のテレビを接続している場合、入力ソースが“TV Audio”のときの入力モードは eARC 固定になります。

スピーカー

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。この機能を“Audyssey®セットアップ”と呼びます。

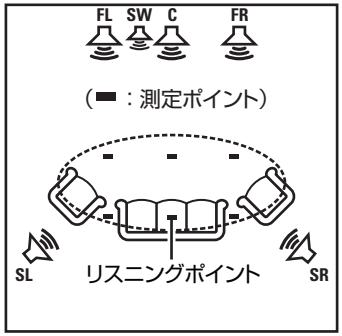
すでに“セットアップアシスタント”で“スピーカーの測定”をおこなっている場合、Audyssey®セットアップをおこなう必要はありません。

手動でスピーカーの設定をしたい場合は、メニューの“マニュアルセットアップ”でおこなってください。(☞224 ページ)

Audyssey®セットアップ

測定は、リスニングエリア全体の複数の位置にセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るためには、図のように 6 箇所以上(最大で 8 箇所)の測定をおこなうことをおすすめします。

2 箇所目以降の測定では、1 箇所目の測定位置(メインリスニングポイント)から 60cm 以内にセットアップマイクを設置してください。



FL フロントスピーカー(左)
FR フロントスピーカー(右)
C センタースピーカー
SW サブウーハー
SL サラウンドスピーカー(左)
SR サラウンドスピーカー(右)

- Audyssey®セットアップをおこなうと、Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume®および Audyssey LFC™の機能が有効になります。(☞189 ページ)

■ メインリスニングポイントについて

メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置または一人で視聴するときに座る位置です。Audyssey®セットアップをはじめる前に、セットアップマイクをメインリスニングポイントに設置してください。

Audyssey MultEQ® XT32 は、この位置から測定した値を用いて、スピーカーの距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

■ Audyssey Sub EQ HT™について

Audyssey Sub EQ HT™は、2 本のサブウーハーの音量レベルと距離を補正し、Audyssey MultEQ® XT32 の信号処理をおこなうことで、迫力のある低域サウンドを再現します。

Audyssey Sub EQ HT™をおこなうためには、“チャンネルセレクト”の設定で“測定(2 台)”を選択してください。(☞216 ページ)

ご注意

- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、電化製品(ラジオ、エアコン、蛍光灯など)の電源を切ってください。測定の際、これらの製品による騒音の影響を受ける場合があります。
- 測定中、携帯電話はリスニングルーム以外の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨げる原因になることがあります。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。また、セットアップマイクは壁から 50cm 以上離して設置してください。正しい測定ができません。
- 測定中にテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。リスニングルーム内の騒音が大きいほどテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中にリモコンの VOLUME ▲▼ または本体の MASTER VOLUME を操作すると、測定を中止します。
- ヘッドホンを接続している場合、測定はできません。Audyssey®セットアップをおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

スピーカー設定の流れ（Audyssey® セットアップ）

準備
↓
測定
↓
解析&保存
↓
解析結果の確認
↓
終了

1 セットアップマイクを三脚、または付属のマイクスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。

セットアップマイクを設置する場合は、マイクの先端を天井に向け、マイクの高さをリスナーが座ったときの耳の高さに合うように調節してください。

2 次の設定ができるサブウーハーをご使用の場合のみ、この設定をおこなってください。

❑ **ダイレクトモード機能があるサブウーハーをご使用の場合**

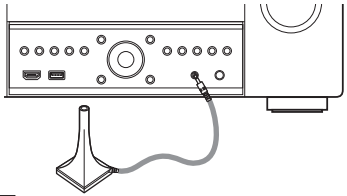
ダイレクトモード機能を“オン”にして、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

❑ **ダイレクトモード機能がないサブウーハーをご使用の場合**

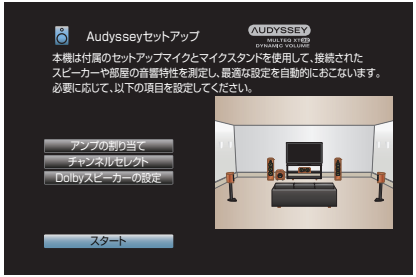
次のように設定してください。

- 音量の設定：12 時の位置
- クロスオーバー周波数の設定：最大/最高周波数
- ローパスフィルターの設定：オフ
- スタンバイモードの設定：オフ

3 セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。



セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。



4 “スタート”を選び、ENTER を押す。

Audyssey®セットアップでは、次の設定もできます。

- **アンプの割り当て**
  本機の HEIGHT1 および HEIGHT2 スピーカー端子は、ご使用になるスピーカー環境に合わせて出力する信号を切り替えることができます。(「 アンプの割り当て 」(☞224 ページ))
- **チャンネルセレクト**
  使用しないチャンネルをあらかじめ設定すると、設定したチャンネルの測定をスキップして、測定時間を短縮することができます。また、サブウーハーやサラウンドバックスピーカーの本数を変更することもできます。
- **Dolby スピーカーの設定**
  Dolby Atmos Enabled スピーカーから天井までの距離を設定します。
  これはフロント Dolby Atmos Enabled、サラウンド Dolby Atmos Enabled またはバック Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しているときに設定できます。

5 画面の指示に従って、“次へ”を選んで進める。

6 次の画面が表示されたら、“テスト開始”を選び、ENTER を押す。

1 箇所目の測定をはじめます。

- 測定には数分間かかります。

ご注意

- **テレビ画面に“注意！”が表示された場合:**
  - 「エラーメッセージについて」(☞221 ページ)をご覧ください。関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。
  - サブウーハーの音量が不適切な場合は、エラーメッセージが表示されます。「サブウーハーレベルのエラーメッセージと調節のしかた」(☞222 ページ)でサブウーハーの音量を調節してください。

7 検出されたスピーカーが表示されたら、“次へ”を選び、ENTER を押す。

8 2 箇所目にセットアップマイクを移動させ、“次へ”を選び、ENTER を押す。

2 箇所目の測定をはじめます。
最大 8 箇所まで測定できます。

❑ Audyssey®セットアップを中止するとき

① BACK を押して、ポップアップ画面を表示させる。
② ◁ を押して“有り”を選び、ENTER を押す。

9 手順 8 をくり返して 3〜8 箇所を測定する。

- 4 箇所目以降のリスニングポイントの測定を省略する場合は、◁ で“測定終了”を選択して ENTER を押し、手順 11 へ進んでください。

10 “次へ”を選び、ENTER を押す。

測定結果の解析および保存をはじめます。

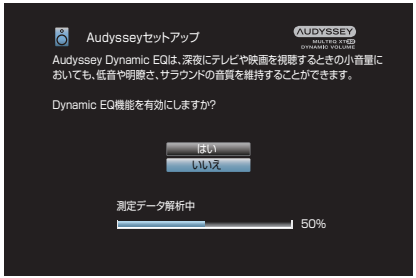
- 解析には数分間かかります。
  接続するスピーカーの数と測定箇所が多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

ご注意

- 測定結果の解析および保存中は、絶対に電源を切らないでください。

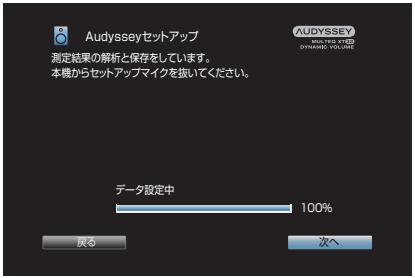
11 Audyssey Dynamic EQ®や Audyssey Dynamic Volume®の設定をする。

解析中に次の画面を表示します。お好みに合わせて設定してください。



- Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量が小さいときにも、明瞭に聴くことができるように周波数特性を補正します。
  深夜にテレビや映画を楽しむ場合など、音量を下げてご使用になる場合におすすめします。
- Dynamic Volume は、本機に入力した音声レベルを常にモニタリングしながら最適な出力音量に調節する機能です。
  テレビ番組の再生中にコマーシャルの音が急に大きく再生される場合などに、音のダイナミック感や明瞭感を損なうことなく適切な音量調節を自動的におこないます。

12 解析および保存が完了したら、本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜き、“次へ”を選ぶ。



13 測定結果を確認する場合は、"詳細"を選び ENTER を押す。

- サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。

ご注意

- Audyssey®セットアップをおこなったあとに、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。変更した場合は、最適なイコライザーの補正効果を得るために、もう一度 Audyssey®セットアップをおこなってください。

エラーメッセージについて

スピーカーの配置や測定環境などにより Audyssey®セットアップを完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。スピーカーの接続を確認するときは、必ず電源を切ってください。

エラーメッセージ(例)	エラーの内容	エラーの処理方法
スピーカーが見つかりませんでした。	• セットアップマイクが検出されない。 • 接続しているすべてのスピーカーが検出されない。	• 付属のセットアップマイクを、本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 • スピーカーの接続を確認してください。
雑音が大きすぎるため、測定ができません	• 部屋の騒音が大きい。 • スピーカーやサブウーハーの音量が小さい。	• 騒音を発生する機器の電源を切るか、機器を遠ざけてください。 • 周囲がより静かなときに再度おこなってください。 • スピーカーの配置や向きを確認してください。 • サブウーハーの音量を調節してください。
フロント右:無し	• 表示されたスピーカーが検出されない。	• 表示されたスピーカーの接続を確認してください。
フロント右:逆位相	• 表示されたスピーカーの位相が逆です。	• 表示されたスピーカーの極性を確認してください。 • スピーカーや部屋の環境によっては、正しく接続してもエラーメッセージが表示される場合があります。このような場合は、▷ を押して“続行”を選び、ENTER を押してください。

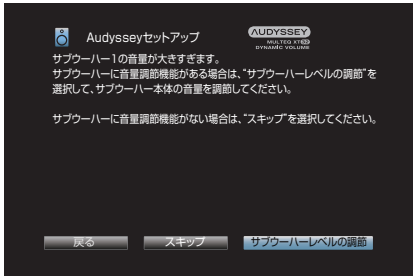
■ サブウーハーレベルのエラーメッセージと調節のしかた

Audyssey®セットアップ測定での各サブウーハーチャンネルの最適なレベルは、75dB です。

サブウーハーレベルの測定で、サブウーハーレベルが 72～78dB 以外のときにエラーメッセージを表示します。

アンプ(アクティブ型)を内蔵したサブウーハーを使用する場合は、サブウーハーレベルが 72～78dB の範囲内になるように、サブウーハーの音量を調整してください。

【 エラーメッセージ 】



1 **"サブウーハーレベルの調節"を選び、ENTER を押す。**

2 **お手持ちのサブウーハーの音量を測定レベルが 72～78dB 以内になるように調節する。**

3 **測定レベルが 72～78dB 以内になったら、"次へ"を選び、ENTER を押す。**

- サブウーハーを 2 台ご使用になる場合は、2 台目のサブウーハーの調整をはじめます。手順 2、3 をくり返してください。

Audyssey®セットアップの設定値に戻すとき

“再設定”で“はい”を選択すると、各設定を手動で変更した場合でも Audyssey®セットアップの測定結果(MultEQ® XT32 が当初計算した値)に戻すことができます。

マニュアルセットアップ

スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey®セットアップで測定した内容を変更するときにおこなってください。

- Audyssey®セットアップをおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®および Audyssey Dynamic Volume®の選択ができなくなります。(☞189 ページ)
- “マニュアルセットアップ”の設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

アンプの割り当て

ご使用のスピーカーシステムに合わせて、パワーアンプの割り当てを変更します。

■ アサインモード

パワーアンプの使用方法を設定します。
設定したモードによっては、スピーカー構成の詳細設定が必要になります。アサインモードを選んだあと、対応する詳細設定をおこなってください。

11.1ch:	• 本機内部の 9 チャンネルのパワーアンプとプリアウト端子に接続した外部のパワーアンプを使用し、最大 11.1 チャンネルで再生します。 • メインゾーン用に最大 11.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。

9.1ch （お買い上げ時の設定）:	• 本機内部のすべてのパワーアンプをメインゾーン用に割り当て、最大 9.1 チャンネルで再生します。 • メインゾーン用に最大 11.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。 入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 9.1 チャンネルで再生します。
7.1ch + ZONE2:	• ゾーン 2 用に本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分割り当てます。 • メインゾーン用に最大 9.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。 入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 7.1 チャンネルで再生します。
7.1ch + ZONE3:	• ゾーン 3 用に本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分割り当てます。 • メインゾーン用に最大 9.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。 入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 7.1 チャンネルで再生します。
5.1ch + ZONE2/3:	• ゾーン 2 用とゾーン 3 用に本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分ずつ割り当てます。
7.1ch + ZONE2/3-MONO:	• ゾーン 2 用とゾーン 3 用に、本機内部のパワーアンプを 1 チャンネル分ずつ割り当てます。 • メインゾーン用に最大 9.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。 入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 7.1 チャンネルで再生します。

7.1ch(Bi-Amp)：	• フロントスピーカーのバイアンプ接続用に、本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分割り当てます。 • メインゾーン用に最大 9.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。 入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 7.1 チャンネルで再生します。
5.1ch(Bi-Amp) + ZONE2：	• フロントスピーカーのバイアンプ接続用に、本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分割り当てます。 • ゾーン 2 用に本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分割り当てます。
7.1ch + Front B：	• 2 台目のフロントスピーカーの接続用に、本機内部のパワーアンプを 2 チャンネル分割り当てます。 • フロントスピーカー A またはフロントスピーカー B を切り替えて再生します。 フロントスピーカーの切り替えは、“フロントスピーカー”の設定でおこなってください。(☞241 ページ) • メインゾーン用に最大 9.1 チャンネルのスピーカーを接続することができます。 入力信号やサウンドモードに応じて、音声を出力するスピーカーを自動的に切り替えて、最大 7.1 チャンネルで再生します。

- メニューの“アサインモード”の設定が“7.1ch + ZONE2”、“7.1ch(Bi-Amp)”または“7.1ch + Front B”の場合、割り当てられたチャンネルは、HEIGHT2 スピーカー端子から出力されます。
- メニューのアサインモードの設定が“5.1ch(Bi-Amp) + ZONE2”の場合、バイアンプ接続用フロントチャンネルは HEIGHT1 スピーカー端子から出力され、ゾーン 2 チャンネルは HEIGHT2 スピーカー端子から出力されます。

■ フロア

❑ レイアウト

設置するフロアスピーカーを設定します。

5ch & SB （お買い上げ時の設定）:	基本の 5 チャンネルレイアウトに、サラウンドバックスピーカーを組み合わせたレイアウトです。
5ch:	フロント、センターおよびサラウンドスピーカーを使用した基本的な 5 チャンネルレイアウトです。

■ ハイト

❑ ハイトスピーカー

メインゾーンで使用するハイトおよび天井スピーカーの数を設定します。

無し:	ハイトおよび天井スピーカーを使用しません。
2ch:	ハイトまたは天井スピーカーを 1 組（2 台）使用します。
4ch （お買い上げ時の設定）:	ハイトまたは天井スピーカーを 2 組（4 台）使用します。
5ch:	ハイトスピーカーを 5 台使用します。*

* “5ch”を選択した場合は、トップサラウンドスピーカーを SUBWOOFER 2 プリアウト端子に接続してください。

❑ Dolby スピーカー

メインゾーンで使用する Dolby Atmos Enabled スピーカーの数を設定します。

無し （お買い上げ時の設定）:	Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しません。
2ch:	Dolby Atmos Enabled スピーカーを 1 組（2 台）使用します。
4ch:	Dolby Atmos Enabled スピーカーを 2 組（4 台）使用します。

❑ レイアウト

設置するハイト、天井または Dolby Atmos Enabled スピーカーの位置を設定します。
メニューの“アサインモード”と“フロア” - “レイアウト”の組み合わせによって、選択できるレイアウトが異なります。(「アサインモード」(☞224 ページ)、「フロア」-「レイアウト」(☞227 ページ))

設定				AUDIO OUT 端子	
ハイトスピーカー	Dolby スピーカー	ご注意	レイアウト	HEIGHT 1	HEIGHT 2
無し	無し		–	–	–
2ch	無し		フロントハイト	フロントハイト	–
			トップフロント	トップフロント	–
			トップミドル	トップミドル	–
			トップリア	トップリア	–
			リアハイト	リアハイト	–
4ch	無し	＊1	フロントハイト＆トップミドル	フロントハイト	トップミドル
			フロントハイト＆トップリア	フロントハイト	トップリア
			フロントハイト＆リアハイト ＊2	フロントハイト	リアハイト
			フロントハイト＆サラウンドハイト	フロントハイト	サラウンドハイト
			トップフロント＆トップリア（お買い上げ時の設定）	トップフロント	トップリア
			トップフロント＆リアハイト	トップフロント	リアハイト
			トップミドル＆リアハイト	トップミドル	リアハイト
無し	2ch		フロント Dolby	フロント Dolby	–
			サラウンド Dolby	サラウンド Dolby	–
			バック Dolby＊3	バック Dolby	–

＊1　メニューの“アサインモード”の設定が“11.1ch”または“9.1ch”のときに設定できます。
＊2　最適な Auro-3D 再生をおこなうには、サラウンドハイトスピーカーのご使用をおすすめします。サラウンドハイトスピーカーの代わりにリアハイトスピーカーを設置すると、Auro-3D および Dolby Atmos の両方をお楽しみいただけます。
＊3　メニューの“アサインモード”の設定が“11.1ch”または“9.1ch”で、なおかつ“フロア” – “レイアウト”の設定が“5ch & SB”のときに設定できます。

設定				AUDIO OUT 端子	
ハイトスピーカー	Dolby スピーカー	ご注意	レイアウト	HEIGHT 1	HEIGHT 2
2ch	2ch	＊1	フロント Dolby＆トップリア	フロント Dolby	トップリア
			フロント Dolby＆リアハイト	フロント Dolby	リアハイト
			フロントハイト＆サラウンド Dolby	フロントハイト	サラウンド Dolby
			フロントハイト＆バック Dolby＊4	フロントハイト	バック Dolby
			トップフロント＆サラウンド Dolby	トップフロント	サラウンド Dolby
			トップフロント＆バック Dolby＊4	トップフロント	バック Dolby
無し	4ch	＊1	フロント Dolby＆サラウンド Dolby	フロント Dolby	サラウンド Dolby
			フロント Dolby＆バック Dolby＊4	フロント Dolby	バック Dolby

＊1　メニューの“アサインモード”の設定が“11.1ch”または“9.1ch”のときに設定できます。
＊4　メニューの“アサインモード”の設定が“11.1ch”で、なおかつ“フロア” – “レイアウト”の設定が“5ch & SB”のときに設定できます。

設定				AUDIO OUT 端子		
ハイトスピーカー	Dolby スピーカー	ご注意	レイアウト	HEIGHT1	HEIGHT2	SUBWOOFER2
5ch	無し	*5	フロントハイト&サラウンドハイト	フロントハイト	サラウンドハイト	トップサラウンド
			フロントハイト&リアハイト *2	フロントハイト	リアハイト	トップサラウンド

*2 最適な Auro-3D 再生をおこなうには、サラウンドハイトスピーカーのご使用をおすすめします。サラウンドハイトスピーカーの代わりにリアハイトスピーカーを設置すると、Auro-3D および Dolby Atmos の両方をお楽しみいただけます。

*5 メニューの“アサインモード”の設定が“11.1ch”のときに選択できます。

■ プリアウト

“アサインモード”の設定が“11.1ch”のとき、メインゾーンで使用する外付けのパワーアンプを接続するプリアウト端子を選択します。
メニューの“フロア” - “レイアウト”と“ハイト” - “レイアウト”の組み合わせによって、選択できるプリアウト端子が異なります。

■ 端子の接続確認

“アンプの割り当て”で設定した内容に対して、スピーカー端子やプリアウト端子の接続方法をメニュー画面に表示します。

スピーカー構成

スピーカーの有無や低音域再生能力によるスピーカーの大きさを設定します。

- “アンプの割り当て”で“HEIGHT1”に割り当てたスピーカーを“無し”に設定した場合、“HEIGHT2”は自動的に“無し”になります。

■ フロント

フロントスピーカーの大きさを設定します。

大（お買い上げ時の設定）:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小:	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。

- “サブウーハー”の設定が“無し”の場合、“フロント”の設定は自動的に“大”になります。
- “フロント”の設定が“小”の場合、“フロント”以外を“大”に設定できません。

■ センター

センタースピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小（お買い上げ時の設定）:	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	センタースピーカーを使用しません。

■ サブウーハー

サブウーハーの有無を設定します。

2 台:	サブウーハーを 2 台使用します。
1 台（お買い上げ時の設定）:	サブウーハーを 1 台使用します。
無し:	サブウーハーを使用しません。

- “サブウーハー”の設定が“無し”のときに“フロント”を“小”に設定すると、“サブウーハー”の設定は自動的に“1 台”になります。

■ サラウンド

サラウンドスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	サラウンドスピーカーを使用しません。

- "サラウンド"の設定が"無し"のとき、"サラウンドバック"、"サラウンド Dolby"および"バック Dolby"の設定は自動的に"無し"になります。

■ サラウンドバック

サラウンドバックスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	サラウンドバックスピーカーを使用しません。

2 台 (お買い上げ時の設定):	サラウンドバックスピーカーを 2 台使用します。
1 台:	サラウンドバックスピーカーを 1 台のみ使用します。この設定を選択したときは、SURROUND BACK の L 端子に接続してください。

- "サラウンドバック"の設定が"無し"または"1 台"のとき、"バック Dolby"の設定は自動的に"無し"になります。

■ フロントハイト

フロントハイトスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	フロントハイトスピーカーを使用しません。

■ フロント Dolby

フロント Dolby スピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	フロント Dolby スピーカーを使用しません。

■ トップフロント

トップフロントスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	トップフロントスピーカーを使用しません。

■ トップミドル

トップミドルスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	トップミドルスピーカーを使用しません。

■ サラウンド Dolby

サラウンド Dolby スピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	サラウンド Dolby スピーカーを使用しません。

■ トップリア

トップリアスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	トップリアスピーカーを使用しません。

■ サラウンドハイト

サラウンドハイトスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	サラウンドハイトスピーカーを使用しません。

- “フロントハイト”の設定が“無し”のとき、“サラウンドハイト”の設定は自動的に“無し”になります。

■ リアハイト

リアハイトスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	リアハイトスピーカーを使用しません。

■ バック Dolby

バック Dolby スピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	バック Dolby スピーカーを使用しません。

- "アンプの割り当て"で"HEIGHT1"に割り当てたスピーカーを"無し"に設定した場合、"HEIGHT2"は自動的に"無し"になります。

■ トップサラウンド

トップサラウンドスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	トップサラウンドスピーカーを使用しません。

- "サラウンドハイト"または"リアハイト"の設定が"無し"の場合、"トップサラウンド"の設定は自動的に"無し"になります。

距離

リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。
あらかじめリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。

■ 単位

距離の単位を設定します。

メートル（お買い上げ時の設定）
フィート

■ ステップ

距離の最小可変幅を設定します。

0.1 m / 0.01 m（お買い上げ時の設定：0.1 m）
1 ft / 0.1 ft

■ 距離を設定します

0.00 m～18.00 m / 0.0 ft～60.0 ft

- メニューの“アンプの割り当て”および“スピーカー構成”の設定により、選択できるスピーカーが異なります。（「 アンプの割り当て 」（☞224 ページ）、「 スピーカー構成 」（☞232 ページ））
- お買い上げ時の設定：
  フロント左 / フロント右 / フロントハイト左 / フロントハイト右 / センター / フロント Dolby 左 / フロント Dolby 右 / サブウーハー 1 / サブウーハー 2：3.60 m（12.0 ft）
  上記以外のスピーカー：3.00 m（10.0 ft）
- 各スピーカーに設定した距離の差は、6.00 m（20.0 ft）以下になるように設定してください。

■ Dolby スピーカーの設定

Dolby Atmos Enabled スピーカーから天井までの距離を設定します。

0.90 m～3.30 m / 3.0 ft～11.0 ft
（お買い上げ時の設定：1.80 m / 6.0 ft）

- メニューの“フロント Dolby”、“サラウンド Dolby”または“バック Dolby”の設定が、“スピーカー構成”の“大”または“小”のときに設定できます。

■ 初期化

“距離”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

レベル

リスニングポイントに対して、各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。

■ テストトーン開始

選択したスピーカーからテストトーンを出力します。
テストトーンを聞きながら、各スピーカーの音量を調節してください。

–12.0 dB～+12.0 dB（お買い上げ時の設定：0.0 dB）

- 設定した“レベル”は、すべてのサウンドモードに反映します。
- 入力ソースごとにチャンネルレベルを調節したい場合は、“チャンネルレベル調節”で設定してください。（☞134 ページ）
- 本体の PHONES 端子にヘッドホンを挿入している場合、“レベル”の設定はできません。

■ 初期化

“レベル”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

クロスオーバー周波数

各スピーカーで再生可能な低音域の下限周波数に合わせて設定します。スピーカーのクロスオーバー周波数については、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

■ スピーカーの選択方法

クロスオーバー周波数の設定方法を選択します。

すべて (お買い上げ時の設定):	すべてのスピーカーに対して同じクロスオーバー周波数を設定します。
スピーカー別:	スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。

■ クロスオーバー周波数を設定します

40 Hz / 60 Hz / 80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz / 120 Hz / 150 Hz / 200 Hz / 250 Hz
(お買い上げ時の設定:80 Hz)

- "クロスオーバー周波数"は、メニューの"サブウーハーモード"の設定が"LFE+メイン"のとき、または"小"に設定しているスピーカーがあるときに設定できます。(☞240 ページ)
- クロスオーバー周波数は、通常"80 Hz"に設定してください。小型スピーカーをご使用になる場合は、クロスオーバー周波数をより高い周波数に設定することをおすすめします。例えば、スピーカーの周波数帯域が 250Hz～20kHz の場合は、"250 Hz"に設定してください。
- "小"に設定しているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。
- メニューの"サブウーハーモード"の設定により、"スピーカー別"で設定できるスピーカーが異なります。(☞240 ページ)
  - "LFE"の場合は、"スピーカー構成"で"小"に設定しているスピーカーの設定ができます。"大"に設定しているスピーカーのときは、"フルバンド"が表示され、設定できません。(☞232 ページ)
  - "LFE+メイン"の場合は、"スピーカー構成"の設定に関係なく設定できます。(☞232 ページ)

低音

サブウーハーや LFE 信号の低音域再生に関する設定をします。

■ サブウーハーモード

サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。

LFE（お買い上げ時の設定）:	サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさを“小”に設定しているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。
LFE+メイン:	サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。

- “サブウーハーモード”は、メニューの“スピーカー構成” – “サブウーハー”の設定が“無し”以外のときに設定できます。(☞232 ページ)
- 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選択してください。
- メニューの“スピーカー構成” - “フロント”と“センター”の設定が“大”で、なおかつ“サブウーハーモード”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。(☞232 ページ)
  常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE+メイン”に設定してください。

■ LFE 用ローパスフィルター

LFE 信号の再生帯域を設定します。サブウーハーでの再生周波数を変更する場合に設定します。

80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz / 120 Hz / 150 Hz / 200 Hz / 250 Hz（お買い上げ時の設定: 120 Hz）

フロントスピーカー

ご使用になるフロントスピーカー A または B を設定します。

A （お買い上げ時の設定）:	フロントスピーカー A を使用します。
B:	フロントスピーカー B を使用します。
A+B:	フロントスピーカー A と B の両方を使用します。

- メニューの“アサインモード”の設定が“7.1ch + Front B”のときに設定できます。(☞226 ページ)

2 チャンネル再生の設定

2 チャンネルのダイレクト再生およびステレオ再生時に使用するスピーカーの設定をします。

■ 設定

2 チャンネルのダイレクト再生およびステレオ再生時に使用するスピーカーの設定をします。

オート （お買い上げ時の設定）:	“スピーカー”の設定内容を適用します。 (☞213 ページ)
マニュアル:	2 チャンネル再生用のスピーカーの設定をします。この設定を選択した場合は、次の設定をおこなってください。

■ フロント

2 チャンネル再生用のフロントスピーカーの大きさを設定します。

大 （お買い上げ時の設定）:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小:	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。

- メニューの“スピーカー構成” – “サブウーハー”設定が“無し”のときは、自動的に“大”になります。(☞232 ページ)

■ サブウーハー

サブウーハーの有無を設定します。

有り （お買い上げ時の設定）:	サブウーハーを使用します。
無し:	サブウーハーを使用しません。

- メニューの“スピーカー構成” – “サブウーハー”設定が“無し”のときは、自動的に“無し”になります。(☞232 ページ)
  また、“フロント”の設定が“小”のときは、自動的に“有り”になります。

■ サブウーハーモード

サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。

LFE （お買い上げ時の設定）:	“2 チャンネル再生の設定” – “フロント”を“大”に設定した場合は、サブウーハーから LFE 信号のみを出力します。また、“2 チャンネル再生の設定” – “フロント”を“小”に設定した場合は、LFE 信号にフロントチャンネルの低音域信号を加えて、サブウーハーから出力します。
LFE+メイン:	LFE 信号に、フロントチャンネルの低音域信号を加えて、サブウーハーから出力します。

- “2 チャンネル再生の設定” – “サブウーハー”の設定が“有り”のときに設定できます。

■ クロスオーバー

各チャンネルからサブウーハーに出力する、低音域信号の上限の周波数を設定します。

40 Hz / 60 Hz / 80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz / 120 Hz / 150 Hz / 200 Hz / 250 Hz
（お買い上げ時の設定：80 Hz）

- “2 チャンネル再生の設定” – “サブウーハー”の設定が“有り”のときに設定できます。
- “2 チャンネル再生の設定”–“フロント”の設定が“大”で、“サブウーハーモード”の設定が“LFE”のときは、“フルバンド”が表示され、設定できません。

■ 距離フロント左 / 距離フロント右

メインリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を設定します。

0.00 m～18.00 m（お買い上げ時の設定：3.60 m）/
0.0 ft～60.0 ft（お買い上げ時の設定：12.0 ft）

- 各スピーカーに設定した距離の差は、6.00 メートル（20.0 フィート）以下になるように設定してください。

■ レベルフロント左 / レベルフロント右

各チャンネルのレベルを調節します。

–12.0 dB～+12.0 dB（お買い上げ時の設定：0.0dB）

ネットワーク

本機をホームネットワーク(LAN)に接続して使用できるようにするためには、ネットワークの設定をおこなう必要があります。
DHCP でホームネットワーク(LAN)を構築している場合は、"DHCP"を"オン"に設定します。(お買い上げ時の設定のまま使用してください。)これにより、ホームネットワーク(LAN)を使用できるようになります。
各機器に IP アドレスを手動で割り当てている場合は、"IP アドレス"の設定で本機に IP アドレスを割り当て、ゲートウェイアドレスやサブネットマスクなど、ご使用のホームネットワーク(LAN)に関する情報を入力する必要があります。

情報

ネットワークの情報を表示します。

フレンドリーネーム / 接続 / SSID / DHCP / IP アドレス / MAC アドレス (イーサネット) / MAC アドレス (Wi-Fi) / Wi-Fi 電波強度

接続

ホームネットワーク(LAN)に有線 LAN で接続するか、無線 LAN で接続するかを設定します。
有線 LAN でネットワークに接続する場合、LAN ケーブルを接続してから"有線(イーサネット)"を選択してください。
無線 LAN でネットワークに接続する場合、"無線(Wi-Fi)"を選択し、"Wi-Fi 設定"を設定してください。(☞245 ページ)

■ 接続方法

ホームネットワーク(LAN)に接続する方法を設定します。

有線(イーサネット):	LAN ケーブルを使用して、ネットワークに接続します。
無線(Wi-Fi) (お買い上げ時の設定):	無線 LAN(Wi-Fi)機能を使用して、ネットワークに接続します。

Wi-Fi 設定

無線 LAN(Wi-Fi)ルーターとの接続をおこないます。
ルーターとの接続には次の方法があります。ご家庭の環境に合わせて接続方法を選択してください。

■ ネットワーク検索

テレビ画面に表示された接続可能な無線ネットワークの一覧から、接続したいネットワークを選択します。

1. 無線ネットワークの一覧から、接続したいネットワークを選ぶ。
   見つからない場合は、“再スキャン”を選択してください。
2. パスワードを入力し、“OK”を選ぶ。

■ iOS を使用

お手持ちの iOS デバイス(iPhone/iPod/iPad)を使用してネットワークに接続します。iOS デバイスと本機を接続することで、自動的に本機を同じネットワークに接続することができます。

1. テレビ画面で“iOS を使用”を選ぶ。
2. iOS デバイスが無線 LAN(Wi-Fi)ルーターに接続していることを確認し、iOS デバイスの Wi-Fi 設定画面の下部にある“新しい AIRPLAY スピーカーを設定...”から“Denon AVR-X4500H”を選ぶ。
3. iOS デバイスの画面で“次へ”をタップする。

- iOS 機器のファームウェアのバージョンが iOS 7 以降に対応している必要があります。

■ WPS ルーター

プッシュボタン方式の WPS に対応したルーターを使用してください。

1. テレビ画面で“プッシュボタン”を選ぶ。
2. 接続したいルーターの WPS ボタンを押して、WPS モードにする。
   - ボタンを押す時間はルーターによって異なります。
3. 2 分以内に、テレビ画面で“接続”を選ぶ。

■ マニュアル

接続したいネットワーク名(SSID)やパスワードを入力して接続します。

1. 次の項目を設定する。

SSID:	無線ネットワーク名(SSID)を入力します。
セキュリティ:	ご使用のアクセスポイントの暗号化設定に合わせて、暗号化方式を選択します。
パスワード:	パスワードを入力します。

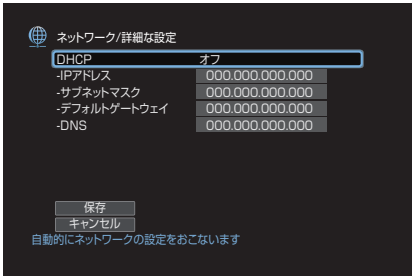
2. 設定が終わったら“接続”を選ぶ。

- 無線 LAN 対応のパソコンやタブレットから、本機の無線 LAN（Wi-Fi）の設定をおこなうこともできます。
  1. 本機の電源が入っているときに、本体の DIMMER と STATUS を 3 秒以上長押しする。
  2. ディスプレイに “Wi-Fi 機器の Wi-Fi ネットワーク一覧から、“Denon AVR-X4500H”” と表示されたら、ご使用のパソコンやタブレットの無線 LAN を“Denon AVR-X4500H”に接続する。
  3. ブラウザを起動し、URL に“192.168.1.16/Settings/”を入力する。
  4. ブラウザを使用して設定を入力し、“接続”を選び、設定を終了する。
- 本機の“デフォルトキー”は“1”に固定されています。ルーターの“デフォルトキー”の設定を“1”にしてご使用ください。

詳細な設定

IP アドレスを設定します。

- ブロードバンドルーター（DHCP 機能）をご使用の場合は、本機のお買い上げ時の設定で DHCP 機能が“オン”になっていますので、IP アドレスなどネットワーク接続に必要な情報を自動で設定します。
- DHCP 機能のないネットワークに接続する場合や固定 IP アドレスを割り当てる場合のみ、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイおよび DNS サーバーの情報を設定してください。



■ DHCP

ネットワークへの接続方法を設定します。

オン （お買い上げ時の設定）:	ご使用のルーターから自動的にネットワークの設定をします。
オフ:	手動でネットワークの設定をします。

■ IP アドレス

入力する IP アドレスは下記の範囲で設定してください。

- 下記以外の IP アドレスではネットワークオーディオ機能を使用することはできません。
  CLASS A：10.0.0.1～10.255.255.254
  CLASS B：172.16.0.1～172.31.255.254
  CLASS C：192.168.0.1～192.168.255.254

■ サブネットマスク

xDSL モデムやターミナルアダプターを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面などで通知されたサブネットマスクを入力します。通常は“255.255.255.0”を入力します。

■ デフォルトゲートウェイ

ゲートウェイ（ルーター）に接続している場合は、その IP アドレスを入力します。

■ DNS

プロバイダから書面などで通知された DNS アドレスを入力してください。

- インターネットに接続できない場合は、再度接続や設定を確認してください。（☞86 ページ）
- インターネットの接続についてお分かりにならない場合は、ISP（Internet Service Provider）またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

ネットワークコントロール

電源がスタンバイ状態でのネットワーク機能の設定をします。

スタンバイ時オフ:	スタンバイ時に、ネットワーク機能を停止します。
常時オン (お買い上げ時の設定):	スタンバイ時でも、ネットワーク機能を停止しません。ネットワーク対応のコントローラーを使用して本機を操作できます。

- ウェブコントロール機能や Denon 2016 AVR Remote アプリ、HEOS アプリをご使用になる場合は、"ネットワークコントロール"の設定を"常時オン"にしてご使用ください。

ご注意

- "ネットワークコントロール"を"常時オン"に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。

フレンドリーネーム

フレンドリーネームとは、ネットワーク上に表示される本機の名称です。お好みの名前に変更できます。

■ フレンドリーネーム

リストからフレンドリーネームを選択します。
"その他"を選択すると、お好みのフレンドリーネームに変更できます。

Home Theater / Living Room / Family Room / Guest Room / Kitchen / Dining Room / Master Bedroom / Bedroom / Den / Office / その他

- 30 文字まで入力できます。
- お買い上げ時のフレンドリーネームは、"Denon AVR-X4500H"です。

■ 初期化

編集したフレンドリーネームがお買い上げ時の設定に戻ります。

診断

ネットワークの接続を確認します。

■ ケーブル接続

LAN ポートの接続の確認をします。

OK	
エラー:	LAN ケーブルが接続されていません。接続を確認してください。

- 無線 LAN で接続している場合は、“接続　無線(Wi-Fi)” を表示します。

■ ルーターアクセス

本機からルーターまでの通信の確認をします。

OK	
エラー:	ルーターとの通信に失敗しました。ルーターの設定を確認してください。

■ インターネットアクセス

本機からインターネット(WAN)のアクセス可否の確認をします。

OK	
エラー:	インターネットへの接続に失敗しました。インターネットの接続環境またはルーターの設定を確認してください。

HEOS アカウント

HEOS アカウントに関する設定をします。
HEOS アカウントは、HEOS お気に入りを使用するために必要です。
表示されるメニューは、HEOS アカウントでサインインしているかどうかによって異なります。

サインインしていない場合

■ 既にアカウントをもっている

HEOS アカウントをすでに持っている場合は、既存のアカウントとパスワードを入力してサインインします。

■ アカウントを作成する

もし HEOS アカウントを持っていない場合は、新規に HEOS アカウントを作成します。

■ パスワードを再設定する

パスワードを忘れた場合、新しいパスワードの設定方法を E メールでお知らせします。

サインインしている場合

■ サインイン中

現在サインインしている HEOS アカウントを表示します。

■ 地域を変更

サインインしている HEOS アカウントの地域設定を変更します。

■ パスワードを変更

サインインしている HEOS アカウントのパスワードを変更します。

■ アカウントを削除

サインインしている HEOS アカウントを削除します。

■ サインアウト

HEOS アカウントからサインアウトします。

一般

その他の設定をします。

言語

テレビ画面に表示するメニューの言語を設定します。

日本語 / English（お買い上げ時の設定：日本語）

- “言語”は、次の操作でも設定できます。この設定中は、メニュー画面を表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。
  1. 本機の電源が入っているときに、本体の STATUS と ZONE3 SOURCE を同時に 3 秒以上長押しする。
     ディスプレイに“*Video Format <NTSC>”を表示します。
  2. 本体の △ または ▽ を 2 回押す。
     ディスプレイに“*GUI Language <JAPANESE>”を表示します。
  3. 本体の ◁ または ▷ を押して、言語を設定する。
  4. 本体の ENTER を押して、設定を終了する。

エコ設定

エコモードとオートスタンバイモードの設定をします。

■ エコモード

本機の電源がオンのときの消費電力や発熱を低減することができます。
これは、パワーアンプへ供給される電力を減少させることによって消費電力の低減をおこないます。

オン:	音量や入力信号に関わらず、常に消費電力を低減します。
オート （お買い上げ時の設定）:	音量の設定や入力信号の有無に合わせて、消費電力を自動的に最適化します。 音量を低く設定している場合は、パワーアンプへ供給している電力を下げ、消費電力を低減します。音量を上げると通常の供給電力に戻り、パワフルな再生をお楽しみいただけます。 また、音量を高く設定していても無信号の状態が 2 分以上続いた場合は、自動的に消費電力を低減します。このような場合は、再度再生を開始したり、入力ソースを切り替えたりすると、自動的にパワーアンプへの供給電力が通常の状態に戻ります。
オフ:	消費電力を低減しません。

- “エコモード”の設定が“オート”のときに、パワーアンプへの供給電力が切り替わると、本機内部からクリック音が聞こえることがありますが、これは正常な動作です。
- “エコモード”の設定が“オート”のとき、無信号の状態が 2 分以上続いたあとに再生が開始されると、音の出始めがクリップすることがあります。
- リモコンの ECO を押しても、“エコモード”を切り替えることができます。

■ 電源オン時の設定

電源をオンにしたときのエコモードを設定します。

最後の設定 （お買い上げ時の設定）:	前回電源をオフにする前の設定になります。
オン:	電源をオンにしたとき、常にエコモードが“オン”になります。
オート:	電源をオンにしたとき、常にエコモードが“オート”になります。
オフ:	電源をオンにしたとき、常にエコモードが“オフ”になります。

■ オンスクリーン表示

本機の消費電力を、テレビ画面にメーターで表示します。

常時オン:	テレビ画面に常にメーターを表示します。
オート （お買い上げ時の設定）:	モードや音量の変更時、テレビ画面にメーターを表示します。
オフ:	テレビ画面にメーターを表示しません。

■ オートスタンバイ

自動的に本機をスタンバイ状態にする設定をします。

❑ MAIN ZONE

音声や映像の入力がない状態で本機を操作しないときに、自動的にスタンバイ状態にする時間を設定します。
スタンバイ状態になる前に、本体のディスプレイとメニュー画面に“オートスタンバイ”を表示します。

60 分:	約 60 分後に本機をスタンバイ状態にします。
30 分:	約 30 分後に本機をスタンバイ状態にします。
15 分:	約 15 分後に本機をスタンバイ状態にします。
オフ （お買い上げ時の設定）:	自動的に本機をスタンバイ状態にしません。

❑ ZONE2 / ZONE3

音声や映像の入力があっても、何も操作がない状態が続いた場合、ここで設定した時間が経過すると自動で電源が切れます。

8 時間:	約 8 時間後にゾーン 2/ゾーン 3 をスタンバイ状態にします。
4 時間:	約 4 時間後にゾーン 2/ゾーン 3 をスタンバイ状態にします。
2 時間:	約 2 時間後にゾーン 2/ゾーン 3 をスタンバイ状態にします。
オフ （お買い上げ時の設定）:	自動的にゾーン 2/ゾーン 3 をスタンバイ状態にしません。

ゾーン２の設定 / ゾーン３の設定

ゾーン 2 およびゾーン 3 で再生する音声の設定をします。

- “音量の上限”および“電源オン時の音量”の設定値は、音量の“表示方法”の設定に合わせて表示します。(☞188 ページ)

■ 低音

低音を調節します。

–10dB～+10dB（お買い上げ時の設定：0dB）

■ 高音

高音を調節します。

–10dB～+10dB（お買い上げ時の設定：0dB）

■ ハイパスフィルター

低音が歪んで聞こえるときに、低域成分をカットして出力します。

オン：	低域成分をカットして出力します。
オフ（お買い上げ時の設定）：	低域成分をカットしません。

■ 左レベル

左チャンネルの出力レベルを調節します。

–12 dB～+12 dB（お買い上げ時の設定：0 dB）

■ 右レベル

右チャンネルの出力レベルを調節します。

–12 dB～+12 dB（お買い上げ時の設定：0 dB）

■ チャンネル

ステレオで再生するかモノラルで再生するかを設定します。

ステレオ（お買い上げ時の設定）：	ステレオで再生します。
モノラル：	モノラルで再生します。

■ HDMI オーディオ（ゾーン 2 のみ）

ゾーン 2 で HDMI ソースを再生するための音声信号形式を設定します。

無変換 （お買い上げ時の設定）:	本機に入力した HDMI 音声信号のまま、ゾーン 2 の機器に出力します。
PCM:	本機に入力した HDMI 音声信号を、ZONE2 プリアウト端子やスピーカー端子から出力できるように PCM 信号に変換して再生します。

■ 音量レベル

音量出力レベルを設定します。

可変 （お買い上げ時の設定）:	音量の調節ができます。
1 – 98 **(–79 dB – 18 dB):**	音量をお好みのレベルに固定します。リモコンで音量の調節はできません。

- “表示方法”の設定が“–79.5dB – 18.0 dB”のときに dB 値を表示します。(☞188 ページ)

■ 音量の上限

音量の上限を設定します。

60(-20 dB) / 70(-10 dB) / 80(0 dB) （お買い上げ時の設定：70(–10 dB)）	
オフ:	音量の上限を設定しません。

- メニューの“音量レベル”の設定が“可変”のときに設定できます。(☞257 ページ)
- “表示方法”の設定が“–79.5dB – 18.0 dB”のときに dB 値を表示します。(☞188 ページ)

■ 電源オン時の音量

電源を入れたときの音量を設定します。

前回の音量 （お買い上げ時の設定）:	前回使用したときの音量になります。
消音:	常に消音状態になります。
1 – 98 **(–79 dB – 18 dB):**	設定した音量になります。

- メニューの“音量レベル”の設定が“可変”のときに設定できます。(☞257 ページ)
- “表示方法”の設定が“–79.5dB – 18.0 dB”のときに dB 値を表示します。(☞188 ページ)

■ ミューティングレベル

ミューティング時の音量の減衰量を設定します。

消音 （お買い上げ時の設定）:	消音状態になります。
-40 dB:	現在の音量から 40dB 下げて再生します。
-20 dB:	現在の音量から 20dB 下げて再生します。

ゾーン名の変更

ゾーンの表示名を、お好みの名前に変更します。

メインゾーン / ゾーン 2 / ゾーン 3

初期化:	編集したゾーン名がお買い上げ時の設定に戻ります。

- 10 文字まで入力できます。

クイックセレクト名の変更

テレビ画面に表示するクイックセレクト名をお好みの名前に変更します。

クイックセレクト 1 / クイックセレクト 2 / クイックセレクト 3 / クイックセレクト 4

初期化:	編集したクイックセレクト名がお買い上げ時の設定に戻ります。

- 16 文字まで入力できます。

トリガーアウト 1 / トリガーアウト 2

トリガーアウトを動作させる条件を選択します。
TRIGGER OUT 端子の接続方法については、「トリガー出力端子」(☞89 ページ)をご覧ください。

❑ ゾーン(メインゾーン / ゾーン 2 / ゾーン 3)に対して設定するとき

"オン"に設定されたゾーンの電源に連動して、トリガーアウトが動作します。

❑ 入力ソースに対して設定するとき

"オン"に設定された入力ソースを選択したときにトリガーアウトが動作します。

❑ HDMI モニターに対して設定するとき

"オン"に設定された HDMI モニターを選択したときに、トリガーアウトが動作します。

オン:	出力の条件にします。
- - -:	出力の条件にしません。

フロントディスプレイ

本機のディスプレイに関する設定をします。

■ ディスプレイの明るさ

本機のディスプレイの明るさを調節します。

通常 (お買い上げ時の設定):	通常の明るさです。
薄暗い:	薄暗くします。
暗い:	暗くします。
消灯:	ディスプレイを消灯します。

- 本体の DIMMER を押しても、ディスプレイの明るさを調節できます。

■ チャンネルインジケーター

ディスプレイのチャンネル表示を入力信号表示にするか、出力信号表示にするかを設定します。

入力:	ディスプレイのチャンネル表示を入力信号表示として使用します。
出力 （お買い上げ時の設定）:	ディスプレイのチャンネル表示を出力信号表示として使用します。

ファームウェア

アップデートやアップグレードについて、ファームウェアの最新情報の確認や更新を実施します。また、アップグレードの通知メッセージ表示の設定をします。

■ アップデートの確認

ファームウェアのアップデートがあるか確認します。

アップデート可能なファームウェアがリリースされている場合は、アップデートを実行できます。

今すぐアップデートする:	アップデートを実行します。アップデートを開始すると、メニュー画面はシャットダウンします。アップデート中は、ディスプレイに進行状況を表示します。
後でアップデートする:	後でアップデートを実行します。

- アップデートに失敗しても、本機は自動的にアップデートを再試行します。アップデートできない場合には、ディスプレイに“Update Error”を表示します。アップデートエラーメッセージについては、「故障かな？と思ったら」－「アップデート/アップグレードエラーメッセージ」をご覧ください。(☞297 ページ)
  メッセージに従い環境の確認をおこなったうえで、再度アップデートしてください。
- このメニューは、“アップデートの許可”の設定が“オフ”のときは選択できません。

■ 自動アップデート

本機がスタンバイモードのときに、最新のファームウェアへ自動的に更新します。

❑ 自動アップデート

本機がスタンバイモードのときに、最新のファームウェアへ自動的に更新します。

オン:	自動でアップデートします。
オフ (お買い上げ時の設定):	自動でアップデートしません。

❑ タイムゾーン

タイムゾーンを変更します。
お住まいの地域にあったタイムゾーンを設定してください。

- このメニューは、"アップデートの許可"の設定が"オフ"のときは選択できません。

■ アップデートの許可

本機のアップデートおよびアップグレードを有効または無効に設定します。

オン (お買い上げ時の設定):	アップデートおよびアップグレードを有効にします。
オフ:	本機のアップデートおよびアップグレードを無効にします。

- この設定をおこなうと、他の HEOS 機器や HEOS アプリとの互換性に問題が生じる場合があります。

■ アップグレードのお知らせ

最新のファームウェアのアップグレードが可能な場合は、電源をオンにしたときテレビ画面に通知メッセージを表示します。
通知メッセージは、電源をオンにしたときに約 40 秒間表示します。

オン (お買い上げ時の設定):	アップグレードの通知を表示します。
オフ:	アップグレードの通知を表示しません。

- このメニューは、"アップデートの許可"の設定が"オフ"のときは選択できません。

■ 新機能の追加

本機にダウンロード可能な新機能が表示され、アップグレードがします。

アップグレードパッケージ:	アップグレードする項目を表示します。
アップグレードステータス:	アップグレードによって追加された機能の一覧を表示します。
アップグレード:	アップグレードを実行します。 アップグレードを開始すると、メニュー画面をシャットダウンします。アップグレード中は、ディスプレイに経過時間を表示します。

- "アップデート"および"新機能の追加"に関する情報は、当社ホームページなどで告知する予定です。アップグレードをご利用になる場合の詳細については、当社ホームページをご覧ください。
- お手続きが完了すると、このメニューに"登録完了"と表示され、アップグレードすることができます。お手続きされていない場合は、"-------"を表示します。
  お手続きの際には、この画面に表示されている ID 番号が必要になります。本体の △ と INFO を 3 秒以上長押しすると、ID 番号をディスプレイに表示させることができます。
- アップグレードに失敗した場合には、ディスプレイに"Upgrade Error"を表示します。アップグレードのエラーメッセージについては、「故障かな？と思ったら」 - 「アップデート/アップグレードエラーメッセージ」をご覧ください。(☞297 ページ)
  この場合は、ネットワーク環境を確認し、再度アップデートしてください。
- このメニューは、"アップデートの許可"の設定が"オフ"のときは選択できません。

"アップデート"および"新機能の追加"をおこなうときのご注意

- これらの機能を使用するためには、インターネットに接続できる環境と設定が必要です。(☞86 ページ)
- アップデートやアップグレードが終わるまで、絶対に電源を切らないでください。
- アップデートやアップグレードが完了するまで、1 時間程度かかります。
- 一旦アップデートやアップグレードを開始すると、完了するまで通常の操作ができなくなります。また、本機に設定したパラメーターなどのバックアップデータがリセットされる場合があります。
- アップデートやアップグレード中に更新が失敗した場合は、本体の ⏻ を 5 秒以上長押しするか、電源コードを挿入し直してください。約 1 分後、ディスプレイに"Please wait"を表示し、更新を再開します。それでも失敗が続く場合は、ネットワークの環境を確認してください。

情報

本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。

■ オーディオ

メインゾーンのオーディオの情報を表示します。

サウンドモード:	設定しているサウンドモード
入力信号:	入力信号の種類
フォーマット:	入力信号のチャンネル数(フロント/サラウンド/LFE の有無)
サンプリング周波数:	入力信号のサンプリング周波数
オフセット:	ダイアログノーマライゼーションの補正値
フラグ:	サラウンドバックチャンネルを含む信号を入力しているときに表示します。入力信号が DTS-ES Matrix のときは "MATRIX"、DTS-ES Discrete 信号などのときは "DISCRETE" を表示します。

■ ビデオ

メインゾーンの HDMI 入出力信号や HDMI モニターの情報を表示します。

HDMI 信号情報

解像度 / HDR / カラースペース / ビット数

HDMI モニター 1 / HDMI モニター 2

インターフェース / HDR / 対応解像度

■ ゾーン

各ゾーンの現在の設定状態を表示します。

メインゾーン:	メインゾーンの設定状態を表示します。表示する内容は、入力ソースによって異なります。
ゾーン 2/3:	ゾーン 2 およびゾーン 3 の設定状態を表示します。

■ ファームウェア

バージョン:	現在のファームウェアのバージョン情報を表示します。
DTS バージョン:	現在の DTS バージョンを表示します。

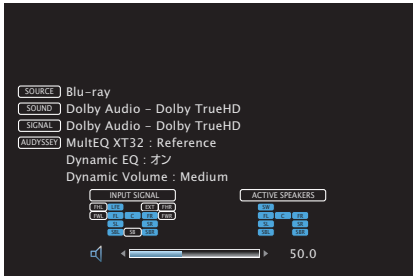
■ お知らせ

お知らせを表示します。
また、電源をオンにしたときにお知らせを表示するかしないかを設定します。

お知らせの表示

オン （お買い上げ時の設定）:	通知メッセージを表示します。
オフ:	通知メッセージを表示しません。

- INFO を押すと、現在のソース名、音量、サウンドモード名などを画面下側に表示します。



使用状況の送信設定

当社は今後の製品改善のために、本機の設定状況や機能の使用状況に関する情報の送信をお願いしております。お客様から送信される情報は今後の製品開発の参考にさせていただきます。
送信される情報は個人を特定する情報は含まれません。この情報は、当社の製品改善目的のためにのみ利用させていただき、第三者へ提供することは決して致しません。

はい:	本機の使用状況を情報提供します。
いいえ:	本機の使用状況を情報提供しません。

セーブ&ロード

USB メモリーを使用して、本機の設定を保存または復元します。

- 空き容量が 128MB 以上で、FAT32 の形式でフォーマットされた USB メモリーが使用できます。また、USB メモリーによっては正しく保存または復元ができない場合があります。
- 保存または復元が完了するまで、10 分程度かかることがあります。完了するまで電源を切らないでください。

■ 設定を保存

USB メモリーに本機の現在の設定を保存します。
設定が正しく保存されると、ディスプレイに“Saved”を表示し、USB メモリーに“config.avr”というファイルを作成します。

- 作成されたファイルの名前を変更しないでください。変更すると、復元時に設定の保存ファイルとして認識されません。

■ 設定を復元

USB メモリーに保存した設定を本機に復元します。
保存された設定が本機に正しく復元されると、ディスプレイに“Loaded”を表示して自動的に再起動します。

セットアップロック

設定した内容を変更できないようにロックします。

■ セットアップロック

オン:	設定した内容をロックします。
オフ (お買い上げ時の設定):	設定した内容をロックしません。

- 設定を解除するときは、“セットアップロック”を“オフ”に設定してください。

ご注意

- “セットアップロック”を“オン”に設定すると、“セットアップロック”以外の設定項目は表示しません。

初期化

本機の各種設定がお買い上げ時の設定に戻ります。
すべての設定の初期化、またはネットワーク設定のみの初期化ができます。

■ すべての設定

すべての設定がお買い上げ時の設定に戻ります。

■ ネットワーク設定

ネットワーク設定のみお買い上げ時の設定に戻ります。

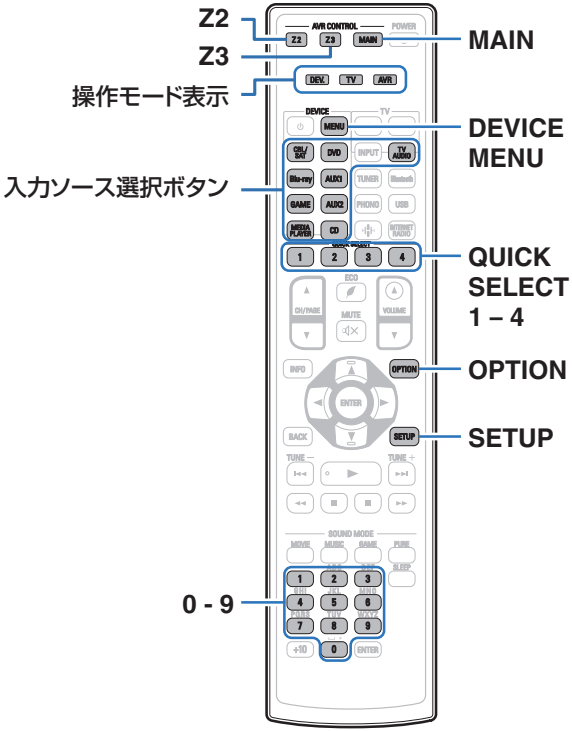
- お買い上げ時の設定に戻す前にメニューの“セーブ＆ロード”機能を使用すると、本機の各種設定を記憶させ、保存および復元することができます。(☞265 ページ)
- “初期化”の操作は、本体のボタンを使用しておこなうこともできます。すべての設定をお買い上げ時の設定に戻す方法については「お買い上げ時の設定に戻す」(☞298 ページ)、ネットワーク設定のみお買い上げ時の設定に戻す方法については「ネットワークの設定をお買い上げ時の設定に戻す」(☞299 ページ)をご覧ください。

ご注意

- ネットワーク設定の初期化中は、電源コードを抜いたり、電源をオフにしたりしないでください。

リモコンで外部機器を操作する

付属のリモコンに外部機器のプリセットコードを登録すると、お手持ちのテレビや DVD プレーヤーなどの操作ができます。



プリセットコードを登録する

プリセットコードの登録には、Denon 製プレーヤーのプリセットコードを簡単に登録する方法と、各社の機器のプリセット番号を入力して登録する方法の 2 つがあります。

- 「Denon 製プレーヤーの登録方法」(☞268 ページ)
- 「プリセット番号を入力して登録する方法」(☞269 ページ)

■ Denon 製プレーヤーの登録方法

Denon 製のブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーおよび CD プレーヤーは、次の方法で簡単にプリセットコードの登録ができます。

❑ ブルーレイディスクプレーヤーを登録する

1 Blu-ray と OPTION を、DEV.、TV および AVR 表示が緑色に点滅するまで同時に長押しする。

❑ DVD プレーヤーを登録する

1 DVD と OPTION を、DEV.、TV および AVR 表示が緑色に点滅するまで同時に長押しする。

❑ CD プレーヤーを登録する

1 CD と OPTION を、DEV.、TV および AVR 表示が緑色に点滅するまで同時に長押しする。

❑ 複数のプレーヤーを同時に登録する

1 **QUICK SELECT 1～4 のいずれかと OPTION を、DEV.、TV および AVR 表示が緑色に点滅するまで同時に長押しする。**

同時に登録したい機器			同時押しするボタン
ブルーレイディスクプレーヤー	DVD プレーヤー	CD プレーヤー	
✓	✓		QUICK SELECT 1 および OPTION
✓		✓	QUICK SELECT 2 および OPTION
	✓	✓	QUICK SELECT 3 および OPTION
✓	✓	✓	QUICK SELECT 4 および OPTION

ご注意

- お手持ちの機器の形式や年式によって、操作できないボタンがあります。このような場合は、「プリセット番号を入力して登録する方法」(☞269 ページ)をお試しください。

■ プリセット番号を入力して登録する方法

それぞれの入力ソース切り替えボタンに登録可能な機器のグループは、次の表をご覧ください。登録したい機器のプリセット番号は、別ファイル“Remote Control Preset Codes”で、あらかじめ確認してください。
http://manuals.denon.com/AVRX4500H/preset/AVRX4500HPresetCodes.pdf

ボタン	登録可能な機器のグループ
CBL/SAT	CBL/SAT グループ
Blu-ray	VCR/PVR グループ、BD/DVD グループ
GAME	CBL/SAT グループ、VCR/PVR グループ、BD/DVD グループ、オーディオグループ
MEDIA PLAYER	CBL/SAT グループ
DVD	VCR/PVR グループ、BD/DVD グループ
AUX1	CBL/SAT グループ、VCR/PVR グループ、BD/DVD グループ、オーディオグループ
AUX2	CBL/SAT グループ、VCR/PVR グループ、BD/DVD グループ、オーディオグループ
CD	オーディオグループ
TV AUDIO	テレビグループ

1 プリセットコードを登録したい入力ソースボタンとSETUP を、DEV.、TV および AVR 表示が緑色に点滅するまで同時に長押しする。

2 リモコンの数字ボタン(0〜9)を押して、プリセットコード表に記載してある機器のプリセット番号(5 桁)を入力する。

- メーカーによってはプリセットコードを数種類持っています。動作しない場合は別のコードを入力してください。

ご注意

- お手持ちの機器の形式や年式によって、操作できないボタンがあります。

機器を操作する

外部機器を操作するには、プリセットコードを登録した入力ソースボタンを押してから、次の表のボタンを操作してください。

- 外部機器の操作中は、“DEV.”表示が点灯します。
- テレビの操作中は、“TV”表示が点灯します。
- 本機のメニュー操作をおこなう場合は、MAIN を押してから操作してください。本機を操作中は“AVR”表示が点灯します。

❑ CBL/SAT グループの操作（衛星放送チューナー（SAT）/ ケーブルテレビ（CBL）/ メディアプレーヤー / IP テレビ）

操作ボタン	機能
DEVICE ⏻	電源オン/オフ
DEVICE MENU	メニュー表示
CH/PAGE ▲▼	チャンネルの切り替え（アップ/ダウン）
INFO	情報表示
OPTION	サブメニュー、オプション
△ ▽ ◁ ▷	カーソル操作
ENTER（カーソル）	確定
BACK	戻る
SETUP	ホームメニュー
⏮ ⏭	チャプターのスキップ
▶	再生
◀◀ ▶▶	早戻し/早送り
⏸	一時停止
■	停止
0～9, +10	チャンネルの選択
ENTER（数字ボタン）	3 桁の数字の確定

- DEVICE ⏻ ボタンは機器によっては、電源オフができない場合があります。

❑ テレビグループの操作（TV）

操作ボタン	機能
TV ⏻	テレビの電源のオン/オフ
TV INPUT	テレビの入力切り替え
TV MENU	テレビのメニュー
CH/PAGE ▲▼	チャンネルの切り替え（アップ/ダウン）
INFO	情報表示
OPTION	サブメニュー、オプション
△ ▽ ◁ ▷	カーソル操作
ENTER（カーソル）	確定
BACK	戻る
SETUP	設定
⏮ ⏭	チャプターのスキップ
▶	再生
◀◀ ▶▶	早戻し/早送り
⏸	一時停止
■	停止
0～9, +10	チャンネルの選択
ENTER（数字ボタン）	3 桁の数字の確定

❑ VCR/PVR グループの操作（ビデオデッキ（VCR）/（デジタルビデオレコーダー（PVR））

操作ボタン	機能
DEVICE ⏻	電源オン/オフ
DEVICE MENU	メニュー表示
CH/PAGE ▲▼	チャンネルの切り替え（アップ/ダウン）
INFO	情報表示
OPTION	サブメニュー、オプション
△ ▽ ◁ ▷	カーソル操作
ENTER	確定
BACK	戻る
SETUP	設定
⏮ ⏭	チャプターのスキップ
▶	再生
◀◀ ▶▶	早戻し/早送り
⏸	一時停止
■	停止
0～9, +10	タイトルまたはチャプターの選択/チャンネルの選択

- DEVICE ⏻ ボタンおよび TV ⏻ は機器によっては、電源オフができない場合があります。
- TV ⏻ および TV INPUT ボタンは、TV ボタンを押さなくても操作できます。

❑ BD/DVD グループの操作（ブルーレイディスクプレーヤー / HD DVD プレーヤー / DVD プレーヤー / DVD レコーダー）

操作ボタン	機能
DEVICE ⏻	電源オン/オフ
DEVICE MENU	（ポップアップ）メニュー表示
CH/PAGE ▲▼	チャンネルの切り替え（アップ/ダウン）
INFO	情報表示
OPTION	トップメニュー
△ ▽ ◁ ▷	カーソル操作
ENTER	確定
BACK	戻る
SETUP	設定
⏮ ⏭	チャプターのスキップ
▶	再生
◀◀ ▶▶	早戻し/早送り
❚❚	一時停止
■	停止
0～9, +10	タイトルまたはチャプターの選択/チャンネルの選択

❑ オーディオグループの操作（CD プレーヤー / CD レコーダー）

操作ボタン	機能
DEVICE ⏻	電源オン/オフ
INFO	情報表示
△ ▽ ◁ ▷	カーソル操作
ENTER	確定
⏮ ⏭	曲のスキップ
▶	再生
◀◀ ▶▶	早戻し/早送り
❚❚	一時停止
■	停止
0～9, +10	トラックの選択

- DEVICE ⏻ ボタンは、機器によっては電源オンのみの動作になる場合があります。（Denon モデルにおいても、機器によっては電源オンのみの操作になるものがあります。）

登録したプリセットコードを初期化する

1 **MAIN と OPTION を、DEV.、TV および AVR 表示が緑色に点滅するまで同時に長押しする。**

リモコンで操作するゾーンを指定する

お使いの条件に合わせてリモコンを使用するゾーンを指定できます。

1 **MAIN、Z2、Z3 のいずれかと SETUP を、DEV.、TV および AVR 表示が緑色に点滅するまで同時に長押しする。**

MAIN:	メインゾーンでのみリモコンを使用します。
Z2:	メインゾーンとゾーン 2 でリモコンを使用します。
Z3（お買い上げ時の設定）:	すべてのゾーンでリモコンを使用します。

リモコンの全設定をお買い上げ時の設定に戻す

リモコンのすべての設定がお買い上げ時の設定に戻ります。

1 **DEVICE MENU を、DEV.、TV および AVR 表示が緑色に点滅するまで同時に長押しする。**

2 **9、8、1 の順に押す。**

DEV.、TV および AVR 表示が 2 回点滅します。
リモコンのすべての設定がお買い上げ時の設定に戻ります。

■ 目次

こんなときの解決方法

誤って音量が大きくならないようにしたい	276
電源を入れたときの音量を常に同じにしたい	276
常にサブウーハーから音を出したい	276
映画のせりふを聴きやすくしたい	276
小音量再生においても、低音や明瞭さを保ちたい	276
テレビや映画などのコンテンツによる音量差を自動的に調節したい	276
スピーカーの構成や設置を変えたり、スピーカーを買い替えたりした場合に、最適なリスニング環境に設定したい	277
今聴いている音楽に好きな映像を組み合わせたい	277
使っていない入力ソースを消したい	277
ホームパーティーなどのときにすべてのゾーンで同じ音楽を楽しみたい	277
ゲーム機などを本機に接続している場合にビデオ信号の遅延を最小にしたい	277
テレビのリモコンで本機を操作したい	277

故障かな？と思ったら

電源が入らない / 電源が切れる	279
リモコンで操作ができない	280
本機のディスプレイが表示されない	280
音がまったく出ない	281
希望する音が出ない	282
音が途切れたり、ノイズが入ったりする	285
テレビに映像が映らない	286
テレビにメニュー画面が表示されない	288
テレビに表示されるメニュー画面や操作内容の色が通常と異なる	288
AirPlay 再生ができない	289
USB メモリーが再生できない	290
Bluetooth が再生できない	291
インターネットラジオが再生できない	292
パソコン内や NAS 内の音楽ファイルが再生できない	293
各種オンラインサービスが再生できない	294
HDMI コントロール機能が動作しない	294
無線 LAN ネットワークに接続できない	295
HDMI ZONE2 機能を使用中に機器が正しく動作しない	296
アップデート/アップグレードエラーメッセージ	297

こんなときの解決方法

誤って音量が大きくならないようにしたい

- メニューの“音量の上限”で音量の上限値をあらかじめ設定してください。小さな子供が誤って音量を上げすぎることなどを防ぎます。ゾーンごとに設定できます。(「 音量 」(☞188 ページ)、「 音量の上限 」(☞257 ページ))

電源を入れたときの音量を常に同じにしたい

- お買い上げ時の設定では、本機をスタンバイにしたときの音量設定が、次回電源を入れたときに、前回スタンバイにしたときの音量がそのまま適用されます。音量を一定にしたい場合は、メニューの“電源オン時の音量”で、電源を入れたときの音量を設定してください。ゾーンごとに設定できます。(「 音量 」(☞188 ページ)、「 電源オン時の音量 」(☞257 ページ))

常にサブウーハーから音を出したい

- 入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音が出ない場合があります。メニューの“サブウーハーモード”を“LFE+メイン”に設定すると、常にサブウーハーから音声を出力することができます。(☞240 ページ)

映画のせりふを聴きやすくしたい

- メニューの“センターレベルの調節”でレベルを調節してください。(☞179 ページ)

小音量再生においても、低音や明瞭さを保ちたい

- メニューの“Dynamic EQ”を“オン”に設定してください。周波数特性を補正することによって、小音量再生のときでも低音を失うことなく、音をはっきり聴くことができます。(☞190 ページ)

テレビや映画などのコンテンツによる音量差を自動的に調節したい

- メニューの“Dynamic Volume”を設定してください。テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をお好みの音量に自動的に調節します。(☞191 ページ)

スピーカーの構成や設置を変えたり、スピーカーを買い替えたりした場合に、最適なリスニング環境に設定したい

- Audyssey®セットアップをおこなってください。新しいリスニング環境に最適なスピーカーの設定を自動でおこないます。(☞213 ページ)

今聴いている音楽に好きな映像を組み合わせたい

- オプションメニューの“ビデオセレクト”で“オン”を選択してください。チューナーや CD、Phono、HEOS ミュージック、USB ミュージック、Bluetooth の音楽を聴きながら、DVD やセットトップボックスなどお好みの映像ソースを組み合わせることができます。(☞136 ページ)

使っていない入力ソースを消したい

- メニューの“使用ソースの選択”で使用していない入力ソースを設定してください。本体の SOURCE SELECT つまみを回したときに使用していない入力ソースをスキップできます。(☞211 ページ)

ホームパーティーなどのときにすべてのゾーンで同じ音楽を楽しみたい

- オプションメニューの“All Zone Stereo”で“スタート”を選択してください。メインゾーンで再生している音楽をゾーン 2/ゾーン 3 でも同時に再生できます。(☞138 ページ)

ゲーム機などを本機に接続している場合にビデオ信号の遅延を最小にしたい

- ゲーム機側のコントローラーのボタン操作に対し映像が遅れている場合は、メニューの“ビデオモード”を“ゲーム”に設定してください。(☞202 ページ)

テレビのリモコンで本機を操作したい

- テレビの “入力” * または “HDMI 接続した機器の操作” * などのメニューに表示された“AV Receiver”を選択します。本機のスマートメニューをテレビに表示します。このスマートメニューは、ご使用のテレビのリモコンで操作できます。

* ご使用のテレビによって、選択方法が異なります。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

故障かな？と思ったら

最初に次のことを確認してください。

1. 各接続は正しいですか
2. 取扱説明書に従って正しく操作していますか
3. スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

- 上記の手順 1～3 をおこなっても動作が改善しない場合、本機を再起動すると改善することがあります。
  ディスプレイに“Restart”が表示されるまで、本体の ⏻ ボタンを押し続けるか、本機の電源コードを抜き差ししてください。

本機が正しく動作しないときは、該当する症状に従ってチェックしてみてください。
なお、どの症状にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でもお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

電源が入らない / 電源が切れる

電源が入らない。

- コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。(☞90 ページ)

電源が自動的に切れる。

- スリープタイマーが設定されています。再度電源を入れてください。(☞156 ページ)
- "オートスタンバイ"が設定されています。操作がない状態で一定時間が経過すると、"オートスタンバイ"が動作します。"オートスタンバイ"を無効にするには、メニューの"オートスタンバイ"を"オフ"に設定してください。(☞255 ページ)

電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。

- 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。電源が切れている状態で、1 時間程度待ち、本機の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。(☞328 ページ)
- 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。

電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。

- スピーカーの接続を確認してください。スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいている可能性があります。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどしたあとで、接続し直してください。(☞40 ページ)
- 音量を下げて、電源を入れ直してください。(☞92 ページ)
- 本機のアンプ回路が故障しています。電源コードを抜き、当社の修理相談窓口までご連絡ください。

電源ボタンを押しても本機の電源がオフにならない。ディスプレイに"ZONE2 On"または"ZONE3 On"と表示される。

- ゾーン 2 またはゾーン 3 の電源がオンになっています。本機の電源をオフ(スタンバイ)にする場合は、本体の ZONE2 ON/OFF または ZONE3 ON/OFF ボタンを押すか、リモコンの Z2 または Z3 ボタンを押してゾーンを選択したあとに、POWER ⏻ ボタンを押してゾーン 2 またはゾーン 3 の電源をオフにしてください。

電源ボタンを押しても本機の電源がオフにならない。ディスプレイに"HEOS On"を表示します。

- 同じネットワーク上の HEOS 機器が本機の入力ソースを再生しています。本機の電源をオフ(スタンバイ)にする場合、HEOS 機器側で再生を停止してください。約 20 分後、自動的に本機の電源がオフになります。

リモコンで操作ができない

リモコンで操作ができない。

- 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。(☞9 ページ)
- リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。(☞9 ページ)
- 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。
- 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。(☞9 ページ)
- 本機のリモコン受光部に強い光(直射日光、インバーター式蛍光灯の光など)があたっています。受光部に強い光があたらない場所に設置してください。
- 操作したいゾーンとリモコンのゾーンの設定が合っていません。MAIN、Z2 または Z3 ボタンを押して、操作するゾーンを選択してください。(☞178 ページ)
- リモコンが外部機器の操作モードになっています。MAIN ボタンを押して、操作モードを AVR にしてください。(☞271 ページ)
- 3D 映像機器をご使用の場合、各ユニット間(テレビや 3D 視聴用メガネなど)の赤外線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。その場合は、3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。

本機のディスプレイが表示されない

ディスプレイの表示が消える。

- メニューの“ディスプレイの明るさ”を“消灯”以外の設定にしてください。(☞259 ページ)
- サウンドモードが“Pure Direct”になっていると、ディスプレイは消灯します。(☞142 ページ)

音がまったく出ない

スピーカーから音が出ない。

- すべての機器の接続を確認してください。(☞40 ページ)
- 接続ケーブルを奥まで挿してください。
- 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。
- ケーブルが破損していないか確認してください。
- スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。ケーブルの芯線がスピーカー端子の金属部に接触していることを確認してください。(☞40 ページ)
- スピーカー端子をしっかり締めてください。また、スピーカー端子の締めつけがゆるんでいないか確認してください。(☞40 ページ)
- 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。(☞92 ページ)
- 音量を適切な大きさに調節してください。(☞93 ページ)
- ミューティング(消音)モードを解除してください。(☞93 ページ)
- デジタルオーディオ入力端子の設定の確認をおこなってください。(☞209 ページ)
- 接続した機器のデジタル音声出力の設定を確認してください。機器によってはお買い上げ時の設定がオフになっていることがあります。
- 本体の PHONES 端子にヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカー端子およびプリアウト端子から音が出なくなります。

DVI-D 接続時に、音声が出ない。

- 本機を DVI-D 端子付きの機器に接続した場合、音声は出力しません。別途、音声の接続をおこなってください。

希望する音が出ない

音量が上がらない。

- 音量の上限値が低く設定されています。メニューの“音量の上限”で上限値を設定してください。(☞188 ページ)
- 入力された音声フォーマットや設定に合わせて適切な音量補正処理をしているため、上限値まで上がらない場合があります。

HDMI で接続したときに、音が出ない。

- HDMI 端子の接続を確認してください。(☞73 ページ)
- HDMI の音声信号をスピーカーから出力するときは、メニューの“HDMI オーディオ出力”の設定を“AV アンプ”に設定してください。テレビから出力するときは“テレビ”に設定してください。(☞196 ページ)
- HDMI コントロール機能を使用している場合は、テレビ側のオーディオ出力の設定が AV アンプになっているか確認してください。(☞153 ページ)

eARC 機能対応のテレビと接続しているときに、テレビの音声が本機に接続されたスピーカーから出力されない

- ご使用の eARC 機能対応のテレビによっては、eARC 機能の設定が必要な場合があります。この場合は設定をオンにしてください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機の入力ソースが“TV Audio”になっているか確認してください。
- 入力ソースの“TV Audio”に HDMI 入力端子を割り当てた場合、eARC 機能が動作しません。eARC 機能を動作させるためには、HDMI 入力端子の割り当てを解除し、テレビと本機の電源を入れ直してください。

特定のスピーカーから音が出ない。

- スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
- メニューの“スピーカー構成”で“無し”以外になっているか確認してください。(☞232 ページ)
- メニューの“アサインモード”の設定を確認してください。(☞224 ページ)
- サウンドモードが“Stereo”および“Virtual”のときは、フロントスピーカーとサブウーハーからのみ音声を出力します。

サブウーハーから音が出ない。

- サブウーハーの接続を確認してください。
- サブウーハーの電源を入れてください。
- メニューの“スピーカー構成”–“サブウーハー”を“1 台”または“2 台”に設定してください。(☞232 ページ)
- メニューの“スピーカー構成” – “フロント”の設定が“大”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。(☞232 ページ)
- 入力信号にサブウーハー音声信号(LFE)が含まれていない場合、サブウーハーから音声が出力されない場合があります。(☞240 ページ)
- メニューの“サブウーハーモード”を“LFE+メイン”に設定すると、常にサブウーハーから音声を出力することができます。(☞240 ページ)

DTS 音声が出力されない。

- 接続した機器のデジタル音声出力の設定が“DTS”になっているか確認してください。

Dolby Atmos、Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声が出力されない。

- HDMI で接続してください。(☞78 ページ)
- 接続した機器のデジタル音声出力の設定を確認してください。機器によってはお買い上げ時の設定が“PCM”になっている場合があります。

DTS Neural:X モードが選択できない。

- DTS Neural:X は、ヘッドホン使用時は選択できません。

Dolby Surround モードが選択できない。

- ヘッドホン使用時は、Dolby Surround を選択できません。

AAC 放送の音が途切れる。

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れる場合があります。

AAC として再生しない。

- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が“オフ”になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

“Stereo”と“Direct”モード以外のサウンドモードが選択できない。

- Headphone:X 信号が入力されている場合、サウンドモードは“Stereo”と“Direct”のみ選択できます。(☞263 ページ)

Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume®および Audyssey LFC™が選択できない。

- Audyssey®セットアップを実施していない場合は、選択できません。(☞213 ページ)
- サウンドモードを“Direct”、“Pure Direct”以外に切り替えてください。(☞141 ページ)
- サウンドモードが“DTS Virtual:X”またはサウンドモードで“+ Virtual:X”の場合、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume®、Audyssey LFC™は選択できません。
- ヘッドホン使用時は選択できません。

“リストアラー”が選択できない。

- アナログ信号または PCM 信号(サンプリング周波数=44.1/48kHz)が入力されているか確認してください。Dolby Digital や DTS サラウンドなどのマルチチャンネル信号の再生には“リストアラー”を使用することができません。(☞186 ページ)
- サウンドモードを“Direct”、“Pure Direct”以外に切り替えてください。(☞141 ページ)

ゾーン 2 またはゾーン 3 用プリアウト端子やスピーカーから音が出ない。

- ゾーン 2 およびゾーン 3 では、デジタル端子(OPTICAL/COAXIAL)から入力された信号が 2 チャンネル PCM のときに、音声の再生ができます。
- ゾーン 2 では、HDMI 端子から入力された信号が 2 チャンネル PCM のときに音声の再生ができます。入力信号によらずゾーン 2 で音声を再生するには、メニューの“HDMI オーディオ”の設定を “PCM” にしてください。再生機器によっては、この設定をおこなっても再生できない場合があります。この場合は、再生機器側の音声フォーマットを “PCM(2ch)” に設定してください。(☞257 ページ)
- ゾーン 2/ゾーン 3 で Bluetooth の音声を聴く場合、本機と Bluetooth 機器の間に障害物がなく、なおかつ約 30 m の範囲内で使用してください。

音が途切れたり、ノイズが入ったりする

インターネットラジオや USB メモリーを再生中に、音が途切れることがある。

- USB メモリーの転送速度が遅いと音が途切れることがあります。
- ネットワークの通信速度が遅いか、ラジオ局が混雑しています。

iPhone で通話すると、本機の音声出力にノイズが入る。

- iPhone を本機から 20cm 以上離して通話してください。

FM 放送または AM 放送の雑音が多い。

- アンテナの向きや位置を変えてください。(☞84 ページ)
- 本機から AM ループアンテナを外してください。
- 屋外アンテナを使用してください。(☞84 ページ)
- アンテナと他の接続ケーブルを離してください。(☞84 ページ)

音が歪んで聴こえる。

- 音量を下げてください。(☞93 ページ)
- メニューの“エコモード”を“オフ”に設定してください。“エコモード”が“オン”または“オート”のときは、大きな音量を再生すると音声が歪むことがあります。(☞252 ページ)

Wi-Fi 接続時に音切れがする。

- 無線 LAN で使用する周波数帯域は、電子レンジ・コードレスフォン・ゲーム機のワイヤレスコントローラー・その他の無線 LAN 機器で使用します。そのため、これらの機器と本機を同時に使用すると、電波干渉により音途切れが発生する場合があります。次の方法をおこなうと、音途切れが改善される場合があります。(☞86 ページ)
  - 干渉している機器を本機から離して設置する。
  - 干渉している機器の電源を切る。
  - 本機に接続しているルーターのチャンネル設定を変更する。(チャンネルの変更のしかたは、無線ルーターの取扱説明書をご覧ください。)
  - 有線 LAN 接続に切り替える。
- 特にデータ容量の大きい音楽ファイルを再生するときなどに、ご使用の無線 LAN の環境によっては、再生音が途切れることがあります。その場合は有線 LAN 接続をおこなってください。(☞245 ページ)

テレビに映像が映らない

映像が映らない。

- すべての機器の接続を確認してください。(☞73 ページ)
- 接続ケーブルを奥まで挿してください。
- 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。
- ケーブルが破損していないか確認してください。
- 本機に接続されたテレビの入力端子に入力の設定を合わせてください。(☞209 ページ)
- 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。(☞92 ページ)
- ビデオ入力端子の設定の確認をおこなってください。(☞209 ページ)
- プレーヤーとテレビの解像度が合っていることを確認してください。(☞263 ページ)
- テレビが著作権保護(HDCP)に対応しているか確認してください。HDCP に対応していない機器を接続した場合、映像が正しく出力されません。(☞304 ページ)
- HDCP 2.2 で著作権保護されているコンテンツを楽しむ場合は、HDCP 2.2 に対応した再生機器とテレビをご使用ください。
- HDMI 信号をアナログ信号に変換することはできません。アナログ接続をしてください。(☞305 ページ)
- 4K(60/50Hz)の映像を再生したい場合は、"High Speed HDMI Cable"または"High Speed HDMI Cable with Ethernet"をご使用ください。より高品位に 4K(60/50Hz)の映像を楽しむために、HDMI Premium Certified Cable のラベルが製品のパッケージに貼られている"Premium High Speed HDMI Cables"または"Premium High Speed HDMI Cables with Ethernet"のご使用をおすすめします。

DVI-D 接続時に、テレビに映像が映らない。

- DVI-D 接続の場合、機器間によってはコピーガード著作権保護(HDCP)によって正しく動作しない場合があります。(☞304 ページ)

ゲーム機などの映像がテレビに映らない。

- ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。入力した端子と同じ種類のモニター出力端子に接続してください。

メニューを表示中に、テレビに映像が映らない。

- 次の映像信号の再生中にメニューを操作すると、メニューの背景に再生映像は表示されません。
  ·一部の 3D ビデオコンテンツの映像
  ·コンピューター解像度(例:VGA)の映像
  ·16:9、4:3 以外のアスペクト比の映像
  ·4K の映像
  ·HDR 信号の種類による

メインゾーンを使用中に、HDMI ZONE2 の映像出力が途切れる。

- メインゾーンとゾーン 2 を同じ入力ソースにしている場合、メインゾーンを操作すると HDMI ZONE2 の映像が途切れる場合があります。

テレビにメニュー画面が表示されない

テレビにメニュー画面や操作内容が表示されない。

- メニュー画面は、本機と HDMI 接続しているテレビにのみ表示します。本機とテレビをほかの映像出力端子で接続している場合は、本機のディスプレイを見ながら操作してください。
- 次の映像信号の再生中は、テレビに操作内容は表示されません。
  - ・一部の 3D ビデオコンテンツの映像
  - ・コンピューター解像度(例:VGA)の映像
  - ・16:9、4:3 以外のアスペクト比の映像
  - ・HDR 信号の種類による
- テレビ側で 2D 映像を 3D 映像に変換している場合は、メニュー画面や操作内容を正しく表示しません。(☞264 ページ)
- ピュアダイレクト再生モード中は、メニュー画面や操作内容を表示しません。ピュアダイレクト以外のサウンドモードに切り替えてください。(☞140 ページ)
- メニューの“TV フォーマット”をご使用のテレビに合わせて設定してください。(☞208 ページ)

テレビに表示されるメニュー画面や操作内容の色が通常と異なる

テレビに表示されるメニュー画面や操作内容の色が違う。

- Dolby Vision 信号を再生中に本機を操作すると、表示されるメニュー画面や操作内容の色が通常と異なる場合があります。これは Dolby Vision 信号の特性により起こるもので、故障ではありません。

AirPlay 再生ができない

iTunes/iPhone/iPod touch/iPad 上に AirPlay のアイコンが表示されない。

- 本機とパソコン/iPhone/iPod touch/iPad が同一のネットワーク(LAN)に接続されていません。本機と同一の LAN に接続してください。(☞86 ページ)
- iTunes/iPhone/iPod touch/iPad が AirPlay 対応のファームウェアではありません。最新のファームウェアにアップデートしてください。

音が出ない。

- iTunes/iPhone/iPod touch/iPad の音量が最小になっています。iTunes/iPhone/iPod touch/iPad の音量と本機の音量は連動しています。適切な値に設定してください。
- AirPlay の再生をしていないか、本機が選択されていません。iTunes/iPhone/iPod touch/iPad の画面で AirPlay アイコンをクリックして、本機を選択してください。(☞127 ページ)

iPhone/iPod touch/iPad で AirPlay 再生時に音が途切れる。

- iPhone/iPod touch/iPad のバックグラウンドで起動しているアプリケーションを終了してから AirPlay 再生をしてください。
- 無線接続で外部の影響を受けている可能性があります。無線 LAN のアクセスポイントからの距離を短くするなどネットワーク環境を変更してください。

リモコンで iTunes の再生操作ができない。

- iTunes の“リモートスピーカーから iTunes のコントロールを許可する”の設定を有効にしてください。リモコンで再生/一時停止/スキップ操作ができます。

USB メモリーが再生できない

USB メモリーが認識できない。

- USB メモリーを接続し直すなど、接続を確認してください。(☞83 ページ)
- マスストレージクラス対応の USB メモリーに対応しています。
- 本機は、USB ハブを経由した接続はできません。USB メモリーは USB 端子に直接接続してください。
- USB メモリーのフォーマットを FAT16 または FAT32 に設定してください。
- すべての USB メモリーの動作は保証できません。一部の USB メモリーは、認識できない場合があります。また、AC アダプターから電源供給できるタイプの USB 接続対応ポータブルハードディスクを使用する場合は、ハードディスクに AC アダプターを接続して使用してください。

USB メモリー内のファイルを表示しない。

- 本機が対応していない形式のファイルは表示しません。(☞94 ページ)
- 本機が表示できるファイルのフォルダ階層は最大 8 階層です。また、1 階層あたり最大 5000 ファイル(フォルダ)です。USB メモリーのフォルダ構成を変更してください。
- USB メモリーに複数のパーティーションがある場合、先頭のパーティーションのファイルのみを表示します。

iOS および Android 機器が認識できない。

- 本機の USB 端子は、iOS および Android 機器の再生には対応していません。

USB メモリーのファイルを再生できない。

- 本機が対応していないフォーマットで作成されています。本機が対応しているフォーマットを確認してください。(☞307 ページ)
- 著作権保護のかかったファイルを再生しようとしています。本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。
- ファイルサイズが 2MB を超えるアルバムアートを使用している場合、再生できない場合があります。

Bluetooth が再生できない

本機に Bluetooth 機器が接続できない。

- Bluetooth 機器の Bluetooth 機能が有効になっていません。Bluetooth 機器の取扱説明書をご覧いただき、Bluetooth 機能を有効にしてください。
- 本機と Bluetooth 機器を近づけてください。
- Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していない場合、本機と接続できません。
- ご使用の Bluetooth 機器の電源を入れ直してから、お試しください。

音が途切れる。

- 本機と Bluetooth 機器を近づけてください。
- 本機と Bluetooth 機器の間にある障害物を取り除いてください。
- 電波干渉がおきないように、電子レンジや無線 LAN 機器および他の Bluetooth 機器から本機を離してください。
- Bluetooth の再接続操作をおこなってください。

インターネットラジオが再生できない

ラジオ局のリストが表示されない。

- LAN ケーブルが正しく接続されていないか、ネットワークが切断されています。接続状態を確認してください。(☞86 ページ)
- ネットワークの診断モードをおこなってください。

インターネットラジオが再生できない。

- 選択したラジオ局が、本機に対応していないフォーマットで放送されています。本機で再生できるフォーマットは、MP3、WMA と AAC です。(☞310 ページ)
- ルーターのファイアウォールがはたらいています。ファイアウォールの設定を確認してください。
- IP アドレスが正しく設定されていません。(☞247 ページ)
- ルーターの電源が入っているか確認してください。
- IP アドレスを自動で取得する場合は、ルーターの DHCP サーバー機能を有効にしてください。また、本機の DHCP 設定を“オン”にしてください。(☞247 ページ)
- IP アドレスを手動で取得する場合は、本機の IP アドレスを設定してください。(☞247 ページ)
- 時間帯により無音放送になっているラジオ局があります。この場合、音声は出力しません。しばらく経ってから選択するか、別のラジオ局を選択してください。(☞112 ページ)
- ラジオ局が放送を停止しています。放送中のラジオ局を選択してください。

お気に入りに登録したラジオ局に接続できない。

- ラジオ局がサービスを停止しています。放送中のラジオ局を登録してください。

パソコン内やNAS内の音楽ファイルが再生できない

パソコンに保存してある音楽ファイルが再生できない。

- ファイルが対応しているフォーマット以外で記録されています。対応しているフォーマットで記録してください。(☞309 ページ)
- 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。
- 本機の USB 端子は、パソコンと接続することはできません。
- メディアの共有設定が正しくありません。本機がアクセスできるように設定を変更してください。詳しくはメディアの取扱説明書をご覧ください。

サーバーが見つからないか、サーバーに接続できない。

- パソコンまたはルーターのファイアウォールがはたらいています。接続しているパソコンまたはルーターのファイアウォールの設定を確認してください。
- パソコンの電源が入っていません。電源を入れてください。
- サーバーが起動していません。サーバーを起動してください。
- 本機の IP アドレスが正しくありません。本機の IP アドレスを確認してください。(☞244 ページ)

パソコン内の音楽ファイルが再生できない。

- 本機の USB 端子にパソコンを接続しても、パソコン内の音楽ファイルは再生できません。パソコンはネットワーク経由で本機に接続してください。(☞86 ページ)

パソコン内や NAS 内のファイルが表示されない。

- 本機が対応していない形式のファイルは表示しません。(☞309 ページ)

NAS に保存した曲が再生できない。

- DLNA 準拠の NAS をご使用の場合は、NAS の設定で DLNA サーバー機能を有効にしてください。
- DLNA に準拠していない NAS をご使用の場合は、パソコンを経由して再生してください。また、Windows Media Player のメディア共有機能設定をおこない、再生対象フォルダに NAS を追加してください。
- 接続を制限している場合は、オーディオ機器を接続対象にしてください。

各種オンラインサービスが再生できない

各種オンラインサービスが再生できない。

- サービスが終了している可能性があります。

HDMI コントロール機能が動作しない

HDMI コントロール機能が動作しない。

- メニューの“HDMI コントロール”の設定が“オン”になっているか確認してください。(☞198 ページ)
- HDMI コントロール機能に対応していない機器は操作できません。また、接続する機器や設定によっては、HDMI コントロール機能が動作しない場合があります。その場合は、外部機器を直接操作してください。(☞153 ページ)
- 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定が有効になっているか確認してください。(☞153 ページ)
- HDMI 機器を追加して接続するなど、接続に関する変更をおこなうと、連動操作が初期化されることがあります。HDMI で接続した機器と本機の電源を入れ直してください。(☞153 ページ)
- HDMI MONITOR 2 端子は、HDMI コントロール機能に対応していません。HDMI MONITOR 1 端子を使用してテレビと接続してください。(☞73 ページ)

無線LANネットワークに接続できない

ネットワークに接続できない。

- ネットワーク名(SSID)、パスワードおよび暗号化設定が正しく設定できていません。ネットワークの設定と、本機の設定内容を合わせてください。(☞246 ページ)
- 無線 LAN のアクセスポイントからの距離を短くしたり、障害物をなくしたりして、見通しをよくしてから接続し直してください。また、電子レンジや他のネットワークのアクセスポイントから離して設置してください。
- アクセスポイントのチャンネル設定を、他のネットワークで使用しているチャンネルから離して設定してください。
- 本機は WEP(TSN)との互換性はありません。

WPS ルーターに接続ができない。

- ルーターの WPS モードが動作しているか確認してください。
- ルーターの WPS ボタンを押してから、2 分以内にテレビに表示されている「接続」ボタンを押してください。
- WPS2.0 規格に対応したルーター/設定が必要です。暗号化タイプを“無し”、“WPA-PSK (AES)”または WPA2-PSK (AES)に設定してください。(☞246 ページ)
- ルーターの暗号化方式が WEP/WPA-TKIP/WPA2-TKIP のいずれかの場合は、WPS ボタンを使用して接続することはできません。この場合は“ネットワーク検索”または“手動”の方法で接続してください。

iPhone/iPod touch/iPad を使用したネットワーク接続ができない。

- iPhone/iPod touch/iPad を最新のファームウェアにアップデートしてください。
- また、無線接続で設定する場合は、iOS 7 以降に対応している必要があります。

HDMI ZONE2 機能を使用中に機器が正しく動作しない

メインゾーンを使用中に、HDMI ZONE2 の映像出力が途切れる。

- メインゾーンとゾーン 2 を同じ入力ソースにしている場合、メインゾーンを操作すると HDMI ZONE2 の映像が途切れる場合があります。

HDMI ZONE2 機能を使用中、映像や音声がゾーン 2 のテレビから出力されない。

- ゾーン 2 の電源がオンになっているか確認してください。(☞172 ページ)
- ゾーン 2 の入力ソースを確認してください。(☞172 ページ)
- フロントパネルの AUX1-HDMI 端子は、HDMI ZONE2 機能に対応していません。
- ゾーン 2 では入力信号が HDMI 信号のときのみ再生できます。
- テレビが HDMI ZONE2 から出力した音声フォーマットに対応していない場合は、テレビから音声を出力しません。再生機器の音声フォーマットを“PCM”に設定してください。または、メニューの“ゾーン 2 の設定” - “HDMI オーディオ”を“PCM”に設定してください。(☞257 ページ)
- テレビが入力された映像の解像度に対応していない場合は映像を出力しません。再生機器の出力解像度をテレビが対応している解像度に合わせて設定してください。

HDMI ZONE2 機能を使用中に、メインゾーンの音声が PCM で再生される。

- メインゾーンとゾーン 2 を同じ入力ソースにしている場合、ゾーン 2 のテレビの仕様に合わせて入力ソースの音声フォーマットを制限することがあります。

アップデート/アップグレードエラーメッセージ

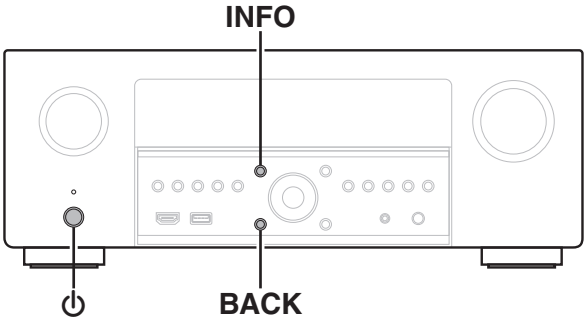
アップデート/アップグレードが中断または失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

ディスプレイ表示	説 明
Connection failed. Please check your network, then try again.	ネットワークの回線が不安定です。 サーバーとの接続に失敗しました。 ご使用のネットワーク環境をご確認のうえ、アップデートを再試行してください。
Update failed. Please check your network, then try again.	ファームウェアのダウンロードに失敗しました。 ご使用のネットワーク環境をご確認のうえ、アップデートを再試行してください。
Upgrade failed. Please check your network, then try again.	ファームウェアのダウンロードに失敗しました。 ご使用のネットワーク環境をご確認のうえ、アップデートを再試行してください。
Please check your network, unplug and reconnect the power cord, and try again.	アップデートに失敗しました。 本体の ⏻ ボタンを 5 秒以上長押しするか、電源コードを挿入し直してください。 アップデート後は自動的に再起動します。
Please contact customer service in your area.	機器が故障している可能性があります。 お客様相談センターにお問い合わせください。

お買い上げ時の設定に戻す

表示が正しくない場合や操作ができない場合などに本機を再起動すると、改善することがあります。お買い上げ時の設定に戻す前に、再起動することをおすすめします。(☞278 ページ)

再起動しても動作が改善しない場合に、この操作をおこなってください。
各種設定内容がお買い上げ時の設定になります。再度設定をおこなってください。



1 ⏻ を押して、電源を切る。

2 INFO と BACK を同時に押しながら、⏻ を押す。

3 ディスプレイに“Initialized”が表示されたら、2 つのボタンから指を離す。

- お買い上げ時の設定に戻す前に、メニューの“セーブ＆ロード”機能を使用すると、本機の各種設定内容を記憶させ、復元することができます。(☞265 ページ)
- メニューの“初期化” - “すべての設定”ですべての設定をお買い上げ時の設定に戻すこともできます。(☞266 ページ)

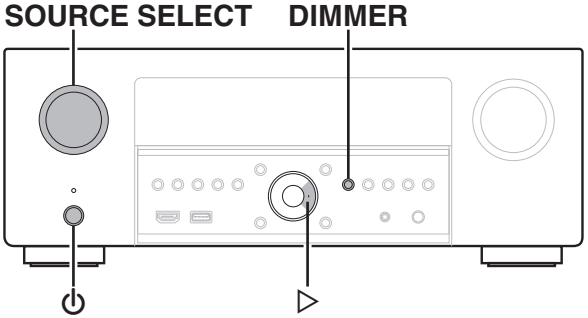
ネットワークの設定をお買い上げ時の設定に戻す

ネットワークコンテンツの再生やネットワーク接続ができない場合に、本機を再起動すると、改善することがあります。お買い上げ時の設定に戻す前に、再起動することをおすすめします。(☞278 ページ)

再起動しても動作が改善しない場合に、この操作をおこなってください。

ネットワーク設定内容がお買い上げ時の設定になります。再度設定をおこなってください。

ただし、メニューの“アンプの割り当て”、“スピーカー構成”および“ビデオ”の設定などは、リセットされません。



1 ⏻ を押して、本機の電源を入れる。

2 SOURCE SELECT を回して、“HEOS Music”を選ぶ。

3 本機の電源が入っているときに、本体の DIMMER と ▷ を同時に 3 秒以上長押しする。

4 ディスプレイに“Network Reset...”が表示されたら、2 つのボタンから指を離す。

5 リセットが完了すると、ディスプレイに“Completed”を表示する。

- お買い上げ時の設定に戻す前に、メニューの“セーブ＆ロード”機能を使用すると、本機の各種設定内容を記憶させ、復元することができます。(☞265 ページ)
- メニューの“初期化” - “ネットワーク設定”でネットワーク設定をお買い上げ時の設定に戻すこともできます。(☞266 ページ)

ご注意

- リセットが完了するまで、電源を切らないでください。

保証と修理について

■ 保証書について

- この製品には保証書が添付されております。
  保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

■ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は有料修理になりますので、ご注意ください。

■ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。

■ 修理料金のしくみ

- 技術料‥‥故障した製品を正常に修復するための料金です。
  技術者の人件費・技術教育費・測定機器などの設備費・一般管理費などが含まれます。
- 部品代‥‥修理に使用した部品代金です。
  その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
- 出張料‥‥製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
  別途駐車料金をいただく場合があります。

■ 補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

■ 修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 修理お問い合わせ窓口へご相談ください。
- 出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくことになりますので、あらかじめご了承ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

■ 依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名‥‥‥取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号‥‥保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

■ お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

HDMI について

High-Definition Multimedia Interface の略で、テレビやアンプなどと接続できる AV 用のデジタルインターフェースです。
HDMI 接続ではアナログの映像伝送で実現できなかったハイビジョン映像の伝送や、ブルーレイディスクプレーヤーで採用された高音質音声フォーマット(Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS-HD、DTS-HD Master Audio)の伝送ができます。
また、従来の接続では、接続する機器間を音声ケーブルと映像ケーブルを使用して接続する必要がありましたが、HDMI 接続では、HDMI ケーブル 1 本で音声信号と映像信号を伝送できます。これにより、ホームシアターシステムで煩雑になりやすい配線をすっきりさせることができます。
本機は次の HDMI 機能に対応しています。

- **Deep Color**
  HDMI がサポートしている映像技術です。通常、RGB または YCbCr の各色を 8bit(256 階調)ずつで表現するところを、10bit(1024 階調)、12bit(4096 階調)、16bit(65536 階調)で表現することができるため、より高精細な色の表現を可能にします。
  HDMI 接続する機器の双方が Deep Color に対応している必要があります。

- **x.v.Color**
  色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。
  “x.v.Color” はソニーの登録商標です。

- **3D**
  本機は、HDMI 規格の 3D(3 次元)映像信号の入出力に対応しています。3D 映像の再生には本機のほかに、HDMI 規格の 3D 機能に対応しているプレーヤーとテレビが必要です。また、3D 映像をご覧いただくには、別売りの 3D メガネが必要です。

- **4K**
  本機は、HDMI 規格の 4K(3840 × 2160 ピクセル)映像信号の入出力に対応しています。

- **Content Type**
  この機能は、出力映像の種類(コンテンツ情報)に適した設定を自動でおこないます。

- **Adobe RGB color、Adobe YCC601 color**
  Adobe システムズ社が定義した色空間(カラースペース)のことです。従来の RGB よりも広い色空間を持っているため、より鮮明で自然な映像を表現することができます。

- **sYCC601 color**
  “x.v.Color” 同様、これらのカラースペースは、従来の RGB よりも広い色空間を定義します。

- **オートリップシンク**
  映像と音声のずれを自動的に補正します。
  オートリップシンク機能対応のテレビを使用してください。
- **HDMI パススルー**
  本機の電源がスタンバイ状態のときでも HDMI 入力端子から入力された信号を、HDMI 出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力します。
- **HDMI コントロール**
  本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御することができます。
  - 電源オフ連動
    テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。
  - 音声出力先の切り替え
    テレビの操作で音声をテレビから出力するか、AV アンプから出力するか切り替えることできます。
  - 音量調節
    テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。
  - 入力ソースの切り替え
    テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースが切り替わります。
    プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。
- **ARC（Audio Return Channel）**
  HDMI コントロール制御のもと、テレビの音声信号を HDMI ケーブルを経由して本機に伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。
  ARC 機能のないテレビとの HDMI 接続では、本機に接続した再生機器の映像信号をテレビに伝送することはできても、テレビの音声を本機で再生することはできません。テレビ番組をサラウンド音声で視聴したい場合などには、別途音声ケーブルの接続が必要になります。
  これに対し、ARC 機能のあるテレビとの HDMI 接続では、音声ケーブルの接続は不要です。本機とテレビを接続する HDMI ケーブルを通して、テレビの音声信号を本機に入力することができます。この機能により、テレビの音声を本機のサラウンド再生で楽しみいただけます。
- **eARC (Enhanced Audio Return Channel)**
  eARC 機能は、従来の ARC 機能から拡張された機能であり、HDMI コントロール制御を介さず eARC 機能専用制御のもと、本機でテレビの音声を再生する機能です。さらに、eARC 機能は、従来の ARC 機能で対応されていなかったマルチチャンネルリニア PCM や Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS-HD Master Audio、DTS:X の音声フォーマットも伝送できます。また、eARC 機能に対応しているテレビを接続することにより、テレビで再生するコンテンツの音声をより高品位なサラウンド再生でお楽しみいただけます。

■ 対応する音声フォーマット

2 チャンネルリニア PCM	2 チャンネル、32kHz～192kHz、16/20/24bit
マルチチャンネルリニア PCM	7.1 チャンネル、32kHz～192kHz、16/20/24bit
ビットストリーム	Dolby Digital / DTS / Dolby Atmos / Dolby TrueHD / Dolby Digital Plus / DTS:X / DTS-HD Master Audio / DTS-HD High Resolution Audio / DTS Express / MPEG-2 AAC
DSD	2 チャンネル～5.1 チャンネル、2.8 MHz

■ 対応する映像信号

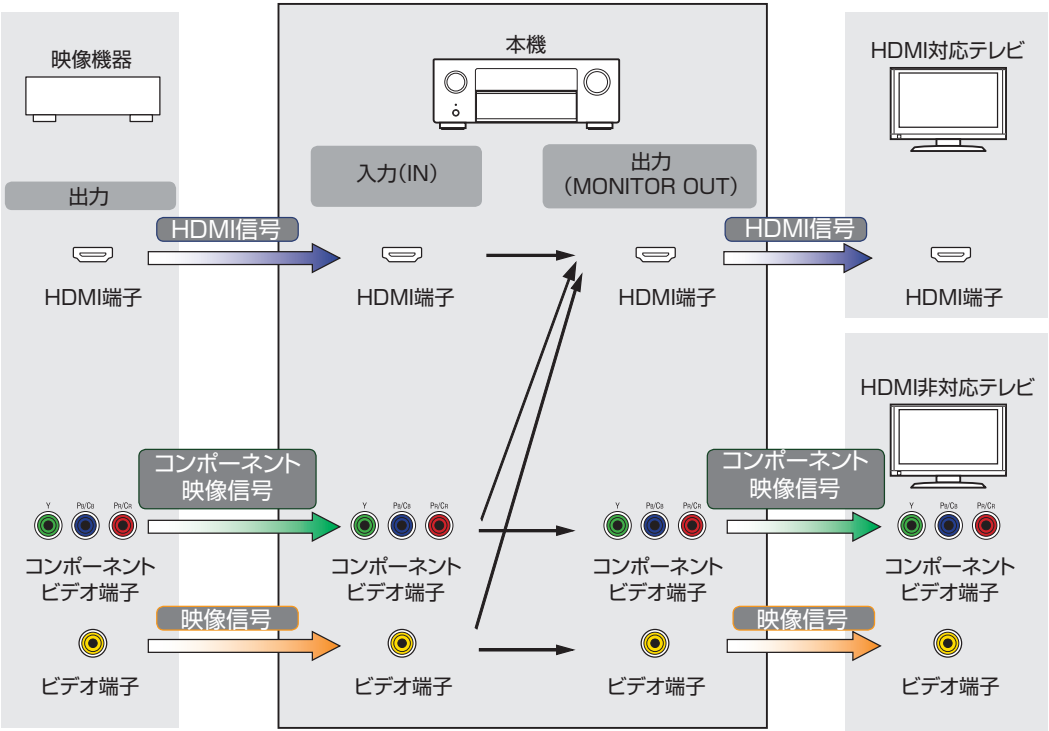
- 480i
- 576i
- 720p 60/50Hz
- 1080p 60/50/24Hz
- 480p
- 576p
- 1080i 60/50Hz
- 4K 60/50/30/25/24 Hz

著作権保護システムについて
HDMI 接続を通して BD ビデオや DVD ビデオなどのデジタル映像と音声を再生するためには、本機とテレビとプレーヤーのすべてが HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection System）と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。本機は、HDCP に対応しています。 • HDCP に対応していない機器を接続した場合は、映像と音声を正しく出力できません。お手持ちのテレビやプレーヤーなどについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

- 本機を Deep Color（ディープ･カラー）、4K、ARC および eARC 機能対応の機器と接続する場合は、HDMI ロゴのある“High Speed HDMI cable with Ethernet”を使用してください。

ビデオコンバージョン機能

本機は、入力された映像信号を、図のように自動的に変換してテレビに出力します。



- ビデオコンバージョン機能は、NTSC、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-N、PAL-M および PAL-60 のフォーマットに準拠しています。
- コンポーネントビデオ信号を使用すると、480i および 576i 信号のみが HDMI 信号に変換されます。

本機では、入力された映像信号を、メニューの“解像度”で設定した解像度に変換してテレビに出力できます。(☞203 ページ)

入力信号 ＼ 出力信号		HDMI							
		480i/576i	480p/576p	720p	1080i	1080p	1080p 24Hz	4K 30/25/24Hz	4K 60/50Hz
HDMI	480i/576i	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	480p/576p		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	720p			✓	✓	✓	✓	✓	✓
	1080i			✓	✓	✓	✓	✓	✓
	1080p 24Hz					✓	✓	✓	✓
	1080p					✓	✓	✓	✓
	4K 30/25/24Hz							✓	
	4K 60/50Hz								✓ *
コンポーネントビデオ	480i/576i	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
	480p/576p								
	720p								
	1080i								
	1080p								
ビデオ	480i/576i	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

* フロントパネルの HDMI 端子は、YCbCr 4:2:0 の映像方式のみに対応しています。

USB メモリーの再生について

- MP3 ID3 タグ(バージョン 2.0)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示できます。
- WMA META タグに対応しています。
- アルバムアートの画素サイズ(ピクセル)が 500×500(WMA/MP3/Apple Lossless/DSD)または 349×349(MPEG-4 AAC)を超えている場合は、正しく再生できないことがあります。

■ 再生できるファイルの仕様

	サンプリング周波数	チャンネル	ビットレート	拡張子
WMA*1	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	48～192 kbps	.wma
MP3	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	32～320kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz	2 チャンネル	–	.wav
MPEG-4 AAC*1	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	16～320 kbps	.aac/.m4a/.mp4
FLAC	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz	2 チャンネル	–	.flac
Apple Lossless*2	32/44.1/48/88.2/96/192kHz	2 チャンネル	–	.m4a
DSD	2.8/5.6MHz	2 チャンネル	–	.dsf/.dff

*1 著作権保護のないファイルのみ再生できます。
インターネット上の有料音楽サイトからダウンロードしたコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

*2 Apple Lossless Audio Codec (ALAC)デコーダは Apache License Version 2.0(http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0)に基づいて配布されています。

■ 再生可能な最大ファイル数とフォルダ数

本機で表示できるフォルダやファイルの制限数は次のとおりです。

項目＼メディア	USB メモリー
メモリーの容量	FAT16:2GB、FAT32 :2TB
フォルダの階層数 *1	8 階層
フォルダ数	500
ファイル数 *2	5000

*1 制限数にはルートフォルダを含みます。

*2 USB メモリーの容量やファイルサイズにより、許容ファイル数が変わる場合があります。

Bluetooth 機器の再生について

本機は、次の Bluetooth プロファイルに対応しています。

- A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）:
  この規格に対応している Bluetooth 機器を接続すると、モノラルやステレオの音声データを高品質にストリーミング配信することができます。
- AVRCP（Audio/Video Remote Control Profile）:
  この規格に対応している Bluetooth 機器を接続すると、本機から Bluetooth 機器を操作することができます。

■ Bluetooth 通信について

本機からの電波放送は、医療機器の操作を妨げることがあります。電波干渉は故障の原因となるため、次の場所では本機と Bluetooth 機器の電源を必ず切ってください。

- 病院、電車、航空機、ガソリンスタンドや可燃性ガスを発生する場所
- 自動ドアや火災報知機の近く

パソコンやNASに保存されているファイルの再生について

- MP3 ID3 タグ(バージョン 2.0)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示させることができます。
- WMA META タグに対応しています。
- アルバムアートの画素サイズ(ピクセル)が 500×500(WMA/MP3/WAV/FLAC/Apple Lossless/DSD)または 349×349(MPEG-4 AAC)を超えている場合は、正しく再生できないことがあります。
- ネットワーク経由での音楽ファイルの再生には、そのフォーマットの配信に対応したサーバーまたはサーバーソフトウェアが必要です。

■ 再生できるファイルの仕様

	サンプリング周波数	チャンネル	ビットレート	拡張子
WMA*1	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	48～192 kbps	.wma
MP3	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	32～320kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz	2 チャンネル	–	.wav
MPEG-4 AAC*1	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	16～320 kbps	.aac/.m4a/.mp4
FLAC	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz	2 チャンネル	–	.flac
Apple Lossless*2	32/44.1/48/88.2/96/192kHz	2 チャンネル	–	.m4a
DSD	2.8/5.6MHz	2 チャンネル	–	.dsf/.dff

*1 著作権保護のないファイルのみ再生できます。
インターネット上の有料音楽サイトからダウンロードしたコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

*2 Apple Lossless Audio Codec (ALAC)デコーダは Apache License Version 2.0(http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0)に基づいて配布されています。

インターネットラジオの再生について

■ 再生できる放送局の仕様

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA	32/44.1/48kHz	48～192 kbps	.wma
MP3	32/44.1/48kHz	32～320kbps	.mp3
MPEG-4 AAC	32/44.1/48kHz	16～320 kbps	.aac/ .m4a/ .mp4

パーソナルメモリープラス機能

前回使用していたときの設定内容（入力モード、HDMI 出力モード、サウンドモード、トーンコントロール、チャンネルレベル、MultEQ® XT32、Dynamic EQ、Dynamic Volume、リストアラーやオーディオディレイなど）を入力ソースごとに記憶します。

- “サラウンドパラメーター”の設定は、サウンドモードごとに記憶します。

ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。

サウンドモードとチャンネル出力の関係

○ 音声を出力するチャンネル、または設定できるサラウンドパラメーターを示します。
◎ 音声を出力するチャンネルを示します。ただし、メニューの“スピーカー構成”の設定により出力するチャンネルが異なります。(☞232 ページ)

サウンドモード	チャンネル出力														
	フロント 左右	センター	サラウンド 左右	サラウンド バック 左右	フロント ハイト 左右	トップ フロント 左右	トップ ミドル 左右	トップリア 左右	リアハイト 左右	サラウンド ハイト 左右	トップ サラウンド	フロント Dolby Atmos Enabled 左右	サラウンド Dolby Atmos Enabled 左右	バック Dolby Atmos Enabled 左右	サブウーハー
Direct/Pure Direct（2チャンネル）	○														◎＊5
Direct/Pure Direct（マルチチャンネル）	○	◎	◎	◎＊4	◎＊4	◎＊4	◎＊4	◎＊4	◎＊4			◎＊4	◎＊4	◎＊4	◎
DSD Direct（2チャンネル）	○														◎＊5
DSD Direct（マルチチャンネル）	○	◎	◎												◎
Stereo	○														◎
Dolby Atmos	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎
Dolby TrueHD	○	◎	◎	◎＊4	◎＊4										◎
Dolby Digital Plus	○	◎	◎	◎＊4	◎＊4										◎
Dolby Digital	○	◎	◎												◎
Dolby Surround ＊1	○	◎	◎	◎＊6	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	◎
DTS:X	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎
DTS-HD	○	◎	◎	◎＊4	◎＊4										◎
DTS Express	○	◎	◎	◎											◎
DTS 96/24	○	◎	◎	◎											◎
DTS Surround	○	◎	◎	◎											◎
DTS Neural:X ＊2	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
DTS Virtual:X ＊3	○	◎	◎	◎											◎
Auro-3D	○	◎	◎	◎	◎				◎＊7	◎	◎＊8	◎＊9	◎＊9	◎＊9	◎
Auro-2D Surround	○	◎	◎	◎											◎
Multi Ch In	○	◎	◎	◎＊4											◎

＊1～＊9:「サウンドモードとチャンネル出力の関係」(☞312 ページ)

サウンドモード	チャンネル出力														
	フロント 左右	センター	サラウンド 左右	サラウンド バック 左右	フロント ハイト 左右	トップ フロント 左右	トップ ミドル 左右	トップリア 左右	リアハイト 左右	サラウンド ハイト 左右	トップ サラウンド	フロント Dolby Atmos Enabled 左右	サラウンド Dolby Atmos Enabled 左右	バック Dolby Atmos Enabled 左右	サブウーハー
MPEG-2 AAC	○	◎	◎												◎
Multi Ch Stereo	○	◎	◎	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎
Rock Arena	○	◎	◎	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎
Jazz Club	○	◎	◎	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎
Mono Movie	○	◎	◎	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎
Video Game	○	◎	◎	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎
Matrix	○	◎	◎	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎＊10	◎
Virtual	○														◎

＊1　該当するサウンドモードは、“Dolby Surround”およびサウンドモード名に“+Dolby Surround”を含むサウンドモードです。
＊2　該当するサウンドモードは、“DTS Neural:X”およびサウンドモード名に“+Neural:X”を含むサウンドモードです。
＊3　該当するサウンドモードは、“DTS Virtual:X”およびサウンドモード名に“+Virtual:X”を含むサウンドモードです。
＊4　入力信号に含まれるチャンネルを出力します。
＊5　メニューの“サブウーハーモード”が“LFE+メイン”に設定されている場合に音声を出力します。(☞240 ページ)
＊6　メニューの“スピーカー構成” - “サラウンドバック”の設定が“1 台”に設定されている場合は、音声を出力しません。(☞233 ページ)
＊7　最適な Auro-3D 再生をおこなうには、サラウンドハイトスピーカーのご使用をおすすめします。サラウンドハイトスピーカーの代わりにリアハイトスピーカーを設置すると、Auro-3D および Dolby Atmos の両方をお楽しみいただけます。
＊8　Auro-3D 信号にトップサラウンド信号が含まれている場合に出力します。
＊9　最適な Auro-3D 再生をおこなうには、フロントハイトおよびサラウンドハイトスピーカーのご使用をおすすめします。代わりに Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用することもできます。
＊10　“サラウンドパラメーター” – “スピーカー選択”の設定で指定されているスピーカーから音声を出力します。(☞185 ページ)

サウンドモードとパラメーター一覧表

サウンドモード	サラウンドパラメーター										
	シネマEQ	ラウドネスマネージメント ＊2	ダイナミックレンジ圧縮 ＊3	ダイアログコントロール ＊4	LFE ＊5	ディレイタイム	エフェクトレベル	ルームサイズ	スピーカー選択 ＊6	センターの広がり	DTS Neural:X
Direct/Pure Direct（2チャンネル）＊1		○	○								
Direct/Pure Direct（マルチチャンネル）＊1		○	○	○	○						
DSD Direct（2チャンネル）											
DSD Direct（マルチチャンネル）											
Stereo		○	○	○	○						
Dolby Atmos	○	○	○		○						
Dolby TrueHD	○	○	○		○						
Dolby Digital Plus	○	○	○		○						
Dolby Digital	○	○	○		○						
Dolby Surround	○	○	○							○	
DTS:X	○		○	○	○						○
DTS-HD	○				○						
DTS Express	○				○						
DTS 96/24	○				○						
DTS Surround	○		○		○						
DTS Neural:X	○	○	○								
DTS Virtual:X	○		○								
Auro-3D	○				○						
Auro-2D Surround	○				○						
Multi Ch In	○				○						
MPEG-2 AAC	○				○						
Multi Ch Stereo	○	○	○	○	○				○		
Rock Arena		○	○	○	○		○	○	○		
Jazz Club		○	○	○	○		○	○	○		
Mono Movie		○	○	○	○		○	○	○		
Video Game		○	○	○	○		○	○	○		
Matrix		○	○	○	○	○			○		
Virtual		○	○	○	○						

＊1～＊6:「サウンドモードとパラメーター一覧表」(☞315 ページ)

サウンドモード	サラウンドパラメーター			トーンコントロール ＊7	センターレベルの調節 ＊8	サブウーハーレベルの調節 ＊9	Audyssey				リストアラー ＊14	低音の位相補正 ＊15
	Auro-Matic 3Dプリセット	Auro-Matic 3Dレベル	サブウーハー				MultEQ® XT32 ＊10＊11	Dynamic EQ ＊12＊13	Dynamic Volume ＊12＊13	Audyssey LFC™ ＊12＊13		
Direct/Pure Direct（2チャンネル）＊1			○＊16			○＊16						
Direct/Pure Direct（マルチチャンネル）＊1					○	○						
DSD Direct（2チャンネル）			○＊16			○＊16						
DSD Direct（マルチチャンネル）					○	○						
Stereo			○＊17	○		○＊17	○	○	○	○	○	○
Dolby Atmos				○	○	○	○	○	○	○		○
Dolby TrueHD				○	○	○	○	○	○	○		○
Dolby Digital Plus				○	○	○	○	○	○	○		○
Dolby Digital				○	○	○	○	○	○	○		○
Dolby Surround				○	○	○	○	○	○	○	○	
DTS:X				○	○	○	○	○	○	○		○
DTS-HD				○	○	○	○	○	○	○		○
DTS Express				○	○	○	○	○	○	○		○
DTS 96/24				○	○	○	○	○	○	○		○
DTS Surround				○	○	○	○	○	○	○		○
DTS Neural:X				○	○	○	○	○	○	○	○	
DTS Virtual:X				○	○	○	○				○	
Auro-3D	○＊18	○＊18		○	○	○	○	○	○	○	○	○
Auro-2D Surround				○	○	○	○	○	○	○	○	○
Multi Ch In				○	○	○	○	○	○	○		○
MPEG-2 AAC				○	○	○	○	○	○	○		○
Multi Ch Stereo				○	○	○	○	○	○	○	○	○
Rock Arena				○	○	○	○	○	○	○	○	○
Jazz Club				○	○	○	○	○	○	○	○	○
Mono Movie				○	○	○	○	○	○	○	○	○
Video Game				○	○	○	○	○	○	○	○	○
Matrix				○	○	○	○	○	○	○	○	○
Virtual				○		○	○	○	○	○	○	○

＊1、＊7～＊18 :「サウンドモードとパラメーター一覧表」(☞315 ページ)

*1 Pure Direct モードで再生中、サラウンドパラメーターは Direct モードと同様になります。
*2 Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD または Dolby Atmos 信号を再生しているときに選択できます。
*3 Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS:X または DTS 信号を再生しているときに選択できます。
*4 ダイアログコントロール機能に対応した DTS:X 信号を入力しているときに選択できます。
*5 Dolby Digital、DTS または DVD オーディオを再生しているときに選択できます。
*6 ハイト、天井または Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しているときに選択できます。
*7 メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときは設定できません。(☞190 ページ)
*8 メニューの“センター”の設定が“無し”のときは設定できません。(☞232 ページ)
*9 メニューの“サブウーハー”の設定が“無し”のときは設定できません。(☞232 ページ)
*10 Audyssey®セットアップ(スピーカーの測定)を実施していない場合は設定できません。
*11 48kHz を超えるサンプリング周波数の DTS:X 信号が入力された場合は選択できません。
*12 メニューの“MultEQ® XT32”の設定が“オフ”のときは設定できません。(☞190 ページ)
*13 サウンドモードが“DTS Virtual:X”およびサウンドモード名に“+Virtual:X”を含む場合は選択できません。
*14 入力信号がアナログ、PCM 48kHz または 44.1kHz のときに設定できます。
*15 入力信号に LFE 信号が含まれる場合に設定できます。
*16 メニューの“サブウーハーモード”が“LFE+メイン”に設定されているときに設定できます。(☞240 ページ)
*17 メニューの“フロント”の設定が“小”、または“サブウーハーモード”の設定が“LFE+メイン”のときに設定できます。(☞232、240 ページ)
*18 入力信号に Auro-3D 信号が含まれていない場合、または入力された Auro-3D 信号にフロントハイトチャンネルが含まれていない場合に設定できます。

入力信号の種類と対応するサウンドモード

● お買い上げ時に設定されているサウンドモードを示します。
○ 選択できるサウンドモードを示します。

サウンドモード	ご注意	2チャンネル信号				マルチチャンネル信号													
		Dolby Digital (+/HD) / MPEG-2 AAC	DTS (-HD)	アナログ / PCM	DSD (Super Audio CD)	Dolby Atmos	Dolby TrueHD	Dolby Digital Plus	Dolby Digital (EX)	DTS:X	DTS-HD	DTS Express	DTS ES Dscrt6.1	DTS ES Mtrx6.1	DTS	Auro-3D	PCM マルチチャンネル	MPEG-2 AAC	DSD (Super Audio CD)
Direct																			
Direct		○	○	○*2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
DSD Direct					○														○
Pure Direct																			
Pure Direct		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
DSD Pure Direct					○														○
Stereo																			
Stereo		○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Dolby Surround																			
Dolby Atmos	*1					●													
Dolby TrueHD						○*3	○									○*4			
Dolby Digital Plus						○*5		○											
Dolby Digital									○										
Dolby (D+) (HD) + Dolby Surround							●	●	●							○*4			
Dolby (D+) (HD) + Neural:X							○	○	○							○*4			
Dolby Surround		●	○	○	○														

*1～*5:「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(☞318 ページ)

サウンドモード	ご注意	2チャンネル信号				マルチチャンネル信号													
		Dolby Digital (+/HD) / MPEG-2 AAC	DTS (-HD)	アナログ / PCM	DSD (Super Audio CD)	Dolby Atmos	Dolby TrueHD	Dolby Digital Plus	Dolby Digital (EX)	DTS:X	DTS-HD	DTS Express	DTS ES Dscrt6.1	DTS ES Mtrx6.1	DTS	Auro-3D	PCM マルチチャンネル	MPEG-2 AAC	DSD (Super Audio CD)
DTS Surround																			
DTS:X MSTR / DTS:X										●									
DTS-HD MSTR											○∗11					○∗12			
DTS-HD HI RES											○∗13								
DTS Express												○							
DTS ES Dscrt 6.1	∗6												○						
DTS ES Mtrx 6.1	∗6													○					
DTS 96/24															○∗14				
DTS Surround													○	○	○				
DTS (-HD) + Dolby Surround											○	○	○	○	○	○∗12			
DTS (-HD) + Neural:X	∗7										●	●	●	●	●	○∗12			
DTS (-HD) / DTS:X + Virtual:X	∗8									○	○	○	○	○	○	○∗12			
DTS Neural:X	∗7	○	●	○	○														
DTS Virtual:X	∗9	○	○	○	○														
Auro-3D																			
Auro-3D	∗10	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○
Auro-2D Surround	∗10	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○
Multi Ch In																			
Multi Ch In																○∗15	●		●
Multi Ch In 7.1	∗6																○∗16		
Multi In + Dolby Surround																	○		○
Multi In + Neural:X																	○		○
Multi In + Virtual:X																	○		○
MPEG-2 AAC																			
MPEG-2 AAC																		○	
AAC + Dolby Surround																		●	
AAC + Neural:X																		○	
AAC + Virtual:X																		○	

∗6～∗16：「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(☞318 ページ)

サウンドモード	ご注意	2チャンネル信号				マルチチャンネル信号													
		Dolby Digital (+/HD) / MPEG-2 AAC	DTS (-HD)	アナログ / PCM	DSD (Super Audio CD)	Dolby Atmos	Dolby TrueHD	Dolby Digital Plus	Dolby Digital (EX)	DTS:X	DTS-HD	DTS Express	DTS ES Dscrt6.1	DTS ES Mtrx6.1	DTS	Auro-3D	PCM マルチチャンネル	MPEG-2 AAC	DSD (Super Audio CD)
オリジナルサウンドモード																			
Multi Ch Stereo		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Rock Arena		○	○	○	○	○*17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Jazz Club		○	○	○	○	○*17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Mono Movie		○	○	○	○	○*17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Video Game		○	○	○	○	○*17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Matrix		○	○	○	○	○*17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Virtual		○	○	○	○	○*17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*1 サラウンドバック、フロントハイト、トップフロント、トップミドル、トップリア、リアハイト、フロント Dolby、サラウンド Dolby またはバック Dolby スピーカーを使用しているときに選択できます。
*2 お買い上げ時の AirPlay 再生のサウンドモードは、"Direct" です。
*3 Dolby Atmos 信号に Dolby TrueHD 信号が含まれている場合に選択できます。
*4 Auro-3D 信号に Dolby TrueHD 信号が含まれている場合に選択できます。
*5 Dolby Atmos 信号に Dolby Digital Plus 信号が含まれている場合に選択できます。
*6 サラウンドバックスピーカーを使用しているときに選択できます。
*7 48kHz を超えるサンプリング周波数の DTS(-HD)信号が入力された場合は選択できません。
*8 48kHz を超えるサンプリング周波数の DTS:X 信号が入力された場合は選択できません。
*9 入力信号が Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD または Dolby Atmos のときは選択できません。
*10 入力信号のサンプリング周波数が 32kHz の場合は選択できません。
*11 入力信号が DTS-HD Master Audio の場合に選択できます。
*12 Auro-3D 信号に DTS-HD Master Audio 信号が含まれている場合に選択できます。
*13 入力信号が DTS-HD Hi Resolution の場合に選択できます。
*14 入力信号が DTS 96/24 の場合に選択できます。
*15 Auro-3D 信号にマルチチャンネル PCM 信号が含まれている場合に選択できます。
*16 入力信号にサラウンドバック信号が含まれている場合に選択できます。
*17 Dolby Atmos 信号に Dolby TrueHD または Dolby Digital Plus 信号が含まれている場合に選択できます。

用語の解説

■ Audyssey

Audyssey Dynamic EQ®

Audyssey Dynamic EQ®は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Audyssey Dynamic EQ®は、Audyssey MultEQ® XT32 技術と連動することによりすべての音量レベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume®

Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調節する技術です。また、Audyssey Dynamic Volume®の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調節時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

Audyssey LFC™(Low Frequency Containment)

Audyssey LFC™は、隣や下の部屋に低音や振動が漏れることを抑制します。リアルタイムに入力信号を解析して、壁や床、天井を通り抜けるような低音を抑えると同時に、音響心理的アプローチを用いた低域補正処理をおこなうことで、隣や下の部屋に低音が響き渡ることなく、コンテンツ本来の低域を楽しめます。

Audyssey MultEQ® XT32

Audyssey MultEQ® XT32 は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。
Audyssey MultEQ® XT32 は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

■ Auro-3D

Auro-3D®

Auro-3D®は従来の音声に高さ方向の音声を組み合わせた、立体感のあるサウンド体験を提供する画期的な技術です。Auro-3D®は3D サウンドの音声フォーマットおよび再生環境の総称です。

Auro-Matic®

Auro-Matic®は、従来のモノラル、ステレオまたはサラウンドコンテンツを自然な三次元音場にアップミックスする独自の技術です。

■ Dolby

Dolby Atmos

映画館で最初に導入された Dolby Atmos は、ホームシアターに新しい革命的なサウンド体験をもたらします。Dolby Atmos は既存のサラウンドとは異なり、三次元空間を独立した動きのあるサウンド(またはオブジェクト)を、よりクリアで、より正確に配置することが可能です。Dolby Atmos は、リスナーの上方に音場を導入したことで、自然でリアルなサウンド体験を実現し、リスナーをストーリーに引き込みます。

Dolby Atmos Stream

Dolby Atmos のコンテンツは、ブルーレイディスクやストリーミングメディアから、Dolby Digital Plus または Dolby TrueHD 方式で提供されます。Dolby Atmos 信号には、音の位置が記録されているメタデータが含まれています。これにより、あらゆるスピーカー構成のホームシアター環境でも最適な音像再生になるように調節されます。

Dolby Digital

Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。

再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル(FL、FR、C)とサラウンド 2 チャンネル(SL、SR)、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。

このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital Plus

Dolby Digital Plus は、Dolby Digital を改良した信号フォーマットで、最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来の Dolby Digital に対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby Surround

Dolby サラウンドは 2 チャンネルや 5.1 チャンネル、7.1 チャンネルのコンテンツをあなたのサラウンド環境に合わせてアップミックスし再生する次世代のサラウンドテクノロジーです。Dolby サラウンドは Dolby Atmos を再生できるシステムだけではなく、従来のスピーカーレイアウトにも互換性があります。

Dolby Speaker Technology(Dolby Atmos Enabled スピーカー)

Dolby Atmos Enabled スピーカーは、天井にスピーカーを設置する代わりに、天井に向け音を出し再生音を反射させ、頭上からの音を実現させることができる技術を搭載したスピーカーです。このスピーカーはスピーカードライバーが上向きに取り付けられている独特な構造と特別な信号処理機能を持っています。従来のスピーカーと一体になっているものや従来のスピーカーの上に載せて使用するものがあります。従来のスピーカーシステムと同様のスピーカー設置環境のまま Dolby Atmos と Dolby サラウンドの再生環境を提供します。

Dolby TrueHD

Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。

このフォーマットはサンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルの音声に対応しており、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

■ DTS

ダイアログコントロール

ダイアログコントロールは、映画のせりふや音楽のボーカルの音声を収録しているオブジェクトの音量のみを好きな音量に調節する技術です。ダイアログコントロール対応の DTS:X 信号が入力されたときに設定できます。

DTS

Digital Theater System の略で、DTS 社が開発したデジタル音声システムです。DTS 対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS 96/24

DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1 チャンネルとなります。

DTS Digital Surround

DTS™ Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1 チャンネルのデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。

DTS-ES™ Discrete 6.1

DTS-ES™ Discrete 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えてサラウンドバックチャンネルを追加した 6.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1

DTS-ES™ Matrix 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声にサラウンドバックチャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1 チャンネル音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS Express

DTS Express は、最大 5.1 チャンネルの 24kbps～256kbps までのロービットレートをサポートする音声フォーマットです。

DTS-HD

ブルーレイディスクのオプション音声として採用された、従来の DTS をさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。

多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数やロスレス・オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイディスクでは、最大 7.1 チャンネルまで対応しています。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS 96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声に対応しています。余裕のあるデータビットレートによって高音質化を図っています。また、この信号フォーマットには従来の 5.1 チャンネル DTS デジタルサラウンドのデータも含んでいるため、従来製品とも互換性があります。

DTS-HD Master Audio

DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットです。サンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルに対応しています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との互換性を有しています。

DTS:X

DTS:X はリスニングポイントを包み込むようにスピーカーを設置することで、立体的な音場空間を再現します。また、オブジェクトとして記録された音像がスピーカー間をスムーズに移動することで、自然でリアルなサウンド体験を実現します。

DTS Neural:X

DTS Neural:X は 2 チャンネルや 5.1 チャンネル、7.1 チャンネルのコンテンツを、お使いのサラウンド環境に合わせてアップミックスし再生します。DTS:X のコンテンツだけではなく、従来のコンテンツでも、立体感あふれるサラウンドをお楽しみいただけます。

DTS Virtual:X

DTS Virtual:X は、部屋のサイズ、レイアウトまたはスピーカー構成に関係なく、多次元サウンドをお楽しみいただけます。

■ 音声

Apple Lossless Audio Codec

アップル社が開発した音声データ可逆圧縮方式のコーデックです。iTunes や iPhone、iPod で再生できます。約 60～70%に圧縮されたデータを完全に元どおりのデータに再現します。

FLAC（Free Lossless Audio Codec）

可逆圧縮方式のフリーの音声ファイルフォーマットです。可逆圧縮のため、原音からの音質の劣化がありません。

FLAC のライセンスについては、次のとおりです。

Copyright (C) 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009 Josh Coalson

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

LFE

Low Frequency Effect の略で、低音部の効果音を強調するための出力チャンネルです。20Hz～120Hz の重低音を出力することで、サラウンド音声に迫力を加えることができます。

MP3（MPEG Audio Layer-3）

音声データ圧縮方式の 1 つで、国際的な標準規格です。映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できます。

MPEG-2 AAC

MPEG-2 AAC(Advanced Audio Coding)は、MPEG (Moving Picture Experts Group)により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。

高音質·高圧縮率を確保できることが特長です。

MPEG-2 AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

MPEG(Moving Picture Experts Group)、MPEG-2、MPEG-4

デジタル圧縮形式として映像や音声を符号化するために使用される規格群の名前です。ビデオの規格には、“MPEG-1 Video”、“MPEG-2 Video”、“MPEG-4 Visual”、“MPEG-4 AVC”などがあります。音声の規格には、“MPEG-1 Audio”、“MPEG-2 Audio”、“MPEG-4 AAC”などがあります。

WMA(Windows Media Audio)

米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。

WMA データは、Windows Media® Player を使用してエンコード(符号化)することができます。

WMA ファイルは、米国 Microsoft Corporation より認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正しく動作しないことがあります。

サンプリング周波数

サンプリングとは、音の波(アナログ信号)を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化(デジタル信号化)することです。

1 秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

スピーカーインピーダンス

交流抵抗値のことで Ω（オーム）という単位であらわします。
この値が小さいほど大きな電力が得られます。

ダイアログノーマライゼーション機能

Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS または DTS-HD ソースの再生中、自動的に動作します。
この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。

ダイナミックレンジ

機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ダウンミックス

サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

■ 映像

ISF

ISF（Imaging Science Foundation）は、設置条件に合わせたキャリブレーション調整が可能な映像技術者の認定をおこなっている団体です。また、機器の映像性能を最適化するための品質基準の制定もおこなっています。

プログレッシブ（順次走査）

映像の 1 フレームを 1 つの画像として表示する映像信号の走査方式です。インターレース方式に比べ画像のちらつきやにじみが少ない映像を再生できます。

■ ネットワーク

AirPlay

iTunes または iPhone、iPod touch、iPad に収録されているコンテンツをネットワーク経由で対応する機器に転送(再生)する機能です。

WEP Key(ネットワークキー)

データ通信をおこなう際にデータを暗号化するために使用する鍵情報です。本機はデータの暗号化/復号化ともに同一の WEP キー(ネットワークキー)を用いるため、通信する相手と同一の WEP キーを設定する必要があります。

Wi-Fi®

無線 LAN の互換性接続を保証する団体「Wi-FiAlliance」の相互接続性テストを合格していることを示します。

WPA(Wi-Fi Protected Access)

Wi-Fi アライアンスが策定したセキュリティ規格です。従来の SSID(ネットワーク名)や WEP キー(ネットワークキー)に加えて、ユーザー認証機能や暗号化プロトコルを採用して、セキュリティを強化しています。

WPA2(Wi-Fi Protected Access 2)

Wi-Fi アライアンスが策定した WPA の新バージョンです。WPA と比べ、より強力な AES 暗号に対応しています。

WPA-PSK/WPA2-PSK(Pre-shared Key)

あらかじめ設定した文字列が無線 LAN アクセスポイントとクライアントで一致した場合、相互認証をおこなう簡易認証の方式です。

ネットワーク名(SSID: Service Set Identifier)

無線 LAN のネットワークを構成するとき、混信やデータの盗難などを防ぐために、グループ分けをします。このグループ分けを「SSID(ネットワーク名)」でおこないます。さらにセキュリティ強化のために、WEP キーを設定し、「SSID」と WEP キーが一致しないと通信できないようになっています。簡易ネットワークを構成する場合に適しています。

■ その他

Denon Link HD

Denon Link HD では、ブルーレイディスクを再生時に Denon Link HD 接続した AV アンプのクロックを使用し、ジッターの少ない HDMI 伝送がおこなえます。

HDCP

機器間でデジタル信号を送受信する際に信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の 1 つです。

メインゾーン

本機が設置されている部屋をメインゾーンと呼びます。

ペアリング

ペアリング（登録）とは、Bluetooth 機器と本機を接続するために必要な操作です。ペアリングすると互いの機器が認証し合うので、混線することなく接続できます。
はじめて Bluetooth 機器を接続する場合は、最初に本機と本機に接続する Bluetooth 機器をペアリングする必要があります。

保護回路

何らかの原因で過負荷や過電圧、高温状態などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。

登録商標について

Works with Apple AirPlay

Apple, AirPlay, iPad, iPad Air, iPad Pro and iPhone are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.
The trademark “iPhone” is used in Japan with a license from Aiphone K.K.
Use of the Works with Apple badge means that an accessory has been designed to work specifically with the technology identified in the badge and has been certified by the developer to meet Apple performance standards.

AUDYSSEY MULTEQ XT32 DYNAMIC VOLUME　AUDYSSEY LFC

本機は、Audyssey Laboratories™からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ® XT32、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume®およびAudyssey LFC™は、Audyssey Laboratories の登録商標です。

Auro 3D® AUDIO

本機は Auro Technologies 社からのライセンス契約に基づき製造されています。
Auro-3D®および関連するシンボルは Auro Technologies 社の登録商標です。この著作物に含まれるすべての要素は著作権法によって保護されており、Auro Technologies NV の書面による事前の許可なしに、または第三者の要素の場合はその要素の所有者の書面による事前の許可なしに、複製、配布、送信、表示、公開または放送することはできません。またコンテンツのコピーから、商標、著作権、その他の通知を変更または削除することはできません。
Auro Technologies：
メールアドレス info@auro-technologies.com、
電話番号：+32-(0)-14314343、
FAX 番号：+32-(0)-14321224、
www.auro-technologies.com

Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG、Inc.が所有する登録商標であり、D&M Holdings Inc.はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商標名は、それぞれの所有者に帰属します。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、Dolby Atmos、Dolby Audio、Dolby Surround、Dolby Vision およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

DTS の特許については、http://patents.dts.com をご覧ください。
DTS、シンボル、DTS およびシンボルとの組み合わせ、DTS、DTS:X ロゴ、Virtual:X および DTS Virtual:X ロゴは、米国および/またはその他の国における商標または DTS、Inc.の登録商標です。© DTS, Inc. 版権所有。

HDMI、High-Definition Multimedia Interface および HDMI ロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。

This item incorporates copy protection technology that is protected by U.S. patents and other intellectual property rights of Rovi Corporation. Reverse engineering and disassembly are prohibited.

Wi-Fi CERTIFIED ロゴは、Wi-Fi Alliance の登録商標です。
無線 LAN の互換性接続を保証する団体「Wi-Fi Alliance」の相互接続性テストを合格していることを示します。

主な仕様

■ オーディオ部

- パワーアンプ部

定格出力:	フロント: 125W ＋ 125W(負荷 8Ω、20Hz～20kHz T.H.D. 0.05%) 165W ＋ 165W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%) センター: 125W(負荷 8Ω、20Hz～20kHz T.H.D. 0.05%) 165W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%) サラウンド: 125W ＋ 125W(負荷 8Ω、20Hz～20kHz T.H.D. 0.05%) 165W ＋ 165W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%) サラウンドバック/ハイト 1/ハイト 2: 125W ＋ 125W(負荷 8Ω、20Hz～20kHz T.H.D. 0.05%) 165W ＋ 165W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%)
実用最大出力:	195W ＋ 195W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 10% 2 チャンネル駆動 JEITA) 235W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 10% 1 チャンネル駆動 JEITA)
ダイナミックパワー:	130W×2 チャンネル(8Ω) 190W×2 チャンネル(4Ω)
出力端子:	4～16Ω

- **アナログ部**

入力感度:	200 mV
周波数特性:	10Hz～100kHz:+1、-3dB(Direct モード時)
S/N 比:	102dB(IHF-A、Direct モード時)
ひずみ率:	0.005%(20Hz～20kHz)(Direct モード時)
定格出力:	1.2V

- **デジタル部**

D/A 出力:	定格出力 — 2V(0dB 再生時) 全高調波ひずみ率 — 0.008%(1kHz、0dB) S/N 比 — 102dB ダイナミックレンジ — 100dB
デジタル入力:	フォーマット — デジタルオーディオインターフェース

- **フォノ・イコライザー部**

入力感度:	2.5 mV
RIAA 偏差:	±1dB(20Hz～20kHz)
S/N 比:	74dB(IHF-A)
ひずみ率:	0.03%(1kHz、3V 出力時)

■ ビデオ部

- **標準ビデオ端子**

入出力レベル/インピーダンス:	1Vp-p、75Ω
周波数特性:	5Hz～10MHz:0、-3dB

- **コンポーネントビデオ端子**

入出力レベル/インピーダンス:	Y 信号:1Vp-p/75Ω P_B/C_B 信号:0.7Vp-p/75Ω P_R/C_R 信号:0.7Vp-p/75Ω
周波数特性:	5Hz～60MHz:0、-3dB

■ チューナー部

	[FM]	[AM]
受信周波数範囲:	76.0MHz～95.0MHz	522kHz～1629kHz
実用感度:	1.2μV(12.8dBf)	18μV
50dB 感度:	モノ:2.8μV(20.2dBf)	
S/N 比:	モノ:70dB(IHF-A、Direct モード時) ステレオ:67dB(IHF-A、Direct モード時)	
ひずみ率:	モノ:0.7%(1kHz、100%変調時) ステレオ:1.0%(1kHz、90%変調時)	

■ 無線 LAN 部

ネットワーク種類(無線 LAN 規格):	IEEE 802.11a/b/g/n 準拠 (Wi-Fi®準拠)*1
セキュリティ:	WEP 64bit, WEP 128bit WPA/WPA2-PSK(AES) WPA/WPA2-PSK(TKIP)
使用周波数帯域:	2.4GHz、5GHz

*1　Wi-Fi®準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「WiFi Alliance」の相互接続性テストに合格していることを示します。

■ Bluetooth 部

通信システム:	Bluetooth バージョン 3.0 + EDR (Enhanced Data Rate)
送信出力	Bluetooth Specification Power Class 1
最大通信範囲:	見通し距離　約 30m *2
使用周波数帯域:	2.4GHz
変調方式:	FHSS (Frequency-Hopping Spread Spectrum)
対応プロファイル:	A2DP(Advanced Audio Distribution Profile)1.2 AVRCP(Audio Video Remote Control Profile)1.5
対応コーデック:	SBC
伝送範囲(A2DP):	20Hz～20,000Hz

*2　実際の通信範囲は機器間の障害物、電子レンジの電磁波、静電気、コードレスフォン、受信感度、アンテナの性能、操作システム、アプリケーションソフトウェアなどの影響により異なります。

■ 総合

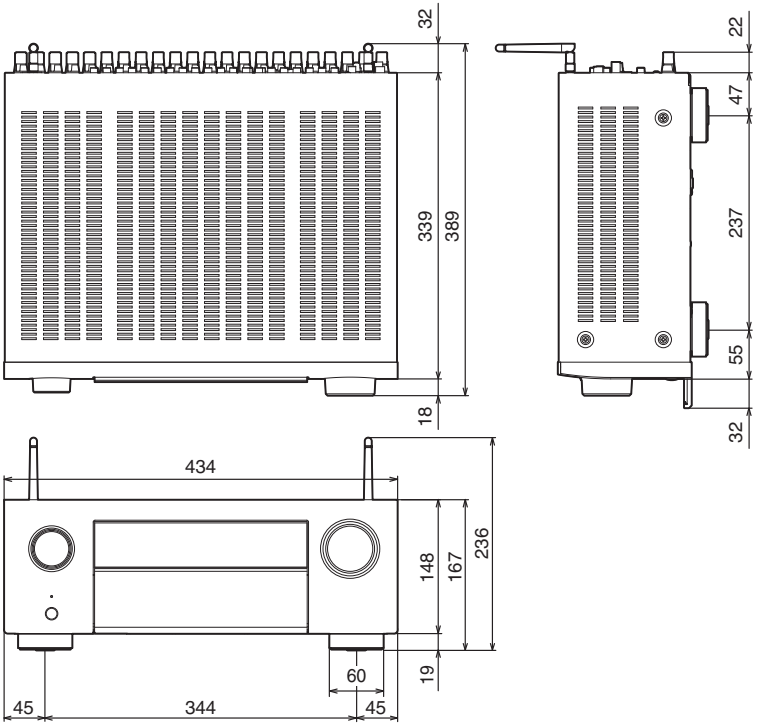
電源:	AC100V、50/60Hz
消費電力:	710W
スタンバイ時の消費電力:	0.1W *
CEC スタンバイ時の消費電力:	0.5W

＊ メニューの“ネットワークコントロール”設定が“スタンバイ時オフ”で、なおかつ“HDMI パススルー”設定が“オフ”のとき

JEITA:(社)電子情報技術産業協会(略称:JEITA)が制定した規格です。

仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

■ 寸法(単位:mm)



■ 質量:13.7kg

使用上のご注意

■ 携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

■ お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

■ 結露（つゆつき）について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部）に水滴が付くことがあります（結露）。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1 ～ 2 時間放置してから使用してください。

索引

☞ 英数字

11.1 チャンネル 59
3D 302
4K 302
5.1 チャンネル 37, 46
7.1 チャンネル 37, 47
9.1 チャンネル 51

☞ A

AirPlay 126
All Zone Stereo 138
Audyssey Dynamic EQ® 319
Audyssey Dynamic Volume® 319
Audyssey LFC™ 319
Audyssey MultEQ® XT32 319
Audyssey Sub EQ HT™ 214
Audyssey®セットアップ 213
Audyssey の設定 189, 215

☞ B

Bluetooth 機器 99

☞ D

Denon Link HD 328
Dolby Atmos 320
DTS サウンドモード 144, 322
DVD プレーヤー 79, 93

☞ F

FM/AM アンテナ 84, 104

☞ H

HDCP 304
HDMI コントロール 153, 198
HEOS アカウント 118, 251
HEOS お気に入り 132

☞ N

NAS 113

☞ P

PCM マルチチャンネルサウンドモード ... 145

☞ S

Spotify 130

☞ U

USB メモリー 83, 94

☞ W

Wi-Fi の設定 245

☞ い

一般の設定 177, 252
インターネットラジオ 111

☞ う

ウェブコントロール 164

☞ え

衛星放送チューナー 78
映像の設定 174, 194
エコモード 252

☞ お

オーディオの設定 174, 179
オートサウンドモード 142
オートスタンバイ 255
お買い上げ時の設定に戻す 298
オリジナルサウンドモード 146
音声フォーマット 304, 307, 309, 310
音量 93, 134

☞ か

外部コントロール機器 88

☞ く

クイックセレクトプラス機能 158

☞ け

ケーブルテレビ 78
ゲーム機 81

☞ こ

故障かな？と思ったら 278
こんなときの解決方法 276

☞ さ

サウンドモード 140, 311, 313

☞ す

ステレオサウンドモード 147
スピーカーを接続する 40
スピーカーの設定 175, 213
スリープタイマー 156

☞ せ

セットアップアシスタント 177
セットトップボックス 78

☞ そ

ゾーン 2/ゾーン 3 の接続 67, 166

☞ た

ダイレクトサウンドモード 147

☞ て

ディスプレイ 22
テレビ 73, 75, 76

☞ と

トーンコントロール 135
ドルビーサウンドモード 143, 321

☞ に

入力信号 316
入力ソース 92
入力端子の割り当て 209
入力の設定 175, 209

☞ ね

ネットワークの設定 244

☞ は

バイアンプ 65
パソコン 113

☞ ひ
ピクチャーモード 194
ビデオカメラ 81
ビデオコンバージョン 202, 305
ビデオセレクト 136
ピュアダイレクト 142

☞ ふ
ファームウェアのアップデート 260
ブルーレイディスクプレーヤー .. 79, 93
フロントパネル 18

☞ へ
ペアリング 99, 101

☞ ほ
保護回路について 328

☞ み
ミューティング 93

☞ む
無線 LAN の接続 87, 245

☞ め
メニュー 一覧 174

☞ ゆ
有線 LAN 86, 244

☞ り
リアパネル 24
リストアラー 186
リスニングポイント 213
リモコン 28

ライセンス

■ ユニットで使用するソフトウェアのライセンス情報

GPL、LGPL ライセンスについて

本製品では、GNU-General Public License(以下 GPL)、GNU Lesser General Public License(以下 LGPL)などが適用されるコードを一部のモジュールで使用しております。

これらのソフトウェアに関しては、各ライセンスに基づきソースコードを入手、改編、配布することができます。

当社のお客様相談センターにお問い合わせいただければ、実費にてGPL、LPGL ライセンスに基づくソースコードをご提供させていただいております。なお、提供しているソースコードは保証されていません。また、ソースコードの内容についてのお問い合わせは受け付けておりませんので、あらかじめご了承ください。

ここでは、本機に使われているソフトウェアの利用許諾(ライセンス)について記載しています。正確な内容を保有するため、原文(英語)を記載しています。

❑ GPL

使用オープンソース	バージョン
bridge-utils	2.8
busybox	1.21.1
ebtables	2.0.10-4
Linux kernel	3.10.74
mtd-utils	1.4.3
ntfs-3g_ntfsprogs	2011.4.12
ntpclient	2007
u-boot	2015.01
wireless-tools	29

❑ LGPL

使用オープンソース	バージョン
ffmpeg	0.8.3
glibc	2.9
libmms	0.6.2
QT	5.4.2

❑ Babel

MIT License
Copyright (c) 2014-2018 Sebastian McKenzie
<sebmck@gmail.com>

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

❑ curl-7.24.0

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE
Copyright (c) 1996 - 2014, Daniel Stenberg, <daniel@haxx.se>
All rights reserved.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization of the copyright holder.

❑ e2fsprogs-libs-1.40.8/lib/uuid

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, and the entire permission notice in its entirety, including the disclaimer of warranties.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, ALL OF WHICH ARE HEREBY DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF NOT ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

❑ expat-2.0.1

Copyright (c) 1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd and Clark Cooper

Copyright (c) 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006 Expat maintainers.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT.

IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

❑ getopt

http://cvsweb.netbsd.org/bsdweb.cgi/src/lib/libc/stdlib/

Copyright (c) 1987, 1993, 1994 The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

❑ jQuery

Copyright 2014 jQuery Foundation and other contributors

http://jquery.com/

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

❑ libpcap-1.4.0

License: BSD

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The names of the authors may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

❑ libtar-1.2.11

Copyright (c) 1998-2003 University of Illinois Board of Trustees
Copyright (c) 1998-2003 Mark D. Roth
All rights reserved.
Developed by: Campus Information Technologies and Educational Services, University of Illinois at Urbana-Champaign
Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal with the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimers.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimers in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the names of Campus Information Technologies and Educational Services, University of Illinois at Urbana-Champaign, nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this Software without specific prior written permission.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT.
IN NO EVENT SHALL THE CONTRIBUTORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS WITH THE SOFTWARE.

❑ mDNS 320.10.80

The majority of the source code in the mDNSResponder project is licensed under the terms of the Apache License, Version 2.0, available from:

<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

To accommodate license compatibility with the widest possible range of client code licenses, the shared library code, which is linked at runtime into the same address space as the client using it, is licensed under the terms of the "Three-Clause BSD License".

The Linux Name Service Switch code, contributed by National ICT Australia Ltd (NICTA) is licensed under the terms of the NICTA Public Software Licence (which is substantially similar to the "Three-Clause BSD License", with some additional language pertaining to Australian law).

❑ mongoose

https://github.com/cesanta/mongoose/

Copyright (c) 2004-2013 Sergey Lyubka

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

❑ openssl-1.0.0d

Copyright (c) 1998-2011 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)

HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

❑ portmap-6.0

Copyright (c) 1990 The Regents of the University of California.

- All rights reserved.
- Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. A ll advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
   This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

- THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

❑ pstdint.h-0.1.12

- BSD License:
- Copyright (c) 2005-2011 Paul Hsieh
- All rights reserved.
- Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

- THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.
- IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

❑ rl78flash 2000.3.1

License
=======
The MIT License (MIT)
Copyright (c) 2012 Maxim Salov

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

❑ sqlite 2003.5.7

SQLite Copyright
SQLite is in the
Public Domain

All of the code and documentation in SQLite has been dedicated to the public domain by the authors. All code authors, and representatives of the companies they work for, have signed affidavits dedicating their contributions to the public domain and originals of those signed affidavits are stored in a firesafe at the main offices of Hwaci. Anyone is free to copy, modify, publish, use, compile, sell, or distribute the original SQLite code, either in source code form or as a compiled binary, for any purpose, commercial or non-commercial, and by any means.

The previous paragraph applies to the deliverable code and documentation in SQLite - those parts of the SQLite library that you actually bundle and ship with a larger application. Some scripts used as part of the build process (for example the "configure" scripts generated by autoconf) might fall under other open-source licenses. Nothing from these build scripts ever reaches the final deliverable SQLite library, however, and so the licenses associated with those scripts should not be a factor in assessing your rights to copy and use the SQLite library.

All of the deliverable code in SQLite has been written from scratch. No code has been taken from other projects or from the open internet. Every line of code can be traced back to its original author, and all of those authors have public domain dedications on file. So the SQLite code base is clean and is uncontaminated with licensed code from other projects.

❑ strlcpy.c , v1.11

- Copyright (c) 1998 Todd C. Miller <Todd.Miller@courtesan.com>
- Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.
- THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND THE AUTHOR DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, DIRECT, INDIRECT, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

❑ taglib-1.5

copyright : (C) 2002 - 2008 by Scott Wheeler
email : wheeler@kde.org

"The contents of this file are subject to the Mozilla Public License Version 1.1 (the "License"); you may not use this file except in compliance with the License. You may obtain a copy of the License at http://www.mozilla.org/MPL/
Software distributed under the License is distributed on an "AS IS" basis, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, either express or implied. See the License for the specific language governing rights and limitations under the License.

❑ tinyxml 2002.4.3

www.sourceforge.net/projects/tinyxml

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

❑ Tremor

http://wiki.xiph.org/index.php/Tremor

Copyright (c) 2002, Xiph.org Foundation

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

❑ zlib

http://www.zlib.net/

zlib.h -- interface of the 'zlib' general purpose compression library version 1.2.3, July 18th, 2005

Copyright (C) 1995-2004 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly jloup@gzip.org, Mark Adler madler@alumni.caltech.edu

❑ Spotify ソフトウェアはここにあるサードパーティーのライセンスを受けています。

www.spotify.com/connect/third-party-licenses

当社製品のご相談と修理についてのお問い合わせは、お買い上げ店または下記窓口にご連絡ください。

お客様相談センター

☎ 0570（666）112
FAX：044（330）1367

■ 受付時間　9：30～17：30
（当社休日および祝日を除く、月～金曜日）

■ 上記番号がご利用いただけない場合　☎ 050（3388）6801
〒210-8569　神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1　D&M ビル

■ お問い合わせをいただく前に、ホームページの FAQ をご確認ください。
http://denon.jp/jp/html/faq.html

■ メールでお問い合わせをいただくこともできます。
http://denon.jp/jp/html/contact.html

＊ 電話番号・ファックス番号・URL は変更になる場合があります。

修理相談窓口

☎ 0570（666）811

■ 受付時間　9：30～12：00、13：00～17：30
（当社休日および祝日を除く、月～金曜日）

■ 上記番号がご利用いただけない場合　☎ 0466（86）9520

■ 故障・修理・その他のサービス関連情報については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。
http://denon.jp/jp/html/service.html

■ 代表修理窓口
首都圏サービスセンター
〒252-0816　神奈川県藤沢市遠藤 2010-16
FAX：0466（86）9522

＊ ディーアンドエムホールディングス本社では製品の修理を受け付けておりません。

DENON®

株式会社 ディーアンドエムホールディングス
〒210-8569
神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1　D&M ビル

3520 10611 00ADB
Copyright © 2018 D&M Holdings Inc. All Rights Reserved.